

令和7年 第7回 川口市教育委員会定例会

日 時 令和7年4月24日(木)

午後1時30分

場 所 川口市教育委員会室

日 程

1 開 会

2 点 呼

3 前回会議録の承認

- (1) 第6回川口市教育委員会定例会会議録

4 教育長報告

- (1) 5月行事予定について — 1
- (2) 3月市議会定例会の概要について — 3
- (3) 部活動地域移行の推進状況について — 当日1
- (4) (仮称)神根総合運動公園整備事業の進捗状況について — 当日2
- (5) 令和7年度特色ある学校づくり推進校のテーマ及び学校支援員について — 9 2
- (6) 学級編制の特例に係る取扱いについて — 9 6
- (7) 令和6年度学校自己評価のまとめについて — 9 7
- (8) 令和6年度川口市立高等学校卒業者の進路状況について — 19 1
- (9) 令和7年度川口市立高等学校入学者選抜結果について — 19 3
- (10) 令和7年度川口市学校図書館司書について — 19 4
- (11) 令和7年度川口市教育相談支援員について — 19 6
- (12) 令和7年度特別支援教育こども支援員について — 19 8
- (13) 令和7年度ほっとルーム支援員について — 20 1
- (14) 令和7年度川口市外国人児童生徒支援員について — 20 2
- (15) 令和7年度川口市課題研究について — 20 3
- (16) 学校医・学校歯科医・学校薬剤師の解嘱及び委嘱について — 20 7
- (17) 令和7年度川口市地域クラブ活動推進協議会委員を委嘱・任命することについて — 当日5

5 協議事項

- (1) 6月市議会案件について — 当日3 (秘)
- (2) 学びの多様化学校の学校名について — 当日4 (秘)

6 議案の審議

- 議案第54号 川口市学校運営協議会委員を委嘱することについて — 21 1

7 その他

8 閉 会

教育長報告（1）

令和7年5月 行事予定表

日	曜日	時間	行事等	場所	主管課・機関
1	木				
2	金		令和7年度埼玉県学力・学習状況調査 (小5・中3)	小・中学校	指導課
3	土		憲法記念日		
			開館記念日無料公開	科学館	科学館
4	日		みどりの日		
5	月		こどもの日		
6	火		振替休日		
7	水				
8	木		大貫海浜学園最初隊（元郷南小）	大貫海浜学園	学務課
		13:15	関東地区都市教育長協議会総会（～5月9日）	北とびあ	教育総務課
9	金		令和7年度埼玉県学力・学習状況調査 (小6・中2)	小・中学校	指導課
10	土	9:00	川口市少年少女グラウンドゴルフ体験講習会	原町小学校	スポーツ課
11	日		高校生海外派遣事業二次選考試験	教育研究所	指導課
12	月				
13	火	13:30	南部地区教育委員会連合会理事会及び定期総会	オンライン	教育総務課
		18:00	第18回川口ツーカーマーチ実行委員会	メディアセブン	スポーツ課
14	水	18:00	全国都市教育長協議会理事会情報交換会	川越プリンスホテル	教育総務課
15	木	9:00	第75回全国都市教育長協議会 定期総会並びに研究大会（～5月16日）	ウェスタ川越	教育総務課

令和7年5月 行事予定表

日	曜日	時間	行事等	場所	主管課・機関
16	金		令和7年度埼玉県学力・学習状況調査 (小4・中1)	小・中学校	指導課
17	土				
18	日				
19	月	14:00	第2回南部教育長会議・教育長協議会	浦和合同庁舎	教育総務課
			水上自然教室最初隊(榛松中)	水上少年自然の家	学務課
20	火	8:45	全日本中学校通信陸上競技埼玉県大会 川口市予選会(～5月21日)	青木町公園総合運動場	スポーツ課
		13:30	埼玉縣市町村教育委員会連合会総会	狭山市市民会館	教育総務課
21	水				
22	木		市立学校長会議	委員会室(オンライン)	学務課
23	金	15:30	教育委員会定例会	教育委員会室	教育総務課
24	土	9:00	市指定無形民俗文化財「安行原の蛇造り」	安行原	文化財課
25	日				
26	月				
27	火		科学館休館日(館内整理日)	科学館	科学館
28	水		月例校長協議会	教育研究所	学務課
29	木				
30	金	13:00	関東甲信越静市町村教育委員会連合会 総会及び研修会	ホクト文化ホール (長野県民文化会館)	教育総務課
			高校生海外派遣事業研修会①	中央ふれあい館	指導課
31	土				

3月市議会定例会の概要について

川口市教育委員会

令和7年3月市議会定例会 一般質問質疑応答概要 (教育総務課)	
<p><質問概要></p> <p>宇田川 好秀 議員 (自民)</p> <p>1 1 教育行政について (1) 重要課題に取り組む体制の整備について</p> <p>松本 進 議員 (公明)</p> <p>3 防災減災対策について (1) 避難所となる小学校体育館に空調機の設置について ・国の方針を踏まえ、市の見解について</p>	<p><答弁概要></p> <p>(教育長)</p> <p>A 副教育長の配置により、本市における小中学校の適正規模、適正配置を調査、審議する審議会の設置や部活動改革を推進するための協議会の運営、モデル事業の実施など、教育における今日的課題の解決に向けた取組みを着実に進めているところである。</p> <p>こうした状況を踏まえ、複雑・多様化する教育課題にさらに迅速かつ的確に対応する組織が必要であると考え、教育長直轄の組織として教育政策室を新たに設置すべく準備を進めているところである。</p> <p>今後においては、教育総務部、学校教育部の両部に教育政策室を加える組織体制のもと、スピード感を持って教育行政のさらなる推進を図っていきたいと考えている。</p> <p>(教育総務部長)</p> <p>A 新たに設けられた空調設備整備臨時特例交付金は、従来の交付金と比較すると補助単価が約1.5倍に設定されるなどの変更はあるが、補助割合は、直近で試算した設置費用における実工事単価の4割程度であり、補助額は設置費用の2割程度に留まることから、財源の確保が依然として大きな課題となっている。</p>

<p>(要望)</p> <p>空調設備整備臨時特例交付金の活用を視野に入れ、早期に空調機の設置をお願いしたい。</p> <p>8 教育問題について</p> <p>(5) 学校施設の蛍光灯の水銀規制強化に伴う対応について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・LED化に向けた計画の策定について <p>(要望)</p> <p>2027年末までに滞りなく、LED照明化を進めていただきたい。</p> <p>菅野 静華 議員 (青嵐)</p> <p>2 小学校体育館の空調設備整備について</p> <p>(1) 今後の整備計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整備計画の策定について 	<p>このため、現時点においては設置の予定はないが、地方に対する財政措置など、引き続き国の動向を注視していく。</p> <p>(教育総務部長)</p> <p>A 水銀添加製品である蛍光灯の製造、輸出入を2027年末までに段階的に廃止することについては、国からの通知などで承知しているところである。</p> <p>こうした中、施設数が多い学校の照明のLED化については、財源確保に課題があることから、将来的な整備を見据え、まずは本市の財政負担の軽減を図る整備手法を調査研究した後、関係部局と連携し必要な検討を進めていきたいと考えている。</p> <p>(教育総務部長)</p> <p>A 小学校体育館へ空調機を設置する際には、設置の手法や費用の算出、関連する工事などのほか、財源の確保策も含めた整備計画を定めていくが、依然として財源の確保が課題となっていることから、現時点において計画の内容や策定期期を示すことは難しいも</p>
---	---

<p>(要望)</p> <p>空調設備整備臨時特例交付金を活用し、財源確保の見通しを立てながら段階的に空調機の整備をお願いしたい。</p> <p>(2) 防災担当部局との協力体制について</p> <p>(要望)</p> <p>避難所の機能強化を図るため、教育委員会だけでなく防災担当部局と協力しながら空調機の整備を検討していただきたい。</p> <p>松本 幸恵 議員 (共産)</p> <p>7 教育環境の充実について</p> <p>(1) 小学校体育館や日本語教室への空調機設置を</p> <p>ア 体育館への空調機設置に向けた方策について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国からの支援を活用し、設置に向けた方策について 	<p>のと考えている。</p> <p>(教育総務部長)</p> <p>A 小中学校の普通教室及び特別教室などには空調機が設置されていることから、避難所開設後の状況に応じて、体育館に限らず教室も使用するなど、引き続き、防災担当部局と協力し、避難所生活の環境維持に努めていきたいと考えている。</p> <p>(教育総務部長)</p> <p>A 文部科学省の特例交付金や緊急防災・減災事業債は、空調機設置に係る財政負担を一定程度、軽減するものであるが、小学校体育館への設置については、財源の確保が依然として大きな課題になっていることから、現時点において設置に向けた方策を示すことは難しいものと考えている。</p>
---	---

<p>(要望) 小学校体育館への設置を進めていただきたい。</p> <p>イ 日本語教室へのエアコン設置を</p> <p>柳田 つとむ 議員 (自民)</p> <p>6 川口市立小中学校在り方審議会での検討について (2) 学校施設について ア 小学校体育館の空調整備について ・小学校体育館への空調整備について市の見解を問う</p> <p>イ 照明LED化の整備について</p>	<p>(教育総務部長) A 日本語教室への空調機設置については、学校の要望を踏まえた上で、必要に応じて設置しているところである。</p> <p>(教育総務部長) A 小学校52校の体育館への空調整備については、財源の確保が依然として大きな課題となっている。 このため現時点においては、整備の予定はないが、整備の際には、国がこの度創設した、空調設備整備臨時特例交付金のほか、緊急防災・減災事業債など、地方に対する支援策を活用することにより、財政負担の軽減を図っていきたいと考えていることから、引き続き、国の動向を注視していきたいと考えている。</p> <p>(教育総務部長) A 学校施設の照明のLED化については、校舎の改築や老朽化した照明器具の改修工事にあわせて、適宜、LED照明への交換を行ってきた。 今後については、蛍光灯の製造、輸出入の廃止時期が決定されたことから、喫緊の課題と捉え、財政負担の軽減を図る整備手法を調査研究した後、関係部局と連携し必要な</p>
--	---

<p>(要望)</p> <p>2027年末までに計画的な整備を検討していただきたい。</p>	<p>検討を進めていきたいと考えている。</p>
--	--------------------------

令和7年3月市議会定例会 一般質問質疑応答概要 (文化財課)	
<p><質問概要></p> <p>菅野 静華 議員 (青嵐)</p> <p>5 川口市の歴史・文化資源を活かした地域活性化について</p> <p>(1) イイナパーク川口での歴史PRについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史自然資料館における現状の取り組みについて 	<p><答弁概要></p> <p>(教育総務部長)</p> <p>A イイナパーク内に設置されている文化財センター分館歴史自然資料館においては、伊奈氏の功績や安行の植木に関する映像の上映、及び赤山陣屋跡の模型や解説パネル等の常設展示により、赤山・安行地域を中心とした歴史、文化、自然の紹介を行うとともに、定期的に、企画展やワークショップ等を実施しているところである。</p> <p>今後も、歴史自然資料館における様々な事業を通じて、赤山・安行地域はもとより、本市の歴史や文化等の魅力を発信していきたいと考えている。</p>

令和7年3月市議会定例会 一般質問質疑応答概要 (中央図書館)	
<p><質問概要></p> <p>幡野 茂 議員 (公明)</p> <p>7 図書購入による市内書店の支援について</p>	<p><答弁概要></p> <p>(教育総務部長)</p> <p>A 本市の図書館においては、年間約4万冊の図書を購入するにあたり、事務の効率化や経費節減などの観点から、ICタグやフィルムコーティング、各図書館専用のバーコードラベルなどを装備したうえで、定価による納品が可能な専門業者から購入している。</p> <p>これと同様の条件により市内の書店から購入することは、納期や価格などの面で折り合いがつかず難しいものと考えている。</p> <p>一方、毎週発行される雑誌等については、発売日に納品することができる市内書店に優位性があるため、今後も市内書店から購入していく。</p>

令和7年3月市議会定例会 一般質問質疑応答概要 (スポーツ課)	
<p><質問概要></p> <p>菅野 静華 議員 (青嵐)</p> <p>5 川口市の歴史・文化資源を活かした地域活性化について</p> <p>(3) 川口マラソンについて</p> <p>・川口マラソン大会において、地域の魅力を発信する企画を導入する考えはあるか。</p> <p>板橋 博美 議員 (共産)</p> <p>5 地域の問題</p> <p>(1) 戸塚体育館の利用団体の活動の場を確保すること</p>	<p><答弁概要></p> <p>(教育総務部長)</p> <p>A 川口マラソン大会は、昨年12月の開催で42回を数え、市内外から多くの方々に参加いただくとともに、沿道にお住まいの皆様からも多くの声援をいただいております、本市の冬の風物詩として定着しているイベントである。</p> <p>現在、大会の会場となっている青木町公園において和太鼓の演奏や温かい飲み物の提供などを行い、大会の魅力向上に取り組んでいるが、今後、さらに地域の魅力を発信できるような取り組みを検討するなど、関係団体と連携し、大会の充実に努めていきたいと考えている。</p> <p>(教育総務部長)</p> <p>A 戸塚体育館は、開設から約55年が経過し、近年では修繕を繰り返すなど、施設の老朽化が進んでいることから、安全性の確保が難しいと判断し、令和7年6月末で、利用を停止することとした。</p> <p>7月以降の活動場所については、戸塚スポーツセンターをはじめとする市内の施設をご案内し、予約が2か月前から可能であることなど、利用方法をご説明するとともに、個</p>

	<p>別の相談があれば、引き続き丁寧に対応していきたいと考えている。</p>
--	--

令和7年3月市議会定例会 一般質問質疑応答概要 (学務課)	
<p><質問概要></p> <p>宇田川 好秀 議員 (自民)</p> <p>1 1 教育行政について</p> <p>(3) 川口市立高等学校附属中学校の生徒募集増について</p> <p>ア 附属中学校の募集人数を増やすことについて</p> <p>イ 市外からの生徒募集について</p>	<p><答弁概要></p> <p>(教育長)</p> <p>A 川口市立高等学校附属中学校は、開校以来、川口のリーディング校として着実に成果を上げている。今年度も、全小学校からの受検があり、小学生や市民の皆様の期待や関心の高さが伺えるところである。</p> <p>国では中学校の適正規模を全校で12学級から18学級としており、また、県の配当基準に基づき全教科の教員を配置するためには、9学級以上の規模が必要とされている。</p> <p>現在、附属中学校では80名、2学級分の募集を行っているが、中高一貫教育校として教育課程の充実を図り、市民のニーズに応えるためには、1学年3学級以上の規模が必要であると判断し、募集人数を増やす準備を進めているところである。</p> <p>(教育長)</p> <p>A 現在、川口市立高等学校では、県内の全域から生徒を募集しており、様々な地で育った生徒が多様な人間関係を築き、共に学校生活を送る中で、学力向上をはじめ、高校生活全体に大きな成果を上げている。</p> <p>このことから、附属中学校においても、6年間の中高一貫教育を進める上で、広い人間関係を構築し、多様な生徒と共に学び、高い</p>

<p>松本 幸恵 議員（共産）</p> <p>7 教育環境の充実について</p> <p>(2) 教員の定数を増やし、残業代支給を認める制度に</p> <p>(3) 学校職員の体制充実のために</p> <p>ア 教員の欠員への対策について</p>	<p>学力レベルで切磋琢磨しながら成長できる学びの場としていきたいと考えている。</p> <p>したがって、市外からの生徒募集については、募集人数を増やす準備を進める中で、受け入れ人数や通学範囲、市内の受検生への影響等を勘案した上で判断していきたいと考えている。</p> <p>(学校教育部長)</p> <p>A 教員の定数は、埼玉县市町村立小・中学校県費負担教職員配当基準により定められており、それに則った配置をしている。</p> <p>残業代支給については、公立の義務教育諸学校等の給与等に関する特別措置法において定められていることから、国が進めている教員の定数や処遇改善の動向を、引き続き注視していく。</p> <p>(学校教育部長)</p> <p>A これまで、欠員を解消するための教員の任用方法について、県教育委員会に繰り返し要望し続けてきたことにより、今年度から「欠員等対応非常勤講師」という制度が作られ、県費での短時間勤務制度の枠が広がった。この制度により、小中学校において欠員で空いた授業を非常勤講師が行うことができるようになった。</p> <p>今後も、子どもたちの学びを止めることのないよう、欠員を減らすための具体的な方策について、積極的に県教育委員会に提案していく。</p>
--	--

<p>柳田 つとむ 議員（自民）</p> <p>6 川口市立小中学校在り方審議会での検討について</p> <p>(1) 学校施設の長寿命化・再整備に関する計画との整合性について</p>	<p>(副教育長)</p> <p>A 本市の学校再編に向けては、1月28日に有識者や市民で組織する川口市立小中学校在り方審議会の第1回会合を開催し、今後、2か年程度の期間をかけて学校再編計画の基となる考え方等について答申を取りまとめていただくこととしている。その間、施設の老朽化等により改築等を予定している学校施設については、安全面を最優先とした対応を進めることとし、計画策定後は現行予定を考慮・連動して効率的で効果的な改築等を行っていく所存である。</p> <p>今後も、長期的な学校再編を見据えながらも改築等が必要な学校については可及的に対応するなど、教育環境の整備と充実に努めていく。</p>
<p>前原 博孝 議員（自民）</p> <p>7 川口市立高等学校定時制の募集停止に伴う在校生への支援策について</p> <p>・4年で卒業に必要な単位を取り切れない生徒等への支援について</p>	<p>(教育長)</p> <p>A 川口市立高等学校定時制の募集停止について、教育委員会の職員が学校に赴き、在校生と保護者に直接説明を行った。説明会での質疑とその後のアンケートでは、募集停止後の授業や学校生活、単位が取り切れなかった場合の卒業への不安などの声が寄せられた。</p> <p>教育委員会では、募集停止にあたり在校生への対応について県教育委員会と協議を行った。その中で、必要な教員数については、段階的に生徒数が減少しても、授業や学校生活に支障が出ないよう配当する予定であることを確認している。また、4年間で単位が</p>

<p>荻野 梓 議員（自民）</p> <p>5 学校の校庭や体育館を使用した地域団体の活動について</p> <p>(2) 昨年試行実施されたエアコン利用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度に試験的に行ったエアコン利用について、その検証結果と今後の方向性について <p>(3) 受益者負担に基づく学校施設利用の考え方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他自治体の学校施設開放の使用料徴収状況も参考に、学校の設置目的と照らし合わせた学校施設開放における 	<p>取得しきれない生徒が出ることを想定し、在学中に他校の通信制等で単位を取得できる制度を柔軟に活用することに加え、4年間で卒業できない生徒に対しても、卒業に向けて2年間程度継続して学ぶことができる体制を整えるよう準備を進めているところである。</p> <p>今後も、在校生が有意義な高校生活を送り、川口市立高等学校の生徒として卒業できるよう、できる限りの支援を行っていく所存である。</p> <p>(学校教育部長)</p> <p>A 昨年8月から9月の2か月間において、学校施設のエアコンを部活動地域移行に関連した団体のみに使用を許可することとした特例措置については、小学校では4校4団体、中学校では8校20団体、計24団体が利用した。</p> <p>教育委員会としては、セキュリティ上の施設管理の難しさなど課題もありますが、熱中症対策としてエアコン利用の必要性が高まっていると捉えていることから、他自治体の取組み等も参考にしながら、まずは新たな特例措置の在り方について検討していく。</p> <p>(学校教育部長)</p> <p>A 本市の学校施設開放における使用料の取扱いに関しては、教育委員会が実施する事業を対象として無償で行うことがその趣旨的に適うものと認識している。</p> <p>一方で、市が設置する公民館やスポーツ施</p>
---	--

<p>受益者負担の必要性について整理した見解を</p> <p>板橋 博美 議員(共産)</p> <p>4 だれもが学べる川口市立高等学校に</p> <p>(1) 定時制課程を募集停止とした経緯について</p> <p>(2) 学校説明会での意見を尊重すること</p> <p>・学校説明会で質問できなかった参加者の意見も尊重することについて</p>	<p>設などの公の施設については受益者負担になっていることに加え、県内及び都内等の他の自治体において使用料徴収の制度を設けている実態もあることから、先進事例を参考に調査研究していく所存である。</p> <p>(学校教育部長)</p> <p>A 平成23年の川口市立高等学校在り方審議会答申では、付帯として定時制の必要性に疑義を呈する意見も述べられており、これまで市教育委員会では定時制のあり方について10年以上にわたり検証し、検討を続けた。</p> <p>検討を重ねる中、2度の生徒募集減にも関わらず定員を充足せず、本来の総合学科としての目的達成が難しくなったことから、総合教育会議や川口市立高等学校定時制の在り方に関する検討委員会で協議を重ねた。併せて、中学2年生の生徒・保護者へニーズ調査を行い、その結果も踏まえたうえで、教育委員会定例会での協議を経て、定時制課程の募集停止が議決された。</p> <p>(学校教育部長)</p> <p>A 定時制の募集停止に係る学校説明会では、質疑応答を行う中で、在校生・保護者の意見に丁寧に耳を傾けた。時間内に伺えなかった意見については、説明会後に実施したアンケートでいただいた内容も踏まえ、今後の対応に生かしていく。</p>
--	---

<p>(3) 川口市立高等学校定時制課程の存続を</p>	<p>(学校教育部長)</p> <p>A 定時制については、不登校経験者や外国にルーツをもつ生徒が一定数在籍しており、中学校からの学び直しや日本語指導などの支援を行ってきたが、高校での学習に困難を抱える生徒も散見された。募集停止については、高校教育本来の役割に鑑み、開校以来丁寧な検討を行ったうえで、決定した。</p> <p>募集停止後、在校生については、全ての生徒が市立高校を卒業できるよう、卒業に必要な単位が未修得である者も、その後2年程度卒業に必要な単位を取得できる体制づくりを行うとともに、中学校を卒業する不登校や外国籍の生徒については、夜間中学における支援に重点を置いていく。</p>
<p>(再質問)</p> <p>4(2)について、中学生や、その保護者への説明について、どのように考えているのか。</p>	<p>(学校教育部長)</p> <p>A 教育委員会としては、令和7年1月の市立学校長会議にて、小中学校の学校長へ募集停止について説明した。定時制の募集停止について、中学生や、その保護者へは、各学校での進路指導や進路保護者会を通じて説明する流れである。</p>
<p>松本 英利 議員 (自民)</p> <p>4 川口市立高等学校附属中学校の生徒募集について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市外からの生徒募集についてどのような効果が期待できるか 	<p>(学校教育部長)</p> <p>A 議員指摘のとおり、関東地区の政令市を除く区立・市立の中高一貫校で、市外からの受検を認めていないのは本市附属中学校のみである。</p> <p>川口市立高等学校では、全県の様々な地で育った生徒が共に生活する中で多様な人間関係を築いており、その中で学力向上が図られるなどの効果を上げている。</p> <p>このことから、附属中学校においても、市</p>

	<p>外からの生徒募集により、中学校段階から高い学力レベルで競い合うことによる学習意欲の向上や、広い人間関係の構築などの効果が期待できると考えている。</p>
--	---

令和7年3月市議会定例会 一般質問質疑応答概要		(指導課)
<p><質問概要></p> <p>松本 進 議員 (公明)</p> <p>8 教育問題について</p> <p>(1) 不登校対策となる学びの多様化学校について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開校時の募集規模と転入学について <p>(要望)</p> <p>来年4月の開校に向けて、滞りなく準備していただくよう要望する。</p> <p>(2) 不登校児童生徒へのオンライン授業について</p>	<p><答弁概要></p> <p>(学校教育部長)</p> <p>A 本市の学びの多様化学校開校時の募集規模については、個に応じた丁寧な支援を行うため、各学年1学級15名程度を想定している。</p> <p>入学の仕方については、希望する児童生徒が教育支援センターに入室し、まずは安定した生活を送ることを目指す。次に、教育支援センターでの生活の状況を踏まえ、転入学に関する相談を継続して実施するとともに、授業体験に参加する。その後、学びの多様化学校での支援が適切であると判断された児童生徒について、転入学を認めていく手順を想定している。</p> <p>(学校教育部長)</p> <p>A オンライン授業については、不登校児童生徒それぞれの実情に応じて実施し、途切れない学びの支援として効果をあげているところである。</p> <p>G I G Aスクール端末を活用し、教室の授業を配信することは、学習や学校への興味関心を高め、学習意欲の向上につながるものと認識している。</p> <p>更に、進路実現に向けた動機付けや、人と</p>	

<p>(3) 外国人の多いまちの特性を活かした英語教育の強化について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校1年生から英語教育を実施することについて <p>(4) 学校のプール授業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間委託も含め、既存のスポーツセンター等の屋内プールを活用すべきことについて 	<p>つながることへの心理的な不安を軽減する有効な方策の一つともなっている。</p> <p>今後も、オンライン授業を含めた個のニーズに応じた学習支援の充実に努めていく。</p> <p>(学校教育部長)</p> <p>A 現在、本市では、学習指導要領で定めのある小学校3年生から外国語の学習を行っているが、小学校1年生の早い段階から英語に慣れ親しむことは、言語や文化について体験的に理解を深められる効果があると認識している。</p> <p>今後、より一層、英語でコミュニケーションを図る資質・能力を育成するため、小学校1年生段階から日常的に英語に触れることができるよう、ALTを増員する等の教育環境の整備に努めていく。</p> <p>(学校教育部長)</p> <p>A 議員提案の、水泳授業の民間委託やスポーツセンター等の屋内プールを利用することについては、近年の猛暑による影響に左右されずに、水泳授業を実施できる利点があるものと認識している。</p> <p>一方で、学校以外の施設を利用することで生じる受け入れ施設の数や一般利用者への影響、移動に伴う時間に加え、費用面の負担など、様々な課題があるものと捉えている。</p> <p>このことから、当面は既存のプールを利用して指導していくことを基本に、引き続き関係各課と連携して、将来的な水泳授業のより良い在り方について、研究していく。</p>
---	---

<p>菅野 静華 議員（青嵐）</p> <p>3 外国人住民にかかわる課題について</p> <p>(2) 被仮放免者の対応について</p> <p>ウ 就学援助について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市の財政負担の増大が見込まれる中、国に対する要望の進捗状況を踏まえた今後の対応について <p>(要望)</p> <p>国が動くまで待ち続けるのではなく、市として未来を見据えた対策を考えるべきと強く要望する。</p> <p>(3) 外国人児童・生徒の増加に伴う教育現場の課題について</p> <p>ア 授業進行の工夫について</p> <p>イ 日本語指導の時間について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語初期指導教室後、各校での日本語指導が行われているが、日本語指導終了の基準はあるのか 	<p>(学校教育部長)</p> <p>A 国からの財政支援を求める本市の要望に対し、現時点では、具体的な動きは確認できていない。</p> <p>今後も、引き続き、被仮放免者等の外国籍児童生徒に対する就学援助への新たな国庫補助制度の確立等について、国に対し、働きかけていく。</p> <p>(学校教育部長)</p> <p>A 年間指導計画に基づいて授業を進める上で、外国人児童生徒の増加も含め、特別な配慮を要する児童生徒が増加していることは認識している。</p> <p>このことから、外国人児童生徒と授業を適切に進めるために、日本語の習得状況に応じて意図的に学習グループを組んだり、学習補助のための外国人児童生徒支援員を活用したりする等の対応策を講じているところである。</p> <p>(学校教育部長)</p> <p>A 日本語指導は、対象の児童生徒が日本語を用いて学校生活を営み、学習に取り組むことができるようにすることを目的に実施している。</p>
--	---

<p>ウ 教育研究所や拠点校の活用について</p>	<p>そのため、対象児童生徒の日本語の定着度に応じ、通常学級での学習に支障をきたさないことを基準として、指導を終えている。</p> <p>(学校教育部長)</p> <p>A 日本語初期指導を着実に行うことは、外国人児童生徒が円滑に学校生活を始める上で大切であると捉えている。</p> <p>そのため、令和6年度より、日本語指導川口モデルの一環として、初期指導に特化した拠点校を中居小学校、仲町中学校に設置している。</p> <p>今後も、他の地区に日本語初期指導拠点校を拡充するなど、指導支援体制の充実を図っていく。</p>
<p>6 選挙啓発の在り方と主権者教育の推進について</p> <p>(2) 教育現場における主権者教育の充実について</p> <p>ア 市内小中学校における主権者教育の現状について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主権者教育の取り組みと工夫 	<p>(学校教育部長)</p> <p>A 児童生徒の主権者意識を高める取り組みについては、小中学校の社会科において、選挙の仕組みやその重要性を学習している。</p> <p>また、興味・関心を高める工夫として、埼玉県及び本市の選挙管理委員会による選挙啓発出前講座を行っている学校もある。</p> <p>更に、政治的教養を深め、社会参画意識を涵養する工夫として、「中高生未来を拓くふれあいトーク」において、議場見学や議会制度の学習を行っている。</p>
<p>ウ 議員と児童生徒の主権者教育の機会について</p>	<p>(学校教育部長)</p> <p>A 議員と児童生徒が直接関わる機会を設けることについては、本市の学校規模における公平な実施方法や学校における政治の取り扱いの難しさ等、複数の課題があることか</p>

<p>7 未来を拓く子供たちの教育について</p> <p>(2) 主体的な学びを実現することについて</p> <p>ア 主体的な学びの成果について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的な学びの検証及び成果について <p>イ 教員の指導力向上について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の指導力向上に向けた具体的な策について <p>ウ 学びの多様化学校について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校コンセプトと特色ある教育活動について 	<p>ら、現在の主権者教育の取り組みに加えて、実施することは難しいものと考えている。</p> <p>(学校教育部長)</p> <p>A 本市においては、全国学力・学習状況調査、埼玉県学力・学習状況調査の結果をもとに、検証を実施している。</p> <p>成果については、主体的な学びに関する項目が向上傾向にあることは全国の調査報告において表れている。</p> <p>その他、全国や県の調査で測ることが難しい児童生徒の実態についても、指導主事による学校訪問等において把握に努めている。</p> <p>(学校教育部長)</p> <p>A 本市では、令和5年度から市独自で実施する各年次研修や各教科等の教職員研修の実施のほか、市内小中学校全校への学校訪問や学力向上訪問等に加え、各学校の要請により指導主事が学校を訪問し、教員の育成及び指導力向上に努めているところである。</p> <p>今後も、教員の指導力を向上させ、児童生徒の主体的かつ対話的で、深い学びが実現できるよう取り組んでいく。</p> <p>(学校教育部長)</p> <p>A 本市の学びの多様化学校では、人との関わりの中で学ぶ力を育み、生徒一人ひとりの社会的自立を大切にするという方針から「つながる学校」をコンセプトに、開校に向け準備を進めている。</p> <p>特色として、学び直しの時間を設定することや、地域・企業等に協力を得て行う体験活</p>
---	---

<p>(3) 国の教育施策と川口市の対応について</p> <p>ア G I G Aスクール構想について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙の教材と I C Tの両立について <p>イ 部活動の地域移行について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の部活動の地域移行についての本市の考えについて <p>ウ 午前5時間授業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育の質を確保するための対策について 	<p>動を取り入れていきたいと考える。</p> <p>(学校教育部長)</p> <p>A G I G Aスクール端末の導入により各学校では、より効果的な学習活動が展開できるようになったものと認識している。</p> <p>議員指摘の I C Tと紙の教材を組み合わせたハイブリッドの考え方については、現在、指導主事が行う学校訪問において、G I G Aスクール端末のみの授業とならないよう指導しているところである。</p> <p>今後も、G I G Aスクール端末の効果的な活用が学習意欲や学力の向上につながるよう、学校訪問や研修会を通じて指導・助言していく。</p> <p>(学校教育部長)</p> <p>A 本市では、今年度、子どもたちが地域でスポーツや文化芸術活動に継続して親しむ機会や多様なニーズに対応した体験機会の確保に向け、8回の推進協議会の開催とアンケート調査及びモデル事業を実施した。</p> <p>今後も、学校部活動が担ってきた教育的意義を継承・発展させつつ、多種多様な体験や学校等の垣根を越えた仲間とのつながりなど、新たな価値が創出できる取り組みとなるよう検討を進めていく。</p> <p>(学校教育部長)</p> <p>A 教育課程は、学校の実情を踏まえて総授業時間の範囲内で工夫し、校長が編成するものとなっている。40分午前5時間授業は、授業1コマ当たりの時間が短くなった分、授業のコマ数は増え、繰り返し学び直す時間に充てることで、学習内容の定着が図れるなど</p>
---	--

<p>松本 幸恵 議員（共産）</p> <p>7 教育環境の充実について</p> <p>(3) 学校職員の体制充実のために</p> <p>イ 学校図書館司書の一人一校配置を</p> <p>(4) 部活動の地域移行について</p> <p>ア 地域のスポーツ・文化芸術団体との環境整備をどう進めるのか</p> <p>イ 教員の負担軽減と生徒の部活動による教育目的の達成をどう進めるのか</p> <p>・生徒の自主的な参加と部活動による教育目的の達成をどう進めるのか</p>	<p>の効果が期待できる。</p> <p>次期学習指導要領に向けた有識者による提言においても、40分授業の効果について言及されていることから、今後も国の動向等を注視しつつ、児童の成長に資するものとなるよう適切な指導・助言を行っていく。</p> <p>(学校教育部長)</p> <p>A これまで、学校図書館司書を1人1校配置してきた学校については、環境整備や貸出総数の増加など、具体的な効果が検証されているところである。</p> <p>このことから、今後も、学校の実情等を考慮しながら1人1校配置校を拡充するよう努めていく。</p> <p>(学校教育部長)</p> <p>A 環境整備については、受け皿となり得る団体の発掘を行うため、川口市地域移行モデル事業を実施しており、地域資源を活用した活動が広く展開できるよう地域団体・クラブ等と連携を図っている。</p> <p>(学校教育部長)</p> <p>A 部活動を地域に移行することで、生徒のニーズに応じた多種多様な体験が可能となり、生徒の主体的な活動に繋がるものと考えている。また、学校部活動が担ってきた教育的意義については、学級・学年のみならず、学校の枠を超えた仲間や幅広い世代との交流を通じて社会性を育み、教員だけでなく、</p>
--	--

<p>柳田 つとむ 議員（自民）</p> <p>3 教育研究所芝園分室の今後について</p> <p>・教育研究所芝園分室の今後の対応方針について</p> <p>4 学力向上への取り組みについて</p> <p>・本市の学力向上に向けた現状と課題への対応策について</p>	<p>地域団体の指導者による専門的な指導のもとで、その意義を継承・発展させていけるよう努めていく。</p> <p>（教育長）</p> <p>A 議員指摘の通り、教育研究所芝園分室は、日常的に児童生徒や教職員が利用する施設であるとともに、多くの職員が執務をしていることから、老朽化等への対応は喫緊の課題であると考えている。</p> <p>こうしたことから、市内施設の有効活用や費用対効果等を総合的に鑑み、令和8年4月を目途に、芝園分室で行っている不登校や特別支援教育等の教育相談に関する機能を、本市が所有しているSKIPシティA2街区内のフロアへ移転することを目指し、関係各課と協議を開始したところである。</p> <p>また、新庁舎の完成に伴い、芝園分室の教職員研修を担当する職員は新しい庁舎に移動し、指導課業務の中心を新庁舎2期棟に集約するとともに、SKIPシティ内に移転する教育相談に関する機能との連携を更に深め、より一層の業務の効率化を図っていきたい。</p> <p>（学校教育部長）</p> <p>A 本市の児童生徒の学力は、過去10年間の全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果から、向上傾向にあります。一方で、算数科では学習内容の定着に課題が残ることから、年度内に定着状況を確認できる本市独自の学力状況調査を令和6年度より試行実施した。また、中学校英語科では、読むことと書くことに課題が見られたことから、読み書き</p>
--	---

<p>幡野 茂 議員（公明）</p> <p>5 中学校部活動の地域移行について</p> <p>(1) 部活動の地域移行への進捗について</p> <p>(2) 地域移行後の大会参加にかかる費用支援について</p>	<p>の強化を図るリーディングシートを新たに作成し、活用している。</p> <p>今後も本市の課題に応じた学力向上策を推進するとともに、東京都内隣接区等の学力水準にも着目し、本市児童生徒の更なる学力の向上に努めていく。</p> <p>（学校教育部長）</p> <p>A 今年度は、川口市部活動地域移行推進協議会を8回開催するとともに、今後の地域移行に向けたモデル事業の実施や、中学生とその保護者、中学校の教職員を対象としたアンケート調査を実施した。</p> <p>また、今年度の協議会において取りまとめられた中間報告、及び最終報告において、令和9年9月を目途に、休日の部活動を地域クラブ活動に移行することが示され、教育委員会としてもこの考え方にそって移行準備を進めているところである。</p> <p>（学校教育部長）</p> <p>A 現在、学校部活動の上位大会等において、生徒の参加に係る旅費などの費用を支援しているところである。</p> <p>今後、部活動を地域に移行し、地域クラブ活動として大会に参加する際の費用の支援については、推進協議会からの意見を受け、教育委員会としての検討課題の一つとして適切に取り扱っていく。</p>
---	--

<p>福田 洋子 議員 (公明)</p> <p>4 教育について</p> <p>(1) 肢体不自由児・医療的ケア児が通う特別支援学校の設置場所について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内の設置候補場所はどこか <p>(要望)</p> <p>肢体不自由児・医療的ケア児が通う特別支援学校が一日も早く市内に設置されるよう、市が一丸となってスピーディーに取り組むことを要望する。</p> <p>(2) 市立小中高等学校での金融に係わる教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 小学生への教育について <p>イ 中学生への教育について</p>	<p>(学校教育部長)</p> <p>A 特別支援学校の設置については、まず次年度県が策定する「埼玉県特別支援教育推進計画」に位置付けられることが必要であり、これまで県教育委員会に働きかけてきたところである。</p> <p>今後、特別支援学校の設置が同計画に位置付けられた際には、肢体不自由児や医療的ケア児の利便性、更には保護者の負担軽減を考慮の上、設置場所について県と協議を進めていく。</p> <p>(学校教育部長)</p> <p>A 小学生への金融に係わる教育については、家庭科において、買物の仕組みや消費者の役割を知り、物や金銭の大切さや計画的な使い方を理解できるよう学習するとともに、売買契約の基礎についても学んでいる。</p> <p>(学校教育部長)</p> <p>A 中学生については、社会科において、金融の仕組みや働きを学習し、技術・家庭科においては、計画的な金銭管理の必要性やクレジットカードによる三者間契約などを学んでいる。</p>
---	--

<p>ウ 高校生への教育について</p> <p>(要望)</p> <p>より充実した金融教育となることを要望する。</p> <p>前原 博孝 議員 (自民)</p> <p>8 中学校部活動の地域移行の進捗状況について</p> <p>(1) 令和6年度モデル事業実施状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同事業の実施詳細、その利点と課題について <p>(2) 令和7年度における部活動地域移行の今後の見通しについて</p>	<p>(学校教育部長)</p> <p>A 高校生については、公民科において、お金や日本銀行の役割など金融の働きと仕組みについて学習し、家庭科においては、ライフステージや社会保障制度等と関連付けて経済の管理や計画の重要性を学んでいる。</p> <p>(学校教育部長)</p> <p>A 今年度のモデル事業については、本年1月11日から3月29日までの期間、市内小中学校、スポーツ施設、公民館において、女子野球、サッカー、陸上競技、ニュースポーツ及びオーケストラの5つの分野で展開され、72名の子どもたちが体験している。モデル事業の実施を通して、受け皿となり得る団体の発掘、連絡用アプリによる参加者への連絡体制の実証、既存の部活動にない種目が実施できたことなどが、主な成果として挙げられる。一方で、モデル事業の活動場所の確保や調整、実施時間帯が部活動の活動時間と重なり、参加できないことなど、既存の部活動との連携や実施地区の偏りなどが課題であると捉えている。</p> <p>(学校教育部長)</p> <p>A 令和7年度については、今年度中に推進協議会が取りまとめる最終報告の内容をもとに、教育委員会として、本市の地域移行に</p>
---	--

<p>荻野 梓 議員（自民）</p> <p>5 学校の校庭や体育館を使用した地域団体の活動について</p> <p>(1) 中学校部活動地域移行に関連する学校施設の有効活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度のモデル事業では、学校施設を有効活用することはできないのか見解を聞きたい <p>7 学校事故対応に関する指針に基づく学校管理下での不慮の事故の防止・対応について</p> <p>(1) 事故の未然防止について</p>	<p>関する基本的な方針を策定していきたいと考えている。また、モデル事業についても、受け皿となり得る多くの団体の発掘に向け、今年度より実施団体数を拡大するとともに、1年間の長期モデルと6か月間の短期モデルの実施期間が異なる2種類のモデル事業の実施を計画している。</p> <p>令和7年度も、これまでの協議で明らかになった課題等を整理しながら引き続き協議を重ね、まずは休日の学校部活動の円滑な移行に向けて、準備を進めていく。</p> <p>(学校教育部長)</p> <p>A 今年度実施の川口市部活動地域移行モデル事業において、活動場所の確保や調整が困難であったことから、次年度のモデル事業の実施につきましては、学校施設をはじめ、スポーツセンターなどの活用も視野に入れ、検討していく。</p> <p>(学校教育部長)</p> <p>A 各学校においては、学校事故の未然防止のために、作成した学校安全計画に沿った定期的な安全点検、危機管理マニュアルの策定及び見直し、心肺蘇生法などの教職員研修等を行っている。</p> <p>また、児童生徒に対しても、安全教育を実施し、犯罪被害の防止や避難訓練を行うなど、主体的に事故を防ぐ行動ができるよう学校教育活動全体を通じて指導をしていると</p>
---	--

<p>(2) 事故発生後の対応について</p>	<p>ころである。</p> <p>(学校教育部長)</p> <p>A 事故が発生した際の対応については、各学校で作成した危機管理マニュアルを基に共通理解を図り、速やかな応急処置、被害児童生徒等の保護者への連絡、現場に居合わせた児童生徒等への対応ができるよう体制を整えている。</p> <p>今後も事故の未然防止に努めるとともに、事故発生時には迅速かつ適確な対応により、児童生徒の生命と健康を最優先とする対応の徹底や状況に応じた臨機応変な対応ができるよう、各学校に引き続き指導していく。</p>
<p>8 体育授業前後の男女同室での着替えについて</p> <p>(1) 現状について</p>	<p>(学校教育部長)</p> <p>A 体育授業前後の着替えについては、専用の更衣室を設置することが難しい中、空き教室を活用するなど、各学校がそれぞれ工夫した対応を行っているところである。</p> <p>一方で、毎年実施している調査の結果では、小学校の低学年や中学生において、男女の更衣場所に関する配慮が不足している現状も見受けられる。</p>
<p>(2) 対策について</p>	<p>(学校教育部長)</p> <p>A 具体的な着替え場所の対策としては、男女で教室を分ける、教室を使用する時間帯を変える、教室内をカーテンで仕切るなど、状況に応じた工夫を行っている学校もある。</p> <p>今後は、着替え場所に対する適切な配慮がなされるよう、各学校の取り組みを紹介するなど、情報提供を行いながら、児童生徒の発達段階等に配慮した更衣環境の整備に向け、改めて指導を徹底していく。</p>

<p>(要望) 男女同室での着替えを早急に改善していただくよう強く要望する。</p> <p>10 学びの多様化学校の設置に向けた進捗状況について</p> <p>(1) 開校時の生徒の転入学の流れについて</p> <p>(2) 学校生活における生徒への配慮について</p> <p>11 メタバースを活用した不登校児童生徒の居場所やつながり作りに</p>	<p>(学校教育部長)</p> <p>A 本市の学びの多様化学校は、学びたくても在籍する学校には行けない生徒を支援するため、転入学前から一人ひとりの状況について丁寧な把握を行うことが必要であると考えている。</p> <p>このことから、転入学を希望する児童生徒については、まず教育研究所の教育相談室で相談を受け、開校前年度の令和7年度1学期から教育支援センターに入室してもらう。次に教育支援センターにおいて、安定した生活を継続して送れるようになった段階で、2学期に実施する授業体験に参加。その後、学びの多様化学校での支援が適切であると判断した児童生徒について、転入学を認めていく手順を想定している。</p> <p>(学校教育部長)</p> <p>A 転入学を希望する生徒の中には、校則などによる多くの決まり事があることや常に大人数で学校生活を過ごすことなど、既存の学校生活に馴染むことの難しい生徒がいることも考えられる。</p> <p>このことから、学校指定の制服を設けないことや教室以外に気持ちを落ち着ける場所を設置することなど、生徒に寄り添った対応策を講じることが重要であると考えている。</p> <p>(学校教育部長)</p> <p>A 仮想空間を利用したメタバースによる居場所づくりについては、成果を上げている</p>
---	---

<p>ついて</p> <p>1 2 教育研究所芝園分室が担う児童生徒支援機能の今後の方策について</p> <p>・教育研究所芝園分室が移転する場合の対策について</p> <p>1 4 切れ目のない支援について</p> <p>(2) つなげられた情報をどのように活用しているか</p>	<p>事例もあることから、効果的な手段の一つであると認識している。</p> <p>一方で、仮想空間から現実社会へ移行していくことの困難さや、運営面などの課題があることから、埼玉県や他の自治体の事例等を注視し、調査研究していく。</p> <p>(学校教育部長)</p> <p>A 増加する不登校児童生徒に加え、外国籍児童生徒に対しては、本市独自の支援の仕組みを構築し、支援体制を整え、今後更に充実させる必要があるものと認識している。</p> <p>そのために、教育研究所芝園分室が移転する場合には、SKIPシティを児童生徒支援機能の中核に据えるとともに、教育支援センター「わくわくスクール・チャレンジスクール」と、日本語初期指導教室を、市内教育施設数か所に設置するべく準備を開始したところである。</p> <p>今後、児童生徒や保護者が居住地に近い場所で支援を受けられる体制を構築することで、指導・支援の一層の充実につなげていきたい。</p> <p>(学校教育部長)</p> <p>A 一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育支援計画の作成にあたっては、関係課や幼稚園・保育園等からの情報を有効に活用している。</p> <p>また、特別支援教育コーディネーターが核となり、組織的に対応するため、校内委員会等で情報を共有し、個別支援の充実を図っている。</p> <p>今後も切れ目のない支援体制を継続するために、関係部局や機関との連携を密にしていく。</p>
---	---

<p>今田 真美 議員 (新風)</p> <p>9 G I G Aスクール端末を活用した学力向上の取り組みについて</p> <p>(要望)</p> <p>学力等に決して悪影響がないよう、慎重にG I G Aスクール端末を使用していただくことを要望する。</p> <p>10 中学生と赤ちゃんの交流会について</p> <p>・中学生と赤ちゃんとのふれあい授業として、思春期の子どもたちに赤ちゃんと触れ合ってほしい</p> <p>11 部活動の地域移行に当事者の意見を反映させることについて</p> <p>・子ども達や保護者の声を直接反映させることについて</p>	<p>(学校教育部長)</p> <p>A 現在各学校においては、学習内容の定着を図るために、学習支援ソフト等を使い、一人ひとりの考えを可視化したり共有したりすることで、効果的な授業が展開されている。</p> <p>今後も、従来の教育方法とI C T、それぞれの利点を組み合わせた、より効果的な授業が展開され、児童生徒の学力向上につながれるよう、指導・助言していく。</p> <p>(学校教育部長)</p> <p>A 核家族化、少子化が進む現代において、生徒が乳幼児と触れ合う機会を持つことは、命や家庭の大切さなどを理解する上で意義があるものと考えている。</p> <p>なお、現行の学習指導要領では、中学校の家庭科で幼児、高等学校では乳幼児を扱うことになっている。</p> <p>市内すべての中学校において、中学生と乳幼児とのふれあい授業を行うことは、本市の規模や安全性、継続性、人材確保などの面において、多くの課題があることから、関係他課と連携を図りながら、調査研究していく。</p> <p>(学校教育部長)</p> <p>A 子どもたちや保護者の声を直接反映させることについては、アンケート調査の結果を分析し、協議の場において、内容を報告した上で、その取扱いについて、多角的な視点</p>
--	--

	<p>から意見をいただくとともに、アンケート結果については、市のホームページにて公表している。</p> <p>今後は、現在実施中のモデル事業実施団体や参加生徒、保護者に対して最終アンケートを実施し、成果と課題をまとめ、地域移行の取り組みに活かしていく。</p>
--	--

令和7年3月市議会定例会 一般質問質疑応答概要 (学校保健課)	
<p><質問概要></p> <p>宇田川 好秀 議員 (自民)</p> <p>1 1 教育行政について (2) 学校給食費の主食費無償化について ・学校給食費の主食費無償化に対する市の考えについて</p> <p>松本 進 議員 (公明)</p> <p>8 教育問題について (6) 学校施設に浄水器の設置について</p>	<p><答弁概要></p> <p>(副教育長)</p> <p>A 本市では、昨今の急激な食材価格の高騰に対応すべく、これまで二度にわたる学校給食費の改定を行ってきたが、現下の物価高の中、賃金上昇が物価上昇に追いついていない課題が存在する現状において、子育て世帯の家計への影響は、依然大きいものと認識している。</p> <p>こうしたことから、令和7年度の学校給食費については、主食費相当分を公費負担とすることが、限られた財源の中で、現時点でとりうる最も有効な施策であるとし、令和7年度当初予算案に必要な額を計上したところである。</p> <p>今後についても、児童生徒が健やかに成長できるよう、学校給食の運営に取り組んでいく。</p> <p>(学校教育部長)</p> <p>A 児童生徒が飲用する水道水については、法令に基づき年一回の詳細な検査や、臭気や味等に異常がないかなどの簡易的な検査を毎日実施しており、学校環境衛生基準を満たしている安全な水と認識している。</p> <p>議員提案の浄水器の設置については、メンテナンスが容易などの利点があるが、一方で運</p>

<p>菅野 静華 議員（青嵐）</p> <p>7 未来を拓く子供たちの教育について</p> <p>(1) 学校給食の牛乳選択制について</p> <p>・学校給食における牛乳の選択制について、市はどのように考えているのか</p>	<p>用上において衛生面での課題もあることから、他市の動向を参考にし、調査研究していく。</p> <p>（学校教育部長）</p> <p>A 牛乳は、成長期の児童生徒に欠かすことのできないカルシウムだけでなく、たんぱく質やビタミンなどの栄養素を豊富に含んでおり、健康の増進及び食育の推進を図るために算出された国の栄養摂取基準を満たすうえでも効果的であることから、牛乳選択制導入の考えはない。</p> <p>一方で、SDGsの推進は大変重要と考えることから、引き続き、学級活動や総合的な学習の時間を通じて、食品ロス削減のための啓発に努めていく。</p>
<p>松本 幸恵 議員（共産）</p> <p>1 市民の暮らしを守るための市政運営に</p> <p>(1) 物価高騰に対応した市の施策を</p> <p>イ 学校給食費の保護者負担軽減について</p> <p>・令和7年度の負担軽減に向けた取り組みと今後の無償化に向けた方策についての考え</p>	<p>（学校教育部長）</p> <p>A 物価高に苦しむ子育て世帯の経済的な負担軽減を図るため、令和7年度の学校給食費の保護者負担額は、主食費相当分を公費負担とし、月額で小学校1,097円、中学校1,506円の負担軽減を図り、保護者負担額を小学校3,845円、中学校4,336円とするものである。</p> <p>また、今後については、無償化を実施するためには多額の財源を安定的かつ恒久的に</p>

<p>柳田 つとむ 議員 (自民)</p> <p>5 学校給食費の主食費無償化について</p> <p>(1) 学校給食費の主食費無償化による収納への影響について</p> <p>(2) 本市の学校給食費の未納対策について</p> <p>・収納実績を含めた未納対策について</p> <p>前原 博孝 議員 (自民)</p> <p>9 学校給食費の主食費無償化について</p> <p>(1) コメの価格上昇をふまえた市の</p>	<p>確保していくことが必要となることから、引き続き国の動向を注視していく。</p> <p>(学校教育部長)</p> <p>A 議員指摘のとおり、単価が下がることで全体の未納額の減少は見込まれるが、一方で、市が一部公費負担をすることにより、保護者の納付意識が低下してしまう可能性も考えられることから、安定して学校給食を提供し続けていくためにも、引き続き適切な未納対策を実施していく。</p> <p>(学校教育部長)</p> <p>A 令和5年度学校給食費・現年度分の収納率については99.5パーセント、未納額は984万7,195円である。</p> <p>未納となった場合の取り組みとしては、翌月以降の請求に合算して請求を行い、更に年度末においても、当該年度の未納者に対して一括して請求を実施するなどにより、収納の確保に努めている。その他にも、児童手当からの天引きや、再三の催告等にも応じない場合は、特別債権回収課への債権移管等を実施するなど、学校給食費の未納防止対策を講じているところである。</p> <p>(学校教育部長)</p> <p>A 令和7年度当初予算案に計上した学校</p>
---	---

<p>予算の在り方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨今のコメの価格上昇に対応した主食費補助について 	<p>給食費のうち公費負担とする主食費相当分については、納入業者である公益財団法人埼玉県学校給食会において昨年11月に改定された最新のコメの価格により、本市財政状況を踏まえ、必要額を計上したところである。</p> <p>物価高騰は、学校給食のみならず、子育て世帯の家計へも大きな影響を与えることから、今後もコメを含めた食材の価格動向を注視し、適宜適切な対応ができるよう努めていく。</p> <p>(学校教育部長)</p>
<p>(2) パンやめんなどの価格について</p> <p>飯塚 孝行 議員 (自民)</p> <p>4 学校給食費の主食費無償化について</p> <p>(1) 本市の財政における影響額について</p> <p>(2) 経済的に困難な家庭に対する支援の基本的な考え方について</p>	<p>A パンや、めんの価格については、コメと異なり、小麦価格が若干値下がりとなっていることから、コメと同様の価格上昇はないものと見込んでいるところである。</p> <p>(学校教育部長)</p> <p>A 学校給食費の主食費相当分を公費負担することについての影響額は、令和7年度当初予算案として、約5億5,634万7,000円と試算しており、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用して、支援を実施していく。</p> <p>(学校教育部長)</p> <p>A 経済的に困難な家庭に対する支援については、児童生徒が元気で健康に学校生活を過ごせるよう、必要に応じて生活保護制度や就学援助制度の利用を助言するなど、丁寧な対応が必要であると認識している。</p>

<p>(3) 要保護世帯及び準要保護世帯への支援状況について</p> <p>荻野 梓 議員 (自民)</p> <p>6 学校給食費の主食費無償化について</p> <p>(1) 主食費無償化による保護者負担軽減額について</p> <p>(2) 新学校給食センターにおける食物アレルギー対策について</p>	<p>(学校教育部長)</p> <p>A 令和5年度の要保護世帯及び準要保護世帯への支援状況については、要保護者が496人、準要保護者が6,838人となっており、それぞれ児童生徒数全体の1.16パーセント、16.0パーセントの割合を占めている。</p> <p>(学校教育部長)</p> <p>A 主食費相当額を公費負担した場合、小学校1食あたり302円、中学校1食あたり357円の学校給食費のうち、小学校235円、中学校265円の保護者負担額となることから、小学校で67円、中学校で92円の軽減となり、年額にすると小学校1万2,067円、中学校1万6,566円の負担軽減となる。</p> <p>(学校教育部長)</p> <p>A 食物アレルギーを持つ児童生徒が安心して給食が喫食できる環境を整えていくことは、安全、安心で充実した学校給食を実施するうえで、大変重要な取り組みの一つと認識している。現在、本市の学校給食センターにおいては、食物アレルギー対応専用の調理室を設けているのは元郷学校給食センターのみとなっている。こうしたことから、今後、新学校給食センターの整備にあたっては、食物アレルギー対策として、専用の調理室が設置できるよう前向きに検討していく。</p>
---	--

<p>松本 英利 議員（自民）</p> <p>3 学校給食費の主食費無償化について</p> <p>(1) 教職員への説明会開催結果について</p> <p>(2) 保護者への今後の周知について</p>	<p>(学校教育部長)</p> <p>A 教職員への説明会については、昨年10月末から本年2月初めまでの5か月間に渡り、副教育長はじめ、教育局職員が学校給食を実施している全小中学校78校へ直接訪問し、説明をしたところである。その際、教職員はどの学校においても熱心に聞き、質問が複数出るなど、学校給食全体の理解が深まったものと捉えている。</p> <p>(学校教育部長)</p> <p>A 保護者向けの周知については、年度当初に児童生徒に係る全世帯へ文書を発出するとともに、主食費相当分の補助を含め、分かりやすさを向上させるために、Q&A方式によるリーフレットを作成し、4月中に学校を通じて、全ての児童生徒の家庭へ配布する予定である。</p> <p>今後も、学校給食に関する理解が深まるよう、丁寧な説明に努めていく。</p>
---	---

環境経済文教常任委員会質疑応答概要

(令和7年 3月市議会定例会)

教育総務部 教育総務課

質 疑	応 答
<p>議案第1号 令和6年度川口市一般会計補正予算(第8号)</p> <p>△ 歳出の部 第10款 教育費</p> <p>△ 歳入の部</p> <p>第15款 使用料及び手数料 第1項 使用料 第9目</p> <p>第16款 国庫支出金 第2項 国庫補助金 第6目</p> <p>第17款 県支出金 第2項 県補助金 第8目</p> <p>第23款 市債 第1項 市債 第8目</p> <p>第2条第2表 継続費補正の内</p> <p>2 廃止 第10款 教育費 第2項 小学校費 仲町小学校改築事業</p> <p>第3条第3表 繰越明許費補正の内</p> <p>1 追加 第10款 教育費 第8項 体育費 神根運動場等整備事業</p> <p>第4条第4表 債務負担行為補正の内</p> <p>1 追加 大貫海浜学園バス運行業務 水上少年自然の家バス運行業務</p> <p>第5条第5表 地方債補正の内</p> <p>2 変更 学校施設等整備事業 社会教育施設等整備事業 体育施設等整備事業</p>	
<p>< 質 疑 ></p> <p>(柳田 つとむ 委員)</p> <p>1項教育総務費、7目教育施設整備基金費について、令和6年度末の教育施設整備基金の残高はどの位になる見込みか。</p> <p>(牛嶋 宏一 委員)</p> <p>6項社会教育費、8項体育費の3目職員手当に</p>	<p>(教育総務課長)</p> <p>令和6年度末の見込み残高として、約55億8,755万円である。</p> <p>(教育総務課長)</p> <p>事務量が増えたことによるものである。</p>

質 疑	応 答
<p>おける時間外勤務手当の増額理由を教えてください。</p> <p>< 討 論 ></p> <p>なし。</p> <p>< 採 決 ></p> <p>起立者全員にて可決。</p>	

環境経済文教常任委員会質疑応答概要

(令和7年 3月市議会定例会)

教育総務部 生涯学習課 中央図書館 科学館

質 疑	応 答
<p>議案第1号 令和6年度川口市一般会計補正予算(第8号)</p> <p>△ 歳出の部 第10款 教育費</p> <p>△ 歳入の部</p> <p>第15款 使用料及び手数料 第1項 使用料 第9目</p> <p>第16款 国庫支出金 第2項 国庫補助金 第6目</p> <p>第17款 県支出金 第2項 県補助金 第8目</p> <p>第23款 市債 第1項 市債 第8目</p> <p>第2条第2表 継続費補正の内</p> <p>2 廃止 第10款 教育費 第2項 小学校費 仲町小学校改築事業</p> <p>第3条第3表 繰越明許費補正の内</p> <p>1 追加 第10款 教育費 第8項 体育費 神根運動場等整備事業</p> <p>第4条第4表 債務負担行為補正の内</p> <p>1 追加 大貫海浜学園バス運行業務 水上少年自然の家バス運行業務</p> <p>第5条第5表 地方債補正の内</p> <p>2 変更 学校施設等整備事業 社会教育施設等整備事業 体育施設等整備事業</p>	
<p>< 質 疑 ></p> <p>なし。</p> <p>< 討 論 ></p> <p>なし。</p> <p>< 採 決 ></p> <p>起立者全員にて可決。</p>	

環境経済文教常任委員会質疑応答概要

(令和7年 3月市議会定例会)

教育総務部 スポーツ課

質 疑	応 答
<p>議案第1号 令和6年度川口市一般会計補正予算(第8号)</p> <p>△ 歳出の部 第10款 教育費</p> <p>△ 歳入の部</p> <p>第15款 使用料及び手数料 第1項 使用料 第9目</p> <p>第16款 国庫支出金 第2項 国庫補助金 第6目</p> <p>第17款 県支出金 第2項 県補助金 第8目</p> <p>第23款 市債 第1項 市債 第8目</p> <p>第2条第2表 継続費補正の内</p> <p>2 廃止 第10款 教育費 第2項 小学校費 仲町小学校改築事業</p> <p>第3条第3表 繰越明許費補正の内</p> <p>1 追加 第10款 教育費 第8項 体育費 神根運動場等整備事業</p> <p>第4条第4表 債務負担行為補正の内</p> <p>1 追加 大貫海浜学園バス運行业務 水上少年自然の家バス運行业務</p> <p>第5条第5表 地方債補正の内</p> <p>2 変更 学校施設等整備事業 社会教育施設等整備事業 体育施設等整備事業</p>	
<p>< 質 疑 ></p> <p>(柳田 つとむ 委員)</p> <p>神根運動場等整備事業の詳細について教えてほしい。</p>	<p>(スポーツ課長)</p> <p>工事請負費については、社会資本整備総合交付金の補正予算に伴い、園路等整備工事を前倒して実施するものである。公有財産購入費及び補償・補てん及び賠償金については、事業用地の地権者から代替地を希望されたことにより、代替用地を市が購入するため増額するものである。</p>

質 疑	応 答
<p>(板橋 博美 委員)</p> <p>神根運動場等整備事業に係る用地購入費の場所と面積は。</p>	<p>(スポーツ課長)</p> <p>代替用地の所在地は大字赤山、面積は1,984平方メートルである。</p>
<p>(板橋 博美 委員)</p> <p>物件補償料の内容は。</p>	<p>(スポーツ課長)</p> <p>植木の苗木があることから、その移植に要する費用である。</p>
<p>(板橋 博美 委員)</p> <p>代替地を希望している地権者の事業用地の面積は。</p>	<p>(スポーツ課長)</p> <p>920平方メートルである。</p>
<p>(板橋 博美 委員)</p> <p>事業用地と代替用地の面積が異なる理由は。</p>	<p>(スポーツ課長)</p> <p>地権者は、自身が利用している他の土地を併せて集約したい意向があったためである。</p>
<p>(板橋 博美 委員)</p> <p>なぜ赤山の代替用地となったのか。</p>	<p>(スポーツ課長)</p> <p>事業用地の周辺では適地がなかったためである。</p>
<p>(板橋 博美 委員)</p> <p>資材置き場として利用するのか。</p>	<p>(スポーツ課長)</p> <p>いわゆる資材置き場とは異なるが、事業用地を駐車場として利用しており、待合所を設置することなどから、代替用地においても同様の利用形態となる可能性は考えられる。</p>

質 疑	応 答
<p>(板橋 博美 委員)</p> <p>資材置き場に対してはいろいろな意見があると思うが、代替用地の近隣住民への説明は実施しているのか。</p> <p>(板橋 博美 委員)</p> <p>近隣住民への配慮は欠かせないので、引き続き市から説明など対応を要望する。(要望)</p> <p>< 討 論 ></p> <p>なし。</p> <p>< 採 決 ></p> <p>起立者全員にて可決。</p>	<p>(スポーツ課長)</p> <p>隣接地権者については、測量の立会時に説明しているところである。今後についても、周辺住民への説明を予定している。</p>

環境経済文教常任委員会質疑応答概要

(令和7年 3月市議会定例会)

学校教育部 庶務課

質 疑	応 答
<p>議案第1号 令和6年度川口市一般会計補正予算（第8号）</p> <p>△ 歳出の部 第10款 教育費</p> <p>△ 歳入の部</p> <p>第15款 使用料及び手数料 第1項 使用料 第9目</p> <p>第16款 国庫支出金 第2項 国庫補助金 第6目</p> <p>第17款 県支出金 第2項 県補助金 第8目</p> <p>第23款 市債 第1項 市債 第8目</p> <p>第2条第2表 継続費補正の内</p> <p>2 廃止 第10款 教育費 第2項 小学校費 仲町小学校改築事業</p> <p>第3条第3表 繰越明許費補正の内</p> <p>1 追加 第10款 教育費 第8項 体育費 神根運動場等整備事業</p> <p>第4条第4表 債務負担行為補正の内</p> <p>1 追加 大貫海浜学園バス運行業務 水上少年自然の家バス運行業務</p> <p>第5条第5表 地方債補正の内</p> <p>2 変更 学校施設等整備事業 社会教育施設等整備事業 体育施設等整備事業</p>	
<p>< 質 疑 ></p> <p>(柳田 つとむ 委員)</p> <p>3項中学校費、18節負担金・補助及び交付金の部活動等助成金の減額の理由は。</p>	<p>(庶務課長)</p> <p>部活動に参加する生徒1人に対し500円を助成するものであるが、当初の見込みより交付人数が減となったことから、減額するものである。</p>

質 疑	応 答
<p>(菅野 静華 委員)</p> <p>部活動等助成金の詳細を教えてください。</p>	<p>(庶務課長)</p> <p>部活動に参加する生徒1人あたり500円を助成するものである。また、ブラスバンドの活動を助成するものも含まれている。</p>
<p>(菅野 静華 委員)</p> <p>部活動の助成金は、どういった生徒に助成するのか。</p>	<p>(庶務課長)</p> <p>部活動に入部している生徒1人あたり500円を助成するものである。</p>
<p>(菅野 静華 委員)</p> <p>部活動の助成金は、当初予算に計上されていたのか。</p>	<p>(庶務課長)</p> <p>当初予算に含まれており、補正予算で減額するものである。</p>
<p>(牛嶋 宏一 委員)</p> <p>以前からGIGAスクール端末の故障があると聞いているが、令和6年度に購入したGIGAスクール端末のスペックと頑丈さはどうなっているのか。</p>	<p>(庶務課長)</p> <p>令和6年度に購入した端末は、令和2年度に導入した端末と比較して、児童生徒用端末、教師用端末それぞれのスペックが上がっている。例えば、メモリについては4GBから8GBに向上している。</p> <p>また、端末の堅牢性であるが、令和6年度から保護ケースを導入していることに加え、端末本体の周囲が緩衝材のような役割をする素材で囲われているため、落下などにより壊れにくい構造となっている。</p>

質 疑	応 答
<p data-bbox="215 295 406 331">< 討 論 ></p> <p data-bbox="215 367 284 403">なし。</p> <p data-bbox="215 506 406 542">< 採 決 ></p> <p data-bbox="215 573 470 609">起立者全員にて可決。</p>	

環境経済文教常任委員会質疑応答概要

(令和7年 3月市議会定例会)

学校教育部 学務課

質 疑	応 答
<p>議案第1号 令和6年度川口市一般会計補正予算(第8号)</p> <p>△ 歳出の部 第10款 教育費</p> <p>△ 歳入の部</p> <p>第15款 使用料及び手数料 第1項 使用料 第9目</p> <p>第16款 国庫支出金 第2項 国庫補助金 第6目</p> <p>第17款 県支出金 第2項 県補助金 第8目</p> <p>第23款 市債 第1項 市債 第8目</p> <p>第2条第2表 継続費補正の内</p> <p>2 廃止 第10款 教育費 第2項 小学校費 仲町小学校改築事業</p> <p>第3条第3表 繰越明許費補正の内</p> <p>1 追加 第10款 教育費 第8項 体育費 神根運動場等整備事業</p> <p>第4条第4表 債務負担行為補正の内</p> <p>1 追加 大貫海浜学園バス運行業務 水上少年自然の家バス運行業務</p> <p>第5条第5表 地方債補正の内</p> <p>2 変更 学校施設等整備事業 社会教育施設等整備事業 体育施設等整備事業</p>	
<p>< 質 疑 ></p> <p>(柳田 つとむ 委員)</p> <p>放課後児童対策費にかかわり、放課後児童クラブ事業委託料を1,287万2,000円減額する理由について。</p>	<p>(学務課長)</p> <p>委託事業者の運営費の執行が当初の見込みを下回ったことから減額補正するものである。特に人件費であり、当初予算においては、手厚い児童への支援を考慮し、支援員の配置など最大となるよう見込んだが、実際の利用児童の登室状況が見込みを下回ったことにより、当初予算に達することがなかった</p>

質 疑	応 答
<p>(古川 九一 委員)</p> <p>債務負担行為補正にかかわり、大貫・水上は本市の児童生徒にとり、大変有意義な行事と捉えていることから、今後のバスの確保のための見解について教えてほしい。</p> <p>(古川 九一 委員)</p> <p>債務負担行為補正により予算を早めに確保し、バスの安定的な確保に努めてほしい。(要望)</p> <p>< 討 論 ></p> <p>なし。</p> <p>< 採 決 ></p> <p>起立者全員にて可決。</p>	<p>ことによるものである。</p> <p>(学務課長)</p> <p>バスの確保が年々困難となっている中、少しでも早くバスを確保するため、債務負担行為の設定をお願いしているところである。この度の補正予算が成立すれば、3月に入札を実施することができる。次年度以降についても、さらに早めた実施を検討しており、安定的な校外教育の実施に努めていく。</p>

環境経済文教常任委員会質疑応答概要

(令和7年 3月市議会定例会)

学校教育部 指導課 学校保健課 川口市立高等学校

質 疑	応 答
<p>議案第1号 令和6年度川口市一般会計補正予算(第8号)</p> <p>△ 歳出の部 第10款 教育費</p> <p>△ 歳入の部</p> <p>第15款 使用料及び手数料 第1項 使用料 第9目</p> <p>第16款 国庫支出金 第2項 国庫補助金 第6目</p> <p>第17款 県支出金 第2項 県補助金 第8目</p> <p>第23款 市債 第1項 市債 第8目</p> <p>第2条第2表 継続費補正の内</p> <p>2 廃止 第10款 教育費 第2項 小学校費 仲町小学校改築事業</p> <p>第3条第3表 繰越明許費補正の内</p> <p>1 追加 第10款 教育費 第8項 体育費 神根運動場等整備事業</p> <p>第4条第4表 債務負担行為補正の内</p> <p>1 追加 大貫海浜学園バス運行业務 水上少年自然の家バス運行业務</p> <p>第5条第5表 地方債補正の内</p> <p>2 変更 学校施設等整備事業 社会教育施設等整備事業 体育施設等整備事業</p>	
<p>< 質 疑 ></p> <p>なし。</p> <p>< 討 論 ></p> <p>なし。</p> <p>< 採 決 ></p> <p>起立者全員にて可決。</p>	

環境経済文教常任委員会質疑応答概要

(令和7年 3月市議会定例会)

教育総務部 教育総務課 学校教育部 庶務課

質 疑	応 答
<p>議案第23号 専決処分の承認について（裁判上の和解について）</p>	
<p>< 質 疑 ></p> <p>(柳田 つとむ 委員)</p> <p>業者を指名する段階で販売許可の有無の確認を行わなかったのか。</p> <p>(柳田 つとむ 委員)</p> <p>今回の案件を受けて、再発防止策は何か行っているのか。</p> <p>(板橋 博美 委員)</p> <p>今回の案件を指名競争入札とした理由は、また、何者を指名したのか。</p>	<p>(教育総務課長)</p> <p>入札参加者を指名する際、市側が関係法令をすべて把握し業者固有の販売許可を調べたうえで指名を行うことは現実的に困難であるため、確認は行わなかった。</p> <p>(教育総務課長)</p> <p>令和5年度から物品購入等については、オープンカウンターや一般競争入札で行っており、一般競争入札等の参加資格要件の一つに、契約の履行に必要な法令等に基づく許可、資格等を備えた者であることと明記し業者に周知するなどを行い、再発の防止に努めている。</p> <p>(教育総務課長)</p> <p>小学校13校に納入する必要があったため、円滑に事務手続きが進むよう、日頃から学校に納品実績のある業者を指名したものである。</p> <p>なお、指名業者は5者である。</p>

質 疑	応 答
<p>(板橋 博美 委員)</p> <p>パルスオキシメータを販売するには、販売許可が必要と市が認識した経緯は。</p>	<p>(教育総務課長)</p> <p>入札の翌日、他の指名業者からパルスオキシメータには販売許可が必要であることを伝えられ、その時初めて認識した。</p>
<p>(板橋 博美 委員)</p> <p>裁判に至るまでの経緯と原告と市のそれぞれの主張について教えてほしい。</p>	<p>(教育総務課長)</p> <p>原告は、入札は有効であるとし、パルスオキシメータを除いた形で契約を交わせないかとの打診があったが、購入予定の物品の総額での入札であったことから、市では入札不調と判断した。その後、原告から落札額の支払いを求められたが、市では支払い義務がない旨の回答をしたところ訴訟に発展したものである。</p>
<p>(板橋 博美 委員)</p> <p>解決金50万円の根拠は。</p>	<p>(教育総務課長)</p> <p>既に納品済み物品の受入を含め、裁判所から提示された額である。</p>
<p>(板橋 博美 委員)</p> <p>訴訟の結果、和解という結果であったとしても、市の貴重な税金が解決金として支払われていることは重く受け止めてもらいたい。また、今後の公共調達発注や入札において、公平公正な契約が行われるよう全庁的な周知に努めてほしい。</p> <p>(要望)</p>	

質 疑	応 答
<p data-bbox="215 295 406 331">< 討 論 ></p> <p data-bbox="215 365 284 400">なし。</p> <p data-bbox="215 504 406 539">< 採 決 ></p> <p data-bbox="215 573 470 609">起立者全員にて承認。</p>	

環境経済文教常任委員会質疑応答概要

(令和7年 3月市議会定例会)

教育総務部 教育総務課

質 疑	応 答
<p>議案第25号 令和7年度川口市一般会計予算</p> <p>第1条第1表 歳入歳出予算の内</p> <p>△ 歳出の部 第10款 教育費</p> <p>△ 歳入の部 第14款 分担金及び負担金 第1項 負担金 第4目</p> <p>第15款 使用料及び手数料 第1項 使用料 第9目 第2項 手数料 第7目</p> <p>第16款 国庫支出金 第2項 国庫補助金 第6目、第8目</p> <p>第17款 県支出金 第2項 県補助金 第8目 第3項 委託金 第6目</p> <p>第18款 財産収入 第1項 財産運用収入 第2目 第19款 寄附金</p> <p>第20款 繰入金 第1項 基金繰入金 第7目、第8目</p> <p>第22款 諸収入 第3項 貸付金元利収入 第5項 雑入</p> <p>第23款 市債 第1項 市債 第8目</p> <p>第2条第2表 継続費 第10款 教育費</p> <p>第2項 小学校費 仲町小学校改築事業 十二月田小学校改築事業</p> <p>第3項 中学校費 十二月田中学校改築事業</p> <p>第6項 社会教育費 根岸公民館改築事業 神根西公民館改築事業</p> <p>第8項 体育費 北スポーツセンター改築事業 仮称神根総合運動公園建設事業</p> <p>第3条第3表 債務負担行為の内</p> <p>放課後児童クラブ業務(令和8年度分) 奨学資金利子補給金(令和7年度融資分)</p> <p>奨学資金融資損失補償(令和7年度融資分) 小学校改築事業建設工事費</p> <p>第4条第4表 地方債の内</p> <p>学校施設等整備事業 社会教育施設等整備事業 体育施設等整備事業 教育債借換債</p>	
<p>< 質 疑 ></p> <p>(柳田 つとむ 委員)</p> <p>第2項小学校費、第1目学校管理費、14節工事請負費において、防水工事やトイレ改修工事を予定している学校を教えてください。</p>	<p>(教育総務課長)</p> <p>防水工事は、元郷小学校管理・特別教室棟、新郷小学校体育館、並木小学校管理・特別教室棟、芝中央小学校普通・特別教室棟、慈林小学校特別教室棟、東本郷小学校管理・特別教室棟において、外壁塗装工事や屋上防水工事を予定している。</p> <p>トイレ改修工事は、戸塚小学校普通教室棟、神根東小学校普通教室棟1階、中居小学校管理・普</p>

質 疑	応 答
<p>(柳田 つとむ 委員)</p> <p>第3項中学校費、第1目学校管理費、14節工事請負費において、防水工事やトイレ改修工事を予定している学校を教えてください。</p> <p>< 討 論 ></p> <p>なし。</p> <p>< 採 決 ></p> <p>起立者多数にて可決。</p>	<p>通教室棟を予定している。</p> <p>(教育総務課長)</p> <p>防水工事は、榛松中学校普通・特別教室棟、鳩ヶ谷中学校普通・管理・特別教室棟、里中学校体育館、元郷中学校普通・特別教室棟において、外壁塗装工事や屋上防水工事を予定している。</p> <p>トイレ改修工事は、上青木中学校普通・特別教室棟、八幡木中学校管理・特別・普通教室棟を予定している。</p>

環境経済文教常任委員会質疑応答概要

(令和7年 3月市議会定例会)

教育総務部 生涯学習課 中央図書館 科学館

質 疑	応 答
<p>議案第25号 令和7年度川口市一般会計予算</p> <p>第1条第1表 歳入歳出予算の内</p> <p>△ 歳出の部 第10款 教育費</p> <p>△ 歳入の部 第14款 分担金及び負担金 第1項 負担金 第4目</p> <p>第15款 使用料及び手数料 第1項 使用料 第9目 第2項 手数料 第7目</p> <p>第16款 国庫支出金 第2項 国庫補助金 第6目、第8目</p> <p>第17款 県支出金 第2項 県補助金 第8目 第3項 委託金 第6目</p> <p>第18款 財産収入 第1項 財産運用収入 第2目 第19款 寄附金</p> <p>第20款 繰入金 第1項 基金繰入金 第7目、第8目</p> <p>第22款 諸収入 第3項 貸付金元利収入 第5項 雑入</p> <p>第23款 市債 第1項 市債 第8目</p> <p>第2条第2表 継続費 第10款 教育費</p> <p>第2項 小学校費 仲町小学校改築事業 十二月田小学校改築事業</p> <p>第3項 中学校費 十二月田中学校改築事業</p> <p>第6項 社会教育費 根岸公民館改築事業 神根西公民館改築事業</p> <p>第8項 体育費 北スポーツセンター改築事業 仮称神根総合運動公園建設事業</p> <p>第3条第3表 債務負担行為の内</p> <p>放課後児童クラブ業務（令和8年度分） 奨学資金利子補給金（令和7年度融資分）</p> <p>奨学資金融資損失補償（令和7年度融資分） 小学校改築事業建設工事費</p> <p>第4条第4表 地方債の内</p> <p>学校施設等整備事業 社会教育施設等整備事業 体育施設等整備事業 教育債借換債</p>	
<p>< 質 疑 ></p> <p>なし。</p> <p>< 討 論 ></p> <p>なし。</p> <p>< 採 決 ></p> <p>起立者多数にて可決。</p>	

環境経済文教常任委員会質疑応答概要

(令和7年 3月市議会定例会)

教育総務部 文化財課

質 疑	応 答
<p>議案第25号 令和7年度川口市一般会計予算</p> <p>第1条第1表 歳入歳出予算の内</p> <p>△ 歳出の部 第10款 教育費</p> <p>△ 歳入の部 第14款 分担金及び負担金 第1項 負担金 第4目</p> <p>第15款 使用料及び手数料 第1項 使用料 第9目 第2項 手数料 第7目</p> <p>第16款 国庫支出金 第2項 国庫補助金 第6目、第8目</p> <p>第17款 県支出金 第2項 県補助金 第8目 第3項 委託金 第6目</p> <p>第18款 財産収入 第1項 財産運用収入 第2目 第19款 寄附金</p> <p>第20款 繰入金 第1項 基金繰入金 第7目、第8目</p> <p>第22款 諸収入 第3項 貸付金元利収入 第5項 雑入</p> <p>第23款 市債 第1項 市債 第8目</p> <p>第2条第2表 継続費 第10款 教育費</p> <p>第2項 小学校費 仲町小学校改築事業 十二月田小学校改築事業</p> <p>第3項 中学校費 十二月田中学校改築事業</p> <p>第6項 社会教育費 根岸公民館改築事業 神根西公民館改築事業</p> <p>第8項 体育費 北スポーツセンター改築事業 仮称神根総合運動公園建設事業</p> <p>第3条第3表 債務負担行為の内</p> <p>放課後児童クラブ業務（令和8年度分） 奨学資金利子補給金（令和7年度融資分）</p> <p>奨学資金融資損失補償（令和7年度融資分） 小学校改築事業建設工事費</p> <p>第4条第4表 地方債の内</p> <p>学校施設等整備事業 社会教育施設等整備事業 体育施設等整備事業 教育債借換債</p>	
<p>< 質 疑 ></p> <p>(牛嶋 宏一 委員)</p> <p>予算説明書の375ページ、目の説明、歴史的建造物施設整備費について、令和5年度より減額となっているが、どのような理由か。また、今後のスケジュールについて教えて欲しい。</p>	<p>(文化財課長)</p> <p>歴史的建造物施設整備費では、旧田中家住宅の耐震補強に向けた調査工事を行っている。調査工事は、文化財建造物では耐震補強工事の設計を行うために、建物の状況を詳細に調査する必要があるため実施している。令和7年度は、調査工事を始めて4年目であり、調査も完了する予定であるため、費用も減額となっている。また、今後のス</p>

質 疑	応 答
<p data-bbox="215 504 406 548">< 討 論 ></p> <p data-bbox="215 571 287 616">なし。</p> <p data-bbox="215 705 406 750">< 採 決 ></p> <p data-bbox="215 772 470 817">起立者多数にて可決。</p>	<p data-bbox="813 291 1412 403">ケジュールについては、令和7年度の調査工事の成果を踏まえて作成する予定である。</p>

環境経済文教常任委員会質疑応答概要

(令和7年 3月市議会定例会)

教育総務部 スポーツ課

質 疑	応 答
<p>議案第25号 令和7年度川口市一般会計予算</p> <p>第1条第1表 歳入歳出予算の内</p> <p>△ 歳出の部 第10款 教育費</p> <p>△ 歳入の部 第14款 分担金及び負担金 第1項 負担金 第4目</p> <p>第15款 使用料及び手数料 第1項 使用料 第9目 第2項 手数料 第7目</p> <p>第16款 国庫支出金 第2項 国庫補助金 第6目、第8目</p> <p>第17款 県支出金 第2項 県補助金 第8目 第3項 委託金 第6目</p> <p>第18款 財産収入 第1項 財産運用収入 第2目 第19款 寄附金</p> <p>第20款 繰入金 第1項 基金繰入金 第7目、第8目</p> <p>第22款 諸収入 第3項 貸付金元利収入 第5項 雑入</p> <p>第23款 市債 第1項 市債 第8目</p> <p>第2条第2表 継続費 第10款 教育費</p> <p>第2項 小学校費 仲町小学校改築事業 十二月田小学校改築事業</p> <p>第3項 中学校費 十二月田中学校改築事業</p> <p>第6項 社会教育費 根岸公民館改築事業 神根西公民館改築事業</p> <p>第8項 体育費 北スポーツセンター改築事業 仮称神根総合運動公園建設事業</p> <p>第3条第3表 債務負担行為の内</p> <p>放課後児童クラブ業務（令和8年度分） 奨学資金利子補給金（令和7年度融資分）</p> <p>奨学資金融資損失補償（令和7年度融資分） 小学校改築事業建設工事費</p> <p>第4条第4表 地方債の内</p> <p>学校施設等整備事業 社会教育施設等整備事業 体育施設等整備事業 教育債借換債</p>	
<p>< 質 疑 ></p> <p>(牛嶋 宏一 委員)</p> <p>オリンピック・パラリンピック等強化指定選手 激励金交付事業について、事業の内容と、予算額 の内訳及び今まで交付した主な選手を教えてください。</p>	<p>(スポーツ課長)</p> <p>日本オリンピック委員会、日本パラリンピック 委員会及びそれらの加盟団体の強化指定や、埼玉 県の「プラチナアスリート」の強化指定を受けた 方へ競技活動の経費を一部交付する事業である。 交付額の上限が10万円であり、13名分を計上 している。これまで交付した主な選手としては、 女子サッカーで今年パリオリンピックへ出場さ</p>

質 疑	応 答
<p>(牛嶋 宏一 委員)</p> <p>本市にオリンピック・パラリンピックに出場するような選手がいるということは市民にとっても励みとなると思うので、ホームページなどで周知をしてほしい。(要望)</p> <p>< 討 論 ></p> <p>なし。</p> <p>< 採 決 ></p> <p>起立者多数にて可決。</p>	<p>れた高橋はな選手などである。</p>

環境経済文教常任委員会質疑応答概要

(令和7年 3月市議会定例会)

学校教育部 庶務課

質 疑	応 答
<p>議案第25号 令和7年度川口市一般会計予算</p> <p>第1条第1表 歳入歳出予算の内</p> <p>△ 歳出の部 第10款 教育費</p> <p>△ 歳入の部 第14款 分担金及び負担金 第1項 負担金 第4目</p> <p>第15款 使用料及び手数料 第1項 使用料 第9目 第2項 手数料 第7目</p> <p>第16款 国庫支出金 第2項 国庫補助金 第6目、第8目</p> <p>第17款 県支出金 第2項 県補助金 第8目 第3項 委託金 第6目</p> <p>第18款 財産収入 第1項 財産運用収入 第2目 第19款 寄附金</p> <p>第20款 繰入金 第1項 基金繰入金 第7目、第8目</p> <p>第22款 諸収入 第3項 貸付金元利収入 第5項 雑入</p> <p>第23款 市債 第1項 市債 第8目</p> <p>第2条第2表 継続費 第10款 教育費</p> <p>第2項 小学校費 仲町小学校改築事業 十二月田小学校改築事業</p> <p>第3項 中学校費 十二月田中学校改築事業</p> <p>第6項 社会教育費 根岸公民館改築事業 神根西公民館改築事業</p> <p>第8項 体育費 北スポーツセンター改築事業 仮称神根総合運動公園建設事業</p> <p>第3条第3表 債務負担行為の内</p> <p>放課後児童クラブ業務（令和8年度分） 奨学資金利子補給金（令和7年度融資分）</p> <p>奨学資金融資損失補償（令和7年度融資分） 小学校改築事業建設工事費</p> <p>第4条第4表 地方債の内</p> <p>学校施設等整備事業 社会教育施設等整備事業 体育施設等整備事業 教育債借換債</p>	
<p>< 質 疑 ></p> <p>(柳田 つとむ 委員)</p> <p>予算説明書353ページ、3項中学校費、18節負担金・補助及び交付金の部活動等助成金について、助成金の内容と予算の内訳を教えてください。</p>	<p>(庶務課長)</p> <p>内容としては、市立中学校の教育活動の一環として行われる部活動及びブラスバンド活動を行う学校に対し、助成するものである。</p> <p>部活動は、入部者1人当たり500円を、ブラスバンド活動は、1校当たり13万5,000円を予算計上している。</p> <p>部活動に対する助成金は、632万1,000</p>

質 疑	応 答
<p>(柳田 つとむ 委員)</p> <p>予算説明書341ページ、2項小学校費、349ページ3項中学校費にかかわって、学校配当予算の内容と1校当たりの平均配当額の令和6年度と令和7年度の比較とその理由について教えてほしい。</p>	<p>円、プラスバンド活動に対する助成金は、310万5,000円、合計942万6,000円となる。</p> <p>(庶務課長)</p> <p>学校配当予算の内容としては、主に、消耗品費をはじめとする需用費、電子計算機等借上料のトナー代をはじめとする使用料及び賃借料、教材備品購入費をはじめとする備品購入費がある。</p> <p>次に、1校当たりの平均配当額について、小学校費では、令和6年度438万3,095円に対し、令和7年度は、439万7,390円、1万4,295円の増となる。</p> <p>陽春分校及び附属中学校を除く中学校費では、令和6年度478万1,845円に対し、令和7年度は、479万7,514円、1万5,669円の増としている。</p> <p>増額の主な理由については、消耗品費を図書用として1校当たり1万円を増額したことによるものである。</p>
<p>(柳田 つとむ 委員)</p> <p>予算説明書343ページ、2項小学校費、351ページ、3項中学校費、11節役務費に動産総合保険料とあるが、その内容と契約方法について</p>	<p>(庶務課長)</p> <p>GIGAスクール端末の故障や破損に係る保険で、令和6年度から加入している。補償内容としては、小中学校同様の内容で、机上からの落下</p>

質 疑	応 答
<p>教えてほしい。</p> <p>(江袋 正敬 副委員長)</p> <p>予算説明書353ページ、1目、18節部活動等助成金は、何校分の予算か。</p> <p>< 討 論 ></p> <p>(柳田 つとむ 委員)</p> <p>2項小学校費1目学校管理費、3項中学校費1目学校管理費における学校配当予算の増額について、厳しい財政状況の中にあっても予算を確保し、消耗品費を増額したことは、学校図書の購入に役立てるものであることから、評価するものであり、賛成する。</p> <p>< 採 決 ></p> <p>起立者多数にて可決。</p>	<p>などによる破損、突然の動作不良などの機械故障による端末の修理または交換費用の補償などである。</p> <p>契約方法については、指名競争入札を予定している。</p> <p>(庶務課長)</p> <p>部活動の助成金は、中学校全校が対象となっている。プラスバンド活動の助成金は、23校が該当している。</p>

環境経済文教常任委員会質疑応答概要

(令和7年 3月市議会定例会)

学校教育部 学務課 川口市立高等学校

質 疑	応 答
<p>議案第25号 令和7年度川口市一般会計予算</p> <p>第1条第1表 歳入歳出予算の内</p> <p>△ 歳出の部 第10款 教育費</p> <p>△ 歳入の部 第14款 分担金及び負担金 第1項 負担金 第4目</p> <p>第15款 使用料及び手数料 第1項 使用料 第9目 第2項 手数料 第7目</p> <p>第16款 国庫支出金 第2項 国庫補助金 第6目、第8目</p> <p>第17款 県支出金 第2項 県補助金 第8目 第3項 委託金 第6目</p> <p>第18款 財産収入 第1項 財産運用収入 第2目 第19款 寄附金</p> <p>第20款 繰入金 第1項 基金繰入金 第7目、第8目</p> <p>第22款 諸収入 第3項 貸付金元利収入 第5項 雑入</p> <p>第23款 市債 第1項 市債 第8目</p> <p>第2条第2表 継続費 第10款 教育費</p> <p>第2項 小学校費 仲町小学校改築事業 十二月田小学校改築事業</p> <p>第3項 中学校費 十二月田中学校改築事業</p> <p>第6項 社会教育費 根岸公民館改築事業 神根西公民館改築事業</p> <p>第8項 体育費 北スポーツセンター改築事業 仮称神根総合運動公園建設事業</p> <p>第3条第3表 債務負担行為の内</p> <p>放課後児童クラブ業務(令和8年度分) 奨学資金利子補給金(令和7年度融資分)</p> <p>奨学資金融資損失補償(令和7年度融資分) 小学校改築事業建設工事費</p> <p>第4条第4表 地方債の内</p> <p>学校施設等整備事業 社会教育施設等整備事業 体育施設等整備事業 教育債借換債</p>	
<p>< 質 疑 ></p> <p>なし。</p> <p>< 討 論 ></p> <p>なし。</p> <p>< 採 決 ></p> <p>起立者多数にて可決。</p>	

環境経済文教常任委員会質疑応答概要

(令和7年 3月市議会定例会)

学校教育部 指導課

質 疑	応 答
<p>議案第25号 令和7年度川口市一般会計予算</p> <p>第1条第1表 歳入歳出予算の内</p> <p>△ 歳出の部 第10款 教育費</p> <p>△ 歳入の部 第14款 分担金及び負担金 第1項 負担金 第4目</p> <p>第15款 使用料及び手数料 第1項 使用料 第9目 第2項 手数料 第7目</p> <p>第16款 国庫支出金 第2項 国庫補助金 第6目、第8目</p> <p>第17款 県支出金 第2項 県補助金 第8目 第3項 委託金 第6目</p> <p>第18款 財産収入 第1項 財産運用収入 第2目 第19款 寄附金</p> <p>第20款 繰入金 第1項 基金繰入金 第7目、第8目</p> <p>第22款 諸収入 第3項 貸付金元利収入 第5項 雑入</p> <p>第23款 市債 第1項 市債 第8目</p> <p>第2条第2表 継続費 第10款 教育費</p> <p>第2項 小学校費 仲町小学校改築事業 十二月田小学校改築事業</p> <p>第3項 中学校費 十二月田中学校改築事業</p> <p>第6項 社会教育費 根岸公民館改築事業 神根西公民館改築事業</p> <p>第8項 体育費 北スポーツセンター改築事業 仮称神根総合運動公園建設事業</p> <p>第3条第3表 債務負担行為の内</p> <p>放課後児童クラブ業務（令和8年度分） 奨学資金利子補給金（令和7年度融資分）</p> <p>奨学資金融資損失補償（令和7年度融資分） 小学校改築事業建設工事費</p> <p>第4条第4表 地方債の内</p> <p>学校施設等整備事業 社会教育施設等整備事業 体育施設等整備事業 教育債借換債</p>	
<p>< 質 疑 ></p> <p>(柳田 つとむ 委員)</p> <p>予算説明書335ページ、3目教育指導費の目の説明、要保護・準要保護児童生徒就学援助事業にかかわり、援助項目は。</p> <p>(柳田 つとむ 委員)</p> <p>過去3年度における認定者数の推移は。また、令和7年度の見込みは。</p>	<p>(指導課長)</p> <p>学用品費、通学用品費、新入学用品費、校外活動費、体育実技用具費、修学旅行費及び通学費である。</p> <p>(指導課長)</p> <p>令和4年度は、小学校4,054名、中学校2,185名、合計6,239名である。</p>

質 疑	応 答
<p>(柳田 つとむ 委員)</p> <p>就学援助の認定者のうち、外国籍児童生徒の割合は。</p>	<p>令和5年度は、小学校3,978名、中学校2,165名、合計6,143名である。</p> <p>令和6年度は、1月末に算出した見込みで、小学校3,635名、中学校2,028名、合計5,663名である。</p> <p>令和7年度の予算上の見込みは、小学校3,647名、中学校2,130名、合計5,777名である。</p> <p>(指導課長)</p> <p>就学援助制度において、「国籍」は受給要件となっていないため、国籍別の認定者数については把握しておらず、システム上算出することも現状では難しい。</p>
<p>(柳田 つとむ 委員)</p> <p>システム改修してでも外国籍児童生徒の数や割合を把握すべきでは。</p>	<p>(指導課長)</p> <p>今後も増大するであろう外国籍児童生徒に対する就学援助の費用負担について、人数等を把握することは重要であると考えている。</p> <p>一方、実態把握に必要な数字を正確に算出することについては、システム改修を念頭に置いても課題が多いことから、市として要望を行っている国庫補助等の動向も注視しつつ、最適な方法について検討して参りたい。</p>

質 疑	応 答
<p>(柳田 つとむ 委員)</p> <p>仮放免等の事情を考慮し、認定となっている外国籍児童生徒の数やその割合の推移は分かるか。</p>	<p>(指導課長)</p> <p>仮放免等の事情を考慮し認定となっている外国籍児童生徒の数は、令和3年度が174人で、就学援助認定者数の約2.6パーセント。令和4年度が226人で、約3.6パーセント。令和5年度が337人で、約5.5パーセントである。</p> <p>ただし、「就学援助認定者数」は各年度3月末時点の人数であり、「仮放免等の事情を考慮し認定となっている外国籍児童生徒の数」は申請時点の状況把握によるもの、かつ氏名から外国籍と推測できる者の数であるため、正確な数字とは言えず、あくまで参考数値である。</p>
<p>(柳田 つとむ 委員)</p> <p>学力向上支援事業にかかわり、小学校低学年基礎学力定着度調査について、小学校低学年での調査を実施する意義は何か。</p>	<p>(指導課長)</p> <p>低学年における基礎的な学力が身に付いていない場合、中学年・高学年になってからでは遅れを取り戻すことが難しくなることから、小学校1年生・2年生における学力の定着度を2年生・3年生の早い段階で調査し、児童一人ひとりの学習のつまずきや課題を明らかにすることで、速やかに補充の指導等を行ない、高学年以降の学力向上を図ることを目的としている。</p>
<p>(柳田 つとむ 委員)</p> <p>令和6年度から、埼玉県学力・学習状況調査は</p>	<p>(指導課長)</p> <p>C B T調査における課題として、児童生徒が端</p>

質 疑	応 答
<p>G I G Aスクール端末を使用したC B Tでの全 県実施に変わったと認識しているが、それに伴 い、本市の学力向上支援事業における新たな取り 組みはあるか。</p> <p>(柳田 つとむ 委員)</p> <p>その他、本市の学力向上支援事業における新た な取り組みはあるか。また、想定し得る効果は。</p> <p>(柳田 つとむ 委員)</p> <p>地域クラブ活動推進事業にかかわり、18節負 担金・補助及び交付金において部活動地域移行モ デル事業補助金が計上されているが、モデル事業</p>	<p>未操作に不慣れであることにより、学力を適切に 発揮できないことが挙げられる。そこで、低学年 のうちから端末操作による解答に慣れるため、令 和7年度低学年基礎学力定着度調査の算数科に おいては、M i c r o s o f t F o r m sを用 いたC B Tで実施する予定である。</p> <p>(指導課長)</p> <p>令和6年度から、算数科において、埼玉県学 力・学習状況調査と同様にG I G Aスクール端末 を使用して行うテスト、「川口Sネクスト」を希 望校の小学5年生・6年生を対象に試行実施して いる。</p> <p>効果としては、2学期・3学期の年2回実施す ることにより、同一年度内での学習内容の定着度 や学力の伸びをはかることができ、教員は自身の 指導の工夫改善の成果を確認することができる とともに、児童にとっては学習の成果を実感でき る機会となり、学習意欲の向上につながるものが 期待される。</p> <p>(指導課長)</p> <p>休日等の部活動の段階的な地域移行の推進を 図るため、本市における地域人材や運営団体の確 保、費用負担の在り方等の課題分析や検証等に総</p>

質 疑	応 答
<p>の内容を詳しく。また、補助金135万円の内訳は。</p> <p>(柳田 つとむ 委員)</p> <p>令和6年度にもモデル事業を実施していると聞いているが、その概要及び成果と課題を踏まえた令和7年度の展望は。</p>	<p>合的に取り組むことを目的とした事業である。</p> <p>令和7年度については、長期モデル事業5団体程度、短期モデル事業10団体程度を募集し、活動費の一部に充てるための補助金を交付することにより、地域クラブ活動としてのモデル事業を実施していく。</p> <p>補助金の内訳としては、11か月間活動する長期モデル事業として1団体13万円を、6か月間活動する短期モデル事業として1団体7万円を補助するものである。</p> <p>(指導課長)</p> <p>令和6年度のモデル事業については、計5団体を募集し、1月から3月の3か月間で実施している。実施種目は、「サッカー」「陸上競技」「女子野球」「ニュースポーツ」「オーケストラ」である。</p> <p>事業は3月末まで継続中であるが、成果の見込みとしては、より専門的な指導者による充実した活動が実施できたことや、学校の枠を超えた生徒同士の交流が生まれたこと、更には、部活動の地域移行に向けた機運の向上が図られたことなどが挙げられる。</p> <p>課題としては、活動場所の確保が困難であったこと、活動日の調整など学校部活動との兼ね合いやモデル事業の実施地区に偏りがあったことな</p>

質 疑	応 答
<p>(柳田 つとむ 委員)</p> <p>部活動の地域移行に関し、最新の国・県の動向はどうなっているのか。また、川口市では令和9年9月を目途に休日部活動の地域移行を進めるとしているが、他市の状況は。</p>	<p>どが挙げられる。</p> <p>以上の成果と課題を踏まえ、令和7年度は、団体数や実施地区を拡大するとともに、学校施設等を活用することで活動場所の確保に努め、より充実した活動となるよう執り進めていく予定である。</p> <p>(指導課長)</p> <p>国の有識者会議が令和6年12月に発表した中間とりまとめでは、令和8年度から令和13年度を「改革実行期間」とし、この期間において、休日については、原則全ての部活動の地域展開の実現を目指すとともに、地域の実態に応じて、できる限り前倒しでの実現を目指すことが望ましいとしている。また、平日についても、各種課題を解決しつつ更なる改革を推進していくことが示されている。</p> <p>このことから、地域移行は国全体をあげて取り組むべきことと言え、埼玉県も、国の方向性に沿って移行へ向けた実証事業を県内各地で進めている。更に、県内では、本市よりも早い令和8年度から休日の移行を予定している自治体もあるため、これらの動向も注視しながら、市民の理解促進を図り、段階的に移行を進めていく予定である。</p>

質 疑	応 答
<p>(柳田 つとむ 委員)</p> <p>部活動指導員配置事業にかかわり、各学校からの配置要望の状況は。また、要望は全て叶えられているのか。</p>	<p>(指導課長)</p> <p>各学校における部活動数等確定後の調査では、令和6年度は、25名の配置希望があり、指導員25名を配置している。令和7年度については、26名の配置予定で予算計上している。</p>
<p>(牛嶋 宏一 委員)</p> <p>予算説明書337ページ、4目教育研究所費の目の説明、日本語指導川口モデル推進事業にかかわり、主な事業内容及び事業費の内訳は。</p>	<p>(指導課長)</p> <p>主な事業内容は、1つ目として教育研究所芝園分室における日本語指導教室の実施、2つ目として教員の加配がつかない学校に対する日本語指導支援員サポート派遣、3つ目として拠点校方式による日本語指導教室の実施、4つ目として外国人児童生徒数の占める割合が高い学校において学習や学校生活適応の補助を行う外国人児童生徒支援員の配置である。</p> <p>事業費の内訳は、パートタイム会計年度任用職員報酬が1,966万1,000円、期末手当及び勤勉手当が787万7,000円、費用弁償が106万2,000円、教材作成用消耗品費が150万円、備品購入費が107万8,000円である。</p>

質 疑	応 答
<p>(牛嶋 宏一 委員)</p> <p>不登校児童生徒支援事業にかかわり、主な事業内容は、また、令和6年度比で予算が増額となっているが、内訳は。</p>	<p>(指導課長)</p> <p>主な事業内容は、教育支援センター（旧適応指導教室）の実施、訪問相談員による相談・支援、学びの多様化学校の設置に係る準備、校内教育支援センター「ほっとルーム」の設置促進及びほっとルーム支援員の配置などである。</p> <p>予算増額の主な内訳は、パートタイム会計年度任用職員の報酬単価の増及び配置人数の増による報酬の増612万5,000円、期末手当の増173万5,000円、令和7年度から支給開始となる勤勉手当の新規計上205万円、ほっとルームへのエアコン設置費用や学びの多様化学校開校に伴う電話回線引き込み工事費用の新規計上261万9,000円、学びの多様化学校開校準備のための備品購入費の新規計上474万5,000円である。</p> <p>なお、会計年度任用職員であるほっとルーム支援員は、8名増員の見込みで予算を計上しているが、この分は配当留保となっており、県費の加配教員の配置状況によって増員の可否が決まるものにつき、現時点で配置人数は未定である。</p>
<p>(牛嶋 宏一 委員)</p> <p>特別支援教育支援事業にかかわり、令和6年度比で予算が増額となっているが内訳は。</p>	<p>(指導課長)</p> <p>予算増額の主な内訳は、パートタイム会計年度任用職員の報酬単価の増による報酬の増1,95</p>

質 疑	応 答
<p>(板橋 博美 委員)</p> <p>予算説明書335ページ、3目教育指導費の目の説明、学力向上支援事業にかかわり、令和7年度の学力調査の実施予定は。また、「川口Sネクスト」の実施期間は。</p>	<p>9万3,000円、期末手当の増546万8,000円、令和7年度から支給開始となる勤勉手当の新規計上3,650万7,000円、生活保護基準の改定に伴う就学奨励費システムの改修費用の新規計上140万円、特別支援学級に入級する児童生徒数の増などによる就学奨励費（扶助費）の増259万1,000円である。</p> <p>(指導課長)</p> <p>全国学力・学習状況調査は、令和7年4月17日に実施予定である。中学校の理科についてはCBTでの実施となることから、4月14日から17日の4日間に分けて実施する。</p> <p>埼玉県学力・学習状況調査は、5月にCBTで実施予定であり、5月2日は小学5年生及び中学3年生、5月9日は小学6年生及び中学2年生、5月16日は小学4年生及び中学1年生である。</p> <p>小学校低学年基礎学力定着度調査は、5月2日から16日の間で実施予定である。</p> <p>川口Sネクストの実施期間は、令和6年度の実績になるが、第1回を令和6年9月17日から30日までの間で実施し、第2回を令和7年1月8日から24日までの間で実施した。</p>

質 疑	応 答
<p>(板橋 博美 委員)</p> <p>要保護・準要保護児童生徒就学援助事業にかかわり、令和4年度から令和6年度までの認定率の推移は。</p>	<p>(指導課長)</p> <p>令和4年度は14.49パーセント、令和5年度は14.37パーセント、令和6年度は見込みで13.36パーセントである。</p>
<p>(江袋 正敬 副委員長)</p> <p>予算説明書335ページ、3目教育指導費の目の説明、学校図書館司書配置事業にかかわり、令和6年度比で予算額が増額となっているが理由は。</p>	<p>(指導課長)</p> <p>報酬単価の増による報酬及び期末手当の増、令和7年度から支給開始となる勤勉手当の新規計上によるものである。</p>
<p>(江袋 正敬 副委員長)</p> <p>要保護・準要保護児童生徒就学援助事業にかかわり、認定者数が減少傾向にあるようだが、理由をどう分析しているか。</p>	<p>(指導課長)</p> <p>児童生徒数全体が減少傾向にあるほか、全国的にも就学援助の認定者数は12年連続で減少傾向にあるという背景がある。また、これは推測であるが、コロナ禍が明け、保護者の就業が進んだことや、世帯の子どもの数が減っており、こどもの数が少ないと世帯収入の基準額が下がることなどが影響しているのではないかと考えている。</p>
<p>(江袋 正敬 副委員長)</p> <p>予算説明書337ページ、4目教育研究所費の目の説明、日本語指導川口モデル推進事業にかかわり、事業名称が日本語指導支援員活用事業から変更になっている理由と主な変更内容は。</p>	<p>(指導課長)</p> <p>日本語指導を必要とする児童生徒の増加や、その保護者の対応も含め、多種多様な支援を必要とするため、限定的な名称である「支援員活用」から「川口モデル推進」に変更した。</p>

質 疑	応 答
<p>(江袋 正敬 副委員長)</p> <p>学校図書館司書については、増員ができるよう予算要求を行ってほしい。(要望)</p> <p>(菅野 静華 委員)</p> <p>予算説明書335ページ、3目教育指導費の地域クラブ活動推進事業にかかわり、部活動地域移行コーディネーターの活動費用はどの費目に計上されているのか。</p> <p>また、他に部活動地域移行にかかわる予算があればどこに計上されているか伺いたい。</p> <p>(菅野 静華 委員)</p> <p>令和6年度モデル事業の中に「ニュースポーツ」が挙げられていたが、市ホームページで公開</p>	<p>変更点としては、外国人児童生徒への日本語指導のみならず、学校生活に適応するための支援を充実させ、市民の一員としてルールやマナーを守り、社会に貢献できる児童生徒の育成を目指すという点である。具体的には、日本語初期指導のスタンダード化、日本語初期指導拠点校の配置、日本語指導研修の充実等、6つの柱に取り組んでいく。</p> <p>(指導課長)</p> <p>予算説明書330・331ページ、2目事務局費の2節給料のうち会計年度任用職員給料や、3節職員手当等に計上されている。</p> <p>その他予算としては、3目教育指導費の10節需用費に部活動地域移行推進協議会の飲み物代が、18節負担金・補助及び交付金に部活動地域移行モデル事業補助金が計上されている。</p> <p>(指導課長)</p> <p>スポーツが苦手で、レクリエーション感覚で楽しみながらスポーツをやりたいとの声もあるこ</p>

質 疑	応 答
<p>されている部活動地域移行に関するアンケートの結果では、多くの生徒が今までやっていた部活動に入りたいと希望していることがわかる。何故ニュースポーツという新たな競技を取り入れたのか。</p> <p>(菅野 静華 委員)</p> <p>部活動の地域移行は、教員の働き方改革のための政策として進められているが、教育の本質的な視点からの議論は十分にされているのか。</p>	<p>とから、そのようなニーズに応えるべく取り入れたものである。</p> <p>(指導課長)</p> <p>部活動の地域移行は、教員の働き方改革のみならず、少子化に伴いこれまでのような学校単位での部活動の運営が難しくなっていることなど、様々な課題を踏まえて進めていくものである。</p> <p>本質的な議論としては、部活動はこれまで教員が勤務時間外でボランティアとして指導にあたるのが当たり前と捉えられてきたが、これまでの常識を国全体として見直す動きが出てきたのではないかと考えている。これからは、教員が原則勤務時間の範囲内で教科指導・部活動指導にあたり、最大限の効果が得られるように努めることが重要なのではないかと。</p> <p>今後、部活動の地域移行を進め、地域の方々の協力も得ながら、学校も含めた地域全体で子どもたちのスポーツ活動・文化芸術活動を支えていければ、ということについて議論を重ねているところである。</p>

質 疑	応 答
<p>(菅野 静華 委員)</p> <p>地域移行によって学校間や地域間の格差が拡大するという懸念があるが、市として格差を生じさせぬよう、どのような対策を考えているのか。</p>	<p>(指導課長)</p> <p>各学校や地域の特色を活かしつつ、魅力ある取り組みを行い、特定の学校・地域が大きくマイナスとなることがないようにしていきたいと考えている。対策としては、各学校や地域の施設を有効活用するなど、モデル事業を通し、地域間の偏りの是正について検証・検討していきたい。</p>
<p>(菅野 静華 委員)</p> <p>地域クラブ活動の指導者確保が課題かと思うが、現状や対策について。</p>	<p>(指導課長)</p> <p>モデル事業の状況を鑑みても、地域クラブ活動の指導者や受け皿となる団体の確保は重要な課題であると認識している。川口市はスポーツ少年団や文化系の団体が豊富であるところが強みであるため、地域団体の活用や、指導を希望する教職員の活用等について検討していきたい。</p>
<p>(菅野 静華 委員)</p> <p>地域クラブ活動への移行に伴い、保護者の費用負担が増えるという懸念があるが、経済的に厳しい家庭の子どもへの支援策は検討されているのか。</p>	<p>(指導課長)</p> <p>経済的に厳しい家庭への支援は重要であると考えていることから、現在も検討は行っているところだが、今後も引き続き検討を続けていきたい。</p>
<p>(碓 康雄 委員)</p> <p>部活動地域移行に際し、対象となる中学生の数とモデル事業への参加者数をどの程度見込んで</p>	<p>(指導課長)</p> <p>対象となる中学生の数は、令和6年度の県調査「中学校体育に関する調査」によると1万3, 7</p>

質 疑	応 答
<p>いるのか伺いたい。</p> <p>(碓 康雄 委員)</p> <p>学校施設の有効活用という話があったが、具体的に令和7年度のモデル事業ではどのように活用していくのか。地域移行が完了した際には部活動は学校の手から完全に離れるという認識であったが違うのか。</p> <p>また、令和7年度モデル事業の中ではどの程度の受益者負担を想定しているのか。更に、助成などは考えているのか。</p>	<p>21人である。令和7年度モデル事業の参加者数は、4月から募集を行うため見込みが立っていないが、令和6年度については72名が参加している。</p> <p>(指導課長)</p> <p>現在、学校施設やスポーツ施設に対し、空き状況等について調査をかけているところであり、活用方法については調査結果を見て検討していく。</p> <p>また、地域クラブ活動は、学校も含め地域全体で支えていくものであるため、地域移行後も学校の手を完全に離れるということはない。</p> <p>令和7年度モデル事業での受益者負担は、極力少なくとは考えているが、具体的には各団体が設定するものである。助成金については今後の検討課題と考えている。</p>
<p>(碓 康雄 委員)</p> <p>現在、学校部活動は早い時間に終了するようになっていてと仄聞しているが、実際は何時頃に終わっているのか。</p>	<p>(指導課長)</p> <p>原則としては勤務時間内に終了するよう打ち出しているが、急には難しいところもあるので、今年度については学校ごとに段階的に進めているところである。</p>
<p>(碓 康雄 委員)</p> <p>令和9年9月を目途に土日の学校部活動を地</p>	<p>(指導課長)</p> <p>平日も含めた完全移行は、これからの検討課題</p>

質 疑	応 答
<p>域クラブ活動に移行するということだが、完全移行はいつ頃を予定しているのか。</p> <p>< 討 論 ></p> <p>(板橋 博美 委員)</p> <p>反対の立場から討論する。</p> <p>学力向上支援事業にかかわり、小学校低学年基礎学力定着度調査や「川口Sネクスト」、国・県の学力・学習状況調査などは子どもたちを競争にさらしており、学力の向上につながっていない。</p> <p>本来、学力テストではなく、少人数学級や教員の自主的な授業により児童生徒一人ひとりへの支援を手厚くし、学力の底上げを進めるべきと考える。</p> <p>(菅野 静華 委員)</p> <p>部活動地域移行関連予算について反対の立場から討論する。</p> <p>モデル事業を実施しているとのことだが、現場の意見を反映できているとは言い難く、また、そこまで地域移行を早急に進める必要があるのか疑問である。</p> <p>部活動地域移行は、市の財政負担を増大させるばかりか、受益者負担の原則の導入により保護者の負担も増大させる恐れがある。特に、経済的に</p>	<p>である。</p>

質 疑	応 答
<p>困窮している世帯の子どもが部活動参加を断念せざるを得なくなる可能性もあり、公平性が損なわれることが懸念される。</p> <p>(碓 康雄 委員)</p> <p>反対の立場から討論する。</p> <p>沢山の子どもたちが参加している部活動の受け皿が、2年間という短期間で整うとは思えない。そのような中で無理に地域移行を推進すると、生徒も教員も極めて混乱し、決して川口の教育のためにならないと考える。</p> <p>(柳田 つとむ 委員)</p> <p>賛成の立場から討論する。</p> <p>部活動の地域移行は、国の方針や期待される効果に加え、未来の学校運営の在り方にも寄与することなどから、国全体を挙げて速やかに進めるべき取り組みと言える。一方で、課題も少なくはないため、実証を繰り返しながら、より良い移行の形を探っていくことが重要と考える。</p> <p>本市では、既にモデル事業を開始しているとのことであり、他市の動向や、これまでの課題を踏まえ、移行後の活動なども見据えた更なるモデル事業の拡大も計画されている。</p> <p>また、本市には、大規模都市のスケールメリット</p>	

質 疑	応 答
<p>として、受け皿となりうる団体も数多く存在すると思われる。これらの団体との連携も図りながら、市民の理解促進にくわえ、子どもたちの多様でより良い活動の機会を拡大させるためにも、本市の実態に合わせた地域移行の取り組みを推進して欲しい。</p> <p>学力向上支援事業における小学校低学年基礎学力定着度調査などの学力調査は、学習における児童生徒のつまずきや課題を早期に把握することにより、高学年以降における学力向上や、本市におけるより良い教育につながるものと言える。</p> <p>埼玉県学力・学習状況調査のCBT化を踏まえ、新たな取り組みも開始されているとのことなので、今後もより効果的な学力向上の取り組みを推進して欲しい。</p> <p>(江袋 正敬 副委員長)</p> <p>賛成の立場から討論する。</p> <p>部活動の地域移行については、国が進める重要事業であり、教員の負担軽減等を踏まえて推進されているものである。本市においては、モデル事業を通じ、よりよい地域移行の在り方を検証・検討していただきたい。</p> <p>また、不登校児童生徒支援事業、特別支援教育支援事業等々についても、しっかり進めていただ</p>	

質 疑	応 答
<p>き、子どもたちが川口の学校でよかったと思えるような教育を行っていただきたい。</p> <p>< 採 決 ></p> <p>起立者多数にて可決。</p>	

環境経済文教常任委員会質疑応答概要

(令和7年 3月市議会定例会)

学校教育部 学校保健課

質 疑	応 答
<p>議案第25号 令和7年度川口市一般会計予算</p> <p>第1条第1表 歳入歳出予算の内</p> <p>△ 歳出の部 第10款 教育費</p> <p>△ 歳入の部 第14款 分担金及び負担金 第1項 負担金 第4目</p> <p>第15款 使用料及び手数料 第1項 使用料 第9目 第2項 手数料 第7目</p> <p>第16款 国庫支出金 第2項 国庫補助金 第6目、第8目</p> <p>第17款 県支出金 第2項 県補助金 第8目 第3項 委託金 第6目</p> <p>第18款 財産収入 第1項 財産運用収入 第2目 第19款 寄附金</p> <p>第20款 繰入金 第1項 基金繰入金 第7目、第8目</p> <p>第22款 諸収入 第3項 貸付金元利収入 第5項 雑入</p> <p>第23款 市債 第1項 市債 第8目</p> <p>第2条第2表 継続費 第10款 教育費</p> <p>第2項 小学校費 仲町小学校改築事業 十二月田小学校改築事業</p> <p>第3項 中学校費 十二月田中学校改築事業</p> <p>第6項 社会教育費 根岸公民館改築事業 神根西公民館改築事業</p> <p>第8項 体育費 北スポーツセンター改築事業 仮称神根総合運動公園建設事業</p> <p>第3条第3表 債務負担行為の内</p> <p>放課後児童クラブ業務（令和8年度分） 奨学資金利子補給金（令和7年度融資分）</p> <p>奨学資金融資損失補償（令和7年度融資分） 小学校改築事業建設工事費</p> <p>第4条第4表 地方債の内</p> <p>学校施設等整備事業 社会教育施設等整備事業 体育施設等整備事業 教育債借換債</p>	
<p>< 質 疑 ></p> <p>(柳田 つとむ 委員)</p> <p>383ページ、準要保護児童生徒給食費援助事業について、事業の詳細と援助の対象となる外国籍児童生徒数及びその比率について。</p>	<p>(学校保健課長)</p> <p>経済的理由により、就学が困難であると認められる児童生徒の保護者に対し、本市が学校給食費の全額を補助する事業であり、小学校3,630人、中学校2,074人、合計5,704人の対象を見込んで予算計上している。</p> <p>また、予算には日本人と外国人を分けて見込んではいませんが、令和5年度の実績は、事業対象者</p>

質 疑	応 答
<p>(柳田 つとむ 委員)</p> <p>385ページ、給食業務委託料について、予算の増額理由と直営校、委託校で給食内容や食育に違いがあるのか。</p>	<p>6,838人のうち、1,005人が外国人であり、事業対象の約14.7パーセントが外国人である。</p> <p>(学校保健課長)</p> <p>増額理由については、主に給食調理業務に係る人件費の増額によるものであり、また、直営校と委託校で給食内容や食育に違いはない。</p>
<p>(板橋 博美 委員)</p> <p>令和7年度の小中学校の学校給食費の保護者負担軽減はそれぞれどうなるのか。</p>	<p>(学校保健課長)</p> <p>令和7年度については、給食のうち主食の費用に相当する額を公費負担し、保護者負担の軽減を図るものである。具体的には、保護者負担額が小学校で273円から235円、中学校で324円から265円に軽減される。</p>
<p>< 討 論 ></p> <p>(柳田 つとむ 委員)</p> <p>給食調理業務の民間事業者への委託については、民間企業の持つノウハウを生かした効率的かつ柔軟性のある運営が可能であることや、コスト削減による財政の健全化に資する有効な取り組みであると考えられることから賛成する。</p> <p>同じく学校給食発注事業については、給食購入費用において主食費相当分を公費で負担し、保護</p>	

質 疑	応 答
<p>者の負担を軽減し、学校給食を安定して提供していくには有効な手段であり賛成する。</p> <p>< 採 決 ></p> <p>起立者多数にて可決。</p>	

環境経済文教常任委員会質疑応答概要

(令和7年 3月市議会定例会)

教育総務部 スポーツ課

質 疑	応 答
<p>議案第60号 川口市立体育施設設置及び管理条例の一部を改正する条例</p>	
<p>< 質 疑 ></p> <p>(柳田 つとむ 委員)</p> <p>戸塚体育館の利用停止について、地元町会や利用団体への周知はどのようにしているのか。</p> <p>(柳田 つとむ 委員)</p> <p>戸塚体育館の老朽化の状況について</p> <p>(板橋 博美 委員)</p> <p>各工事の完了後には、根岸体育館は公民館に同等の機能が、神根運動場は新たに整備されるが、戸塚体育館の代替施設を整備する計画はあるか。</p> <p>< 討 論 ></p> <p>(板橋 博美 委員)</p>	<p>(スポーツ課長)</p> <p>昨年6月には地元町会長会議に出席し、ご理解とご協力をお願いしたほか、11月からは各町会長及び全ての利用団体に具体的な利用停止時期を含めた周知を行っている。</p> <p>(スポーツ課長)</p> <p>開設から55年が経過し、各所に劣化が見られており、これまで修繕等を重ねながら施設の維持管理に努めてきたところである。</p> <p>(スポーツ課長)</p> <p>代替施設の計画はない。利用者の皆様には、戸塚スポーツセンターをはじめとする市内施設の利用をご案内するとともに、個別の相談があれば、引き続き丁寧に対応していきたいと考えている。</p>

質 疑	応 答
<p>戸塚地区には公共施設が少ない。戸塚体育館は、市民のスポーツ振興や地域コミュニティ形成の役割を担っており、存続を望む地域の声もある。また、部活動の地域移行に向けた活動場所の確保といった側面もある。戸塚体育館について、本議案の対象となっている他の施設と異なり、同様の機能を有する代替施設がないことから、反対する。</p> <p>(柳田 つとむ 委員)</p> <p>戸塚体育館は、永年、地域のスポーツに親しむ場として利用されてきた。平成20年度に戸塚スポーツセンターが開所された際、将来的な施設の在り方が問われたものの、地域からの要望も多く、使用が継続されてきた。</p> <p>しかしながら、さらに17年が経過し、近年は施設の老朽化も顕著となっていることから、利用者の安全性や、将来を見据えた行財政運営の視点からも、利用停止はやむを得ないと考える。</p> <p>地元町会や利用団体には既に周知が図られていることから、今後も丁寧な対応を要望して、賛成する。</p> <p>< 採 決 ></p> <p>起立者多数にて可決。</p>	

教育長報告（5）

令和7年度特色ある学校づくり推進校のテーマ及び学校支援員について

1 趣旨

子供たちの「確かな学力」、「豊かな心」、「健康や体力」の向上を図るために、川口市教育改革プログラムに基づき、学校教育活動の活性化を進める特色ある学校づくり推進校（地域や学校の特徴を活かして、学校が独自のテーマを設定する）に対し、教育委員会がアシスタント・ティーチャー（学校支援員）を配置するとともに、教育改革の推進に資する。

2 採用予定人数

幼稚園 4名（再任 3名）

小学校 52名（再任 43名 新任 9名）

中学校 22名（再任 19名 新任 3名）※2校兼務者 7名

※幼稚園で1名未定

3 配置

全園・全校に1名ずつ配置

※幼稚園は2名配置

※配慮を要する生徒が多いため、芝西中陽春分校は2名配置

4 勤務条件

幼・小：原則週4日 1日あたり4時間 年間140日以内

中：原則週2日 1日あたり4時間 年間70日以内

5 業務内容

（1）小・中学校及び幼稚園における各教科等の指導の補助

（2）その他、学校教育（幼稚園教育）活動全般にわたる支援 等

6 テーマ及び採用者

別紙のとおり

7 任期

令和7年4月14日から令和8年3月31日まで

（幼稚園は、令和7年4月7日から）

令和7年度 特色ある学校づくり推進校のテーマ及び学校支援員

学校名	テーマ	採用者
本町小	ことばを大切に ころろを形に いのち輝く本町小学校～音楽科の授業を通して～	石鍋 園美
幸町小	体・徳・知の調和がとれ、家庭・地域と一体となって児童を育む幸町小学校	程吉 一彦
仲町小	一人一人の日本語で学ぶ力を高める日本語指導の充実 ○自ら進んで日本語でコミュニケーションを図ろうとする児童の育成 ○異なる文化を乗り越えて相互に理解しようとする児童の育成 ○生活言語能力、学習言語能力を身に付ける児童の育成	張 栩平
上青木小	学習規律を徹底し、きめ細かな学習指導により算数科の基礎・基本の習熟を図る	山本 暁
元郷小	「確かな学力」のための算数科における基礎基本の定着	中松 典子
飯塚小	日本語補充指導を必要とする外国籍児童の算数・国語を中心とした学力向上	長倉 恭子
芝小	よく学ぶ子の育成 ～特別活動を基盤に、教科特性を生かした指導の充実を目指して～ ・自ら進んで学習する児童 ・考えを伝えあい、友達と共に学習する児童 ・粘り強く課題を最後までやりぬく児童	石井 直子
新郷小	「一人一人に居場所のある学校づくり」 ～主体的に学び合う児童の育成を目指して～	大沢 由歌
神根小	「確かな学力」のための算数科における基礎基本の定着	松田 裕之
青木北小	自分の力でねばり強く課題を解決していく児童の育成	石田 尚美
領家小	・自ら学びを発動させ、共に学び合う児童の育成 ・算数科の基礎学力向上～めあてへの到達度を高める学習指導の充実～	若田部 玲子
舟戸小	「多様性を尊重した関りのなかで主体的に学び続ける子供たちの育成を目指して」	木村 友昭
十二月田小	他者とともによりよく生き、自ら考える しわすだっ子の育成	猪股 彩
飯仲小	話合いや活動を通して自己肯定感を高め、学校生活を自らよりよく創造できる児童の育成	木村 紗苗
並木小	「学びたい」を引き出す指導法の研究 ～健全な自己肯定感を育む教育を通して～	奈良 美帆
安行小	見つけ 広げ 深める学習指導の工夫と創造	菊次 哲也
原町小	音楽を愛する心情や豊かな情操を養う教育の推進	橋本 京子
前川小	「確かな学力」のための国語・算数科における基礎基本の定着 児童が自ら考え行動する力を身につけるための特別活動の充実	木下 佳世子
戸塚小	主体的に学び、共に高め合う児童の育成～非認知能力を高め折れない児童を育成する～	清水 由紀
青木中央小	自ら考え、進んでかかわろうとする児童の育成～Well-beingを目指す非認知能力の育成～	小林 好子
元郷南小	一人一人の感性を育む音楽科教育の推進	藤田 広美
芝西小	・主体的に運動し、「元気」「笑顔」「やる気」に満ちあふれる芝西っ子の育成 ～「できた!」「楽しい!」を味わわせる芝西スタイルの体育授業～ ・一人一人の児童の居場所づくり	池田 典代
芝南小	児童の多様なニーズに対応し、基礎基本の定着を図り、学ぶ意欲を育む学校づくり	中村 豊彦
神根東小	・自分の考えをもち、聴き合いながら学ぶ児童の育成 ・国語、算数における学力下位層の学力向上 ・体力向上	氏原 五百子
朝日東小	「確かな学力」のための算数科における基礎基本の定着	武本 慶子
芝富士小	「GRITを伸ばす教育」	佐々木 幸枝
前川東小	豊かな心を育み、自他の良さを認め互いに高め合える学校づくりの推進	木下 今日子

柳崎小	生き生きと学び合う子の育成～算数科を中心とした確かな学力の向上～	石川 裕理
芝樋ノ爪小	確かな学力を育成する「主体的・対話的で深い学び」の実現と創造	富澤 香奈恵
新郷南小	自律的に自己の能力開発に取り組む児童の育成 ～100%の努力ができる児童の育成～	吉沢 美恵子
上青木南小	自己肯定感を高め、個のよさが伸びる日本語指導の充実	梅野 公孝
根岸小	児童の学び合いを深める授業の探究	平岡 美砂子
芝中央小	・基礎・基本の定着（国語・算数を中心） ・児童一人一人に対応した特別支援、日本語指導の充実	笠原 千鶴
新郷東小	自ら考え進んで行動する子の育成	斉藤 恵美子
朝日西小	共に学び合い、生き生きと主体的に学習する児童の育成 ～楽しく基礎基本を身に付け、「できる!」「わかる!」をもとに自分で考える算数を目指す～	山平 久美子
慈林小	児童一人ひとりに確かな学力を保障するための、算数科における基礎基本の定着	宮園 良江
差間小	自ら学ぶ児童の育成～自分の力を高めるために、自分で学習を考える児童の育成～	島根 綾香
東本郷小	算数科における個別最適な学びと協働的な学びの一体的な指導	岡本 久美子
東領家小	「確かな学力」のための算数科における基礎基本の定着	小林 朝江
安行東小	自尊感情を育む学級経営の工夫	樋口 恵美
在家小	共に学び合い、確かな学力を身に付ける児童の育成	東理 友味
戸塚東小	確かな学力に繋がる個別最適な学び・協働的な学びの実現に向けて ～個に応じたきめ細かな支援の充実を目指して～	佐藤 美樹
戸塚北小	自分の考えを分かりやすく相手に伝えることができる児童の育成	篠田 由佳
木曾呂小	主体的・対話的で深い学びの創造～児童も教師も家庭・地域も共に学び成長する学校～	小田島 典子
戸塚綾瀬小	・「確かな学力」のための国語科における基礎基本の定着 ・一人一人のよさを伸ばす国語科指導の充実 ・～自分の考えを適切な言葉で表現できる児童の育成～	佐藤 翠
戸塚南小	夢を持ち、いきいきとすくすく伸びる心豊かな児童の育成 ～ゆめいきスクール～ 「確かな学力のための算数科における基礎基本の定着」	内山 寿美
鳩ヶ谷小	算数科・国語科を中心とした児童の基礎学力定着を目指して	古澤 悠里
中居小	一人一人が生き生きと学びに向かう児童の育成 ～児童一人一人を確実に伸ばす学習指導の充実～	山内 素子
辻小	豊かな心と確かな学力をもつ児童の育成 ～他者と関わり合いながら、進んで学習に取り組むことができる児童の育成～	長島 朋世
里小	徳「豊かな人間性」、知「確かな学力」、体「健康・体力」の調和がとれた 「生きる力」「生き抜く力」のあるたくましい児童の育成	松本 明日香
桜町小	地域で育ち、学びを楽しむ児童生徒の育成 ～小中学校9年間のゴールを見据えた鳩ヶ谷中学校区取組～	矢島 希美
南鳩ヶ谷小	・あいさつ 笑顔 意欲 あふれる南っ子 の育成 ・自分の思いや願いを豊かに表現し、つくりだす喜びを感じられる児童の育成 ・「確かな学力」のための算数科における基礎基本の定着	大井 洋子
東中	「確かな学力」のための数学科における基礎基本の定着への取り出し指導	樋口 一①
西中	地域に根差した国際理解教育の推進（言語活動を通じた多文化共生の推進）	小峰 順子①
南中	数学科における、誰一人取り残さない、一人一人の学力を確実に身につけさせる基礎基本の定着	野原 美季穂
北中	「探究と協同の学びの創造」～健やかな心身の発達を目指した健康教育の推進～	近藤 卓子
青木中	諸問題を自力解決できる生徒の育成	樋口 一②
芝中	個別最適な学びを実現するための学習支援の充実	山内 澄子

元郷中	生徒が主体的に生き生きと学ぶための授業づくりに向けた指導方法の工夫改善	恩田 政活①
上青木中	個に応じた指導の充実	山際 元子
幸並中	日本語を母語としない生徒の学びを支える日本語指導の充実	菊池 玲子①
十二月田中	誰もがわかる・できる授業 生徒の目線で教え、考える授業の実践 ～「確かな学力」に繋げる基礎基本の定着～	佐藤 俊博①
仲町中	さらなる多文化共生の実現に向けて	菊池 玲子②
安行中	主体的・対話的で深い学びを実現する学習指導の充実	笠松 宏一
芝東中	学力の向上と不登校生徒の解消を目指して	千野 恵里子
芝西中	・ICTを有効活用した「夢中になって活動する」授業 ・生徒を取り残さない指導の工夫	山本 由紀
芝西中 陽春分校	・学びなおし、外国籍の生徒への学習支援と日本語指導の充実 ・「夢中になって活動する」授業 ・生徒を取り残さない指導の工夫	山野 安英 竹内 寿江
岸川中	ICTの効果的な活用と協働的な学びを活かした個別最適な学びの充実	今堀 健次①
榛松中	・笑顔があふれる 学びと感動のある榛松中学校 ・「確かな学力」のための数学科における基礎基本の定着	恩田 政活②
小谷場中	個別支援が必要な生徒へのチーム学校としての実践	原田 淳
神根中	「確かな学力」の育成のための数学科における基礎基本の定着 ～個別指導による学力の向上～	瀬尾 ミチ①
領家中	一人一人の学びの機会を保障する学習支援の充実	竹内 さおり
戸塚中	・個に応じた学習の充実とほっとルームにおける学習支援 ・「確かな学力」のための数学科における基礎基本の定着	瀬尾 ミチ②
在家中	生徒一人一人に寄り添った基礎学力定着のための支援	高橋 利夫
安行東中	個別最適な学びの実現 ～多様な学びへの支援～	竹之下 保雄
戸塚西中	「学校が心地いい」誰一人取り残さない学習環境づくりを目指して	伊藤 亜美
鳩ヶ谷中	多様な生徒に多様な学びの場を提供するとともに、基礎学力の確かな定着を図る。	小峰 順子②
八幡木中	個別最適な学びの実践～誰一人取り残さない学びの構築～	伊藤 久男
里中	通常学級における特別な配慮を要する生徒への支援の拡大と充実	佐藤 俊博②
高等学校附属中	よき学習者を育む授業づくりの推進～生徒自らが深い学びを創る思考力・表現力の向上～	今堀 健次②
舟戸幼稚園	学びをつなげ 夢をはぐくみ 未来を拓く 連携教育の推進 ～多様性を尊重した関わりの中で主体的に学び続ける子どもたちの育成を目指して～	武藤 麻莉 西川 充恵
南平幼稚園	幼稚園教育に関する研究 友達と過ごす楽しさを味わい、友達との関わりを深める（協同性）	窪田 裕子 (未定)

教育長報告（6）

学級編制の特例に係る取扱いについて

1 基準外配当を受けて、特例の学級編制を行う学校（中学校1校）

中学校第1学年【38名編制】

No	学校番号	学校名	生徒数	実編制学級数	標準学級数
1	中27	川口市立高等学校 附属中学校	80	3	2

2 基準外配当を受けて、標準の学級編制を行う（特例の学級編制を行わない）学校 （中学校1校）

（1）芝西中学校

- ア 該当学年 第1学年
- イ 生徒数 117名
- ウ 学級数 4学級編制をせず、標準編制による3学級編制とする。
- エ 理由 加配された教員を活用して、少人数指導を実施し、基礎学力の定着を図るため。

令和6年度 学校自己評価重点目標シート綴

川口市教育局学校教育課学務課

令和6年度学校評価のまとめ(達成度)

【小学校】<個数>

	A	B	C	D	計
組織運営	40	53	2	0	95
教育課程	35	64	0	0	99
開かれた学校づくり	40	50	0	0	90
教職員の資質向上	45	59	0	0	104
施設・設備等の管理	40	46	1	0	87

【小学校】<割合%>

	A	B	C	D	計
組織運営	42.1	55.8	2.1	0	100
教育課程	35.4	64.6	0	0	100
開かれた学校づくり	44.4	55.6	0	0	100
教職員の資質向上	43.3	56.7	0	0	100
施設・設備等の管理	46	52.9	1.1	0	100

基準

A	ほぼ達成(8割以上)
B	概ね達成(6割以上)
C	変化の兆し(4割以上)
D	不十分(4割未満)

【中学校】<個数>

	A	B	C	D	計
組織運営	29	28	3	1	61
教育課程	16	39	3	0	58
開かれた学校づくり	18	35	1	0	54
教職員の資質向上	20	33	2	0	55
施設・設備等の管理	30	17	1	0	48

【中学校】<割合%>

	A	B	C	D	計
組織運営	47.6	45.9	4.9	1.6	100
教育課程	27.6	67.2	5.2	0	100
開かれた学校づくり	33.3	64.8	1.9	0	100
教職員の資質向上	36.4	60	3.6	0	100
施設・設備等の管理	62.5	35.4	2.1	0	100

【高等学校】<個数>

	A	B	C	D	計
組織運営	0	3	0	0	3
教育課程	0	3	0	0	3
開かれた学校づくり	3	0	0	0	3
教職員の資質向上	2	2	0	0	4
施設・設備等の管理	3	1	0	0	4

【高等学校】<割合%>

	A	B	C	D	計
組織運営	0	100	0	0	100
教育課程	0	100	0	0	100
開かれた学校づくり	100	0	0	0	100
教職員の資質向上	50	50	0	0	100
施設・設備等の管理	75	25	0	0	100

【幼稚園】<個数>

	A	B	C	D	計
組織運営	3	2	0	0	5
教育課程	2	3	0	0	5
開かれた学校づくり	4	1	0	0	5
教職員の資質向上	4	1	0	0	5
施設・設備等の管理	5	0	0	0	5

【幼稚園】<割合%>

	A	B	C	D	計
組織運営	60	40	0	0	100
教育課程	40	60	0	0	100
開かれた学校づくり	80	20	0	0	100
教職員の資質向上	80	20	0	0	100
施設・設備等の管理	100	0	0	0	100

【幼稚園・小学校・中学校・高等学校】<個数>

	A	B	C	D	計
組織運営	72	86	5	1	164
教育課程	53	109	3	0	165
開かれた学校づくり	65	86	1	0	152
教職員の資質向上	71	95	2	0	168
施設・設備等の管理	78	64	2	0	144

【幼稚園・小学校・中学校・高等学校】<割合%>

	A	B	C	D	計
組織運営	43.9	52.4	3.1	0.6	100
教育課程	32.1	66.1	1.8	0	100
開かれた学校づくり	42.8	56.5	0.7	0	100
教職員の資質向上	42.3	56.5	1.2	0	100
施設・設備等の管理	54.2	44.4	1.4	0	100

※参考(令和5年度)

	A	B	C	D	計
組織運営	39.8	55.9	4.3	0	100
教育課程	29.7	67.1	3.2	0	100
開かれた学校づくり	47.3	51.4	1.3	0	100
教職員の資質向上	39.3	60.1	0.6	0	100
施設・設備等の管理	60.1	37.9	2	0	100

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
本町小	組織運営	<p>○「持続可能な」をキーワードに、児童の教育活動の充実とともに教職員の業務改善を図り、組織的に「魅力ある学校づくり」を行う。</p> <p>□特別な支援を要する児童や不登校児童等、個別の課題に応じた支援の充実を図るとともに、どの児童も安心して過ごせる学校づくりを行う。</p>	<p>○各主任・担当が工夫改善の意識を持ちながら教育活動を実施できた。（ありがとう集会、離任式、運動会、持久走大会等）</p> <p>○主幹教諭と各主任等が企画委員会の内容について事前調整を適時行い、スムーズな運営と内容の充実を図ることができた。</p> <p>○教職員間でG I G A 端末の活用法について情報共有し、教科指導の充実を図ることができた。</p> <p>□副担任制や教科担任制を生かし、学年内で共通理解を図り、多くの目で児童の支援にあたった。</p> <p>□特別支援教育委員会や生徒指導委員会等において情報共有し、担任や学年内に留めることなく全体で共有した。</p> <p>□教育相談日を充実させ、保護者と思いを有した。また、研究所や子育て相談課等と連携し特別な支援を要する児童への対応を充実させた。</p>	<p>A</p> <p>A</p>	<p>・教員が本来の教育（授業）に注力できる組織作りをさらに推進してほしい。</p> <p>・学校行事を校内で開催・実施し異動に伴う各種リスクや負担をなくすことはよい。</p> <p>・教職員、保護者共に達成されている評価であると思う。しかし、保護者の評価に比べ、先生方は厳しく評価しているのではと感じる。</p> <p>・不登校児童にならないための魅力ある学校づくりを目指してほしい。</p> <p>・学年に関係なく情報の共有がよくできていると感じる。</p> <p>・児童一人一人の特性に応じた支援策を実施していただきたい。</p>
	教育課程	<p>○市教育委員会委嘱研究の機会を生かし「令和の日本型学校教育」の理論に基づいた教育課程を実践する。</p>	<p>○国語・社会・算数・図工・体育の5教科で指導主事を招聘しての研究授業を実施し、実践的に授業改善を推進した。授業後の協議でも研究を深めた。</p> <p>○指導課訪問による授業公開においても、研究テーマを意識した授業実践を行った。</p> <p>・各教科等の年間指導計画について、実践を踏まえて見直しを行っているものの、本校の特色を踏まえた授業改善は今後も必要である。</p>	B	<p>・今後も全体としての学力向上に努めていただきたい。</p> <p>・学力に関しては、一人一人の個人差の問題もあり、先生だけでは難しいのではと感じる。</p> <p>・いじめはどこまでがいじめなのかの差がわかりづらいので、いろいろな点からも気を配ってほしい。</p>
	開かれた学校づくり	<p>○学校の様子を積極的に発信し学校の教育活動に理解を深めていただくとともに、保護者や地域の教育力を生かす教育活動を積極的に取り入れ、連携して児童を育成する。</p>	<p>○学校ホームページの更新を随時行うことにより、児童の学びの姿を発信できた。</p> <p>○P T A 総務部や保護者ボランティア等と連携し児童の教育活動の充実を図ることができた。また、その支援により教師が児童の指導に注力することができた。</p> <p>○コロナ禍が明け、金管バンドの神幸祭の参加やおやじの会主催のイベントへの児童・教員の参加等により、地域や保護者との連携が深まった。</p>	A	<p>・引き続きP T A や地域との連携を中心に情報交換や共有を進め連携を図っていただきたい。</p> <p>・小・中学校ともP T A との関係を探求している状態になっているので、今後が心配である。</p> <p>・働き方改革等で時間制限の中、積極的に協力していると思う。</p> <p>・コロナ後を踏まえ、会議の頻度や会議・イベントそのものの要・不要を改めて考える時期だと思う。</p>
	教職員の資質向上	<p>○校内研修やそれぞれのライフステージに応じた研修の機会を生かし、ここが課題意識を持ち、自己の教師力を高めていく。</p> <p>□学校としての業務改善を引き続き推進するとともに、教職員一人一人が「ワークライフマネジメント」を意識した業務改善を図る。</p>	<p>○各訪問の機会を活用し、教員個々の指導力の向上を図った。また、示範授業を初任者だけでなく他の教員も広く参観できるようにし学び合いができた。</p> <p>○研究発表校の視察や年次ごとの研修を通して、校外からも刺激を受け授業改善に生かした。</p> <p>・学級経営や生徒指導上の課題を共有はできたが、対応力を高めるまでには至っていない。</p> <p>□業務改善スタンダードは組織的に取り組めた。また、P D C A に基づいた来年度の改善策も掲げ取り組んでいく。</p> <p>□ワークライフマネジメントを意識させ、自分の業務上の責任を果たすことと家庭や個人の充実とを両立する時間管理ができるようになってきた。</p> <p>・在校等時間の観点からは、更に業務改善と意識改革を図っていく必要がある。</p>	<p>B</p> <p>B</p>	<p>・教職員は十分に授業で力を発揮していると思う。引き続きさらなる向上に努力していただきたい。</p> <p>・在校時間の制限はあると思うが、それに縛られてしまうのはどうか。かえって負担になるのでは。</p> <p>・引き続き、P D C A による改善で、時間外在校時間を減らしてほしい。</p> <p>・働き方改革が「働きたくなくなる改革」になるよう願っている。</p> <p>・先生方の労働時間の問題がこれからどうなるか気になる。</p>
	施設・設備等の管理	<p>○施設設備の安全管理を徹底し、施設の不備による児童・教職員の事故をゼロにする。また、会計・表簿等のチェック体制を強化し、同様に事故ゼロを維持する。</p>	<p>○教頭を中心として、安全管理の徹底と不具合個所の早期対応を図り、施設事故ゼロを継続することができた。</p> <p>○本校の実状を鑑み、給食室や児童用トイレ、職員・来客用トイレ等を計画的に修繕した。また、緊急性を要する職員玄関のオートロック化を実施した。</p>	A	<p>・引き続き、児童の安全を最優先に施設等の安全管理に努力していただきたい。</p> <p>・防災訓練を充実させるとよいのでは。</p> <p>・体育館の暑さ対策（エアコン設置等）についてご検討いただきたい。</p>

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
幸町小	組織運営	○教職員個々の資質・能力・経験や長所を生かすという視点を常にもちながら人材育成を行うとともに、全教職員が同じ方向を向き、全教職員が一枚岩となる「チーム幸町」をつくる。	○主幹教諭を中心に学年主任研修会を実施してミドルリーダーの育成を継続的に、組織として機能する土台づくりを行った。 ○ミドルリーダーによる若手の育成においてより一層、見届け・確認を行う必要がある。	B	・特になし
	教育課程	○見通しと振り返りのある授業実践や個に応じた指導の充実を通して、学力低位層児童に着実に学力を身に付けさせ、より一層の学力向上を達成する。	○更なる学力低位層への支援を充実させ着実に学力を身に付けさせる必要がある。 ○学力向上プランに基づく授業改善をより一層図り、児童主体の授業を実践していく。 ○学力だけでなく、校内研究を通して道徳授業の充実を図っていく。	B	・特になし
	開かれた学校づくり	○学習支援・環境整備・安全・安心の見守りにおいて学校応援団の活動を充実させることで、より一層充実した教育活動を実現する。	○各学年の教育活動において新たな外部の教育力を導入することができ、昨年度よりも充実した教育活動を展開できた。 ○音楽会や持久走大会等の運営において、学校応援団による活動の定着を図った。 ○学校応援団による読み聞かせの充実を図る	B	・特になし
	教職員の資質向上	○風通しの良い職場づくりを実現させ、当事者意識を高める倫理確立に係る研修を充実させることを通して事故を起こさない、起こさせない学校をつくり、学校事故0を達成する。 □各学力調査結果を踏まえ、見通しと振り返りのある授業実践や朝の活動等において計画的・継続的な取組を充実させる。 ◇「凡事徹底」を軸に共通理解・共通行動を徹底するとともに、教職員が積極的に児童に寄り添い、児童一人一人が安心でき、自己有用感がある学校づくり及び学級づくりを実現させる。	○学校事故0を達成したが、集金した現金の管理において課題が残った。 ○研修を通して教職員の意識を高め、自分事として捉えるよう継続的に指導していく。 ○教職員同士のコミュニケーションを充実させ、風通しの良い職場づくりを実現できた。 □夏季休業中を利用して、各学力調査等の分析、課題の共有を行った。	B	・特になし
			□一定数いる学力低位層個々に着目し、組織的に対応して着実に学力を向上させていく。 □週課表を見直して、朝の活動の充実を図る ◇年間を通してたてわり活動を充実させることができた。	B	・特になし
◇廊下歩行や返事等、当たり前のことを徹底していく。 ◇日常の委員会活動の更なる充実を目指し、子供たちに自己有用感を高めていく。 ○校内掲示板の担当学年等及び担当の校務分掌主任を明確にし、更なる校舎内全体環境整備を行っていく。			B	・特になし	
施設・設備等の管理	○常に安心・安全な生活環境をつくとともに、学びにつながる教室掲示及び校舎内掲示を充実させ、豊かな学習環境をつくる。	○児童による黙働清掃が定着してきた。 ○水回り等の細かなぶ分の清掃の徹底など、週課表の改善により清掃時間の確保を行う。	B	・特になし	

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
仲町小	組織運営	○ベテラン・中堅の経験値と若手の機動力を融合させ、組織として全ての教育活動に果敢に取り組む。	○一人一主任により一人一人の役割や責任を自覚したり、運営学年会により様々な取組を学校全体として考えたりすることができるようになってきた。（教職員学校評価「組織・運営」の項目で達成できた、概ね達成できたの合計が94%）	A	・そもそも教員の仕事とは、どういものなのかに立ち返るとよい。 ・事務的作業が多いのではないか。 ・改革をしても先生方がついていけないことはないか。
	教育課程	○新校舎建て替えに伴う年間計画及び授業時数の適正化を図る教育課程の編成を先を見通して実施し、落ち着いた学習環境を整える。	○年度途中から1単位時間を45分から40分に変更して午前中5時間授業とすることで、児童や教員の放課後のゆとりを持たせることができた。また、次年度の教育課程を年度内に検討した結果、モジュールを廃止して1単位時間を増やしたり、年間指導計画を早めに立てたりして安定した教育活動につなげた。（教職員学校評価「教育課程」の項目で達成できた、概ね達成できたの合計が95%）	A	・体育（運動会）や音楽（音楽会）についての保護者の意見が多かったようである。ただ、この声が全ての保護者の声ではないと思う。 ・想定していたことと著しく違う保護者の意見ではなかった。 ・40分授業で早く変えられると困るという保護者の声について、学校は長く子どもを預かる所ではないということも理解してもらうことも必要ではないか。
	開かれた学校づくり	○コミュニティースクール（CS）として学校と保護者、地域が協働してポストコロナの教育活動を再構築する。	○日本語指導を中心とした小中一貫教育推進により、外国籍の本校の保護者との信頼関係を深めたり、仲町中学校区の各項の取組が見える化されたりして地域としての課題として捉えることができた。（教職員学校評価「開かれた学校づくり」の項目で達成できた、概ね達成できたの合計が92%）	B	・年間行事で、今まであったものがなくなるのは大きな出来事である。その周知の時間は必要である。
	教職員の資質向上	○研修推進委員会を中心として「昨年度の自分を少しでも超える」ことが体感できる実践をする。	○高学年を中心に、一部教科担任制が定着してきた。また研修テーマに迫るために、教員個々がステップアップを目指した日々の実践を送ることができた。（教職員学校評価「教職員の資質向上」の項目で達成できた、概ね達成できたの合計が98%）	A	・教員の働き方改革とはどのようなものなのか。なぜ必要なのか。 ・40分授業でも効率よくやれることを示していくことが必要である。 ・中教審でも40分授業については、新たな授業をつくり出すためと言っている。本校の目的と違っているように思う。
	施設・設備等の管理	○新校舎建て替え中の安全面を確保し、不自由さもできるだけ解消する。	○定期点検は実施できたが、臨時点検を行うことができなかった。（教職員学校評価「安全管理」の項目で達成できた、概ね達成できたの合計が97%）	B	・特になし

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
上青木小	組織運営	<p>○校長の学校経営方針に基づきながら、教職員の学校経営参画を高める組織的、機動的な組織運営を構築させる。【教職員学校評価9割以上】</p> <p>□不登校児童を解消する。【新規不登校児童ゼロ】</p>	<p>【教職員学校評価 98%達成】</p> <p>○月ごとの学校経営計画をすべての月で配布・周知することはできた。</p> <p>○人事評価に係る面談で校長の学校経営方針に沿った各教職員の進捗状況を確認したり助言することはできた。</p> <p>○児童間トラブルや保護者対応に苦慮する学年が限定されており、当該学年主任へはレジリエント・リーダーとして機能するための指導・助言が不十分であったと言える。</p> <p>【新規不登校児童 8名】</p> <p>□「温かい、心の通う学級経営の推進」を各担任のボトムアップで実施し、担任と児童一人一人との信頼関係を築くことはできた。</p> <p>□校長が発行する学級経営資料は23号まで発行し、教員の学級経営の資料とすることができた。（1月10日現在）</p>	<p>A</p> <p>B</p>	<p>・教員の未配置についてはきちんと配置してもらうように教育委員会に言ってほしい。</p> <p>・ほっとルームを地域と連携させて運営するのはどうだろうか。</p> <p>・義務教育は学校に登校することではない。学校に登校できないのであれば、教育の保証についてを親としっかり話すことが肝心である。</p>
	教育課程	<p>○学力向上を目指したPDCAサイクルに基づく教育課程の編成・実施・評価・改善を実現する。【教職員の自己評価シート評価領域Ⅰ・Ⅲ目標9割以上】</p> <p>□学校課題研究をとおした指導法の工夫改善を図ることで、学力向上を実現させる。【児童の「できた」「わかった」を実感する満足度9割以上】</p>	<p>【教職員の自己評価シート評価領域Ⅰ・Ⅲ目標 95%達成】</p> <p>○人事評価シートの評価領域Ⅰに全ての教員が担当する学級・学年に関する学力向上策を記載するとともに、校務分掌主任については、担当する教科等に関する学校全体として取り組む学力向上策を記載して1年間取り組むことができた。</p> <p>○日本語指導以外の「上青木小授業スタンダード」を1学期までに策定するとともに、年間通じて全教員が「上青木小授業スタンダード」を共通指導事項として指導に当たることができた。</p> <p>○小学校教科担任制推進加配を有効活用し、教科担任制を進めたが、前年度第4学年から第6学年までの3学年で実施できた教科担任制は、今年度教員未配置や病休により、第5・6学年のみでの実施にとどまってしまった。</p> <p>【児童の「できた」「わかった」を実感する満足度 89%達成】</p> <p>□タブレット端末を活用した研究授業を全教員一人1回を実施し、他の教員からの指導助言を仰いで指導法の工夫改善を進めた。</p> <p>□研究組織を大幅に変更して研修主任、研究部長に研究推進の権限を大きく与えて学校課題研究の推進を実施した。</p>	<p>A</p> <p>B</p>	<p>・タブレット端末を使う言わばデジタルの指導ばかりでなく、アナログの部分も大切にして指導してほしい。</p> <p>・水泳指導について。プールの稼働率を考えると、費用対効果は薄いのではないかな。</p> <p>・タブレット端末を使える児童が多くなっていることは良いことと思う。</p> <p>・画像を無意識にコピー＆ペーストしている様子を見て、著作権についての指導が不十分ではないかと思う。しっかり指導すべきである。</p>
	開かれた学校づくり	<p>○「学校」「家庭」「地域」との連携・協働を進め、「応援しがいのある学校」をつくる。【保護者満足度9割以上】</p> <p>□学校運営協議会を計画的に開催して、協議内容を充実させる。【学校運営協議会委員満足度9割以上】</p>	<p>【保護者満足度 80.1%達成】</p> <p>○学級通信や学年だよりへの指導助言は確実に行うとともに、HPについては週1回以上の更新はできた。</p> <p>○デジタル連絡ツールの導入を検討してきたが、今年度中の導入はできなかった。</p> <p>【学校運営協議会委員満足度 達成】</p> <p>□年間3回の会議を実施することはできた。</p> <p>□本校の学校課題を明確にし、委員の方々に提示するとともに、意見をいただくことで学校経営の一助とすることができた。</p>	<p>B</p> <p>A</p>	<p>・校務DXを推進していくことはやむを得ないと思うが、アナログ的な部分も含めて保護者に伝えるべきは伝える、できることは行い、できないことはできないとはっきり伝えるべきだ。</p> <p>・1年間の会議開催に感謝している。</p>
教職員の資質向上	<p>○全ての教員が、「教科指導力が向上した」「学級経営力が向上した」と実感できる人事評価を実践する。【教職員学校評価8割以上】</p> <p>□サービスの厳正を図り、教職員事故防止を徹底させる。【教職員事故ゼロ】</p> <p>◇教職員一人一人のよさを生かすためにも、働き方改革を推進させる。【教職員満足度9割以上】</p>	<p>【教職員学校評価 81%達成】</p> <p>○全ての教員に対し、人事評価システムに基づく授業観察を校長、教頭が別々に行い、一人一人に学級経営、教科指導等に関する指導助言をフィードバックして指導力の向上を進めた。</p> <p>【教職員事故ゼロ達成】</p> <p>□学校の教職員事故に関する研修会を年間13回（1月末現在）実施するとともに、自分ごとにとらえられるような研修内容を設定して実施した。</p> <p>【教職員満足度 92%達成】</p> <p>◇行事の削減と授業時数の見直しにより、教職員の授業以外の時間で学級・学年の事務処理を行う時間が確保できたことで、ゆとりをもって校務に当たることができた。</p> <p>◇管理職による人事評価面談等で教職員一人一人とワークライフバランスに関する意見交換を行い、教職員一人一人に校務遂行に係る意識の変革を図ることができた。</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>B</p>	<p>・今日の授業参観の中で、大声を出し、学級で集中して学習できない児童がいた。通常級にいる特別支援教育的な指導を要する児童に対する指導に力を入れてみたらどうだろうか。</p> <p>・特になし</p> <p>・特になし</p>	

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況		
	施設・設備等の管理	<p>○会計事務の適正な執行・管理を実施する。【会計事故ゼロ】</p> <p>□安心・安全を保障した教育活動を展開するための環境維持を確実に行う。【施設・設備事故ゼロ】</p>	<p>【会計事故ゼロ達成】</p> <p>○PTAの協力を得、確実な監査を実施することにより、会計事故ゼロを達成することができた。</p> <p>○教材費未納の保護者へは、繰り返し催促をしたり担任から支払いのお願いを繰り返し行うことで未納ゼロを達成した。</p> <p>【施設・設備事故ゼロ達成】</p> <p>□毎日管理職が校内を巡り、施設設備の点検確認をするとともに、全教職員で毎月安全点検をすることで、施設設備の危険箇所や破損、不具合の早期発見、修繕を行うことができた。</p>	<p>A</p> <p>B</p>	<p>・特になし</p> <p>・蛍光灯は生産終了とのことである。学校はどうするつもりか。</p> <p>・プールの破損はひどく、校舎内は雨漏りも激しい。全体的に改修工事が必要ではないのか。</p> <p>・トイレの補修はすぐにでも必要である。</p>

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達 成 度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
元郷小	組織運営	<p>○目指す学校像「あいのある学校」を児童の行動目標へと具現化する。</p> <p>□生徒指導・教育相談の充実という学校課題に対する共通理解・共通指導に基づく組織的対応を実現する。</p>	<p>○今年度これまでに4回「学級力アンケート」を実施し、全体的な傾向としては数値が上がっている。校内では学級力向上に資する研修を行ったほか、各学級でも改善点を話し合い、児童の行動目標としていた。</p> <p>□いじめの確実な認知、初期対応と組織的対応の重視、児童と家庭に寄り添った丁寧な対応で、いじめ解消率100%を達成した。不登校支援率も100%である。</p>	<p>A</p> <p>B</p>	<p>・「学級力アンケート」は学級の力が一目瞭然でとても良い。足りない力に目を向けるのもよいが、長所をさらに伸ばすという方法もある。</p>
	教育課程	<p>○人や自然とふれあい、児童の主体性ややさしさを引き出す体験活動を推進することで、自己有用感を育てる。</p> <p>□障害理解教育・人権教育を通して他者理解を進め、児童の自己有用感を育てる。</p>	<p>○生活科を軸にした南平幼稚園との交流、水泳指導や合唱交流（特別支援学級）といった元郷中との交流を実現した。また昔遊びを復活させ、学校応援団の方との交流を実施した。各学年で地域人材を活用した授業をそれぞれ3回以上実施した。</p> <p>□障害理解教育として講師の児童への啓発授業（道徳）を実施した。また4年生児童と交流学習を実施した。</p>	<p>B</p> <p>A</p>	<p>・インクルーシブ教育をさらなる推進、コンソーシアム、昔あそびなどの取組の継続、給食の時間は確保に留意してほしい。</p> <p>・セブイレブンの実践はよい取り組みである。</p> <p>・校外学習では、費用負担の軽減だけでなく、児童の安全を確保してほしい。借り上げバスを利用することが望ましい。</p>
	開かれた学校づくり	<p>○正確で迅速な情報提供を行うことで、学校・家庭・地域の連携体制を確立する。</p> <p>□学校運営協議会を通して地域住民に意見を求め、できる限り学校運営に反映させながら、地域に根差した学校づくりを実現する。</p>	<p>○学校HP掲載情報の項目数の増加、メールのデータ添付機能の活用により情報発信の質と量を向上させた。目指す学校像に関する学校の考えを、諸行事やPTAの会合の場などで適宜発信した。</p> <p>□学校運営協議会を年間3回実施することができた。音楽会にもご参加いただいた。持久走の取組み方を改善する際に、委員からご理解を得ながら進めることができた。</p>	<p>B</p> <p>B</p>	<p>・地域人材、PTA、学校は、それぞれ活動を行っているが、活動のお膳立てばかりではなく、活動をする者が目的を達成するために自分たちには何が出来るかを自発的に考え、判断していく体験が必要であるとする。</p> <p>・保護者アンケート、回収率を高めた。学校への関心を高めていきたい</p>
	教職員の資質向上	<p>○学校課題研究を基盤とした個々の教員の指導力向上を実現する。</p> <p>□心身ともに健康で、高い倫理観を備えた教職員集団の形成を実現する。</p>	<p>○1学期は学級経営を中心とした研修、2学期からは学力調査や児童の実態から導き出した課題を解決する研究を実施するなど研究・研修サイクルを構築した。また単元テストについて、児童が準備をして臨むよう学級での指導を統一した。</p> <p>□対話を重視した研修を多くした。年間を通してカウンセラーを招聘し、教職員のカウンセリングを実施した。今年度は長期病休・退職者ゼロであった。</p>	<p>B</p> <p>A</p>	<p>・教員の授業力が向上している。</p> <p>・5-2の教室。児童との関係性がよいことが分かる。児童をくまなく見て、声をかけていることがよい。大切なことである。</p> <p>・ひまわり1指導者。個別の声かけ。個に応じている。交流学習が充実している。</p>
	施設・設備等の管理	<p>○教職員の危機管理意識及び「環境が人をつくる」意識を向上させる。</p> <p>□教育環境の整備・充実のため、計画的・効果的に予算を執行する。</p>	<p>○コロナの感染状況を鑑み、給食を会食形式に戻した。しかし依然としてコロナ及びインフルエンザの流行が広がりを見せていた時期もことから給食の機の向き、集会等の活動でのマスクの着用を呼びかけ、集会をオンラインで実施することなど感染状況に応じた対応をした。</p> <p>□4階空き教室の天井の修繕、壁面の塗装工事など懸案が解消した。校舎北側の杉を撤去し、廊下が明るくなった。</p>	<p>B</p> <p>B</p>	<p>・4階天井の修繕ができてよかった。</p> <p>・教室内が暗い。LED化はできないのか。</p> <p>・教室のロッカーを修繕してほしい。</p>

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達 成 度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
飯塚小	組織運営	○校内研修の充実を充実させ、教員の「授業力」と「生徒指導力」を高める。 ・学習内容が理解できる授業98%以上 ・基本的な生活習慣の定着、育成98%以上	○「書く力」の育成については、ほぼ達成できた。 ・国語研究授業、研究協議（年5回実施） ・生活習慣の育成、定着96%	A	・児童と先生方の人間関係が学期を追うごとに深まってきているのを実感した。 ・自信をもって発表している児童の姿に感心した。 ・子どもの姿勢や鉛筆の持ち方がよくないのが気になる。タブレットも持ち帰りは、重くて大変そうである。
	教育課程	○進んで運動する児童を育成する。 ・進んで運動する児童85%以上（前年度81.9%）	○進んで運動する児童の育成については、概ね達成できた。 ・進んで運動する児童82.7% ・早寝、早起き、朝ごはん84.9% ・体育授業規律が向上 ・川口市水泳記録会及びなわとび大会へ年間3回参加 ・校内持久走大会が充実	B	・自分の技を動画で撮影し、動きを分析、修正する体育の授業を参観して、驚いた。一方で、動画撮影に夢中になると、事故につながるかもしれないか、心配である。 ・早寝、早起き、朝ごはんの指導は、学校ではなく、家庭がやるものだと思う。 ・給食指導を通して、自己管理能力を育成してほしい。
	開かれた学校づくり	○家庭や地域への積極的な情報提供及びボランティア依頼 <input type="checkbox"/> 西中との連携強化	○家庭や地域への情報提供は、ほぼ達成できた。 ・積極的な情報提供97.6% ・ホームページの定期更新300回達成 ・3学期から、学校、学級通信等の配布物を電子データ配信へ変更 <input type="checkbox"/> 西中との連携については、概ね達成できた。 ・方策については、予定通り実施	A B	・今後も、学校だよりや学年、学級だよりで情報を積極的に発信していただきたい。 ・J R 職員における出前授業など、地域人材を活用した取り組みは、納得できる。 ・学校応援団をさらに機能させることで、教員の働き方改革に結び付かないか？という意見が出た。
	教職員の資質向上	○学校評価項目で「学習内容が理解できる授業」98%以上	○学習内容が理解できる授業98%を達成できた。 ・教師の基本姿勢が浸透 ・管理職による教室訪問での指導、助言、称賛を実施 ・教科担任制が拡大（全学年実施） ・ライフステージに応じた指導助言を実施（年次研修・管理職選考）	A	・教科担任制の拡大は、児童や教員にとっても利点のほうが多い。一方で、担当しない教科では、指導力が身につかないという欠点もあるのではないか？という声が上がった。 ・教員のICT技術習得などの新たな仕事が増え、教員の多忙化が気になる。
	施設・設備等の管理	○安心・安全を第1とした施設・設備・教育環境への組織的対応 <input type="checkbox"/> 学校評価項目で「子どもの安全・健康面への配慮」98%以上	○安心・安全に関する組織的対応については、ほぼ達成できた。 ・校内、校外点検は、毎日3回実施 ・安全点検も計画通り実施 ・プール改修工事は、遅れている <input type="checkbox"/> 子どもの安全・健康面への配慮は、97.5%で、ほぼ達成できた。 ・エアコンの修繕、エアコンの効く教室での授業実施、水分補給の指導等による熱中症防止策の徹底	A A	・老朽化した施設、設備に対し、安全第1を目標に掲げ、管理や修繕をしていただき、感謝している。今後も、予算を上手に活用してほしい。 ・天井からの水漏れ修繕などへの迅速対応は、素晴らしい。

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達 成 度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
芝小	組織運営	<input type="checkbox"/> 教科部会の活性化と若手・ミドルリーダーの育成を重点に組織力を向上させる。 <input type="checkbox"/> 校内支援委員会を活性化させ、発達指示的生徒指導の体制を確立する。	<input type="checkbox"/> 互いの信頼関係を基盤に、それぞれの分掌が機能してきた。特別活動を基盤に、学級経営が充実していることが子供達の活動場面から伝わる。 <input type="checkbox"/> 若手の育成は継続課題となる。 <input type="checkbox"/> 子供の背景を理解した丁寧な生徒指導ができるようになってきた。（全教職員の特別支援教育理解研修の受講済）	A A	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き教員のリーダー育成に注力ください。 低学年が落ち着いて授業を受けていました。 校内支援委員会を通じた職員間連携強化を進めてください。 図書室は心を落ち着かせる場所でもあります。ご活用ください。
	教育課程	<input type="checkbox"/> 教育課程の適正な実施と系統性を意識した学力・規律ある態度・体力を相互に関連させながら、質の向上を図る学習指導を目指す。 <input type="checkbox"/> 積極的な生徒指導(発達指示的生徒指導)を推進する。	<input type="checkbox"/> 学期ごとに教科部会を基盤に動き、職員全員が公開授業を複数回実施している。教員の指導力向上に関わることは、全員が意識して授業改善に努めることができた <input type="checkbox"/> 特別活動部会が中心となって児童会を動かし、すべての児童がより良い学級、学年、学校になるように動ける素地ができた。	B A	<ul style="list-style-type: none"> 児童館では、子供達が楽しそうに学校生活の話をしています。十人十色の子供達に丁寧に関わってくださっていることが伝わります。 学校教育の基本である学力、体力の指導を樹実させてほしいです。 落ち着いた授業ができていました。 児童が自主性をもって活動できていると思われます。 図書室でも、上級生が低学年に声かけしている様子をみかけます。縦割り活動は大切です。
	開かれた学校づくり	<input type="checkbox"/> 学校運営協議会とPTA組織を改編し、円滑に機能するような体制を整える。	<input type="checkbox"/> 運営委員の皆さんが、地区との連携という意図をよく汲んでくださり、円滑に機能している。 P T A のボランティア活動が停滞している。	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会に参加させていただき自施設としても地域連携を広げることができ情報共有に尽力頂いています。 今後のPTAの在り方など先を見据えて議論してほしい。保護者の意識を変えていく必要があると考えます。 役員のなり手がいないのは、どの組織も同じ。役員をして感じたのは保護者や先生方と知り合う機会が増えた。学校や子供の様子がわかる。沢山勉強になり感謝している
	教職員の資質向上	<input type="checkbox"/> 教職員とのコミュニケーションを積極的に図り、キャリア段階に応じた育成を推進する <input type="checkbox"/> 働き方改革のために、生徒指導力を向上させる。	<input type="checkbox"/> コミュニケーション力の高い教職員集団である。さらに互いを高め合う組織になれるようにしたい。 <input type="checkbox"/> 校内支援委員会により、共通行動がとれ、大きな課題になる前に対応できるようになってきた。 月45時間、年間360時間以内は約96%の達成率	B A	<ul style="list-style-type: none"> 先生のキャリア教育を進めてください。 外国籍児童への指導の他、情報リテラシー等教科以外の指導もあり、そのご苦労には頭が下がる思いです 職員の業務効率化を引き続きお願いします。 タブレットの活用で先生方の仕事削減が図れることを願います。 年休を取得しやすく、残業を少なくブラックな職場でなく、優秀な先生希望者が増えることを期待。
	施設・設備等の管理	<input type="checkbox"/> 古くてもきれいな学校を目指し、心のある教育環境を実現する。	<input type="checkbox"/> 概ね良好である。 校舎内の掲示物が充実してきた。 適切な修繕が行われてきたが、水回りに関する修繕は継続課題となる。	B	<ul style="list-style-type: none"> 古くても丁寧に補修していることが伝わります。 体育館の雨漏りについて予算がつくことを期待します。 体育館のエアコン設置 県道の歩道整備

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達 成 度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
新郷小	組織運営	<p>○校務分掌組織改編後の教職員の働き方を見届け、教職員が健康に過ごし、業務に集中できる環境づくりを推進する。</p> <p>□業務改善スタンダードについて、保護者・地域への周知と理解・協力を得られるよう働きかける。</p>	<p>○校務分掌組織は軌道に乗り、教職員の参画意識も高く、教職員が丸となって取り組むことができています。（教職員アンケートAB項目10割）日課表、会議の持ち方を見直し、放課後の時間を確保してきた。教職員の意識も高まり、互いに健康を思いやりながら良い雰囲気で働くことができています。</p> <p>□昨年度から毎学期、「定時退勤ウィーク」を設定し、実施してきた。2年目ということもあり、保護者・地域にも浸透してきた。</p>	<p>A</p> <p>B</p>	<p>・学校が同じ方向を向いて進んでいる。教職員はよくやっていると感じる。来るたびに学校が学校らしくなっていることがかえる。</p> <p>・定時退勤ウィークが毎学期あるので、保護者にも先生方の勤務時間への意識が浸透してきたが、いつも遅くまで学校に電気がついているので、先生方が体を壊さないか心配している。</p> <p>・1年生が「つままない！」と言って、親が参観しているのにも関わらず教室から逃げた場面を見た。家庭での様子、生活習慣が見えた。自分たちの頃よりもそのような子が目立っている。周りに合わせる力が落ちている。そのような子への指導が難しい。先生方の精神面が心配になる。</p>
	教育課程	<p>○「わくわくする授業」で確かな学力と体力を向上させる。</p> <p>□今年度実施する授業時数をもとに年間授業時数の適正化、学校行事の精選について検証していく。</p>	<p>○年度当初に「新郷小学校授業改善スタンダード」「学力向上プラン」をもとに全校共通の授業規律等について全教員で確認した。経験の浅い教員にとって、確認した内容が一つのよどころとなり、先輩教員からのアドバイスももらいながら、「わくわくする授業」「わかる授業」の実践に向けて努力していた。その結果、児童の学習意欲の向上につながった。教員、児童ともにICTを積極的に活用している場面が見られるようになった。3年生以上は教科担任制を行い、複数の目で児童の良さを認め、伸ばせるよう努めてきた。</p> <p>□国・県の方針により余剰時数を削減し、日課表の見直しを行ったが、大きな支障はなかった。引き続き、学校行事の精選について検証していく。</p>	<p>B</p> <p>A</p>	<p>・チームティーチングで授業をしているところが良いと感じた。教師が共通理解を持って指導しているが良い。</p> <p>・児童がGIGA端末を使いこなしている良いと思った。</p> <p>・3年生以上の教科担任制について、自分の子は「歴史の授業がおもしろくてわかりやすい」と言っている。上の兄弟は歴史がつまらなくて中学校で躓いていた。専門的な教員が授業することで、その教科を好きになるきっかけとなるのでよい取り組みだと思う。</p>
	開かれた学校づくり	<p>○学校から保護者・地域への情報伝達をタイムリーに行い、コミュニティースクールとして地域に開かれた学校を目指す。</p> <p>□保護者を巻き込んだ教育活動を行い、学校の様子をより理解してもらえようとする。</p> <p>◇不登校支援率100%を合言葉に、ケースに応じた対応をしていく。</p>	<p>○行事後のアンケートを実施して3年目となるが、学校の教育活動への理解が得られるようになった。保護者への情報伝達は、コモンでタイムリーに行っているが、地域への情報伝達は、学校だけが中心となり、開かれた学校という点で引き続き、工夫が必要である。学校HPのリニューアル、定期的な更新を行っている。</p> <p>□学習支援に対する保護者の協力は一定数得られ、児童が安心して学習することにつながった。今年度は、グリーン作戦とSKSの除草作業を同日に行い、親子で取り組める活動の機会を設定した。</p> <p>◇不登校の状況は個々に違い、対応も様々であるが、別室登校、放課後登校、オンライン授業への参加、下学年の学び直し等、支援率100%で取り組んできた。少しずつ前進しているものの教室復帰まではまだまだ課題がある。「わかば会議」は定着し、内容が充実してきている。</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>・自分の子が卒業すると、小学校の情報がほとんど入ってこない。地域全体で子供を育てる意識を作っていたいが、方法がなかなか見つからず難しい。</p> <p>・PTAからSKSと組織の在り方や体制変更不安もあったが、それなりに人数も集まり、「できる人が できるときに できることを」をキャッチフレーズに活動できているのが良いと思う。その都度、募集して集まった人数でできることをしているというのも参考になった。中学校では事業の縮小に取り組む予定である。</p> <p>・教室に入れず、暴れていた児童に支援員がついているのを見かけた。特別支援学級等を断った保護者の子は、小学校では周りの子の支援があり生活していくことができて、中学校に進学してからが大変になるケースが多いので、当該児童の保護者の理解が必要だと思う。</p>
	教職員の資質向上	<p>○校内研修により教職員の指導力、授業力の向上させる。</p> <p>□校内研修のテーマを「一人一人に居場所がある学級づくり」とし、様々な手立てで主題に迫る検証を進める。</p> <p>◇教育公務員としての自覚を持たせ、不祥事根絶に向けた取り組み実施していく。</p>	<p>○教職員が意欲的に研修に取り組むことができた。その結果、学級の雰囲気も良くなり、授業における学び合いや認め合いにつながった。</p> <p>□新たな研修スタイルを模索する中、教職員が意欲的に取り組むことができた。その結果、学級の雰囲気も良くなり、授業における学び合いや認め合いにつながった。</p> <p>◇指導・保護者・地域が誇れる学校であるために、教職員事故ゼロを目指し、様々な取り組みを行ってきた。引き続き、倫理確立委員会の内容を工夫し、不祥事根絶に丸となって取り組んでいく。</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>B</p>	<p>・学校全体が一致団結して授業ができていると感じる。</p> <p>・先生方が児童の声を聞こうとしている姿勢が良い。</p> <p>・先生方はよくやっている。保護者・地域がもっとしっかり子供を育てていくことが大切だと思う。</p>
施設・設備等の管理	<p>○整えられた美しさを感じられる環境整備を行い、学校施設による事故ゼロを目指す。</p> <p>□施設の大規模な改修について、関係各課と連絡を密にし、大事に至る前に適切な対応をしていく。</p>	<p>○児童の安全を第一に、環境整備と安全点検・迅速な修繕を行ってきた。施設・設備の老朽化はあるが、施設・設備による事故はゼロである。</p> <p>□施設・設備の修繕については長期目標を立て、計画的に予算運用をしていく必要がある。校舎の老朽化については、関係各課に引き続き要望していく。</p>	<p>B</p> <p>C</p>	<p>・体育館の天井が割れ、はがれ落ちる件はどうなっているのか →天井の張替はしておらず、ネットを張った状態。数年がかりの対応となる。</p> <p>・避難所開設時、体育館だけでは賄いきれない場合は教室を使用することになると思うので、教室の整備もしていただきたい。</p>	

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
神根小	組織運営	<input type="checkbox"/> 各主任による学校参画における積極的な提案（年間10本） <input type="checkbox"/> 実践的な研修会の実施（年間10回）	<input type="checkbox"/> 各主任が主体的に活動を進めた。新しい提案や学校の状況を考え精査し、統合された内容のものもあった。生徒指導、特別活動、保健、給食等を中心に10本提案があった。 実践的な研修を計画通り実施することができた。校内から各主任が生徒指導、人権、アレルギー対応、音楽、ライフスキル、体育等を行うことができた。	B	・不登校児童に対しては民生委員が協力するのは難しい。 ・「学びの共同体」の推進については、広く周知した方がよい。 ・「学びの共同体」の評価のまとめをした方がよい。また、評価をする上で、学びの共同体を研究している学校とそうでない学校を比べる際の、指標を検討する必要がある。
		<input type="checkbox"/> 生徒指導・教育相談の充実	<input type="checkbox"/> 生徒指導部会を毎月確実に実施し、問題行動の共有や対応策等について話し合うことができた。組織的にいじめ事案・不登校対策には対応ができた。不登校の児童に対する支援体制は改善の余地がある。	B	
	教育課程	<input type="checkbox"/> 学びの共同体の学習内容を推進し、学力向上に繋げる	<input type="checkbox"/> 大学の教授を招聘して6月・10月・2月に研修会を実施した。10月・2月は市内にも開催案内を出し、他地域の先生方を迎え実施した。研修会は、職員が全員公開授業を行い指導助言をいただいた。焦点授業を3回実施し子供の学び方についての協議会を実施した。また、授業形態の幅を広げるため埼玉県先進校への授業視察を90%の職員を派遣した。今年度は、文学教材の授業形態を学ぶことができた。 <input type="checkbox"/> 校内研修では、年間を通して職員全員が研究授業を行い協議会を実施した。（全20回）	B	
	開かれた学校づくり	<input type="checkbox"/> 学校公開を積極的に実施し、保護者と一体となった教育活動の実施 <input type="checkbox"/> 安全教育についての取組	<input type="checkbox"/> 学校行事や学校公開には多くの保護者の方に参観していただいた。授業参観には、保護者の方をゲストティーチャーに迎えキャリア教育を実施することが出来た。 <input type="checkbox"/> 交通安全教室を2回実施することが出来た。 <input type="checkbox"/> 全学年着衣水泳を実施することができた。 <input type="checkbox"/> 5年生を対象に心肺蘇生法の授業を行うことができた。	B B	
	教職員の資質向上	<input type="checkbox"/> 年間超過勤務時間360時間以上0 <input type="checkbox"/> 教育公務員としての自覚ある行動を取れるようにする。（教職員自己0）	<input type="checkbox"/> 年間超過360時間以下の教員の割合は、令和6年度約8割、令和5年度約7割、令和4年度約6割の達成率である。働き方改革は確実に進んでいる。 <input type="checkbox"/> 倫理確立研修会・会計年度職員対象の研修は目標回数を実施することはできなかった。	B B	<input type="checkbox"/> 良い職場を作り未来の働き手の確保をする必要がある。 <input type="checkbox"/> 精神のバランスを崩す職員を守るようにするべきであること、また、職員同士による人材育成も必要であると思う。
	施設・設備等の管理	<input type="checkbox"/> 施設事故0	<input type="checkbox"/> 施設事故が0であった。管理職は、校内・外巡視は毎日実施したし、その都度修繕を行った。 <input type="checkbox"/> 職員による安全点検は確実にを行った。学校開放団体との使用状況の情報共有は必要である。 <input type="checkbox"/> グリーン活動は、12月に1回実施した。校庭の側溝等職員だけではできないところを行うことができた。 <input type="checkbox"/> 校舎内の環境整備通年行うことができた。児童の清掃活動が充実してきた。また、掲示物の張替え等も適切にできた。	B	<input type="checkbox"/> 特になし

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
青木北小	組織運営	<p>○適材適所で活躍できる校務分掌組織を整理し、働きやすい組織構成を行う。</p> <p>□不登校児童をこれ以上増やさない工夫と、不登校児童への支援率を100%とする。</p>	<p>○3学期より教職員が主体的に活動できるよう、学年主任にも校務分掌組織を担当させ、校務分掌組織を改善した。効率的な会議に実施に向け、会議時間の変更を図った。</p> <p>□家庭との連携を取りながら、不登校児童に寄り添った支援を行った。放課後登校等少しでも学校との関係が持てるように配慮した。SCの活用で家庭との連携も取れた。</p>	<p>B</p> <p>B</p>	<p>・管理職とのコミュニケーション不足が、これからの学校運営に役立てられるように願う。</p> <p>・校長先生の方針をもとに更なる改善を望む。</p> <p>・不登校児童の増加は、学校だけの問題より家庭での問題がある。</p> <p>・個々で対応が異なるため、難しい問題である。しかし、中学校から登校できる子もいるので、継続して声掛け、家庭訪問等をお願いしたい。</p> <p>・民生委員と連携することで、家庭の見守りや寄り添いができるのではないかな。</p>
	教育課程	<p>○各学年の教科担任制と授業持ち時間数に関する抜本的な改革を行う。</p> <p>□モジュール学習についての検討を行い、適正な学習内容を提示する。</p>	<p>○各学年で持ち回りの道徳授業を行い、充実した道徳の授業ができた。3学期より木曜6校時を学年主任会として会議を実施することで、学年主任の負担軽減を行う。</p> <p>□モジュール時間の適切な活用を見つけ出すことができなかった。授業時数として位置づけ、1時間とカウントするのは難しいと考えている。</p>	<p>A</p> <p>B</p>	<p>・このまま進めてほしい。</p> <p>・先生方で得意教科がかみ合っているのなら、問題はない。</p> <p>・このまま進めてほしい。</p> <p>・更なる授業の充実を望む。</p>
	開かれた学校づくり	<p>○児童一人ひとりに地域の一員としての意識を高める。</p> <p>□青木北小学校の教育活動を保護者・地域に発信し、地域とともにある学校づくりを行う。</p>	<p>○今年度、児童会活動が少しずつ動き出したが、地域に出て活動するところまでは至らなかった。次年度以降の地域貢献活動について現在話し合いを行っている。</p> <p>□HPの更新に時間がかかってしまったこともあり、地域の皆さんに情報発信する機会が少なかった。研修を実施し、全教職員がHP更新を学んだので多くの更新を行いたい。</p>	<p>B</p> <p>B</p>	<p>・地域活動に子供たち（親）も参加して、地域と協力して子育てができればよい。</p> <p>・昔遊び、七輪体験等子供が小学生の時、楽しみにしていたので、ぜひ行ってほしい。</p> <p>・HP,学校だよりがもう少し開かれればよい</p> <p>・地域には学校だよりが回覧されているので、「HPをご覧ください」等の案内があれば、更に見てくれる方が増えると思う。</p>
	教職員の資質向上	<p>○教師の授業力向上に向け、校内研究組織を確立させる。</p> <p>□GRITを伸ばす教育について全教職員で研究を深め、児童の学力を向上させる。</p> <p>◇児童理解を深め、教育相談の視点をもった温かい学級経営、教科経営を実現する。</p>	<p>○校内研究の組織を3部会発足させた。校内授業研究会を実施し、指導者の招聘、自分たちで協議を行うなどしながら磨きかけた。管理職も積極的に授業参観を行った。</p> <p>□GRITを少しずつ理解させられた。学力向上には心の育成が不可欠であり、やり抜く力を身に付けさせる基本を学ぶことができた。GIGA端末の使用が一部に偏ってしまった。</p> <p>◇個別に支援を要する児童への関わりを全教職員で検討しながら対応してきた。各学級でソーシャルスキルトレーニング等を実施しながら、積極的な生徒指導に役立っていた。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>・先生方は責任をもって教育活動に取り組んでほしいが、健康第一を重きを置いてバランスよくやってほしい。</p> <p>・家庭でも心の教育が希薄になっていると感じるので、心の育成や学びに向かう意欲を育てる工夫を期待する。</p> <p>・様々な児童がいるので、その子に応じた対応をお願いしたい。</p>
	施設・設備等の管理	<p>○積極的に環境整備を行い、美しい学校、潤いのある学校とする。</p> <p>□予算の適正執行により、会計事故を0とする。</p>	<p>○OPTAの支援も加わり、校舎内外の緑や花の美しい環境整備を行うことができた。児童会の常時活動で更に積極的に関わることができるよう指導中である。</p> <p>□事務職員と連携を深め、学年会計システムを確立することができた。事故防止の観点から現金の扱いを最小限にし、トリプルチェックができた。予算も適切に執行できた。</p>	<p>B</p> <p>A</p>	<p>・学校が経年劣化しているため、順次回収を進めてほしい。</p> <p>・昔は学校応援団で花の植え替えを行っていたので、学校応援団を活用できないかな。</p> <p>・老朽化は仕方がないが、校内を明るくする取組として、児童の作品を多く飾るなどの工夫もできると思う。</p> <p>・特になし。</p>

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
領家小	組織運営	<p>○学校経営方針「よさをみとめ合う領家小」に「いろいろプラン」を全職員共通理解のもと、推進する。</p> <p>□教職員のキャリア段階に応じた学校運営参画意識及び実践力を向上させる。</p>	<p>○会議等の機会を捉えて、校長の経営方針、理念を伝えてきたことにより、共通理解がなされてきているが、十分とは言えない。</p> <p>○学校経営方針をまとめたグランドデザインを校内の要所に掲示したことは、教職員の経営方針へ認識を高まるのに一定の効果があった。</p> <p>○学習指導に関する目標、方策は、学校課題研究のテーマと関連させたことで、教員の意識の方向性がかなりそろえることができた。</p> <p>□校務分掌組織の各主任をキャリア段階に応じて任命し、それぞれの実務経験、管理職や先輩教員からの指導・助言を通して、それぞれの教員の学校運営参画及び実践力を高めることができた。</p> <p>□起案システムによる業務の遂行により、その都度、管理職から各教員への指導・助言を行うことができた。</p>	<p>C</p> <p>・学校経営方針を全教職員が共有認識として体得し、日常の業務に生かす必要がある。そのためには、PDCAを活用して定量的に共通認識としてはどうか。</p> <p>・異動の教職員が多かった割には、新学期早々の運動会で、教職員の行動がスムーズで全体の和を感じた。</p> <p>・小規模校における課題は、明日の国の課題である様に思う。</p> <p>B</p> <p>・組織とは人と人とのつながりである。トップダウン、ボトムアップをうまく活用して組織のレベルアップにつなげてほしい。</p> <p>・小規模校での課題、弱点をチャンスと捉え、強みに変える糸口を見出させたらと思う。</p>	
	教育課程	<p>○主体的対話的で深い学びの授業実践及び読み書き算の基礎的な常時活動を学校全体で行うことにより学力を向上させる。</p> <p>□意欲的に楽しく運動できる体育授業及び体育的活動の充実により体力を向上させる。</p> <p>◇道徳科の授業を核とした道徳教育を充実させ、児童の道徳的実践力を育成する。</p>	<p>○研究で進めてきた「学びのスタンダード」は一定の形となった。</p> <p>○音読、詩の暗唱は、国語の冒頭の時間を利用して、行うことができた。学校全体での進捗状況管理、評価の実施をする必要がある。</p> <p>○GIGAスクール端末は、学校課題研究と関連させて、活用を推進することができた。</p> <p>○社会科、体育科を核として、本校としての学習展開のあり方について、一定の方向性を出すことができた。</p> <p>□体育の研究授業を実施した低学年を中心に体育授業に意図的な対話活動を取り入れることができた。</p> <p>□年間を通して行う体育的な活動、行事について、体育主任と管理職で思いを共有し、目標を持たせ続ける意図的な動的なものとなるようにした。</p> <p>◇道徳推進教師を中心に道徳科の授業の充実を図ることができた。昨年度に比べると体育科、社会科の研究授業が増えたが、道徳の授業のみならず学校教育全体での道徳教育を推進することができた。</p> <p>◇道徳的実践力の育成については、意図的なものとなるように今後も共通理解を図っていく。</p>	<p>B</p> <p>・研究の成果とは、教師の考えはもちろんのこと、児童の学習能力の向上、双方が並立して成果といえる。</p> <p>・領家小学びのスタンダードがさらに発展し、学力向上に定量的定性的に成果として表れることを期待する。</p> <p>・GIGAスクール端末を使用することで以前より得られる情報の幅が広がったと感じる。意見の共有の場にもなりさらに活用できる手段である。反面、家庭での使用について管理が行き届かない場合があるため、注意喚起が必要と感じる。</p> <p>・行きつくところは、組織運営にかかっている。</p> <p>B</p> <p>・体力テストの各種目を1年生から6年生になるまで、毎年経過把握した場合のデータ、6年間の追跡データが残せたら素晴らしい実証データになる。</p> <p>・基礎的な体力向上のため、運動量の確保を引き続きお願いする。</p> <p>B</p> <p>・学校の徳育に関する努力は素晴らしいと思うが、家庭、地域での取組の差が気になる。</p> <p>・挨拶、人との関わり等は、家庭での教えも必要になるので、学校での様子が気になるところがあれば共有をお願いしたい。</p>	
	開かれた学校づくり	<p>○学校運営協議会の活性化と学校運営への具現化を行う。</p> <p>□学校の教育活動等の意図を積極的に情報発信する。</p> <p>◇保護者・地域との連携をより一層強化する。</p>	<p>○学校運営協議会においては、学校経営方針（グランドデザイン）や各種調査の結果、実際の授業の様子を見ていただくなど、情報を提供に努め、協議を行ってきた。</p> <p>○学校運営協議の協議内容、結果については、迅速に教職員へ周知し、学校運営の改善に努めてきた。</p> <p>□学校日より、メールの活用によって、適時、意図的な情報発信に努めてきた。学校ホームページは、写真の掲載等運用が難しい側面もあり、迅速に十分な発信ができなかった。</p> <p>□保護者や地域の方が来校する機会では、学校経営方針等を含めた意図的な情報発信をすることに努めた。</p> <p>◇管理職は、可能な限り、保護者、地域、学校応援団の方と積極的に関わり、コミュニケーションをとることができた。</p> <p>◇各担任も折に触れ、家庭への連絡をとるようにしてきた。</p>	<p>B</p> <p>・学校運営協議会における授業参観のあり方について、全クラスを参観するのもよいが、2～3クラスを絞って授業内容を把握したり、教師と児童の状況を観察したりしたい。</p> <p>・一部の学校関係者だけでなく、学区在住者が領家小学校の現状を確認できる方法を考えてみたい。</p> <p>・資料は各種調査の結果など、見やすく情報を提示していただいている。</p> <p>B</p> <p>・ホームページ、メールシステムを活用し、見やすく情報を提示していただいている。</p> <p>・毎月の領家小学校よりは楽しみにしている。</p> <p>・音楽会は高学年の発表の時に参観する保護者の数が減っていた。工夫してもらいたい。</p> <p>B</p> <p>・コロナ禍後の再構築をしている今、共働き家庭が多い時代となっているため、行事等の協力は各家庭、平等にもちろんではあるが、とても厳しい状況になってきていると感じる。また、時間に余裕のない家庭が増えていると感じる。</p> <p>・地域の行事に関わっていただき、ありがたい。教職員が校外で気持ちのよい挨拶をしてくれた。</p>	

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達 成 度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
	教職員の資 質向上	<p>○教員としてのキャリア段階に応じた指導力を向上させる。</p> <p>□教育公務員としての資質を向上させる。</p>	<p>○委嘱研究と関連させ、多くの教員が研究授業を行い、指導力の向上を図ることができた。</p> <p>○管理職が、全教職員、年2回1単位授業の授業を参観し、指導・助言を行った。キャリア段階に応じた指導力の向上に資することができた。</p> <p>○経験5年未満の教員は、指導課指導主事を要請し、研究授業及び個別の指導を行うことができた。指導方法、学校運営参画意識ともに高めることができた。</p> <p>□時節に応じた倫理確立研修の実施、会議での指示伝達によって、教職員の使命感、責任感を醸成した。</p> <p>□教頭が中心となって企画した倫理確立研修は、トップダウンの形式ばかりではなく、各教員が情報の提供者となり、研修を進めるなど、工夫した形で行うことができた。</p> <p>□多くの教員が過度な時間外の勤務をすることなく、業務に取り組むことができた。</p>	<p>B</p> <p>B</p>	<p>・新人や経験の浅い教師には、O J Tによる指導が有効であるが、ベテラン教師が少なくなっている現状か。若い教師同士で意見交換を活発にしてレベルアップを図ることも重要である。</p> <p>・時代時代で教師に求められる事項が変化し、大変だと思う。</p> <p>・少人数の学校で多くの教員の異動があるのは児童にとって新学期が始まった時のショックが大きい。</p> <p>・O J Tは、上下縦横関係なしと言われる。若手のよいところ、ベテランのよいところを相互に良いところ取りができればよい。</p>
	施設・設備等 の管理	<p>○施設設備の安全管理を徹底するとともに、老朽化箇所については計画的に修繕を進める。</p> <p>□G I G Aスクール端末をはじめとした情報機器、情報を適切に管理する。</p>	<p>○毎月の安全点検を決められた日に迅速に行うことができた。</p> <p>○各主任、担当による安全点検で、明らかになった施設設備の不具合について、管理職、校務員が連携し、可能なものはすぐに修繕し、難しいものは業者を依頼する等、計画的に修繕できた。</p> <p>○老朽化による修繕については、前年度より申し送りを生かしながら、計画的に修繕した。</p> <p>□G I G Aスクール端末は、毎月、点検を行い、破損したものについて適切に対応することができた。</p> <p>□すでに多くの校内文書は、電子化しているが、さらにいくつかの文書について紙媒体から電子での処理に改めることができた。</p> <p>□机上の整理については今後も継続する。個人情報等を放置しないよう徹底した。</p> <p>□諸要簿の管理について、会議等で再三徹底するようにしてきた。可能なものは電子化も進めている。</p>	<p>A</p> <p>B</p>	<p>・領家小と東領家小の統合を検討する必要がある。児童増が見込めない中、1学級の学年が増え、クラス替えができない状況は、児童にとって不幸な場合が多々出てくると予想される。領家小を新校舎にすれば合併も理解されると考える。</p> <p>・安全確認は年に1～2度、外部の関係者に確認してもらうことはできないか。</p> <p>・古くなった施設の維持管理は大変だと思うが、市教委との連携により適切に管理されることを希望する。</p> <p>・紙から電子データへの変化は素晴らしいが、反面怖さがある。</p> <p>・G I G Aスクール端末の故障等により、学習の機会が失われないように願う。</p>

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
舟戸小	組織運営	○「すべての子供の学びを保障する」という目標を共通認識し、すべての教育活動をその目標実現のために機能させる。そのために、教職員一人一人の特性を生かし、学校の課題を組織的に解決する 【教職員による学校評価「目指す学校像の実現に向けて全職員が組織的に取り組んでいる」90%以上、「全教職員が相互に協力しあっている」95%以上】	○「すべての子供の学びを保障すること」を最上位の目標とし、学校経営を進めてきた。教職員は学級活動の中に児童のよさや互いに認め合う活動を取り入れたりしながら児童の自尊心を高めたり、個々の児童の特性を理解し児童に寄り添った指導を心掛けていた。教科担任制も学年内で学年の状況に合わせて可能な範囲で実践していた。学校の教育活動全般について満足している(保護者85%) 目指す学校像の実現に向けて全職員が組織的に取り組んでいる(教職員91%)	B	・学校評価において学校に対する保護者の要望が多いので、学校運営に関する理解を深める工夫をされたい。 ・教職員は児童に関わる情報共有をよく行っている。
	教育課程	○「多様な他者との関わりの中で主体的に学ぶ子供の育成」という令和6・7年度舟戸学園の研究主題に基づいた取組を推進し、子供を主体とした授業改善を行い、児童一人一人の学びの質を高める。	○川口市の研究委嘱を受け、今年は国語を中心とした子供を主体とした授業改善を行ってきた。低・中・高それぞれの学年で講師を招聘し研究授業を行った。研究協議では活発な意見交換が行われ、子供を主体とした授業改善への共通理解が図られた。【教員による学校評価「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行っている96%】	B	・昔遊びなどに参加すると子供たちはよくやっている。 ・よい教育活動をしていることを保護者にもっと周知し、教育活動への理解に繋げたい。 ・朝の登校の様子を見ると、子供たちは挨拶もよくするし、最近は横断歩道を広がって渡ることもあまりしていない。
	開かれた学校づくり	○学校・保護者・地域の繋がりが子供たちの健全育成のために必要であることの認識を高め、保護者・地域の方の学校運営への参画を図る。【保護者による学校評価「保護者と力を合わせた学校教育」90%以上】	○子供が安心して生活できる環境づくりのための学習支援ボランティアに多くの保護者の応募があり、保護者との連携を推進することができた。 HPは毎日更新し、1日の閲覧数も200名近くに増加した。【保護者による学校評価「学校は家庭や地域と連携しながら教育活動の充実へ努めている」81%】	B	・開かれた学校づくりへの努力をよくされているので、それを利用して保護者の理解を深め、子供たちの安心できる環境づくりに生かしたい。 ・学校評価アンケートの回収率が悪いので、もっと回収率を増やし、保護者の評価を正確に調査し教育活動に生かすべきである。
	教職員の資質向上	○教育公務員として、高い倫理感と自覚を持ち、規律の遵守や公正を重んじた行動がとれるようにする。 □時間外在校等時間、月45時間・年360時間超ゼロを目指すことで、教職員が子供と向き合う時間を確保するとともに、教育力の向上を図る。	○規律を遵守し不祥事が起きぬよう倫理確立委員会や職集での教職員への周知・伝達、また、教職員同士の互いの声掛けを行い、教職員事故はゼロに保つことができている。 □時間外勤務時間は現状維持に留まっており、定員の不足による教職員の負担感は減っていない。 【時間外勤務平均時間 年間平均33.49時間、45時間以上 4名（1月末現在）】 【時間外在校時間、月80時間超教職員ゼロ】【教員による学校評価「昨年よりも、勤務の負担感は減っている52%」】	B	・教職員の異動が多いので、学校で作成している「学習の手引き」などの周知を徹底し、有効に活用したほうがよい。 ・教職員の人数が少ないことは理解しているので、手伝えることがあれば声をかけてほしい。
				B	
施設・設備等の管理	○施設設備による事故ゼロを維持し、清掃が行き届き清潔であり潤いのある学校環境をつくる。	○故障個所の修繕は迅速に行った。 心を育てるための掲示物や学校キャラクターづくりにより温かな環境づくりを推進した。 【施設設備による事故0】 【保護者による学校評価「施設設備掲示物等学習する環境が整っている」87%】	A	・校門を開ける時間の確認。（誰が開門しているのか）	

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
十二月田 小	組織運営	<p>○職員一人一人に責任と自覚を促し、校務分掌経営を実践させる。特に、若手職員の主体性を促し、学校運営参画意識を向上させる。</p> <p>□教職員の成功体験を増やし、責任感を持って、主体的に働く喜びを実感させ、優れた職業人を育成する。</p>	<p>○校務分掌は、確実に活性化することができた。しかし、依然として課題が残る分掌もあるので、引き続き</p> <p>□特に、若手職員の中には、多くの成功体験により、自信をつけた者がいる。今後も前任者が異動する前に、2年を単位に積極的に役割を変え、スムーズな引継ぎを実現する。</p>	<p>B</p> <p>A</p>	<p>・常にコミュニケーションを図り、声掛けや関わるのが大切。年代や人によって考えもさまざま職員の評価に反映させる。</p> <p>・常にコミュニケーション 声掛け 関わりが大切年代や人によって考えもさまざま職員の評価に反映させる</p> <p>ありがとう集会 先生たちとボランティアの方の顔をつなぐ保護者同志の横のつながりと学校への協力</p> <p>川口市でも規模が大きい学校。先生方が子供たちのために頑張ってくれている。地域の私たちも学校のためにもっとお手伝いしたい。</p>
	教育課程	<p>○学習に苦手意識を持っている児童への関わる機会を積極的に設けるとともに、「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善を推進し、質の高い授業実践を通して、学力を向上させる</p> <p>□高学年では、教科担任制を導入し、中学校を見据えた学習指導を行い、学力を向上させる。</p> <p>◇家庭との連携を密にし、自主学習・家庭学習をより充実させ、主体的に学べる児童を育成する。</p>	<p>○校長室だよりと教室訪問の際のフィードバックにより、学習に苦手意識をもつ児童に対する具体的な手立てを指導することができた。</p> <p>□高学年の教科担任制導入により、授業の質の向上を図ることができた。加えて、学級経営にもよい影響を与えた。</p> <p>◇今年度も、多くの児童が自主学習に取り組み、主体的に学ぶことができた。学級差の改善が今後の課題である。</p>	<p>B</p> <p>A</p> <p>B</p>	<p>・教科担任制には、賛成する。多くの先生の目で見ることができからよい。</p> <p>・同じ担任、クラスの友達だけだと課題が煮詰まってしまう。教科担任制は、程よい緊張感がお互いに生まれる。空気も変えられる。</p> <p>今後も、子供も保護者も十人十色なので、一人一人に合った支援を行ってほしい。</p>
	開かれた学校づくり	<p>○費用対効果を十分に検討し、P T A 役員と管理職が連携し、新たな組織づくりを行う。</p> <p>□学校運営協議会の皆様からのご意見や学校評価等、家庭や地域のご意見を学校運営に生かして、地域に根差した学校づくりを実現する。</p>	<p>○P T A 組織の再編を進めることができた。1人1役割の実施により、多くの保護者の協力を得られた。</p> <p>□学校運営協議会の皆様には、多くの場面で支えていただいた。また、保護者の意見も可能な範囲で生かすことができた。</p>	<p>B</p> <p>B</p>	<p>・昨年度まではPTAの幹事さんが一番大変そうだった。少しずつ改善されてきている。子供たちの生活にも支障はそこまでなさそう。内容や方法等は改善の余地あり。</p> <p>・保護者全員が関わっていく、その意識づけが大切。一部の人がだけ背負わないようにしてほしい。</p> <p>・保護者のスマホ使用により、子供との会話不足を危惧している。</p>
	教職員の資 質向上	<p>○教職員の日々の授業と学校課題研究との有機的連携により、個々の教職員の指導力向上を実現する。</p> <p>□教職員1人1人が、使命と誇りをもち、教職員事故を根絶するとともに、心身の健康の保持増進を実現する。</p>	<p>○学校課題研究では、今年度新たに自己指導能力の育成をキーワードに、年間3回の研究授業の実施により、指導力の向上を図ることができた。</p> <p>□ボトムアップの倫理確立研修の実施により、事故根絶への意識を高めることができた。</p>	<p>B</p> <p>A</p>	<p>・ボトムアップの研修には、賛成する。先生方の価値観も変わっているので、若い世代の意見はとても大切。</p> <p>・十二月田小の家庭地域は落ち着いている。地域の背景も踏まえつつ先生方の良さをこれからも生かしてほしい。</p>
	施設・設備等 の管理	<p>○安心・安全な環境を維持継続し、学校の瑕疵による事故を根絶する。</p> <p>□教育環境の整備・充実のため、計画的・効果的に予算を執行する。</p>	<p>○異常箇所への即時対応により、学校の瑕疵による事故は、発生しなかった。継続は、必須。</p> <p>□すべての予算を環境の整備・充実のために、計画的・効果的に執行することができた。</p>	<p>B</p> <p>B</p>	<p>・引き続き丁寧な扱いことや清掃等、必要箇所の修繕等を期待する。校舎の修繕等必要な時には会社への依頼を手伝います。</p> <p>・下校時や放課後、車の事故に気を付けるように、学校でも指導してもらいたい。</p>

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）	
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度		
		重点目標	重点目標の達成状況			
飯仲小学校	組織運営	<p>○校務各組織が円滑に稼働するよう組織の改革を行い、試行して効率と実効性を検証していく。</p> <p>□働き方改革を進め、職員の超過在校時間年間360時間以内を達成する。</p> <p>◇分掌等を活用し、若手教員の人材育成を進める。</p>	<p>○校務は引き続き円滑に稼働し、職員満足度 86%を達成できた。</p> <p>□在校超過時間は全職員360時間以内を達成することができた。</p> <p>◇若手教員の育成状況を数値的に図ることはなかなか難しいが、初任者や臨任者も1年間良好に勤務できたので、総合手的には上々であったと考える。</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>B</p>	<p>・なし</p> <p>・働き方改革を進めていくには犠牲はつきもの。現実的には先生方の業務が増え続けている状況で、在校超過時間を360時間以内に取り組むというのはかなり無理をしていると思う。英知を絞り、また工夫しても何か大事なものを犠牲にしているのでは、これを基本と考えるならば、「教育課程」「開かれた学校づくり」「教職員の資質個連上」「施設・設備の管理」のすべてに影響して行くのではないだろうか。</p> <p>・なし</p>	
		教育課程	<p>○生きる力の獲得のために、知、徳、体のバランスの取れた学力全般の向上を推進する。</p> <p>□児童の自己肯定感を向上させることで、学力が向上するという仮説を立て、話し合い活用を軸とした特別活動の充実を、令和5年度から学校研究として取り組んでいる。課題解決やよりよい集団作りのための学級会を可能な限り取り入れる。</p> <p>◇いじめに対する確実な認知と、確実な対応を行い、解消率を向上させる。</p>	<p>○知・徳・体を伸ばせた。</p> <p>保護者満足度</p> <p>学力向上 97%</p> <p>体力向上 96%</p> <p>徳力向上 99%</p> <p>□全学年で学級会を取り入れ、児童の「伝える力」等の非認知能力の向上に取り組んだ。</p> <p>職員の間組意識 96%</p> <p>◇いじめ認知と解消への取組は、すべての認知案件に積極的にかわり解消を目指して全力で取り組んだが、解消が難しいケースもあった。</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>B</p>	<p>・なし</p> <p>・なし</p> <p>・なし</p>
			開かれた学校づくり	<p>○コドモンを活用した保護者との密な連携を行い、保護者の安心感を向上させたい。</p>	<p>□メールシステム「コドモン」の導入により、双方向、個別のやり取りも可能であり、丁寧な情報発信が可能になっている。</p> <p>保護者満足度 98%</p>	<p>A</p>
	教職員の資質向上	<p>○ライフステージに応じた機関研修や法定研修と連動して、校内でもOJTによる研修を充実させていく。</p> <p>□ワークライフバランスを図り、倫理確立研修等を通して、教職員事故ゼロを継続する。</p>	<p>○キャリアとライフステージに応じた研修が行われたが、その成果を示す指標がなかなか難しい。</p> <p>職員意識 91%</p> <p>□教職員の重大事故0件を達成。</p>	<p>A</p> <p>A</p>	<p>・なし</p> <p>・なし</p>	
	施設・設備等の管理	<p>○安全な学校づくりを進め、学校瑕疵による事故ゼロを継続する。</p>	<p>○徹底した点検と対策により瑕疵による事故0件を達成した。</p>	<p>A</p>	<p>・なし</p>	

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
並木小	組織運営	<input type="checkbox"/> 3 部会と学年会を有機的連携を図る。 <input type="checkbox"/> 3 か月先を見据えた組織運営の意識化を図る。	<input type="checkbox"/> フローチャートは年度当初の職員会議で提示し見える化を図ったが、部会と学年会の連携についてはようやく意識化が図られてきた。 <input type="checkbox"/> 1 か月先を見据える位に留まっていた。校務支援システムの掲示板を活用し、担当者からの指示が前もって出される流れは構築できた。	B C	・在職3年未満の職員が多いことから組織運営の構築には時間が不足していたと思います。今後に期待しています。 ・初任者の教員が多くなったことを好機ととらえ、新しい発想が出ることを期待します。 ・さらなる意識化に期待します。伝統の継承は現在なかなか難しい時代と思われる。協議の上前進することを望みます。
	教育課程	<input type="checkbox"/> 日課表の工夫により教育活動の充実を図る。 <input type="checkbox"/> 道徳、学級活動、ライフスキル教育により児童の徳力を向上させる。	<input type="checkbox"/> 時間の創出により研修の時間や部会の時間は確保できた。 <input type="checkbox"/> 外部の講師を招聘して研修会を行い、基礎的な知識を深めることができた。	A B	・今後も研修会等で教職員個々がスキルアップして授業を進めてください。 ・教職員の自主研修の時間をとることにより、より前向きになればと思います。 ・働き方改革をしながら教育課程を充実させることはとても難しいと思う。
	開かれた学校づくり	<input type="checkbox"/> 地域の課題を中学校と共有し、9年間を見通した課題解決を図る。 <input type="checkbox"/> 学校からの情報を適切に発信し、保護者の思いに寄り添う。 ◇地域との連携を引き続き継続する。	<input type="checkbox"/> 市教委訪問の際に小中学校互いの授業参観をし合ったが、合同の研修会は実施できなかった。しかし、引き渡し訓練の際に中学校の担当者が来校し来年度に向けて連携の方向性を検討した。 <input type="checkbox"/> 個人面談、授業参観、学級懇談会を計画的に実施することができた。5・6年生合同の授業参観として非行防止教室（ネットトラブルに関する）を実施した。 ◇計画通り実施することができた。いただいた意見を校内で共有しよりよい学校運営のための一助とした。	B A A	・学校・家庭との情報を共有することは大事です。引き続き継続してください。 ・P T A がなくなりつつある。保護者のコミュニケーションがなく子供のごことで不安になっている弱い母親が隠れているのではないかと心配です。懇談会だけでなく別の機会を設けて「〇〇会～先生と保護者と不安を話しませんか～」なんて会が持てるといいですね。 ・地域との連携をよくとっていると思う。
	教職員の資質向上	<input type="checkbox"/> 校内研修体制の新たな構築を図る。 <input type="checkbox"/> 教職員事故0を目指す。	<input type="checkbox"/> 研修主任を中心に基礎的な研修を計画的に進めることができた。 <input type="checkbox"/> 計画的に倫理確立委員会を実施し、教職員事故0を達成することができた。	A A	・幅広い視野から様々な視点や知見を提供できる教職員であってほしいと願っています。 ・教職員の皆さんの頑張り期待します。 ・先生方のスキルをよく生かしていると思います。
	施設・設備等の管理	<input type="checkbox"/> 管理を適切に行い、古くても安全な施設設備を維持する。 <input type="checkbox"/> 優先順位を見極めた補修や修繕を適切に進める。	<input type="checkbox"/> 安全点検の実施見届けはできたが、新しい視点を取り入れた安全点検を実施することはできなかった。 <input type="checkbox"/> 学校予算を計画的に執行し、優先順位を見極めながら補修や修繕を進めることができた。	B B	・建物の老朽化から不良箇所が年々増えると思います。引き続き安全点検をお願いします。 ・リスク管理は小さな視点の積み重ねが大切だと思います。そして、学校に関わる全員が共有することが必要だと思うので私たちにもご連絡ください。 ・安全管理を含め、目視等をこまめに行っていただき事故が起こらないよう努めていただきたい。

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
安行小	組織運営	○児童のよさを認め、自らの得意を見つけ粘り強く取り組み子を育成する。(学校評価：よさを認める学級経営85%)	○学級内で互いに認め合う雰囲気醸成するために学び合いの場やよさを認め合う時間を設定意図的に設定したことで児童も教職員も一人一人のよさを認め合う学級づくりができた。 (学校評価保護者アンケート91%達成)	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの普及によりタブレットを使う時間が増えている反面、子供たちの視力の低下が気になる。タブレットの活用の仕方について、その効果をしっかりと見極め活用してほしい。 ・少しでも登校できるようになることが大切になると思うが、引き続き関係機関との連携も深めながら取り組んでほしい。くすのきルームの活用は大変効果があるよう。
		□学力向上に向け、学習に興味をもたせ、自ら課題を見つけ、解決に向けて粘り強く取り組める子を育成する。(学校評価：授業が分かる85%、粘り強く取り組む85%)	□タブレットでの学習、学習の振り返りを確実に実施したり、知識技能を確実に定着させるための時間を有効に設定できた。学習の見通しをもち進んで学習に取り組むことができた。 (学校評価児童アンケート授業が分かる95%、粘り強く取り組む88%)	A	
	◇不登校児童、不登校傾向にある児童が登校に意欲をもち、充実した学校生活を送り、自立できる子を育成する。(支援率100%、未然防止)	◇昨年度の長期欠席児童数より3割減少した。不登校対応教員を命課し、担当職員を中心に各担任、保護者との連絡調整にあたりくすのきルームでの学習・生活を充実させることができた。	A		
	教育課程	○確かな学力を身につけ、学びを広め、生かすことができる児童を育成する。(学校評価90%)	○学力調査、安行中学校区での授業参観等の研修会より児童に身につけたい力を再確認し、1時間の授業の中で学習の振り返りを徹底させてきた。また、知識・技能の確かな定着のために独自の学力調査を作成し力をつけてきている。 (学校評価85%昨年比5ポイント向上)	B	
	□心豊かな情操、粘り強く取り組む力を育成し、自分に自信を持った児童を育成する。	□新型コロナウィルス感染症を機に学校は大きく変わってきたが、ポストコロナを迎え、これまでの学校行事内容を精選し、児童教職員にとって負担のない内容で実施できた。 (学校評価92%) また、学校図書館の有効活用と児童の読書量向上のための取組を意図的に継続して実践できた。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ページや様々な活動を通して個々のよさを引き出している。図書館司書を迎え活動が充実している。 	
開かれた学校づくり	○学校、家庭、地域が一体となって本校に通う児童を育成できるようにする。(学校評価：地域連携90%)	○ウェブページの更新が課題となる。教員の働き方改革と合わせて学年内、学校内で情報教育担当職員の役割を明確にし、実践していく。自然を生かした体験活動は充実することができている。新田の活用は、家庭や他の機関とも連携して実施することができ、稲作の体験が安行の伝統である「蛇づくり」ともつながることを自覚させ、安行をよりよく理解できる児童の育成を継続していく。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と家庭の連携は重要なことで、家庭が自分の子供を学校が預かっていることや自分の子供が通っている学校に、いろいろな理由はあるだろうけどもっと学校に協力する意識を高めてほしい。 ・PTA組織の見直しより保護者の学校に対する協力意識が希薄になっている現状がある。地域社会の人たちもこのことを憂慮している。これをよい方向に導く責任を感じるとともに学校と協力していきたい。 ・安行まわりに意欲的に参加している児童の様子を地域の方にも見ていただく、くすのきチケットの存在を地域の方たちにも知ってもらおうと地域のかかわりが増えるように感じる。 	
教職員の資質向上	○チーム安行小として互いに認め合い、共通行動がとれる職員を育成する。	○学級学年の問題行動等に対して管理職・担任と連携し組織的に迅速に対応することができた。「一人ではできない、一人ではない、一人にしない」という職場づくりが推進できた。また「職員室は安心基地」というテーマで外部講師を招聘した研修会を安行地区5校での合同研修会を実施し、地区全体でも共有を図ることができた。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・報告連絡相談確認はとても大切なことと思う。全員で徹底していくことが大切だと思う。また、教職員が足りないことも問題の一つと考えます。 	
	□月45時間以内、年360超「0」を意識して、自己の働き方へを振り返り健康な教職員、温かな職員室をつくる。(在庁時間80超「0」45時間以内65%)	□教職員の働き方について、異動職員、若手職員、学年主任などのグループに分けて協議をする時間を設定し、ボトムアップ型の提案ができるようにした。そこでの意見を日課や行事の生かし、毎月の在庁時間は昨年の月平均から1時間程度短縮することにつながった。半数の職員は月45時間を超えない範囲で勤務できている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革は教師にとっても児童にとってもメリットとなるものでなくてはならない。教師のフォロー、児童のフォローを大切にしていること。保護者の相談窓口を明確にすることも必要かと思います。 	
	◇教職員事故根絶のために、自己の特性を知り、互いに気にしあう「風通しのよい」職場をつくる	◇教職員員の事故根絶は喫緊の課題であるが、職員集会での短時間での研修（担当者を決めて事故の種別に発表）や管理職からの研修と常に事故根絶に向けての意識を高めていけるようにしてきた。	A		
施設・設備等の管理	○施設設備の管理を徹底し、安心、安全な教育環境を維持する。(施設設備事故「0」)	○管理職による教室訪問や日々の安全点検を生かし、早急な修繕対応ができた。老朽化が進むが、清掃活動を充実させてきた。理科室の黒板が落下するという事故があったが、早急に業者対応を実施し、他の教室の黒板点検を進めた。安全点検の項目の見直しを進め、教職員自らが施設設備の管理を意識できるようにしていく。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の伝統（自然を大切に教育）が急激な地域の年かにより忘れられている現在校長先生をはじめ、先生方の熱意により稲作事業を児童に体験させ、大成果をあげた。その他、環境緑化教育に得年真剣に努力している。 ・台風の時など枝葉が落ちているのをよく目にする。階段のコンクリートが地震で崩れないか少し心配である。 ・日々の点検は本当に必要である。毎日の清掃も大切な安全点検につながる。修繕計画の優先順位を決め、市にしっかりとアピールしていくことで安心安全な環境を整えるべきである。 	

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達 成 度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
原町小	組織運営	<p>○「すべての子供が学ぶ喜びを感じる」という意味を全教職員で確実に共有し、組織的な活動で、目指す学校像を実現させる。</p> <p>□各学級において児童との関係づくりを早急に構築し、児童一人一人が学級において自己有用感や所属感を感じられるようにする。</p> <p>◇児童との関わりを深めて、支援する。</p>	<p>○全職員が一丸となって「すべての子供が学ぶ喜びを感じる」ように授業の中で「わかった」「できた」と実感する授業を多く行うことができた。</p> <p>○個別と集団の活動を進めることで、段階的に「理解」させることができた。</p> <p>○職員が互いに授業を見合い、意見交換するなどして研修を行い、分かりやすく、話しやすい授業を突き詰めることができた。</p> <p>□「発達支持的生徒指導」を意識したほめ方や声掛けによって、やる気の出る温かい学級づくりを進めた。</p> <p>□各学年が段階的に、児童が主体的に取り組めるように図り、自信をもって活動する児童を育成した。</p> <p>◇学校で一緒に授業を受けられない児童には、面談や電話、家庭訪問等で話をし、支援をすることができた。</p> <p>◇段階的に条件を変えて授業を受け、今では教室に入ることができた児童もいれば、なかなか連絡がつかず、支援ができなかった児童もいた。</p> <p>◇児童の変化の様子や児童・保護者からの相談について管理職と連携し適切な対応をとることができた。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>・学校公開や音楽会、いつもの登下校で、子供たちの笑顔を見ることができた。今後子供たちが学校で笑顔で過ごせるよう努めていきたい。</p> <p>・先生方の指導に個人差があり、保護者、児童が困ることがある。共通理解と共通行動を徹底してほしい。</p> <p>・不登校の理由がこれからはさらに複雑化していくだろうから、教員や保護者だけではなく、心療内科等医療からの支援が得られるようにする必要がある。</p>
	教育課程	<p>○「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化を進め、すべての子供が「主体的・対話的で深い学び」から喜びを感じる授業を行う。</p> <p>□P D C Aサイクルを意識して、実態から方策、実施後に検証の繰り返しを行い、児童に適した取り組みにしている。</p> <p>◇各教科等での基礎基本を確実に身に着けさせる。</p>	<p>○単元テスト等で児童の理解度を把握し、個に応じて支援を変えて「個別最適な学び」を進めることができた。</p> <p>○2人組や3人組など、学習内容や課題に応じて人数を変えたり、話の仕方を示して話合わせたり、自分の考えを説明しやすくするためにノートにメモさせたりして「協働的な学び」を進め、友達の話から理解を深めることができた。</p> <p>□ベネッセ学力調査の結果から、各児童が自分の理解度や習熟度を把握し、弱点克服のための学習をG I G A P Cを利用して取り組んだ。部分的に上昇させることができた。</p> <p>□学級力アンケートで学級の状態を知ること、児童が目標をもって理想の学級づくりに取り組むことができた。</p> <p>◇各授業で基礎基本となる内容をすべての児童が理解できるように「個別最適な学び」「協働的な学び」を行った。理解したことは家庭学習や自主学習等で定着を図ったが、十分ではなかった。</p> <p>◇次年度は定期的に「習熟の時間」を確保して、各児童が主体的にドリルパーク等を進め、基礎基本の定着を高める。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>・個別最適な学びによって、苦手な子供が頑張れる姿を見た。一人一人に対応するのは大変だけど、維持してほしい。</p> <p>・子供たちがプレゼンテーションソフトを活用して、発表技術を高めている様子が見えた。新聞づくりからICT活用まで段階的に伸ばす流れを確立して、これからも発表能力を伸ばしてほしい。</p> <p>・自分の課題がわかると、自分で方策を考え取り組むだろう。言われてやるのではなく、自分で考えて行動できる児童を増やしてほしい。</p> <p>・授業の中で分かっていることが定着するためには、練習を繰り返すことが大切だと思う。</p>
	開かれた学校づくり	<p>○「目指す学校像」実現に向けて、学校・保護者・地域の絆を深め、同じ方向性をもって指導や支援を行う。</p> <p>□充実した教育活動にするために、地域の教育力を生かす。</p>	<p>○学校だよりは毎月配布し、ホームページは毎日更新することで、原町小学校の教育活動等を紹介することができた。</p> <p>□農業指導を受けたり、ミシンボランティア、縄跳び計測ボランティア等をお願いすることができた。</p>	<p>A</p> <p>B</p>	<p>・毎日のようにホームページを更新していて、楽しみに見ている。</p> <p>・学校だよりの配布について、町会にも電子で配布することを検討しても良いと思う。</p>
教職員の資質向上	<p>○豊かな心をはぐくむ教育を推進する。</p> <p>□すべての児童を対象に、特別支援教育を行う。</p> <p>◇積極的な生徒指導による、けじめと規律のある学校づくりを行う。</p>	<p>○教師として子供の人権を尊重し、体罰に頼った指導を行わない。</p> <p>○「いじめ」自体はなくなることができなかったが、いじめられた児童の気持ちに寄り添った支援といじめた児童への譲らない指導を行った。学級の仲間の中で支え合い、「いじめ」を許さない雰囲気や学級経営によりつくることができた。</p> <p>○課題のある児童と保護者の困っていることを、医療等の他期間と連携して改善へと進めることができた。</p> <p>□児童それぞれが抱える課題を把握し、合わせた指導を行うことができた。</p> <p>□困っている児童や保護者の話を丁寧に聴き、寄り添った支援を行い、良好な関係づくりができた。</p> <p>□スクールソーシャルワーカーや病院の医師などと連携をとり、課題を抱える児童への支援の協力を得た。</p> <p>◇学級内で健康観察等で様子が違う子供には、早めに声をかけて問題が無いかを確認している。</p> <p>◇児童からの相談には後回しにせず、すぐに話を聴いている。複数の児童が関わっているなら、一つ一つ丁寧に話を聴き、教師の先入観で話を進めないようにしていた。</p>	<p>B</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>・子供も教師もゆとりが大切であり、いじめも体罰もゆとりがないから起きているのが要因の1つだと思う。教師の指導力や子供の学力を上げることも大切ではあるが、ゆとりをもって取り組めるように進めてほしい。</p> <p>・原町小学校でもLINEに関わるトラブルがあると聞いた。携帯やスマートフォンの使い方に加えて、チャットの使い方やマナーも家庭と協力して指導してほしい。</p> <p>・特になし</p>	

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
	施設・設備等の管理	<p>○落ち着いた学習できる環境をつくり、安全で安心できる学校にする。</p>	<p>○古い施設について保護者からの意見が多い。しかし、施設による怪我は起きていない。 ○安全点検を毎月行い、危険箇所を発見したら短時間で修繕を行っている。 ○日課表を変更して清掃が無い日が数日できたので、汚れがあるときがある。今後改善を検討する必要がある。</p>	B	<p>・トイレ設備が洋式に変更になるのは時代だと思うが、まだ和式を使用する施設は残っている。和式の使い方も指導する必要があるのではないか。 ・体育館にエアコンをつけてほしい。夏の避難所として適していない。近年の地震による関連死を見ていると不安である。</p>

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園）自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
前川小	組織運営	○若手教員を着実に伸ばすとともに校務分掌組織を活性化させる中で中堅・ベテランも同じ方向を向き全教職員が一枚岩となる「チーム前川」をつくる。 □不登校、登校しぶりいじめ等の案件に対し、組織で迅速な対応を行い、不登校支援率、いじめ解消率100%を実現する。	○若手教員の育成に向けては年間11回指導主事を招いて授業研究会を実施し、指導力向上を図ることができた。また、教頭を中心に風通しの良い職員室づくりを行い、課題解決に向けては教職員相互が意見を出し合うことのできる状況をつくることができた。 □いじめ対応については管理職、生徒指導主任。いじめ対応教員を中心に組織的に迅速な対応を行うことができた。不登校支援に向けてはオンライン授業を行った「ほっとルーム」で個別支援を行ったりするなどの支援を行ってきたが100%の達成は実現できなかった。	A B	・教職員の表情がとても明るくなり雰囲気が良いことがよくわかる。引き続き頑張ってもらいたい。
		教育課程	○各学力調査の結果の分析を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善に取り組み、日々の授業の中で子供たちの「できた」「わかった」のつぶやきを増やし、児童自らが実感できる学力向上を図る。 □「凡事徹底」を軸にしながらかん通理解・共通高度を徹底するとともに、子供たち一人一人のよさや成長に寄り添い、認めながら活気と笑顔にあふれる雰囲気醸成する。	○教員の指導力向上に向けて3年生以上において一部教科担任制を実施した。しかしながら欠員の状況もあったことから予定通りに実施できない部分もあった。また、埼玉県学力・学習状況調査の結果の分析については指導主事を招いて分析方法の研修を行ったが、なかなか効果的な分析には繋げることができなかった。 □生徒指導事案については管理職及び生徒指導主任を中心に組織的に対応を行ってきたが、事後の対応に追われてしまい未然防止を行うことがなかなかできなかった。	
	開かれた学校づくり	○学習支援・環境整備・安全・安心の見守りにおいて学校応援団の活動を充実させ、地域の教育力を積極的に導入することで、より一層充実した教育者有働を実現する。	○学校応援団の活動についてはコロナ禍以降停滞していたが、主幹教諭を中心にコーディネーターとの連携を密に取るようにしたことで様々な場面において効果的に活用することができた。	A	
	教職員の資質向上	○管理職による定期的な教室訪問・フィードバックを行うことを基盤としながら、お互いに授業を見合う機会を計画的に設けて教員の資質能力の向上を図る。	○若手教員の育成に向けては年間11回指導主事を招いて授業研究会を実施し、指導主事からマンツーマンで指導をしてもらうことで指導力向上を図ることができた。	B	・教員は授業を通して子供を変容させることが責務である。その意味で若手教員に対する指導主事を招いての授業研究はとても素晴らしい取組なので継続して行ってほしい。
	施設・設備等の管理	○子供が安心して学校生活を送ることができるようにきれいで居心地のよい潤いのある学校環境をつくる。	○教頭や安全主任、事務主査を中心に修繕が必要な箇所については即時対応を図ることができた。教科等備品の購入・廃棄についても各主任を中心に効果的に進めることができた。	A	

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
戸塚小	組織運営	○折れない児童の育成へ、全教職員で課題解決へ向かう学校づくり	○「認め合い」を軸にした発達支持的生徒指導を全教職員で実践できた。（教職員評価100% 保護者評価「子どもの学力や努力を認めている 95.3%」「悩みや相談に応じている93.7%」）教職員全体で課題対応策を検討し、共通指導を展開した。管理職と分掌や学年による組織で、早期・複数・継続対応を徹底し、課題解決や改善へ向かうことができた。	A	・欠員が生じる中、教職員はよく頑張っていた。（欠員問題は解消されるのか？）
	教育課程	○児童の非認知能力の向上	○行事等、集団での取組をやりとげ、学ぶ楽しさや他者と関わることの良さを感じている児童の姿が見られる。読書に取り組む児童が増え、読書量も増加した。学習に夢中で取り組む児童91%・友達と良好に関わる児童96% 「学校が楽しい」における児童評価92%・保護者評価90%	A	・学びのスタンダードに沿って授業が展開され、一生懸命学習に取り組んでいる児童の様子が見られる。特に教師が自信をもって授業に臨み、児童との良い関係を築いている学級には、勢いがある。より広がるが良い。 ・学習のスタンダードは、教師の授業の仕方だけでなく子どもにも学び方を浸透させるよう、子ども向けを作成・提示してはどうか。
	開かれた学校づくり	○学校への関心・理解を高める確実な情報提供	○必要に応じ発信方法（ホームページ・メール・手紙・掲示）を選択しながら情報発信を継続し、複数チェックで正確な発信に努めた。ホームページでの教職員による教育活動紹介ができた。情報発信における保護者評価90%、教育活動への関心・理解における保護者評価92%を達成。	A	・開かれた学校づくりには、PTAとの関わりもある。時代に合わせたPTAの在り方で、学校とつながり、子どもたちを支えたい。 ・「子どもの笑顔」が学校ボランティアの活動の原動力である。
	教職員の資質向上	○経験年数に応じた力を発揮する、心身共に健康な教職員集団づくり	○全教員が授業を公開し、他校の研究発表会に参加。自己研鑽に励み、自らの学びを発信し校内の研修を企画する姿が見られた。諸課題に複数で対応し、協働に努めることができた。教職員自己評価：教育公務員としての自覚97% 責任・協働100% 目標への努力継続100% 働き方への意識100%	A	・長時間労働が問題視されているが、教員の心の病は、指導に自信を持っていないことへの悩みに起因することが多い。指導に自信を持てる教員を育成できるしくみや環境作りが必要である。 ・教員に本来の指導ができる時間を生み出すためには、家庭・地域が一体となって、学校を応援する知識をもつこと、リスペクトの姿勢をもつことが大切であることを伝えたい。
	施設・設備等の管理	○事故ゼロ。安全かつ潤いのある学習環境の維持。	○施設老朽に係る修繕要望の継続と計画的修繕を実施。日常・定期的安全点検による危険箇所の把握・対応を行い事故ゼロ達成。（階段落下防止柵の設置）長期休業を活用し廃棄作業完了。児童作品の展示と更新、植物の配置を継続した。保護者評価：86%	B	・毎日の学びの場は、少しでもよいものにしたい。施設改修にむけては、地域全体で動く必要がある。 ・小さな環境改善には、おやじの会へ声かけをし、力を借りてほしい。

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
青木中央小	組織運営	<p>○Well-Beingな学校創りのために職員一人一人の持ち味を活かした組織マネジメントを行い、機動的かつ組織的な学校経営を行う。</p> <p>（学校評価：経営参画意識 95%）</p>	<p>○①②③職員への感謝。一言に尽きる。協働作成した経営方針を基に個々の思いや願いをなるべく把握して、キャリア段階や各校務分掌上等の役割、進捗状況に応じてコーチングとコーチングを積み上げた。3大指標を職員で設定し、メンバーの協力を得、各推進委員長を中心に進めることができた。今後もWell-beingな学校づくりのためにも見届けや励まし、労いの声掛けを今後も継続する。あわせて、次年度の経営方針も職員の持ち味や願いを活かしたものとする。（参画意識100%）</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校長を中心に全職員が情熱をもって教育活動を推進している。 ・令和6年度の保健、安全、給食、歯科保健で優良学校として表彰されたことは大変意義のある素晴らしいこと。 ・学校に何うとつても明るい挨拶をしていただけるので、運営面では安心している。 ・Well-beingな学校作りに職員全員が取り組み、それを達成しつつあると感じた。 ・現状から課題、具体的な方策へとよく取り組まれている。
	教育課程	<p>○教育課程の着実な実施と質の向上</p> <p>（学校評価児童：3大指標算数が楽しい 90% 体力A+B+C=90%）</p> <p>□4層構造を意識し、重層的支援を大切に生徒指導を実現する。（3大指標支援率100%）</p>	<p>○①②③5つのルールに係る職員の意識が高まり、非認知能力に係るアイコンの活用、けてぶれの定着、てんまるの導入が実現。未来手帳の導入は、高学年児童に一定のリフレクショナを育む一助となった。</p> <p>④3学期に多様性に係る授業の実施を行う。</p> <p>⑤青木っ子体操は、スタンダードとなった。</p> <p>□①登校支援チームメンバーを中心とした報告・連絡・相談による具体的な対応策を継続。可視化した表の活用は、新たな不登校児童の未然防止に一定の効果を得た。</p> <p>②担当へのコーチングを継続して行った。</p> <p>③④積極的に連携し、一層円滑になった。ポスト設置、SST資料の提供が実現</p>	B B	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上の取り組みとして「けてぶれ」の実施により、知・徳・体のバランスのとれた教育活動が実施されている。 ・子供たちの非認知能力の向上が十分に生まれ、心身ともに健康な人格が形成されている。 ・児童が積極的に挙手したり発言したりする姿はとても嬉しい。 ・今未来手帳の導入は、素晴らしい効果を出すかと期待している。青木っ子体操、なかよしポストなども良い取り組みだと思う。 ・授業参観をさせてもらっているが、授業の質が向上しているのを感じる。 ・不登校児童や保護者に寄り添うのは負担もあると思うが、子どもたちのために継続していただきたい。 ・子供同士のトラブルを若い教師がおさめられるようにしてもらいたい。
	開かれた学校づくり	<p>○「地域・保護者と共にある学校づくり」をめざし、保護者・地域との連携・協働を強化し、持続可能なネットワークを構築する。</p> <p>（学校評価：相談しやすい 9割）</p>	<p>○①保護者や地域、外部指導者招聘を積極的に行い、外部教育力を活用した学びにつながった。</p> <p>新たな講師招聘にも挑戦することができた。</p> <p>②各種便りやHPの広報媒体だけではなく、AERAやBenesse、新聞社による発信が実現</p> <p>③学校運営協議会の学校への理解と惜しみない協力は感謝の一言に尽きる。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・中央小まつりで地元町会と連携して神輿をかついだり、昔遊びで高齢者と交流したり、被爆者体験講和に地域住民を招いたり、地域に開かれた学校づくりに鋭意取り組んでいる ・学校だより等の校門の掲示物、地域への各行事の呼びかけ等、開かれている。 ・学校、児童、職員が何を必要としているか、何を不足しているかを明確にし、対応できている。 ・PTAや地域の方たちと一体感を持って活動していて、とても良い。
	教職員の資質向上	<p>○学び合いを大切にした指導力向上（学び合い意識100%）～ベテラン：人材育成力</p> <p>□Well-Beingな働き方改革を推進し、職員の仕事の健康と活力ある風通しのよい職場づくりの実現</p> <p>（教職員事故根絶：ゼロ）</p>	<p>○①②③岡山大：中山先生、文部科学省：笠井先生、高橋先生をはじめその道の第一人者を招聘。全30学級担任の算数科授業に指導者招聘し指導力を高める場を設定できた。（学び合い 100%）④継続。</p> <p>□①②「元気に休んで元気に働くようキャンペーン」は2学期も自走。エンペイ導入の検討を重ねたが配当予算からの支出のため断念。時間外勤務に係る意識は随分高まったが学習指導要領に係るオーバーロード等根本的な解決を今後に臨む。</p> <p>③一人一人の「お互い様」意識が高くストレスチェックの結果からも協働意識は高揚。各学年が担当する事故防止の提示は当事者意識を高めた。</p>	A A	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の人手不足や働き方改革等、課題も多いと思うが、地域の子供たちのために、先生方の心身の健康や明るい職場づくりが重要である。 ・教職員の熱心さをいつも感じている。休み時間も校庭で児童と一緒にいる姿を見るたびに感謝している。 ・第一人者の授業を参観したり、研修会を行ったりと、指導力向上の取り組みが充実している。 ・ハラスメント等の、デリケートで重要な課題に向き合い、事故防止によく取り組んでいる。 ・お手本となる優秀な教員（川口市優秀教員）がいることが良い影響をもたらしている。 ・Well-beingが推進されており、先生たちが元気に働けている。
施設・設備等の管理	<p>○「安全・安心」に視点をいた安全管理の徹底（施設事故 ゼロ）</p> <p>□費用対効果の高い予算執行及び適切な文書管理</p>	<p>○①②整理整頓を意識し、安全管理に係る対応は向上している。安全点検時以外での発見による施設設備工事も実現した。</p> <p>□①②管理職と事務職による予算執行状況の把握や費用対効果の高い予算執行が実現した。学年会計と校外学習会計を別にし、学期ごとの報告が実現した。</p>	B B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の施設や設備等の整理整頓が大変よくできている。教室もいつも整理整頓されていて、掲示物も教室・廊下・階段等、充実している。 ・先生方の通学路の清掃活動も良いお手本になっている。 ・密を避ける時代に席がない職員がいるほどの満員の職員室の事は、いつも心配している。 ・教育の場であるとともに、地域の避難所でもあるので、安全確保のための見直しは必要だと思う。 ・大規模校になり、問題も発生していると思います。校庭が狭いので、市と協議してもらいたい。 	

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達 成 度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
元郷南小	組織運営	<input type="checkbox"/> 組織の一員としての当事者意識を持った教員の育成と、中堅・ベテラン教員の力を融合させた組織作り <input type="checkbox"/> 教職員組織の活性化とサービスの厳正	<input type="checkbox"/> 教頭、主幹はもちろん、各種主任層がリーダーシップを発揮し組織で対応を行った。教職員学校評価アンケートでもほとんどの項目で9割を超えた肯定的回答となった。 <input type="checkbox"/> 教職員の服務面では問題なく厳正な勤務ができた。各種提案も、各種主任の創意工夫が見られるようになってきた。	B A	・組織運営とはいえ各個人一人一人の当事者意識・モチベーション維持が大切と考えます。そのような意識づくりを目指すのも良いと思います。 ・働き方改革等、いろいろと困難なことが多くありますが、目指す学校像、その実現に向けて教職員が1つにまとまってきている。また、教科ごとの会議や学校の教育目標に対する問題点等についての情報交換等の姿勢が随所にみられた。
	教育課程	<input type="checkbox"/> 学力の向上【楽しい学校（学習）づくり】 <input type="checkbox"/> 豊かな心の育成【温かい学校づくり】	<input type="checkbox"/> 子供が主体となる授業づくりについては、各教員が意識して取り組んでいるが、まだまだ説明場面が多い。また、話し合いも、必要な場面とそうでない場面が不明確である。 <input type="checkbox"/> 学期ごと道徳科の実施時数を確認し、時間の確保を行った。考えを深める道徳の面では、学級の差が大きく、師範授業等で基本の型を整える必要がある。不登校対策については、不登校対策委員会を発足し、支援策について学校組織で考える体制を整えた。また、校内支援ルームを設置し、教室へ段階的に戻れるようにした。	B B	・学力向上に向けて、一層の授業改善の取組がなされていたように思える。今後は、各教科領域ごとに、子供たちの自己肯定感、自己有用感、他社理解の育成をしていく必要があるのではないかと。 ・昨今の世間ニュース、SNSの影響を受けやすい状況なので、心のケアというものを常に意識したご対応をお願いしたいと思う。
	開かれた学校づくり	<input type="checkbox"/> 学校応援団との連携 <input type="checkbox"/> 教育活動の見える学校創り	<input type="checkbox"/> 学期に一回以上、地域の教育力を活用した授業を実施した。 <input type="checkbox"/> 本年度は、校外学習等の様子をHPで同時配信を行った。保護者からは、子供と共に活動しているようである、その時の様子がわかってよいと好評を得た。	B A	・今後もより積極的に保護者や地域の人材を活用し学校の教育力向上を目指してほしい。 ・最近、保護者がそれぞれの価値観を学校に求める傾向が強くなり、この点で学校との連携が図りにくい所があるが、学校だよりやHPなどで学校としての要望やアピールが発信できている。しかし、まだ弱く感じる。もっと強く打ち出しても良いのではないかと。その際は、紙ベースを多く取り入れていく方がよいのではと思う。また、逆に学校からの要望やアピールが強くなれば当然、地域や保護者からの反応も強くなるが、この点でも十分に対応できるようにしていただきたい。
	教職員の資質向上	<input type="checkbox"/> 自己研鑽に励む教員、学び合う教職員集団づくり <input type="checkbox"/> 働き方改革（在校等時間短縮）へ強力な推進	<input type="checkbox"/> 校外の研修会へ参加した場合は、その報告をさせ、校内での共有を行った。そうすることで、参加意識の変容も見られるようになった。教職員の経験に応じた学び合いが見られる研修体制も整いつつある。 <input type="checkbox"/> 目標に時間外平均年360時間以内の達成は、12月現在192.43時間である。教職員学校アンケート該当項目では、肯定回答100%で意識改革も着実に進んでいる。	A A	・校外での学びは新たな視点を得て、授業改善につながると思う。 ・教職員資質向上＝児童レベルのアップにつながると思う。是非、各先生方のモチベーションを維持アップできるような対策をお願いする。
	施設・設備等の管理	<input type="checkbox"/> 教育環境の整備【美しい学校づくり】 <input type="checkbox"/> 子供の安心・安全確保と事故防止の徹底	<input type="checkbox"/> 子供の作品の計画的な展示を実施した。特に、元南作品ロードの展示は、通行する方からも好評価をいただいている。 <input type="checkbox"/> 計画通りに実施した。また、臨時の黒板点検や更衣室等の不審物点検を実施した。施設設備の瑕疵による事故防止を継続する。	A A	・元南小は施設・設備がごじまりとまとまっていて、割と死角が少なく他校に比べ管理がしやすいが、また、それが油断につながりやすい。また、近年、PTAの不要論等いろいろと難しい問題が多くできて地域との保護者の協力等がむずかしくなっていることから、なるべく理解のある方に役員になってもらい、学校の施設設備を子供たちのためになるように改善していく。この点で現時点でよくできていると思う。また、子供の作品を施設設備に展示していくことは大変良いことなので今後はさらにこれを拡充していければと思う。 ・教育環境、整備と衛生の観点から床の清掃をお願いしたい。

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標		年 度 評 価	
		重点目標	重点目標の達成状況		
芝西小	組織運営	<p>○校長・教頭・教務主任・主任を中心とした組織的・機動的な教職員体制の構築</p> <p>□自発的に学校運営に参画する人材の育成</p> <p>◇いじめ事案への丁寧な対応と不登校児童への支援</p>	<p>○校長だよりや職員集会等を通して方針を周知し、都度対応。フォローし合って学校運営を行った。</p> <p>（職員自己評価9割）</p> <p>□「元気」「笑顔」「やる気」をキャッチフレーズとして、浸透するように事あるごとに発信。教職員のボトムアップによる起案・提案増。</p> <p>◇いじめ認知から生徒指導事案を記録し、継続的に見守っていく体制は整いつつある。</p> <p>◇不登校支援委員会で支援方法を検討し、対応した。</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>B</p>	<p>・概ね評価できる。</p> <p>・概ね評価できる。</p> <p>・地域でも元気な挨拶ができるように。</p> <p>・個々によって状況が違うので、家庭とよく話し合っ進めることが大切である。</p> <p>・外国籍児童は言葉の壁がある。対応し、学校に通えるようにする。</p>
	教育課程	<p>○コロナ禍での実践を生かした教育効果を上げる学校行事と教育計画の実施</p> <p>□学力学習状況調査において、本校の学力の伸びが県平均の伸びを上回る。</p> <p>◇新体力テストでA～Cの児童を県平均（78.4%）、令和5年度本校平均（80.9%）以上にする。</p>	<p>○日課表の見直しにより、教育効果を上げる学校行事と教育計画を実施。3年以上での学年内一部教科担任制を実施。</p> <p>□調査の分析と家庭への文書配布により啓発。</p> <p>□教科担任制の実施により成果が上がっている。（学力の伸び：県平均以上）</p> <p>◇3回の校内授業研究会に指導主事を招聘して実施。児童の体力と教師の指導力が向上。県の平均を6.6%上回った。（本校昨年度比+3.1%）</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>A</p>	<p>・概ね評価できる。</p> <p>・ノーチャイムで学校生活を送ることで、時計を見ながら行動している。</p> <p>・プールの時期を早められないか。暑さにより実施できない日があった。</p> <p>・教科担任制の実施は、よい取組だと思う。他クラスの様子がわかり、教師の業務負担も減る。</p> <p>・体力の向上が図れている。将来的につながる協議との出会いとなる。取組を維持・継続してほしい。</p> <p>・子供達同士の一体感が生まれ、積極的になる。</p>
	開かれた学校づくり	<p>○学校の教育活動の積極的な情報発信定期的な情報発信</p> <p>□地域との連携活動の推進と学校応援団の活動の充実</p> <p>◇地域の中学校との連携活動の充実</p>	<p>○電子配信を充実させ児童の様子が伝わるように努めた。（保護者評価9割以上）</p> <p>□図書ボランティアの復活・P T A活動新体制（芝西っ子サポーターズ）への移行実施中。</p> <p>◇小谷場中との教職員合同研修会、芝西中生徒による挨拶運動を実施した。</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>B</p>	<p>・高い評価であり、良い活動である。児童の様子が伝わる。</p> <p>・地域から見ると学校は敷居が高く感じる人がいるので、来校できる機会を考えていく。</p> <p>・町会で地域パトロールを実施。担い手が減ってきている。</p> <p>・交通ルールの徹底を。</p> <p>・P T A活動の新体制に伴い、さらに学校との連携を図っていきたい。</p> <p>・さらに交流を深めていけたらと考える。</p>
	教職員の資質向上	<p>○キャリアに応じた教師の資質向上とチームワーク力による、継承と実践力の向上</p> <p>□学級経営や生徒指導、保護者対応などの職員研修を実施</p> <p>◇働き方改革を推進し、自己の時間と健康の管理と教職員事故の防止</p>	<p>○年次研修や年2回の管理職授業訪問を実施した。指導助言を行い、指導力の向上につながった。</p> <p>□日常の管理職による教室訪問や教職員からの報告等から学習指導や生徒指導の様子を把握し、適時助言。指導主事を招聘し、不登校対応研修を実施。</p> <p>◇時間外勤務が昨年度より減り、どの職員も計画的に業務に当たっている。</p> <p>◇研修等を実施した。（教職員事故0）</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>A</p>	<p>・概ね評価できる。</p> <p>・概ね評価できる。</p> <p>・教師は、伝えるべきことはしっかりと言うべき。飲み込む時代になってきている。</p> <p>・概ね評価できる。</p> <p>・文書を減らすなどして子供と接する時間が多くなるとよい。</p>
	施設・設備等の管理	<p>○計画的・日常的な安全点検の実施と即時対応、計画的な修繕計画の立案【学校事故0】</p> <p>□危機管理マニュアルの修正と教職員への周知徹底</p> <p>◇保護者連絡の電子化とお便り類のペーパーレス化</p>	<p>○児童は黙働清掃を行っている。緊急性を鑑み優先順位をつけながら中校舎・プールなどの修繕を行った。（学校事故0）</p> <p>□マニュアルと会計業務を改善、情報機器の活用増加に伴う教職員の情報セキュリティの見直しを行った。</p> <p>◇左記に加え集金業務電子決済、業者QRコード決済の導入により、会計事故を防ぎ教員の業務改善にも繋がった。（学校会計事故0）</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>A</p>	<p>・黙働清掃が実施できており、よい。</p> <p>・子供たちに必要な修繕は、市に要望し早期対応をしてほしい。</p> <p>・町会と学校とで、一体となって防犯・防災に取り組んでいく。教職員の意識も高めてほしい。</p> <p>・避難訓練、不審者対応訓練などに引き続き取り組み児童の防犯・防災意識を養う。</p> <p>・概ね評価できる。</p>

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
芝南小	組織運営	○目指す学校像の実現に向け、主任を中心とした学年経営、校務分掌による教育活動の活性化を図るとともに、教職員個々のよさを発揮できる組織環境を整え、継続的な運営体制を構築する。【教職員自己評価・保護者学校評価の該当項目A+Bの割合95%】	○学校評価における『学校教育目標』の項目A Bの割合の平均は、教職員評価で97%、保護者評価で81%となり目標を達成できなかった。自己評価から教職員の組織運営への理解と参画意識の高さを感じた。また、管理職と主任等とのコミュニケーションを通して、学校の課題を共有し、改善に向けた教育活動の計画立案実践に結びついている。	B	・保護者評価を高めるためには、保護者の意識、理解が必要である。 ・保護者の学校への要求が大きいのではと推察する。 ・保護者の学校へのかかわりがうすいと感じる。保護者が関わられる運動会、大掃除などのイベントがあればと思う。
	教育課程	○児童や学校の実態に即した教育課程の編成に向け、実施状況を評価・改善することで教育活動の質の向上を図るとともに、社会に開かれた教育課程の編成を実現する。【学力：県学調の結果4・5・6年県平均以上、体力：新体力テストの結果A+B+Cの割合80%以上】	○評価の指標である県学力・学習状況調査の結果では、5・6学年の前年度からの学力の伸び（平均）5年1、6年-1、5となった。また、新体力テストA+B+Cの割合80%となった。	B	・児童の体力を高めるために、家庭への協力・働きかけをしてはどうか。 ・親子でできることを提案してはどうか。
	開かれた学校づくり	○学校の教育活動を積極的に公開し、保護者・地域との連携・協働により、学校の教育力を向上させ、信頼される学校を実現するとともに、地域人材の積極的な活用により教育活動の充実を図る。【学校HPアクセス数+3000回、学校応援団活動実績50回以上】	○12月末現在、①学校HPによる発信は、アクセス数3000回以上を記録している。また、②学校応援団の活動では、本の読み聞かせやの書初め指導の他、安全見守りの活動がほぼ毎日行われていることから、活動実績は目標の50回を超えている。	B	・学校応援団の人材をもっと地域に求めた方がよい。 ・地域の教育力を生かすためにも、積極的にボランティアの活用をしていくべきである。
	教職員の資質向上	○教職員のチームワークを生かし、互いに切磋琢磨しながら学び合い、高め合える教職員集団を形成し、教職員の服務規律の確立と健康の保持増進を目指し教職員が元気で活力ある学校をつくる。【教職員事故ゼロ、月当たり時間外勤務80時間超の職員ゼロ】	○教職員とのコミュニケーションを大切にしながら教職員の勤務状況及び健康状態の把握を行った。また、機を捉えた指導と倫理確立研修の充実を通して未然防止に取り組んできた。その結果、評価の指標である教職員事故ゼロ、月当たり時間外勤務80時間超の職員ゼロは達成できた。	B	・実際に授業を見る機会が多くなると、先生の様子も感じられたと思う。
	施設・設備等の管理	○校舎内外の美化に努め、安全で潤いのある校内環境づくりを推進するとともに、課題に即した予算運用を行う。【本年度の整備目標：雨水の影響による壁・天井の修繕、トイレの清掃、上水槽の配管交換】	○担当が中心となって、日常のおよび定期的な安全点検を実施し、現在、施設の瑕疵による事故0を継続している。課題に即した予算運用の視点では、上水槽の配管交換、教室のテレビの部分的な入れ替え、体育館の暗幕の入れ替えを実現した。	B	・トイレの臭い問題は継続的に対処すべきと思う。

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
神根東小	組織運営	<p>○経営方針に基づいた教育活動のため参画意識をもち、校務分掌組織を充実させる。</p> <p>□温かい心の通う学級経営をする。</p>	<p>○教員に大小は問わずに一人一改革を奨励し意識させ、学校運営に対する参画意識を高めることができた。 （現時点での達成状況は93.3%）</p> <p>□教職員が丁寧に対応し、温かい学級づくりをしている。課題の発見、解決や個に応じた対応が速やかに行われている。不登校の児童への丁寧な対応は引き続き必要である。登校渋りから好転傾向になり、徐々に教室に入れるようになってきた児童もいる。</p>	<p>A</p> <p>B</p>	<p>・教職員の一人一改革を公表しながら取り組んだことは良かった。</p> <p>・児童一人一人が伸びている。</p> <p>・「この学校で良かった」思う学校である。</p>
	教育課程	<p>○授業時数の確保と学習内容の確実な定着、学びの共同体の推進・深化を図る。</p> <p>□家庭学習を有効活用した確かな学力の定着と向上を図る。</p> <p>△ICT（GIGAスクール構想）を活用した授業、学びの共同体の実践による学力向上を図る。</p>	<p>○授業時数は確保の見込み。質的管理においても聞き合い・認め合う授業の実践、ICT活用や情報共有等を工夫し概ね良好であった。</p> <p>○学力、体力ともに昨年度以上の結果が出た。</p> <p>□タブレット端末に関する内容を含む「家庭学習の手引き」を配布した。また、年度当初の懇談会にて担任より説明もした。</p> <p>△タブレット端末活用もしながら「学びの共同体」の実践ができた。</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>・「学びの共同体」の取組をして学力向上が見られたのは良かった。グループで学習する形態は、授業に向くスタンスになるし、グループのメンバーで協力し合う、コミュニケーションを取る等ができる。</p> <p>・自由に発言できる双方向の授業になっている。</p> <p>・学年に合った学習展開で分かりやすい。</p> <p>・体育は、いつもの指導が生かされている。</p> <p>・特になし</p> <p>・タブレットの使用が素晴らしい。自分たちで使いやすく操作できている。</p>
	開かれた学校づくり	<p>○情報発信と評価・改善を確実の行い、「保護者から信頼され、地域とともに歩む学校づくり」を推進する。</p> <p>□保護者、地域の学校応援団の有効な活用を進める。</p>	<p>○委員の皆様へ学校運営協議会に関する情報を配布し、学校経営に理解を得ることができた。学力向上や避難所開設、学校PR、いじめ対応等については親身にご意見をいただけた。</p> <p>○毎週1回の学級通信を発行した。HPも改善しているが、更なる内容検討、更新頻度の向上が必要である。</p> <p>□登下校の見守り、安全面での学習支援（植物の学習、地域での学習）を保護者にしていただいた。学校応援団としては、植物の学習、読み語り、書初め指導、福祉の指導、昔遊び等で入っていただいた。</p>	<p>A</p> <p>B</p>	<p>・特になし</p> <p>・外部指導者を招聘しているのが良い。児童の能力を育てることに繋がる。</p>
	教職員の資質向上	<p>○学校課題研究の取組とおとして、教職員の指導力を向上させる。（学びの共同体）</p> <p>□服務の厳正を図り、教職員事故防止の徹底を行う。</p>	<p>○「学びの共同体」の授業を積極的に展開した。各教員がテーマを決め、研究授業も年3回実施した。（ブロックごと）外部指導者も招聘し、成果や課題が明らかになってきた。</p> <p>○道徳示範授業、特別支援教育示範授業（自立活動）を市内教職員に向けて実施した。</p> <p>○川口市優秀教職員に選ばれた教員が出た。</p> <p>□倫理確立委員会主催の研修会は年間30回実施でき、教育公務員としての自覚を促すことができた。また、新聞記事等も活用し、日常から指導してきた。</p>	<p>B</p> <p>A</p>	<p>・ICTの活用は先生方がフォーマットを適宜渡せている。</p> <p>・先生方の教え方が上手で指導が素晴らしい。</p> <p>・先生方の資質が上がってきている。</p> <p>・先生方が熱心で、児童を引き付ける指導をしている。</p> <p>・板書が素晴らしい先生がいる。</p> <p>・特になし</p>
施設・設備等の管理	<p>○健康に係る衛生管理と、安全管理を確実に進める。</p> <p>□教育効果を高める備品の購入、修理修繕を行う。</p>	<p>○安全点検の実施と毎日の管理職の校内巡回により、要修理箇所の速やかな対応が図れた。</p> <p>○感染症等に対応した衛生管理、指導と教科指導の共通理解・共通指導ができた。</p> <p>□教育効果に関わる備品購入や校舎等の老朽化に対応した修繕を計画的に実施できた。</p> <p>（落下防止のビス取付、老朽化した配管の修繕、危険な投てき板の撤去、図書室の机の修繕、理科室照明のLED化 等）</p>	<p>A</p> <p>A</p>	<p>・体育倉庫の整備は「見える化」がされており、安全性も保たれていて、素晴らしい。</p> <p>・LED化して理科室が明るい。</p> <p>・施設が古い。今の子どもに合った環境を整えた方が良い。</p> <p>・子どもや先生方にとって気持ちの良い空間にしてほしい。</p>	

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
朝日東小	組織運営	○人材育成を基盤とした校務分掌や教科担任制等役割分担の徹底。意欲喚起による教職員の経営参画意識の醸成に加え、経営方針をP D C Aサイクルに反映させて推進する活力ある学校経営の確立	○教科担任制を活用することで、教科主任が責任を持って業務を完遂する等リーダー育成に繋がった。 ○学校行事の充実が、教員一人一人に自信と責任感を育み、成長へと繋がった。 ○半数の教員がP D C Aサイクルを活用した学級経営を行い、見通しを持って様々な教育活動に取り組むことができた。	B	・経営参画意識の高揚を図るための、教科担任制を軸に、企画委員会や教科部会等ミドルリーダーが力を発揮できる場面を創り出したことは良かった。 ・しかし、教員によっては意識・意欲に差が見られることも事実。意識の低い教員をどう育てるかが、今後の課題。
	教育課程	○主体的・対話的で深い学びを軸とした授業実践 ○教科担任制の充実とGIGA端末稼働率向上、朝東っ子S D活用による学力向上 ○教科担任制による積極的な生徒指導の充実と教育相談体制の確立	○教科担任制推進による教科指導の充実、児童の「分かった」「できた」の声の増加、複数の目で見守る体制整備、悩み等S O Sの早期発見・対応 ○朝東っ子スタンダードの活用とGIGA端末の稼働率向上 ○生徒指導・教育相談、インクルーシブ教育、日本語指導や地域連携の充実・機能向上	A	・教科担任制による指導で、子どもたちの学力に伸びが見られ、学習に対する主体性も高まっていた。 ・教科担任制や専科教員による指導体制は素晴らしい。複数の目で観察するメリットは多い。次年度も一層の充実を図ってほしい。 ・文化の違う外国籍児童への指導・支援についても、継続した取組を！
	開かれた学校づくり	○「学校で学び 家庭でしつけ 地域で育む 朝東っ子」実現を目指した繋がり復活等、保護者・地域との連携の一層の強化 ○保幼小中の連携教育の推進	○学校応援団や地域の方々からの理解と協力が深まり、子どもたちの健やかな成長を後押しした。 ○学校だよりやH P、学校公開や視察日、参観日等様々な手段で、本校の教育活動を広く広報できた。 ○常時関係機関との連携も図れたため、該当児童・家庭の情報が共有され、漏れのない支援に繋がった。	A	・P T Aの受賞により、これまでの取組が認められたことは良かった。 ・地域資源のより一層の活用を。もっとも地域に依頼をしてほしい。依頼があれば、我々はいつでも協力する。 ・不登校対策や防犯対策として、校地内に地域の人たちがつづげる部屋を設けてほしい。何でも協力する。
	教職員の資質向上	○常に学び続ける教師を目指し、教育公務員としての幅を広げ、自覚と力量を高めることで教師力の一層の向上 ○組織として機動力を向上させるチームワークづくり	○今年度、様々な教育活動の発展・深化により、教員一人一人が多くの業務を経験し、力量向上が図れた。 ○一方、今年度も、課題を抱えた教員への対応や支援には課題が生じた。組織での取組や、関係諸機関との連携の必要性を痛感した2年間だった。	B	・先生方の表情が明るく、良い雰囲気だったので、子どもたちも嬉しそうだった。 ・課題がある教員については、指導するか配置転換してほしい。 ・働き方改革を踏まえたうえで、従来の学校文化の継承を！
	施設・設備等の管理	○「安全・安心」に視点をいた安全管理の徹底 ○継続した修繕、効率的な予算執行	○報告或いは発見次第、可能な限り修繕を行った。また、毎日一回は校内を巡視し、施設の状態確認、早期発見と迅速な改善に努めた。 ○施設の老朽化と縮小された予算内では治しきれない修繕箇所が多数ある。加えて、素人では判別できない危険箇所については、どう安全を担保していくかが今後の課題。	B	・修繕件数が増加傾向にあることや、公民館との併設による防犯対策・安全な学校づくりを目指すなら、校舎を建て替える必要性が高く、すでにその段階にあると考える。 ・敷地境界に立つブロック塀の増築や、防災倉庫の、校舎2階への移設を要望したい。

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
芝富士小	組織運営	<p>○職員一人一人のモチベーションを十二分に生かした学校経営を行う。</p> <p>・学校評価（教職員）の該当項目⇒A+Bで100%</p> <p>□児童一人一人に寄り添った学校経営を行う。</p> <p>・不登校児童数・欠席日数3割減</p> <p>・いじめ解消率100%</p> <p>・むし歯治療率70%</p>	<p>○学校評価（教職員）91.6%</p> <p>①学年配置や校務分掌は、児童の実態や職員の希望・経験年数・得意分野等を考慮し、育成の視点も加えて決定。②当初面談・中間面談・最終面談を全職員と実施。前例を変える際は、他校の情報を集め、職員の意見を調整しながら決定。</p> <p>□不登校児童数・欠席日数10人620日⇒7人427日(12月末現在) ◇いじめ解消率100% ◆むし歯治療率62.1%</p> <p>①登校渋りの児童には、家庭訪問・別室対応・オンライン授業など保護者と連携しながら細やかに対応中。②③発達特性が疑われる児童には、S Cや巡回教育相談を積極的に活用した。I C T支援員の活用は軌道に乗ってきた。④講演や養護教諭による指導等により啓発を行った。</p>	<p>B</p> <p>B</p>	<p>・授業参観では先生方も子供たちも一生懸命やっていた。授業の様子は年々良くなっている。先生方の指導の積み重ねの成果。</p> <p>・見守りで毎朝正門に立つが、笑顔で元気の良い挨拶ができる子が多い。「○○さん、おはようございます！」と名前をつけて深々とお辞儀をする子もいる。大変気持ちが良い。先日地域の方から「芝富士の子が挨拶をしてくれて嬉しかった」と聞き、私も嬉しかった。</p> <p>・グリーンボランティアで作業をしていると挨拶してくれる。「いつも有難うございます」などと声をかけてくれる子もいる。先生方の姿勢が子供たちに浸透している。</p> <p>・不登校は今何人いて、どういう状況か。何代か前の大澤校長は、不登校の子を朝迎えに行き連れて来たり、ボランティアが細仕事をしていると「給食を食べていって」と声をかけてくれたり、校長室に子供が遊びに来たりしていた。ああいう先生はなかなかいない。</p>
	教育課程	<p>○教職員の授業力・学級経営力の向上を通して、児童一人一人の学力・体力を向上させる。</p> <p>・県学テ</p> <p>4年国算：県平均+2点 5年国：+5点、算：+2点 6年国：+2.5点、算：+5点</p> <p>・新体力テスト</p> <p>A+B+Cで70%以上</p> <p>□本校の実態に合った日本語教室の運営体制を確立する。</p>	<p>○◆県学テ 国：4・6年は県平均に満たず。5年+2.6。算：小4・5年は県平均を超えた。6年+6.7。</p> <p>◆体テ A+B+Cで66.6%</p> <p>①年4回の授業参観・指導助言は予定通り実施。②教科担任制は4年生以上で実施。算数の習熟度別指導は実施できず。③「GRITの育成」教科領域は各自選択、2学期に1人1授業公開。④体育の授業開始時に自校体操実施。20分休みに持久走や縄跳び、体育委員による特訓講座を実施。</p> <p>□①サバイバルコースとそれ以外の児童用基礎コースによる指導体制の確立に向け、試行錯誤中。引き続きカリキュラムや教材の整備を進める。</p>	<p>B</p> <p>B</p>	<p>・毎日新聞に芝園団地と芝富士小の特集記事が出た。学校では、日本語だけでなく文化や風習も学んで欲しい。そして、芝富士で育ったことがアイデンティティにつながったと思ってもらえたら嬉しい。</p>
	開かれた学校づくり	<p>○学校と家庭・地域が一体となって子供を育成する環境を実現する。</p> <p>・学校評価（保護者・関係者）の該当項目⇒A+Bで95%</p>	<p>○学校評価（保護者）93.6%</p> <p>①学校だより・学級通信・HPIにより児童の様子を積極的に発信した。HPIは週2回ペースで計画的にUP、保護者からも好評を得た。②学校応援団は本校の特徴の1つ。見守り・読み聞かせ・畑果樹・環境整備等、日常的に地域の方の協力が得られている。③PTA改革には着手できていない。役員と他校の情報を共有、検討中。</p>	<p>B</p>	<p>・授業参観も多く、開かれた学校になっていると思う。</p>
	教職員の資質向上	<p>○職員一人一人の危機管理意識を高め、事故ゼロを維持する。</p> <p>・職員事故ゼロ</p> <p>□「芝富士小業務改善スタンダード」を推進し、職員にとって働きやすい環境をつくる。</p> <p>・時間外勤務80時間超の職員ゼロ</p> <p>・時間外平均在校時間30時間以下</p>	<p>○職員事故ゼロ</p> <p>①事故防止研修は、職員会議や職員集会の時間を利用して計画的に全員で実施。②個々のアンガーマネジメントと「手伝おうか？」「それはまずいよ」と言える職員室の雰囲気醸成する。</p> <p>□80時間超ゼロ、時間外平均在校時間24.18</p> <p>①出欠席はforms、集金はゆうちょ銀行の引き落としを継続。通信等は2学期からmailioでデータ配信とした。②通知表所見は学年末のみ、代わりに1・2学期は個人面談を実施。プレミアムフライデーは取得者が少なかった。</p>	<p>B</p> <p>B</p>	<p>・芝富士の先生方は100点満点で99.9点。「学校の先生が？」と思うこともあったが、一生懸命頑張っている。</p> <p>・特になし</p>
施設・設備等の管理	<p>○計画的な修繕の実施と安全な教育環境の維持に努める。</p> <p>・施設事故ゼロ</p> <p>・校内の不要品ゼロ（3年計画）</p> <p>□適切な予算運用と会計事務の実現を図る。</p> <p>・会計事故ゼロ ・未納ゼロ</p>	<p>○施設事故ゼロ ◆断捨離は計画的に進行中。</p> <p>①トイレの臭いと雨漏りに苦慮。1階渡り廊下の不審者対策は教育総務に相談済。1クラス増の準備に伴う校内の引越作業は予定通り。②PTAに相談、検討中。③計画的に進行中。</p> <p>□会計事故ゼロ ◆教材費・給食費未納数。</p> <p>①転出入が大変多く、事務手続きや会計の清算等が煩雑でミスに繋がりがやすい。慎重に複数で進める。②スルーせず粘り強く対応中。</p>	<p>B</p> <p>B</p>	<p>・特になし</p>	

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
前川東小	組織運営	<p>○特別支援学級開設を円滑に行う。児童の特性に合った交流と支援を実現する。</p> <p>○児童が「安心して学べる」、保護者が「安心して任せられる」学校づくりを実現する。</p>	<p>○管理職への報告・連絡・相談・確認の連絡体制を確立し運営委員会、各会議を中心に、運動会や音楽会、開校記念集会等の全校行事を円滑に行うことができた。運動会の11月開催など、新たな形での教育活動を確立できた。</p>	B	<p>・年ごとの検討課題が一つ一つ整理され、改善されている様子が見られ、良い方向に進んでいると感じる。</p> <p>・特別支援学級の充実、教育の多様化という観点からもさらなる充実を期待する。通常学級の児童にとっても特支の児童との交流を通じて共生を当たり前のこととして、受け入れられるようになってほしい。運営協議会時に会えてよかった。</p> <p>・特別支援学級の読み聞かせも始まった。地域ボランティアとの交流もできてよかった。</p> <p>・教育改革は多岐にわたり、激動期に入っている。一人で背負わないことを含め、先生方が埋没しないことを祈る。</p> <p>・年ごとの検討課題が一つ一つ整理され、改善されている様子が見られ、良い方向に進んでいると感じる。</p>
		<p>□「一人で背負わない」生徒指導・教育相談組織的体制を構築し、独自の関係機関早見表を改善して作成、活用し全教職員の知識と実践力向上を実現する。</p>	<p>□「一人で背負わない」生徒指導・教育相談組織的体制を構築し、複数対応を徹底することができた。</p> <p>□本校独自の関係機関早見表を作成、活用し不登校児童支援率100%を達成した。</p>	A	
	教育課程	<p>○学校研究を軸としながら全教育活動において、児童の非認知能力（自己肯定感、自己効力感等）を育成する。</p> <p>□各種学力・学習状況調査のデータ分析を生かして授業改善を行う。</p>	<p>○研究推進委員会を中心に、一人一授業や講師を招聘した授業研究、ICTを活用した授業の展開等により、非認知能力育成を重点とした授業改善を実行できた。</p> <p>□県学力・学習状況調査のデータ分析により、個別最適な支援の仕方を共有、実施することができた。</p>	B B	<p>・日本語学級の指導が機能していて良いと思った。</p> <p>・外国籍児童、発達支援を必要とする子供の数が増加している中で、職員数の問題も含め大変なことと推察する。丁寧な取組の姿勢に頭が下がり感謝する。</p> <p>・GIGA端末の活用効果は不明であるが、紙による指導も継続する必要性を感じる。個々の身体能力をきちんと使う必要がある。</p> <p>・外国籍児童の対応については、学校単位の対応には限界がある。行政による早急な対応の必要性を強く感じる。</p>
開かれた学校づくり	<p>○地域・保護者、関係機関と学校の課題を共有しながら「安心・安全」な学校づくりを実現するとともに、家庭や地域に積極的に情報を発信する。</p> <p>□保護者、地域、外部機関等の教育力を持続可能な形で取り入れ、「本物に触れる」教育活動を確立する。</p>	<p>○地震を想定した4町会合同の避難所開設訓練を本校で行い、町会防災担当者とともに非常時に迅速に対応できる体制を整えられた。</p> <p>○町会主導の放課後子供教室である「前川東小まなびっ子クラブ」を開設し、地域連携が大きく進んだ。</p> <p>□前川商店会や地域の消防団等、地域の方々を講師として、地域連携推進担当等を中心に継続可能な実施方法で「本物に触れる」教育活動を確立することができた。</p>	A A	<p>・保護者の方が先生とお話している姿をよく見かける。距離の近さを感じる。</p> <p>・町会でテントを張る協力などを得るのはよい取組である。</p> <p>・避難所開設時の防災用具の実際の使い方を知る機会が必要。</p> <p>・学校応援団の活用において、各町会長にあてた感謝の手紙に町会長になりたいとあり、感謝の気持ちと次年度も学校応援団として頑張っていく気概を得た。</p> <p>・学校ホームページのトップ等、改善が必要である。目的の手紙になかなかたどり着けない。</p> <p>・生活様式に変化が生じている状況下で、何を残し、何を新しい形で取り入れ全体を整えていくかについて、学校としての工夫が見られる。</p> <p>・「相談しやすい体制」の保護者評価76%には、保護者の認識と関心の差を感じる。</p> <p>・相談しやすいように工夫が必要である。</p> <p>・「昔遊び教室」等の開催は児童にとって興味があることと思う。</p> <p>・特別支援学級の設置はインクルーシブ教育への前向きな取組として評価できる。</p>	
教職員の資質向上	<p>○互いのよさを吸収しあい、指導力を高め合える教職員集団を形成する。</p> <p>□児童、保護者、地域に信頼される、高い倫理観をもつ教職員集団を形成する。</p>	<p>○非認知能力育成を重点とした授業改善を実行することができた。「先生は分かりやすく丁寧に教えてくれる」の児童アンケートに対して、96.1%を達成した。</p> <p>□時節に応じた事例研修や研修プログラムの実践を行い、教職員事故0を達成することができた。</p>	A B	<p>・年ごとの検討課題が一つ一つ整理され、改善されている様子が見られ、良い方向に進んでいると感じる。</p> <p>・働き方改革で時代が大きく変わり、ワークライフバランスで地域との交流が大事になっているように思われる。</p> <p>・ぜひ、子供たち一人一人と関わる時間を多くしてほしい。</p> <p>・先生方の働きやすさを考え、健康に留意していただきたい。</p> <p>・教職員の希望者が減少している。働き方改革は喫緊の課題である。</p> <p>・教職員事故0が素晴らしい。</p>	

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
	施設・設備等の管理	<p>○高い危機管理に基づいた安全な学校づくりを実現する。</p> <p>□優先順位を見極めた予算運用と予算執行状況の定期的な確認を実施する。</p>	<p>○地震に伴う引き渡し訓練の改善等、実際に想定してマニュアルを改訂できた。また、各担当による日常の安全点検で発見した危険個所に即時対応できた。（校庭・体育備品等）</p> <p>□予算執行について複数で確認し、計画に基づいた執行を適切に行うことで、会計事故0を達成することができた。</p>	<p>B</p> <p>A</p>	<p>・校内のどこを見てもきれいに管理されている。校務員さんにも感謝。</p> <p>・安全管理は全般的に行き届いている。</p> <p>・校舎外のバリアフリートイレの設置を要望したい。</p> <p>・児童を守るため、今後も危険箇所の対応をお願いする。</p> <p>・開校50年を過ぎ、老朽化が進んでいる。修繕の対応を引き続きお願いする。積極的な設備改善は予算次第。</p> <p>・近隣ではトイレ改修が進んでいる。本校も少しずつ改修できないか。</p> <p>・年ごとの検討課題が一つ一つ整理され、改善されている様子が見られ、良い方向に進んでいると感じる。</p> <p>・ユニバーサルデザインに基づく設備は、誰もが平等に教育を受ける権利の実現として積極的に進められることを期待します。</p>

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
柳崎小	組織運営	<p>○多様化する諸課題を解決するために、教職員一人一人の力を最大限に発揮できる組織づくりをする。</p> <p>□児童にとって安心安全な居場所づくりをする。</p>	<p>○「ワクワクと優しさがあふれる柳崎小学校」を具現化するために、前年度踏襲にとられず、目的や根拠を大切に教職員の主体的な学校運営参画が増えた。</p> <p>□教職員一人一人が主体的に取り組むことで、生徒指導上の課題に対して迅速かつ組織的に対応することができた。</p>	<p>B</p> <p>B</p>	<p>・例年通りでなく、変えていこうとする変化がみられる。学校組織がしっかりしているからできることである。</p> <p>・97%の教職員が、校長を中心に学校教育目標の達成に向けて取り組んでいると答えていることはすごいこと。</p> <p>・教職員も子供たちも明るく、活気がある。</p>
	教育課程	<p>○「令和の日本型学校教育」柳崎小バージョンを構築して、児童も教職員もワクワクする教育活動に取り組む。</p>	<p>○「学力向上」委嘱研究発表を通して、P D C A サイクルによる学校力、組織力の向上が図られた。</p> <p>○学校課題であった I C T の効果的な活用を、全校を上げて強化し、実践することができた。</p>	<p>B</p>	<p>・学力低位層や外国籍児童への手立てが大切である。</p> <p>・効果的な I C T の活用が増えることは当然だが、児童への体や心への影響は心配である。</p>
	開かれた学校づくり	<p>○地域や保護者との連携により「信頼される学校」「地域とともにある学校」をつくる。</p> <p>□中学校区の学校の連携を進め、児童生徒の健全育成に取り組む。</p>	<p>○保護者や地域の方々と直接話をする機会を大切にしてきた結果、学校を応援してくれる理解者・協力が者が増えている。</p> <p>○P T A 活動等、意見交流の場を設け、現状に合った持続可能な組織づくりに着手することができた。</p> <p>□地区の学力向上担当や生徒指導担当が集まる機会が増え、連携協力の足掛かりとなった。</p>	<p>B</p> <p>A</p>	<p>・今後のP T A 活動については、子供たちにとって、よりよい活動になるよう協議を重ねることが大切である。</p> <p>・開かれた学校と安心安全な場所ということのバランスが難しいと感じる。</p> <p>・安全対策会議で情報交換しながら、子供たちを見守る活動は充実している。</p> <p>・特になし</p>
	教職員の資質向上	<p>○教育のプロとしての責任と自覚、使命感をもった教職員を育てる。</p>	<p>○教職員一人一人が目的意識を持ち、主体的・対話的に学校運営に関わろうとする向上心が高まった。</p> <p>○日々の校内巡視や教室訪問を実施することで、教職員が抱える課題を把握することに役立った。</p>	<p>B</p>	<p>・教職員に活気があり、がんばっている様子がわかる。</p> <p>・多種多様で困難な対応に追われ、心身の疲労が心配なので、ケアしてほしい。</p> <p>・先生方の子供たちへの接し方が、根気強く、冷静に対応しているので頭が下がる。</p>
	施設・設備等の管理	<p>○老朽化した施設設備を大切に使いながら、危機管理を徹底して、施設設備の事故ゼロにする。</p>	<p>○老朽化が進む施設設備の改修や改善が効果的に図られた。</p> <p>○諸表簿や金銭管理の事故防止に向けて、教職員が主体的に取り組むことができた。</p>	<p>A</p>	<p>・建設から50年以上が経過し、老朽化しているが、災害時の避難所にもなっていることを考えると、日々のメンテナンスと安全確認が大切である。</p> <p>・トイレが清潔に見える。</p>

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
芝樋ノ爪小	組織運営	<p>○学校課題に対する共通理解・共通指導に基づく組織的対応を実現する。</p> <p>□本校校訓「至誠」の具現化を実現する。</p>	<p>○全教職員の共通理解による組織的対応が定着してきたが、そのとらえ方には個人差を感じる。引き続き徹底していく。</p> <p>□本校校訓「至誠」の教職員への反映、行動規範としての至誠については未だ道半ばである。引き続き教職員の意識改革を推進し、参画意識の向上へと結ぶ。</p>	<p>B</p> <p>B</p>	<p>・推進委員会が新設され、とてもよい。</p> <p>・実現させてほしい。</p> <p>・学力・体力・徳力向上推進委員会の活動や成果が目で見えてわかる状況にしてほしい。</p> <p>・前年度より向上している。</p> <p>・若手教員の意識向上を継続してほしい。</p> <p>・保護者にも伝わる具体的な姿を示すことは大変なことと思うが、引き続き推進してほしい。</p>
	教育課程	<p>○児童の学力を見取るための標準化された学力検定の研究を継続するとともに、児童の学力向上に資する取組を一層充実させる。</p> <p>□「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善を推進する。</p>	<p>○1日3回以上の教室訪問、新規取組である学力検定を学期末ごとに実施した。1学期・2学期の結果を比較すると学力に伸びが認められたが、初年度のため、その分析までには至らなかった。</p> <p>□一単位時間の教室訪問を6月・11月に実施した。訪問後、授業ごとに評価票に基づく個別のフィードバックを実施し、各教職員の授業に係るPDCAサイクルの確立を実現できたが、授業改善までに至っていない教員も少なからずいるのが現状である。</p>	<p>B</p> <p>B</p>	<p>・改善への道筋がはっきりしている。</p> <p>・学力向上に向けてよい取組である。効果に期待している。</p> <p>・児童との信頼関係を感じている。今後の学力分析に期待したい。</p> <p>・向上を目指した方針がはっきり示されている。</p> <p>・外国籍児童の増加により、難題であると思うが、児童の理解力を高める対策をお願いしたい。</p>
	開かれた学校づくり	<p>○学校・家庭・地域の連携体制を確立する。</p> <p>□学校運営協議会のさらなる充実により、「地域とともに歩む学校づくり」「地域に根差した学校づくり」をより一層推進する。</p>	<p>○学校HPの更新により、迅速な学校情報の提供の継続、川口市・蕨市内で発生した不審者情報の提供を継続できた。</p> <p>□2月1日までに授業参観・学校公開を6回、学校運営協議会を3回実施できた。併せて、より保護者や地域への情報公開を確実なものとするため、これまで平日実施していた1月の学校公開を土曜日へと変更した。</p>	<p>B</p> <p>B</p>	<p>・学校HPが日々更新され、授業や集会等の様子がわかりやすく発信されている。</p> <p>・地域にも見てもらえるよう、さらなる情報発信が必要である。</p> <p>・学校公開を土曜日に移行したことは保護者にとっても地域にとってもよいと思う。</p> <p>・金管クラブ再結成の要望が叶いうれしく思う。今後の活動に期待したい。</p> <p>・様々な制約の中で対応していることに感謝したい。</p>
	教職員の資質向上	<p>○学校課題研究を基盤とした個々の教員の指導力向上を実現する。</p> <p>□心身ともに健康で、高い倫理観を備えた教職員集団の形成を実現する。</p>	<p>○新たな組織を編制、新たな研究主題を設定した。研究授業・授業研究会を設定し、授業場面に応じた課題解決のための手立てを検討、実践したが、全教職員の共通理解までにはまだ課題が残っている状況である。初年度となる今年度は教師相互の主体的な学びには到達できなかった。</p> <p>□心身の不調により長期病気休暇を取得した教職員はいなかった。倫理確立委員会、教職員事故防止研修会、短時間研修の継続により、教職員の危機意識、当事者意識の高まりを感じた。教職員事故ゼロを実現した。加えて、教職員の在籍時間に減少傾向が見られた。</p>	<p>B</p> <p>A</p>	<p>・継続してほしい。</p> <p>・自己評価でもAと感じられるよう、個々の指導力向上を実現してほしい。</p> <p>・教師相互による主体的な学びにつながるとよい。</p> <p>・取組が評価されている。継続してほしい。</p> <p>・地域連携を含めた改善の取組ができることに期待している。</p> <p>・効率を上げて成果となるようより一層力を尽くしてほしい。</p>
	施設・設備等の管理	<p>○教職員の「変化に気づく」危機管理意識を向上させる。</p> <p>□教育環境の整備・充実のため、計画的・効果的に予算を執行する。</p>	<p>○全教職員による定期・臨時・日々の安全点検を実施した。加えて、熱中症・感染症対策を実施し、教職員の危機管理意識を高めることができたが、教職員の意識には個人差を感じる。</p> <p>□管理職による1日3回以上の校内巡視により、修繕必要箇所の早期発見・即時対応を実現できた。計画的、効果的に適切な予算執行を継続した。</p>	<p>B</p> <p>A</p>	<p>・危険箇所を早期発見し、事故の未然防止をお願いしたい。</p> <p>・多方面にわたり、児童の見守りをお願いしたい。</p> <p>・安全面では基準を明確に対応してほしい。</p> <p>・管理職による校内巡視は安心感を得ることができる。</p> <p>・トイレ改修について検討してほしい。</p> <p>・早期発見に加え即時対応ができるのはすばらしい。</p>

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
新郷南小	組織運営	<input type="checkbox"/> 若手教職員や経験の浅い教職員を中心に、教育力を向上させる。 <input type="checkbox"/> ベテラン教職員と若手教職員を結びミドルリーダーを育成する。	<input type="checkbox"/> 年次研修等を確実に受講させるとともに、市教委より研究委嘱を受けている学校の授業研究会に、教員を割り振って参加させることができた。また、校内研修において、全教員が授業を公開し、協議を重ね、教職員一人ひとりの教育力向上につなげることができた。 <input type="checkbox"/> 校内ミニ研修を実施し、教員が指導に取り入れて効果があったことなどを共有し、若手教員の育成につなげることができた。また、ミドルリーダーを校内分掌の重要ポストに抜擢することで、学校全体を見渡す視点が育ち、学校運営参画意識の向上につながった。	B B	・円滑に研修が進められていると感じる。 ・人材不足の影響が懸念されるので、研修の重要性を鑑み、今後も継続してほしい。
	教育課程	<input type="checkbox"/> 新たな教育課程を円滑に実施する。 <input type="checkbox"/> 校内研修を計画的に実施し、主体的に学びに向かう児童を育成する。 ◇「個別最適な学び」に即した、授業改善に取り組む。	<input type="checkbox"/> 各教科の未履修を起こさず、計画的に学習が進められている。サマースクールを授業カウントすることで、些少ではあるが、授業時数の確保につながった。また、学校行事も滞りなく実施できている。 <input type="checkbox"/> 年3回の全体授業研究会を柱に、全教員が公開授業を実施し、主体的に学びに向かう児童の育成に取り組むことができた。また、自由参加型のミニ研修を随時実施し、教員の指導法スキルの向上に取り組んだ。 ◇高学年における教科担任制、高・中学年におけるローテーション道德を実施することができ、より深い教材研究による授業を展開することができた。また、G I G A 端末を中心に I C T を学習に導入し、効果のある授業に取り組むことができた。	A B B	・円滑に教育課程が進められている。 ・工夫された授業が展開され、児童は、落ち着いて、しっかりと授業を受けている。 ・I C T の活用が進められており、活用の良さも感じるが、失われるもののさびしさも感じる。
	開かれた学校づくり	<input type="checkbox"/> 教育活動の様子を積極的に発信し、保護者や地域の理解、協力を得る。 <input type="checkbox"/> 学校と保護者・地域の架け橋として、学校運営協議会を活性化させる。	<input type="checkbox"/> 保護者向けの連絡帳アプリ「コドモン」を活用し、必要な情報を随時発信することができた。学校ホームページの更新については学校評価でご指摘をいただき、その改善を図ることができた。学校応援団については、団員数が増加し、学校応援団活動が円滑に取り組まれている。 <input type="checkbox"/> 計画的に学校運営協議会を開催することができ、そこでいただいたご意見を参考に、学校経営に取り組むことができた。	B A	・ホームページ等の更新が大変だと感じ、専任者がいれば良いように思うが、人材不足の現状から、難しさを感じる。 ・学校運営協議会が円滑に進められており、今後も継続することで、地域とのつながりを太くできれば良いと思う。
	教職員の資質向上	<input type="checkbox"/> 当事者意識を醸成し、教職員事故を絶対に起こさない。 <input type="checkbox"/> 時間外在校時間において、前年度比10%以上縮減を達成する。	<input type="checkbox"/> 計画的な研修を実施することができている。また、県内を中心とした教職員による不祥事の情報を、校長の意見や考えを添えて教職員に配付し、当事者意識の醸成を図ることができた。 <input type="checkbox"/> 現状、前年度比約13%の時間外在校時間の縮減を達成している。しかし、全教職員が県が定める目安を達成することは、難しい状況であり、業務量に個人差を感じている教員もいる。	B B	・不祥事防止に向けた当事者意識の醸成や働き方改革が、円滑に進められていると感じる。 ・昨今、教員は様々な対応を求められているので、カスタマーハラスメントについての研修を行うと良いのではないかと考える。
	施設・設備等の管理	<input type="checkbox"/> 安全点検に基づく施設・設備の改善に取り組み、児童の安心・安全な生活を保障する。 <input type="checkbox"/> 年間を見通した計画的な集金業務を行い、会計事故を起こさない。 ◇個人情報管理規定を見直し、情報管理を徹底する。	<input type="checkbox"/> 各点検等を確実に実施し、危険個所の早期発見・早期対応に取り組むことができた。また、優先順位をつけて施設・設備の改善に取り組んでいるが、高額なものも多く、遅々として進まない現状がある。 <input type="checkbox"/> 集金業務アプリ「エンペイ」を活用し、概ね遅滞なく集金業務が進められている。また、集金内容を教頭や事務職員と確認し、他に必要な教材・教具等を、学校予算を活用して対応することができている。 ◇校内規定を見直し、検討・改善に取り組んでいる。あわせて、不祥事防止と絡め、全教職員に個人情報管理の必要性を説明し、徹底を図っている。	B A B	・施設の老朽化が否めない状況であるので、計画的に改修・修繕を進めてほしい。 ・新たな集金方法への移行を、滞りなく進めてほしい。 ・写真による情報発信の効果は高いが、個人情報管理の観点から難しさもあるので、パスワード設定等も検討すると良いと思う。

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達 成 度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
上青木南小	組織運営	<p>○持続可能な質の高い教育活動を組織的に構築する。</p> <p>□不登校・不登校傾向児童への個々の状況に応じた支援体制を確立し、不登校数を減少させる。</p>	<p>○各主任より目指す学校像から「つきたい力」を具体的な児童の姿で提示し、全職員で共有した。プロジェクト部内で役割の分担・補完を進めたことで、教育活動の改善を図ることができた。</p> <p>○自己評価面談、日常的な授業観察や研修等を通じ、教職員の良さや強みを共有し、授業実践につなげることができた。</p> <p>◎教職員自己評価【学校運営参画意識96% 前年度より4%減】 【自身の取り組みA評価32% 前年度8%増】</p> <p>□生徒指導委員会を中心に対象児童や保護者へのアプローチを検討、推進することで、支援体制を構築することができた。</p> <p>□校内組織を軸に対応を検討し、上青木中、スクールカウンセラーとも連携し相談支援体制を構築することができた。外国籍児童については、家庭訪問をベースに、県立けやき特別支援学校等の専門的な助言を受けながら支援を継続している。</p> <p>◎不登校児童数【5名 前年度より1名減】</p>	<p>B</p> <p>B</p>	<p>・自己評価面談をはじめとして、教職員に対してきめ細かな聞き取りやフィードバックを行っていると感じた。これらの取り組みが組織運営を強化し、質の高い授業につながっていると評価できる。</p> <p>・引き続き、教職員の良さや強みを共有し、授業実践につなげてほしい。</p> <p>・非常に高いレベルで組織運営が行われていると感じる。教職員の自己評価も高く、意識をもって取り組んでいると思う。</p> <p>・多様性の問題に取り組みなければならぬ事に苦勞を感じます。</p> <p>・外国籍児童が増えていることもあり、不登校児童への対応が難しくなっていると思われるが、不登校児童数は学校運営のパロメーターの1つでもあり、校外の知見を活かし、支援を継続してほしい。</p> <p>・支援体制の構築、上青木中への進学を考えた上での連携等、とても良い事だと思う。</p>
	教育課程	<p>○学校課題の解決のため、創意工夫ある教育課程を展開していく。特に、国語、算数の学力向上のための授業の充実を図る。</p> <p>□教育計画の確実な実施と質の高い活動への改善を行う。</p>	<p>○市の学力向上の委嘱研究を要とし、各学力調査の分析により、特に中間層の引き上げや協働的な学び、読書環境の充実等を重視した授業改善を実施している。</p> <p>○市教育委員会の指導主事を招聘した研究授業を4回、全職員1人1授業を実施した。GIGA端末の効果的な活用を図りながら、授業改善を行うことができた。</p> <p>◎教職員自己評価【児童の学習意欲100% 前年度より18.7%増】 【自身の取り組みA評価22.7% 前年度3.9%増】</p> <p>□教職員が毎週設定する授業を中心に定期的に教室訪問と授業観察を実施した。自己評価面談等のまとまった時間を活用して指導・助言を行った。</p> <p>◎教職員自己評価【自己研鑽・指導力向上90.9% 前年度より3.4%増】</p>	<p>A</p> <p>A</p>	<p>・中間層の引き上げが功を奏し、学力向上委嘱研究の成果が表れていると感じた。また、GIGA端末が日々の授業に定着しつつあり、学力向上に寄与しているのではないかな。</p> <p>・学力向上の研究委嘱はとても良い機会であり、継続してレベルアップに取り組んでほしい。</p> <p>・授業参観では、子ども達に考えさせ、発言させる授業で感心した。考える力を向上させる取り組みはとても良いと思う。</p> <p>・外部講師を招くなど、社会とのつながりを積極的に推進している点が評価できる。</p> <p>・高学年の算数授業等、子どもの能力に合わせて進めていくことにもとても好意を持つ。子どもがつまずきやすい教科に取り入れていくとよいと思う。</p> <p>・教職員の自己評価が前年度よりアップしていることは、大変素晴らしい。</p>
	開かれた学校づくり	<p>○学校の教育活動を保護者、地域に積極的に発信し、信頼され、誇れる学校づくりを推進する。</p> <p>□学校応援団の活用等、保護者や地域と連携した教育活動を実践していく。</p>	<p>○学校運営協議会で授業公開や学校の運営状況を画像や数値を用いて説明することができた。関心を寄せていただいた、外国籍児童の状況について学力等様々な視点からその現状を分析し、学力向上の新たな手立てにすることができた。</p> <p>○学校だより、連絡アプリ（コドモン）により、日常的な教育活動の様子や児童の声を継続して情報発信することができた。</p> <p>□各学年で保護者の学習補助、学校応援団による外国籍児童への補助、外国語、理科の学習補助等を取り入れ、教育活動の活性化を図ることができた。</p> <p>□全学年に共通したテーマ（SNSの使い方）で懇談会の話し合いを行うことで、学校の課題を共有し、その対応について発信することができた。</p> <p>◎保護者学校評価【わかりやすく伝える A評価56.5% 24.9%増】 【教育活動に満足 A評価42.9% 4.7%増】</p>	<p>A</p> <p>A</p>	<p>・コドモンの活用は、保護者や地域との連携に大きく寄与している。写真付きはとてもありがたい。</p> <p>・教育活動を積極的に地域に発信していると思われる。コドモンを有効に活用しており、更に充実させてほしい。</p> <p>・手紙を出し忘れる子どもがいるので、コドモンの活用は良いと思う。また、学校の様子もわかりやすい。</p> <p>・町会の支援体制が十分でない部分もあるが、地域としても学校応援団等の広報に努めていきたいと思う。</p> <p>・教職員の人的資源が限られている中、保護者や地域の人々のサポートは極めて重要であり、積極的に活用してほしい。</p> <p>・学校応援団とPTAの違いが保護者目線で分かりづらい。活動内容を整理して、学校応援団とPTAの活動を周知していきたい。</p>

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
	教職員の資 質向上	<p>○ライフステージに応じ、教育技術を身に付け、広げる教師を育成する。</p> <p>□組織的に指導力を高める。</p> <p>◇働き方改革の推進及び教育公務員としての誇りと使命感をもった教職員を育成する。</p>	<p>○各学年で研究の視点や手立てを踏まえた取り組み目標を設定し、振り返りを行ったことにより、全職員が研究主題や手立てを意識し、指導力向上に向けての意識を高めることができた。</p> <p>□今年度から新たに全職員による週1時間以上の授業公開を過予定表に位置付け、それぞれの強みを共有し指導・助言を重ねたことで、教職員の能力の伸張を図ることができた。</p> <p>◎教職員自己評価【自己研鑽・指導力向上 90.9% 前年度より3.4%増】</p> <p>◇毎週職員同士で時間外在校時間を確認し、時間マネジメントの意識化を図ることができた。新規の業務改善の取り組みについては着実に実施することができた。</p> <p>◇計画的な倫理確立委員会の実施や教職員による研修の実施により、当事者意識をもった事故防止意識が高く維持されている。</p> <p>◎教職員自己評価 【働き方改革 95.5%】</p> <p>◎平均時間外在校時間【月31.53分 前年度より30分増】</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>・個人的には、「教科担任制」の実施に賛成している。先生方の得意分野の研究、研鑽を積んで頂き、より自信をつけて授業や子どもの指導を行っていただきたい。</p> <p>・教職員の意欲・能力により、児童への教育レベルに大きな影響を与えられる。教職員の資質向上は極めて大事であり、持続可能な形で引き続き指導力向上に向けて取り組みを進めてほしい。</p> <p>・次年度も先生方のやる気と活気のある上青木南小学校に期待する。</p> <p>・教えることは学ぶこと。その中身、量が多いほど、質がきつと高まると思う。</p> <p>・子どもだけではなく、大人も環境により「やる気」は左右されると思う。「指導力の向上」は組織的に高めることで、よい方向に向かっていくと考える。</p> <p>・子どもだけではなく、大人の本離れも顕著になっている中、学校内の至る所に本が手に取れる環境が整えられていることに开心した。この取り組みが子どもや教職員の読書習慣の定着につながることを期待する。</p> <p>・毎週水曜日のリフレッシュデーの実施を希望する。</p> <p>・「働き方改革」はとても大事ですが、「帰る為に働く」という姿が見えない先生方はとても素晴らしい。</p>
	施設・設備等 の管理	<p>○老朽化による危険箇所を早期発見し、安全対策を徹底していく。</p> <p>◇学校安全・事故防止・健康維持増進を重視した、計画的・効果的な予算運用を行う。</p>	<p>○今年度より新たに、PTA役員による安全点検のトリプルチェックを常任理事会に合わせて実施することができた。教職員も危機管理意識や安全意識を更に高め、点検、整備等が推進されたことで、施設事故ゼロを継続している。</p> <p>○日常的に校務員による細やかな修繕を行うことで、大きな修繕を未然に防止することができた。</p> <p>□予算に係る計画から執行まで、学年と事務職・管理職が連携し、確認体制のもと執行することができた。</p> <p>□職員玄関等の自動施錠、4階の転落防止柵、階段のヘリや手すりの修繕、ガラスの飛散防止、日本語指導教室へのエアコン移設、教室棟エアコンの特殊清掃等、安全・事故防止・健康に配慮した予算執行を実施することができた。</p>	<p>A</p> <p>A</p>	<p>・PTAを活用したトリプルチェックの実施は高く評価できる。今後も安全な学校環境の維持に努めていただけることを期待する。</p> <p>・安心・安全は最優先事項。もし、金銭的な理由等で必要な整備・改善ができないのであれば、評議員に相談してほしい。</p> <p>・危険箇所を早期発見し、日常的に修繕することで子ども達が安心して学校生活を送ることができると思う。今後も安全対策をお願いする。</p> <p>・今後、「医療が必要な児童」を受け入れることはあるのでしょうか。バリアフリーの整備にも興味がある。</p> <p>・川口市内の小学校体育館へのエアコン設置に向けて、学校から川口市に状況を確認してほしい。</p> <p>・今後も安全な学習環境の維持に努めていただけることを期待する。</p>

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達 成 度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
根岸小	組織運営	<p>○徹底した共通理解・共通行動ををともに、組織的運営を強化する。</p> <p>□各分掌主任の役割を明確にし、効果的な会議の運営を行う。</p> <p>◇働き方改革を推進し、適切な業務精選と、教職員の負担軽減を進める。</p>	<p>○年度当初、会議において、共通理解・共通行動すべき確認事項を確実に示し、ぶれが生じないようにした。各行事においては、確認事項を提案者が事前に心得た状態で提案できるよう指導・指示をし、実行した。</p> <p>○見えない仕事の見える化をし、業務の精選を行った。削減するだけでなく、必要なものは、コロナ以前やっていたものでも元に戻すなど取捨選択を丁寧に行った。</p> <p>○行事等は次年度の方向性、改善点を今年度内に明らかにし、次年度スムーズに進むようにした。</p> <p>□人事評価に係る当初面談でそれぞれの教職員の目標に即した手立てをより具体化し、中間申告において進捗を確認・指導して自身の考えや方針の具現化とやりがいを実感させる機会を多くもたせた。</p> <p>□企画委員会において、丁寧な協議を行い、職員会議までに準備ができるようにした。事前検討を行うことで、それぞれの立場における意見が出され、多角的に協議ができた。</p> <p>◇学級運営改善措置として、6学年の教科担任制は解除し、担任による教科指導の強化に徹した。</p> <p>◇1年生においては、教科担任制に加えて、算数で、少人数指導を実施し、算数における基礎・基本の定着を行った。</p> <p>◇学年の発達段階や教科の特性に応じて柔軟に教科担任制を実施した。</p> <p>◇行事における事前の業務見える化し、また、次年度以降のPTA改革も見据えて業務の精選をした。</p>	<p>A</p> <p>・共通理解・共通行動について、各個人に責任感を持たせ、それぞれ無理なく同じ目標に向かって進めるよう腐心されたと感じる。</p> <p>B</p> <p>・教職員を育てるという意味を強く感じる。</p> <p>・教職員自身がやりがいを持てるかどうかが大事である。</p> <p>B</p> <p>・1学年の少人数指導が大変良い取組である。</p> <p>・6学年について、都度話し合いをし、解決をしながら指導を進めるのがよい。</p> <p>・行事、日常業務、教育、保護者対応等多くのことに向き合う教職員の負担軽減ができるよう希望する。</p>	
		<p>○主体的・対話的で深い学びを推進する教育課程の工夫・改善を行う。</p> <p>□授業力向上に係る研修を充実させ、ねらいと評価を明確にできるような授業改善を行う。</p> <p>◇学習規律・生活規律を整え、落ち着いた環境で学習できるよう教員の学級経営力、生徒指導・教育相談力を向上させる。</p>	<p>○学びの共同体を中心に据えた授業実践ならびに研究協議を行った。教科毎にグループを構成し、自発的目付積極的な協議ができた。</p> <p>○各学年の学力について教員一人一人に示し、自身が指導する学年における課題とそれに対する取組を個々に考える機会を作った。実践については進捗の報告を受け、次年度につながる取組となっている。</p> <p>○1学年の週授業時数について1時間削減する方向で進めている。</p> <p>□「学びの共同体」を主軸とした研修では、研究授業を実施した。研究協議においては、グループ協議等も取り入れ、形態を工夫して実施した。</p> <p>□一人一授業を行い、互いの授業を見あいながら切磋琢磨できる環境を作ることができた。</p> <p>□生徒指導等学習指導に係る研修以外の研修についても、長期休業中の出勤日に設定し、計画的に実施した。</p> <p>◇年度当初の根岸小の決まりの確認をし、共通指導が確実にできるようにした。以降根岸小のきまりを見直し、改善をしている。</p> <p>◇学習規律・生活規律について各学年の発達段階に即した指導を行っているが、指導が浸透しない学年が一部あり、複数教職員を配置して対応した。</p> <p>◇学級の配慮が必要な児童や生徒指導案件について、チームで対応した。指導のすみ分けをし、児童が正当に評価され、自己肯定感が高まるよう指導支援した。</p>	<p>B</p> <p>・学びの共同体の効果を感じる。学力向上に今後も邁進するとともに、学力だけでは測れない児童の能力についても継続して伸ばしてほしい。</p> <p>B</p> <p>・児童の自発性、聞く姿勢、思いやりなどを引き出すことも大切である。</p> <p>・指導は、ほんの少しの量削減で大きく変わることを教員側が理解し、本質をしっかりとらえた指導に取り組んでいただきたい。</p> <p>B</p> <p>・平日の保護者の協力を得るのは非常に難しい時代になっている。いつも同じ方が協力するようなことになるので、引き続き協力依頼をしていく必要がある。</p> <p>・世間で様々な事案が発生していることを鑑み、やはり教育現場での規範意識の醸成は必要不可欠である。締め付けるのではなく、いかに児童が自発的に納得して社会性を身に付けられるかが肝である。</p>	
		<p>○家庭・地域との連携を一層深め、学校教育活動に生かす。</p> <p>□学校HP、学校だより等を効果的に活用し、学校教育活動を発信するとともに、家庭・地域の声を教育活動に生かす</p> <p>◇学校運営協議会において、学校教育活動並びに家庭・地域の教育活動への参画についての協議をし、一層の充実をさせる。</p>	<p>○外部人材の活用について、例年協力いただく方々には、今年度も変わらず協力いただき、充実した教育活動ができた。</p> <p>○保護者に協力いただく授業については、通知文や当日の打ち合わせ等学年の担当者を中心に丁寧に行った。</p> <p>□個人情報への配慮を確実にし、本校HPに教育活動の様子を掲載した。</p> <p>□学校だよりには、児童の様子が見える巻頭言を掲載した。また、学力向上関連や児童自身の自己肯定感を高めるための内容を記載し、保護者への啓発を行った。</p> <p>□コモンを活用し、保護者へのスピーディーな情報周知を行った。</p> <p>◇学校運営協議会を3回実施。学校行事への参観もしていただき、児童の活動の様子や教職員の指導の様子を直接みていただいた。</p> <p>◇学校における懸案事項や課題、教職員の働き方改革等多岐にわたり協議をしていただき助言いただいた。</p>	<p>B</p> <p>・外部人材を積極的に活用するという方針には大いに賛同する。ITや金融、法律などまだ早いだろうと思うようなことも専門家に指導してもらうことで知識の土台ができるのではないかな。</p> <p>A</p> <p>・HPデザインもレスポンスデザインになっていて携帯でも見やすい。教育の真面目な話や、思わずそうだったのか！と膝を打つような話はあるとさらに良い。</p> <p>・学校だよりの巻頭言に毎回感銘を受けている。</p> <p>B</p> <p>・一部の教職員に元気のなさを感じた。笑顔少なさが気になる。</p> <p>・児童には外部からの来校者に対しても元気に挨拶をしてほしい。</p> <p>・学校の苦労話や児童の最前線の話を首脳陣から直接聞く貴重な場として学校運営協議会は有効であった。学校運営協議会に提出する資料をまとめることによって、その時々状況の整理をするよい契機となればなお有意義である。</p>	

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
	教職員の資 質向上	<p>○人事評価制度を十分に活用し、教職員のキャリア段階に応じた資質・能力の向上を実現する。</p> <p>□研修を充実させ、教職員が共同し、「学び続ける教職員」を育成する</p> <p>◇教職員の倫理意識の維持向上をし、根岸小における「教職員事故ゼロ」を継続する。</p>	<p>○当初面談後、進捗をみとめるために、中間面談を全教職員に対して実施、目標に対する具体的な方策の実践状況を確認しながら管理職より指導・助言を行った。</p> <p>○教職員一人一人の経験年数等に応じたキャリア形成について本人の考えを聞きつつ指導・助言を行い、研修等への推薦もしている。</p> <p>○若手教職員や、今年度着任の教職員については、特に丁寧に面談を行い、安心して勤務できる職場づくりをした。</p> <p>□個人研究をするにあたり、同一教科を研究する教員でグループを構成し、チームで研究を進めるようにした。特に、指導案検討においては、様々な見方考え方をもって検討をし、積極的な研究を進めることができた。</p> <p>□教員一人一人の授業を参観し、良いところをほめ、改善点を指導し、次の授業への工夫改善へとつなげた。</p> <p>□各教職員のキャリアや本人の意向に沿って市教委外部の研修会の受講を積極的に進めた。</p> <p>◇不祥事防止プログラムを活用し、毎週倫理確立に係る指導・指示を行った。主として教頭が行い、プログラム以外にも新聞報道やチェックシート、県政ニュース等必要な時期に必要な資料を取り入れ効果的に活用した。</p> <p>◇職員の状態を鑑み臨時での職員集会を開いて校長より倫理確立に係る指導を随時行った。校長への指示伝達についても遺漏なく周知し、服務規律の徹底をした。</p> <p>◇1 on 1 ミーティングや日々のコミュニケーションを積極的に行いいつでもだれでも相談できる校長室とした。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>・大人を育てることは子供を育てるより難しい。特に初任者は、大学で学んだことがうまく活用できない場面においてベテランの教員のバックアップが力になる。それを系統立てて実行している様子がよくわかり淀みを残さずこぼさない対策がなされていると感じる。</p> <p>・研究協議等において、お互いの意見の応酬をいとわないチームが出来上がっているならこの上なく頼もしい。</p> <p>・先生方自身が成長していると自分で実感できるような現場になることが望ましい。</p> <p>・昨今のパワハラ・セクハラなどの事案が多発するにつれ、現場はますますそのようなことに敏感にならざるを得ず、ストレスも誘発するはずである。憩いの場所や肩の力が抜ける瞬間があるとよい。そのような場の一つとして、校長室あげられるのであれば先生方の精神衛生上大変有意義である。</p>
	施設・設備等 の管理	<p>○教職員による安全点検の精度を上げ、複数の目で確認をし、未然の事故防止を行う。</p> <p>□修繕の優先順位をつけ、計画的かつ迅速に修繕を行う。</p> <p>◇設備・備品の整理・管理の徹底と有効活用に向けた工夫改善を行う。</p>	<p>○定期点検においては、安全主任を中心に修繕を必要とする箇所を確実に報告し、すぐに対応ができた。</p> <p>○市内外の学校施設・設備に係る事故等があった時にはその旨周知し、安全点検や、注意喚起を行った。</p> <p>□小破修繕は原則即日対応をした。先々大きな修繕になりかもしれないような小さな不具合を見逃さず、計画的に修繕を行った。</p> <p>□計画的に修繕を進める箇所について、予算を鑑み、複数年計画で進めるよう指導・指示をした。電気関係と水道関係については大規模修繕になる場合も大いにあるため特に注意して修繕を行った。</p> <p>◇教頭・事務が連携して計画的な備品購入を行った。各教科等主任には、購入が必要な備品について長期・中期的な見通しのもと購入計画を立て、調整した。</p> <p>◇夏季休業中等を活用し、校内の教材等の整理をすすめた。体育備品については特に安全に配慮した整理を行った。</p>	<p>B</p> <p>A</p> <p>B</p>	<p>・放送機器等の専門機器や電気系統は専門知識が必要である。消防設備の点検のように定期的に音響・映像・IT機器関連業者による点検が入ることが望ましい。</p> <p>・本校の上水管、下水管の老朽化は大丈夫か気になるところである。安全衛生の担保は確実に行いたい。</p> <p>・学校で決めたルールには納得をもって従うことが必要である。先生方自身も納得をもってルールに従い、また、児童の指導にも生かしていただきたい。</p>

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園）自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達 成 度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
芝中央小	組織運営	<input type="checkbox"/> 目指す学校像の実現に向け、全教職員が共通理解・共通行動を取る。 <input type="checkbox"/> 一人ひとりの教職員がやる気とやりがいを持つことができる雰囲気醸成する。	<input type="checkbox"/> 教職員に常に目指す学校像を意識して取り組むことができよう、発信することができたが、見届けが不十分であった。 <input type="checkbox"/> 教職員一人一人が自分の分掌に取り組み、組織をしても推進することができた。	B A	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価等では、教職員と保護者の距離感を感じる。 教職員の共通理解、協力体制をもっと進めなければならない。 校長先生をはじめ、先生方も明るく優しくとても良い雰囲気組織運営がされている。 児童のやる気につながる取り組みがある一方、行き過ぎた指導もあり、学校全体で共有していく必要がある。 働き方改革を進めていくうえで、児童への対応を疎かになるのではなく、よりよい方向になる事が大切である。
	教育課程	<input type="checkbox"/> 本校の喫緊の課題である「学力向上」の取組を強化する。 <input type="checkbox"/> 「わかった」「できた」「楽しかった」と児童が実感し、自信につなげることができる授業を実践する。	<input type="checkbox"/> 国語・算数において学力が伸びたことは、研究の成果である。 <input type="checkbox"/> 児童が「できた・わかった・使えた」を実感する場面が多くみられた。	B B	<ul style="list-style-type: none"> 楽しい授業を日々考えながら対応している様子が目で見受けられる。 「できた・わかった・使えた」を実感している児童と教員の温度差がないような工夫 個別支援により、全体の学力向上につながっている。 学校と子供や保護者が求める行事の目標と内容に相違がないようにしてほしい。
	開かれた学校づくり	<input type="checkbox"/> 学校の教育活動に対する理解を得る取組を強化する。 <input type="checkbox"/> 保護者や地域の方々の考えを学校の教育活動に生かす。	<input type="checkbox"/> SRCの協力で、学校行事等で児童の様子を公開することができた。 <input type="checkbox"/> スクリルの活用により、情報発信ができた。主任児童員との交流はできなかった。	B B	<ul style="list-style-type: none"> 学校公開等では、保護者や地域の方々への思いや願いに答えるための連携強化に学校として真摯に向き合っており、欲しい。 保護者等が見学しやすい環境づくりを進めてほしい。 運動会において、リレー、徒競走、持久などの体力向上、競争心を養う取り組みを検討して欲しい 行事等においてもっと特色を出すことで、保護者からの理解を得られ、よくなると思う。 より分かりやすく、より迅速な対応を今後も続けてほしい
	教職員の資質向上	<input type="checkbox"/> 職員の使命を自覚し、教師力の向上を図る。 <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びとなる指導法を探究する。	<input type="checkbox"/> 校内研修・自主研修等により「みんなで学ぶ」体制が確立した。 <input type="checkbox"/> ICT機器の活用研修で学んだことを授業に活用する場面が増えた。	A B	<ul style="list-style-type: none"> あいさつのできない教員がいる。 地域の必要性をしっかりと考えてほしい。 スクラム事業での成果を今後につながるようによりより授業づくりにして欲しい。 いつも児童一人一人と真剣に向き合い、感謝している。 ICTの活用がどのように進んでいるのかわかりにくい。学級差がないように取り組んでほしい。
	施設・設備等の管理	<input type="checkbox"/> 修理・修繕箇所や危険箇所の有無に対する危機管理意識を高める。 <input type="checkbox"/> 清潔感のある衛生環境を整える。	<input type="checkbox"/> 児童目線で安全点検を意識して実施できた。修繕も計画的に実施できた。 <input type="checkbox"/> 高学年が手本を示し、学校全体としても身につけてきた。	A B	<ul style="list-style-type: none"> 昇降口や雨漏り等改善されてよかった。 手荒い指導の充実を 黙働清掃の徹底により、清掃することの大切さの意識づけがしっかりとされている 限られた予算や時間の中で努力している。今後はSRC等にも相談して欲しい。

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標		年 度 評 価	
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
新郷東小	組織運営	○職員一人一人のよさを活かし経営参画意識を高め、魅力ある学校づくりを推進する。	○年度当初に示した具体的戦略を各担当を中忍に共通理解を図ったことで、学校経営参画意識は高まった。 ○日常的に情報を共有したことで、様々な問題を早期解決することができた。 ○具体的な数値を示したことで、買当担当を中心に目標達成に向けた取組が図られた。 ○昨年度以上に学年の枠を超えた教員間の学びあいの機会が増えた。	B	・教職員アンケートの結果からも経営参画意識が高く、やりがいを持てる良好な組織運営が図られていて評価できる。 ・3大プロジェクト実現に向けた取組は大いに評価できる。大事なことは一人一人の強みを仕事に反映させること。 ・ババ育休等をとる職員も増えてきているが、教職員不足を解消して環境が整ってから積極的に取得してもらえるようになればいいと思う。 ・職員の動きを見ていると、重点目標が達成されつつあると思う。
	教育課程	○知・徳・体のバランスのとれた教育活動を推進・強化する。	○面談時に毎回共通指導内容を確認し、進捗状況を確認したことで、指導の徹底を図ることができた。 ○家庭学習は自らも目を通し、意欲の向上を促した。 ○体力に関する数値目標85%は達成できた(業間運動の継続・交換授業による学習指導) ○校内研修で非認知能力の育成を目標に研修を重ね、指導を継続することで全職員の今日つ理解に立った指導が定着してきた。 ○川口市健康教育大会にて、学校安全・学校保健・学校安全 表彰	B	・学級力向上プロジェクトや近隣校との連携などの新たな取組を通じ、学力向上に期待する。 ・児童個々の学力の把握と課題等を検証し、保護者に理解してもらうことが学力向上につながる。 ・地域の特徴なのか、学力は難しい課題。地域調査一丸となって子供たちを育てていきたいと思う。 ・授業参観や学校行事等を通して、児童が生き生きと活動していると思う。
	開かれた学校づくり	○「地域・保護者と共にある 学校づくり」をめざし、保護者・地域とのつながりを広げる。	○読み聞かせや見守り活動、学校ファームや様々な学習ボランティアの協力で、学数活動の充実が図られた。 ○HPの更新、コドモンによる家庭への情報発信はタイムリーに行うことができた。 ○新郷地区で連携を重ね、保護者負担を考慮し、集金システムを来年度より変更する。 ○学校行事等のPTAの協力の在り方を見直し縮小した。	B	・PTAの在り方や保護者の学校協力意識が希薄化してきている中、来校機会を増やすことで信頼考えられるとともに、学校への協力意識も高まると思う。 ・引き続きHPなどを活用した情報発信に努めるとともに、保護者地域等との連携強化を図り、児童が楽しく誇れる学校づくりのさらなる向上を期待します。 ・悩みを相談できる体制ができてきているのは評価できます。 ・常に地域に開かれた学校だと思ふ。 ・地域との連携はスムーズに図られていると思う。
	教職員の資質向上	○学び合う機会を大切に、キャリア段階に応じた指導力を向上させる。 □働き方改革や業務の在り方を意識し、心身の健康を考えながら風通しのよい職場づくりを推進する。	○校内研修では、毎回指導者を招聘し、非認知能力を育成に関する取り組みの継続 ○積極的な授業の公開で、年次研対象教員の指導力向上の機会が得られた。 ○交換授業は全学年で実施できた。 □業務改善スタンダードの内容についてはほぼ実施。教員の意識改革は確実に図られている。 □定期的実施している事故防止研修の効果もあり、当事者意識は高まってきている。	A A	・時代背景や働き方改革、産休育休等の補充もままならないまま、教職員のご苦労を推察いたします。 ・教職員の心身充実、質の良い授業に繋がり、児童の教育に大きく影響しますので、各種研修やワークライフバランスを推進し、教職員の資質の向上に期待します。 ・働き方改革により、教職員の負担軽減につながる取組はさらに進めることが必要。 ・この2年間で先生方の業務改善が目で見えてわかるまでになってきたこの取組により、教職員一人一人が心と体に余裕を持ち、子供たちと同じように毎日学校に行くのが楽しいと思ってくれたら嬉しい。
施設・設備等の管理	○児童目線で「安全・安心」に視点をあいた安全管理の徹底をする。	○教室棟の外壁及びマンホールトイレ設置完了。 ○職員玄関オートロック、4F教室の黒板修繕完了。 ○様々な状況を想定した避難訓練を通し、安全に対する意識は高まってきている。 ○ほっとルームは必要に応じて効果的に活用が図られた。	A	・緊急時における主体的な避難行動・引き渡し、避難所運営などは日々の積み重ねが実となります。継続的な多様な訓練に期待します。 ・学ぶ環境が整備されていることに感謝している。今後も計画的に進めてもらいたい。空き教室の利用も有効に活用できたらと思う。 ・老朽化はしているがいつもきれいに管理していると思う。 ・教育環境の整備が確実に進んでいると思う。	

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
朝日西小	組織運営	<p>○校長、教頭、教務主任及び各分掌主任を中心とした組織的・機動的な教職員体制の構築。</p> <p>□全教職員の学校運営参画意識の醸成。</p>	<p>○主任等からの起案をもとに管理職、教務主任で連携しつつ、1分掌1改善をほぼ達成できた。（教職員評価：組織運営に関する項目A+B 100%）また、生徒指導・不登校対応マニュアルを作成し、組織的な対応を「見える化」した。</p> <p>□一人一改善の意識の醸成により、各行事等でボトムアップ型の改善案が出てきている。具体的には、運動会の種目精選、音楽会の公開方法、50周年式典の児童発表等、各主任等が積極的に工夫改善を進めることができた。</p>	<p>B</p> <p>A</p>	<p>・働き方改革を行っても良い学校として変わり続けているので、このまま出来る改革をどんどん進めて欲しい。</p> <p>・教職員が共通理解・協力をし、児童の自主性を引き出しているように感じる。アンケートでも学校が楽しいという回答が多いことから小規模校の良さと一人一人の個性を理解されていることが伝わる。</p> <p>・50周年式典や様々な行事等で児童だけでなく職員も生き生きとした様子が見られた。若手・ベテランを問わず自分なりのやり方や工夫を凝らし取り組む姿は素晴らしい。そのように動くことのできる環境が整っている証拠でもある。</p>
	教育課程	<p>○年間総授業数の着実な実施と授業数削減による教育効果の検証。</p> <p>□外部人材の積極的な活用。</p> <p>◇小学校間、小中学校間の連携を深めることによる中学校との滑らかな接続。</p>	<p>○本年度は3～6年生で週1コマの授業時数を削減した。総授業時数を確保し学習内容も着実に指導できている。週1コマ分の時間を教材研究等に当てることができているが、授業の質の向上については、さらなる検証が必要である。</p> <p>□書写指導や保健指導（学校医講演、歯磨き教室）、社会科講師（郷土資料館、県選管、法人会等）、50周年式典和太鼓演奏等で講師や指導者を招聘。多数の方に児童の学習に関わっていただくことができた。</p> <p>◇朝日東小の校内研修会に教職員が参加し、小小連携の具体的な取組を始めることができた。十二月田中での小中合同研修、中学教員の授業指導、6年生の中学校授業参観等、教職員、児童生徒の学区内相互交流を進めることができた。</p>	<p>B</p> <p>A</p> <p>B</p>	<p>・今までにない新しい取組や研修が児童の良い刺激になると思う。</p> <p>・外部人材を多く活用することは、児童にとっても職員にとっても当たり前でない良い刺激となるので今後も積極的に続けて欲しい。</p> <p>・小中の交流はとても大切。第三者の目から見ると小学校で解決されなかった問題が中学校では手がつけられなくなっていることも多い。長引きそうな事案に対しては早い段階から中学校も巻き込んで連携していく必要があると感じる。</p>
	開かれた学校づくり	<p>○学校の教育活動の積極的な情報発信。</p> <p>□学校・家庭・地域が連携した開校50周年事業の充実。</p>	<p>○本年度は、SSS（スクールサポートスタッフ）にもホームページ更新を任せただことで、情報発信の機会を増やすことができた。（保護者評価：情報発信 A+B 95%）</p> <p>□実行委員会の主体的な企画運営によって、学校・家庭・地域が連携し、児童主役の周年記念行事となった。</p>	<p>B</p> <p>A</p>	<p>・必要な情報は発信されていると思う。発信のみではなく、保護者や地域からの声が学校に伝わりやすくなることも大切と感じる。管理職だけでなく、職員全員が話しかけやすい雰囲気を出せると更に良いと思う。</p> <p>・職員の地域活動への参加は働き方改革によってなかなかできないのが現状。町会等の行事に職員が参加できなくても以前のように運動会で川口音頭と一緒に踊る機会を作るなど学校活動に地域を巻き込みながら交流できれば十分ではないか。</p> <p>・学校ではルールを守り先生の言うことをよく聞くが、地域のイベントなどでは注意やお願い事を言っても聞いてもらえないこともある。いつでもどこでも同じという意識をもって欲しい。</p>
	教職員の資質向上	<p>○校内研修の着実に進め、授業研究会とおした一人一人の授業力の向上。</p> <p>□学級経営や生徒指導、保護者対応などの職員研修をおした教師力の向上。</p>	<p>○管理職授業訪問において一人一授業を実施。また指導者を招聘しての算数科授業研究会を年3回実施し実践的な指導方略を学び合った。</p> <p>□日常の管理職による教室訪問等を通して学習指導や生徒指導の様子を把握し、適時助言したが、個々の教育実践を学び合う機会を工夫して設けていきたい。</p>	<p>A</p> <p>B</p>	<p>・個々の先生が持っている得意分野やアイデアを共有することで、より授業やクラス運営がスムーズになると思う。先生方の勉強の得意分野は児童にもっと周知させる場面があつて良いと思う。</p> <p>・不登校や問題が起きると学校側に解決を求められるが、保護者の意識が変わらないと良い方向に向かうのは難しいと思うので保護者対応のスキルアップが大切かと思う。</p> <p>・個々の職員が個性を出しながら仕事ができているように感じられる。ものが言いやすい、相談しやすい、挑戦しやすい環境づくりがされており、良いところは共有し、改善点を指摘し合える風通しのよさがあるのだと思う。</p>
	施設・設備等の管理	<p>○計画的・日常的な安全点検の実施と即時対応、計画的な修繕計画の立案。 【学校事故0】</p> <p>□危機管理マニュアルの修正と教職員への周知徹底。</p>	<p>○懸案だった「むくの木」の健康診断と剪定や敷地内樹木の伐採と剪定を進めることができた。漏水の早期発見と迅速な修繕等で学校事故0を継続している。</p> <p>□報道をもとに、予防のための対策や起きた時の対応について、短時間でも教職員で考える時間を設け続けることができた。大規模地震発生時の帰宅行動の周知と川口市の配備体制発令時の教職員の体制についてマニュアルを改正した。</p>	<p>A</p> <p>A</p>	<p>・植木の伐採がありがたい。地域としてもプール脇のゴミ集積場など問題を都度解決していく。</p> <p>・安全点検を細かくされていると同時に学校全体がとてもきれいである。廊下・階段まで清掃が行き届いている。</p> <p>・様々な自然災害が多発する昨今、想像でもできないようなことが起こる前に周辺住民とともに安全管理能力を高める必要があると思う。</p>

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園）自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
慈林小	組織運営	<p>○目指す学校像の具現化のために教職員一人一人の強みや課題を明確にし、各自の授業力・学級経営力・児童保護者対応力向上のためのP D C Aサイクルを確立させる。</p> <p>□児童・保護者の個々の状況を的確に分析し、不登校児童への支援率100%及びいじめに向かわない児童の育成を、組織的かつ具体的に進める。</p>	<p>○教室訪問や放課後の対話等を通して学級の状況や担当業務の推進状況を把握し、個別の助言を行った。若手教員も先輩に相談しながら計画・実践・振り返りのP D C Aサイクルを回しながら担当業務を進めることができるようになってきた。</p> <p>□ほっとルームの活用（不登校対応） 1 学期 1名利用（中断） 2 学期 1名利用（新規・継続）</p> <p>年間を通した学級力向上の取組により、児童の居場所づくりに全教職員で取り組めた。学期に1回の「なかよしアンケート」、随時活用できる「おはなしカード」の取組により児童の悩みを吸い上げ、早期対応と事後の見届け・確認を行った。</p>	<p>B</p> <p>B</p>	<p>・計画した学校運営が順調に遂行されていることから、もっと高い評価を出してもよいと考える。 ・主幹教諭の持ち時数を調整して、さらに円滑な学校運営ができるようにしていただきたい。</p> <p>・方針を継続していくことが大切だと考えるため、学校長が変わっても、しっかり課題や成果を引き継いでほしい。</p> <p>・学校運営協議会として、市教委に、専任職員の配置を強く要望したい。</p>
	教育課程	<p>○令和の日本型学校教育（個別最適な学び・協働的な学び）の実現を目指し、指導計画及び指導体制、評価方法の工夫を図り、学力向上に資する具体的な取組を推進する。また、年2回の通知表配付と形成的評価の充実を継続する。</p> <p>□算数のデジタル教科書導入（実証事業参加）を活用し、教科書とICTのベストミックスによる指導方法の工夫改善に取り組む。</p> <p>◇安行地区小学校3校の共通理解による学力向上を進める。</p>	<p>○計画した教育課程はすべて実施することができた。個別最適な学びの概念の理解が進み、児童一人ひとりの学習状況に応じた課題を与えたり活動内容を調整するなど、児童の学習意欲や授業への参加意欲を高めることができた。</p> <p>□G I G A 端末を活用した学習活動は定着しレベルも高まってきている。1月22日の委嘱研究本発表での6年生国語科研究授業では、G I G A 端末の活用と児童の伝え合いのベストミックスを提案することができ、市内の先生方から高い評価を得た。 ◇「まなびくん中間テスト」の計画・実施により、単元のまとめで児童の学習状況を把握し、その後の指導に生かすことができた。</p>	<p>B</p> <p>A</p> <p>B</p>	<p>・研究発表に参加し、個別最適な学びを意識した本校の研究が、児童一人ひとりに力をつけていることを感じた。</p> <p>・今後も、自分で考えたり調べたりしたことを、わかりやすく周りの児童に伝える力を高めることができる指導を実践してほしい。</p> <p>・スマホの使い方について、高学年だけでなく、全校の家庭に働きかけてほしい。</p>
	開かれた学校づくり	<p>○学校運営協議会の活性化、学校応援団やP T A ボランティア活動の充実を図り、保護者・地域との協働による開かれた学校づくりを推進する。</p> <p>□「放課後子ども教室」を設置し、今年度は学期に1回程度の開催を目指す。</p>	<p>○定例開催となった学校運営協議会では、学校運営に対し貴重な意見を頂戴することができた。P T A 総務との連携で令和8年度開校50周年に向けた記念事業（ピクトー整備、樹木プレート）の設置）を実施し、教育環境の整備が進んだ。学校だよりの地域版は裏面を特色ある教育活動や地域との連携を紹介するページとし、町会の回覧板で回していただいた。</p> <p>□令和7年2月17日（月）の放課後に、第1回放課後子供教室を実施することができた。子供たちの見守りのために、地域住民や保護者の協力を得ることができた。</p>	<p>B</p> <p>B</p>	<p>・放課後子供教室について、今後は学校主体ではなく、生涯学習課がもっと中心となって進めてほしい。</p> <p>・放課後子供教室について、今後さらに地域の力を終結させるために、白梅会（本校PTAのOB会）にも声をかけていきたい。</p>
	教職員の資質向上	<p>○「チーム慈林小」と「学校全体のWell-beingの向上」を合言葉に、働き方改革とワーク・ライフ・バランスの意識を向上させる。</p> <p>□教職員事故ゼロを継続する。</p>	<p>○限られた時間の中で成果に繋げる働き方改革（業務改善）は、順調に進んでいる。教職員の意識改革もかなり進み、仕事とプライベートのタイムマネジメント力も高まってきた。教頭を中心に風通しの良い職場づくりが実現され、生徒指導上の事案が発生しても迅速な組織的対応で早期対応が実現している。</p> <p><令和7年2月末現在> 平均時間外在校時間 33h</p> <p>□時機を逃さない倫理確立委員会や定例の職員集会で、教職員事故防止のための啓発や教職員事故の具体例を取り上げるなどし、当事者意識を高めることができた。</p>	<p>B</p> <p>A</p>	<p>・教職員事故ゼロは、ぜひ継続させてほしい。</p>
	施設・設備等の管理	<p>○施設設備の安全管理に万全を期す。</p>	<p>○管理職による日常的な安全点検、全教職員による毎月の安全点検により修繕箇所を早期に発見し、川口市教育委員会と速やかに連携して施設設備の改善を行うことができた。長年の懸案事項であった「じりんご丸」は、設置者と撤去の合意形成を図ることができた。</p>	<p>A</p>	<p>・じりんご丸について、児童や地域・保護者の想いをよく考えて、適切な対応をしていると感じる。</p>

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
差間小	組織運営	<p>○不登校児童と家庭に寄り添った支援を継続し、不登校児童への支援率100%を目指す。（R5は4名） ※児童の学校生活満足度90%以上にする。</p> <p>□学年によって指導に差が生じないように、共通理解・共通行動を取る。</p>	<p>○不登校児童への支援は100%継続した。不登校児童は年間11名の見込みである。 ※児童の学校生活満足度は、90%で達成することができた。</p> <p>□学校全体に関わることは、学年によって指導の差が生じないように努めた。ただし、徹底できないこともあった。</p>	<p>B</p> <p>B</p>	<p>・ホトルームの有効活用を検討してほしい。</p> <p>・先生方の負担を減らして児童の満足度を上げてほしい。</p> <p>・カウンセラーや特別支援教育に係る職員を増員していただきたい。</p> <p>・不登校については、本人や保護者の思いや考え方が異なることが多く、登校させるのは難しいと思う。学校第一ではなくても、それに代わるものとして支援していくことが必要である。ただし、学校との絆はつないでほしい。</p> <p>・職員の皆さんは優しくそうで相談しやすい環境になっている。今後も継続してほしい。</p>
	教育課程	<p>○本校の喫緊の課題である「学力向上」の取組を強化する。 ※児童の授業に対する満足度を90%以上にする。</p> <p>□「わかった」「できた」「使えた」と児童が実感する体験（成功体験）を積み重ねる。</p>	<p>○研修主任や学校課題研究主任を中心として学力調査の分析や改善に向けた手立て、算数科の指導の在り方を深めることができた。 ※児童の授業に対する満足度は、90%で達成することができた。</p> <p>□見通しと振り返りを大切に授業を展開し、児童の成功体験を積み上げてきた。</p>	<p>A</p> <p>B</p>	<p>・9割の児童が「学校は楽しい」と感じていることは素晴らしいことだと思う。差間小の教職員は、もった誇りをもっていいのでは。</p> <p>・自己肯定感が高いことはよいことだと思う。引き続き伸ばして差間小の伝統、校風にしてほしい。</p> <p>・友達との関わりやグループ活動を通して、コミュニケーション能力や協力する力をやしなうこと、また、異文化の理解育成を進めることが大切であると思う。</p>
	開かれた学校づくり	<p>○学校運営協議会を年間3回実施し、「学力向上」「基本的な生活習慣」「家庭学習」などの学校課題について熟議を行う。</p>	<p>○学校運営協議会での協議内容は、回を重ねるごとに充実し、学力向上や基本的な生活習慣、PTAの在り方について地域や家庭と共に考えることができるようになった。</p>	<p>A</p>	<p>・地域の方々積極的に協力してくださりありがたいことだと思う。</p> <p>・コミュニティスペースとして、保護者や地域の人との交流ができるスペースを設置していただきたい。</p> <p>・PTAの課題はあるが、今後一層の地域の教育力が不可欠だと思う。</p>
	教職員の資質向上	<p>○主体的・対話的で深い学びとなる指導法を探究する。</p> <p>□教育公務員としての自覚を高め、職員の服務規律を徹底し、教職員事故を絶対に起こさない。 ※教職員事故ゼロ ※体罰報告ゼロ</p>	<p>○教科の指導法にグループ学習を適宜取り入れ、オクリンクなどを有効活用して対話的な学びを確立することができた。</p> <p>□倫理確立委員会や全体研修を通して、教職員の倫理感が高まったと捉えている。</p>	<p>B</p> <p>B</p>	<p>・毎回、全員の授業を参観させてもらっているが、全く話にならないレベルの教員は一人もいないと思う。</p> <p>・若手のみならず、全員で教師力向上勉強会で研修することはとても意義のあることだと思う。</p> <p>・倫理確立委員会や研修会を通して、教職員事故ゼロを維持してほしい。</p>
	施設・設備等の管理	<p>○カーブの手前である校庭南側の門から登下校できるようにしたい。</p> <p>□美化・緑化活動を充実させる。児童に栽培や収穫の体験をさせる。耕作できる面積を増やしたい。</p>	<p>○実現には至っていない。</p> <p>□地域の方の協力により、学校ファームは有効に活用され、児童の体験活動は充実している。</p>	<p>B</p> <p>A</p>	<p>・教育総務課より南門の修繕に係る連絡が入り、早く着工できることを期待する。</p> <p>・学校の周りはいつもきれいになっていて気持ちが良い。校務員さん、ありがとうございます。</p> <p>・今後も学校ファームの有効活用をお願いしたい。</p>

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
東本郷小	組織運営	○目指す学校像の実現に向け、主任を中心とした学年経営、校務分掌による教育活動の活性化を図るとともに、教職員個々のよさを発揮できる組織環境を整え、継続的な運営体制を構築する。	○「目指す学校像」を踏まえ、全教職員に対して自己評価シートに学校運営に参画する目標を持たせることにより、各主任や教職員が目的意識をもち教育活動を行うことができた。また、毎週の月曜日に職員集会を定期的に関くことにより、教育委員会からの指示伝達や校長からの指示伝達を行うことができた。	A	・管理職や主任のリーダーシップの努力の成果が顕著になってきたようで安定感、安心感につながり、それが子供たちの活動の自信や活性化にも影響を与えていると思います。 ・学校教育目標の項目A・Bをたした割合が100%はすばらしい。 ・危機管理対応等の学校運営マニュアルを検討し、職員が入れかわっても適切に動けるようにしてほしい。
	教育課程	○児童や学校の実態に即した教育課程の編成に向け、実施状況を評価・改善することで、教育活動の質の向上を図るとともに、社会に開かれた教育課程の編成を実現する。	○全国学力学習状況調査、埼玉県学力学習状況調査、川口市小学校低学年基礎学力定着度調査の結果を全教職員で分析し、学力向上のための方策を共通理解できた。	B	・本年度の3年生の「総合的な学習の時間」の取組は素晴らしい。 ・体力テストでは、まだまだ十分な成果が表れていない。また、保護者からのアンケートでも「考える子」に対して厳しい評価が見られた。向上できるよう小さな働きからでもスタートさせ、成果を出してほしい。
	開かれた学校づくり	○学校を積極的に公開し、保護者・地域との連携・協働により、学校の教育力を向上させ、信頼される学校を作る。	○定期的な学校だよりの発行、HPへの記事投稿200以上、現時点での閲覧数は15305となっており、教育活動を積極的に発信することができた。また、授業参観以外にも参観できることを保護者に伝え、いつでも学校の様子を見に来ていただけるようにした。 ○学校運営協議会や民生委員との連絡協議会も計画的に行うことができた。	A	・コミュニティスクールとしての形が整えられ、本年度は学校運営協議会委員の発言も活発になってきた。運動会や音楽会、授業公開を通じて学校の様子が見えるようになり応援しようという意識が高まってきたので、さらに一層の情報提供をお願いしたい。 ・学校からの情報提供に関する保護者の評価が少し下がったのが気になるので、改善を図ってほしい。
	教職員の資質向上	○教職員のチームワークを生かし、互いに切磋琢磨しながら、学び合い、高め合える教職員集団を実現する。 □教職員の服務規律の確立と健康の保持増進を目指し、教職員が元気で活力のある学校を実現する。	○本年度の学校課題研究を「話し合い活動」を中心として取り組むことにより、児童が自分の考えや意見をより言えるようになった。また、教職員一人一人が自分で研究教科を決め、指導者を招いて授業実践を行うことで、教員の授業力の向上につながった。 □定期的な倫理確立研修や教職員事故に係るショート研修を行うことができた。一人一人が自分事と捉え、教育公務員としての自覚と職責をもち日々教育活動に取り組むことができた。	A A	・一層の教職員相互の温かい人的交流や切磋琢磨により、指導力の向上が進むことを期待したい。 ・定期的な倫理確立に向けての研修の成果もあり、教職員事故もなかったのは、何よりすばらしいことである。
	施設・設備等の管理	○校舎内外の美化と安全で潤いのある環境づくりを推進し、課題に即した予算運用を行う。	○日々の安全点検とともに定期的な安全点検を行い、施設・設備による事故はなかった。また、緊急性の高い施設・設備の修繕を行うことができた。（体育館の雨漏り、体育館の床修繕、児童昇降口、PTA玄関の床の修繕等）	A	・保護者アンケート結果で本年度も「施設・設備」面で環境整備が十分ではない評価となっている。予算の都合もあるだろうが、今後も安全で衛生的な学校生活を送れるような施設・設備の充実を図ってほしい。

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
東領家小	組織運営	○小規模校のよさを生かした組織運営 □年間総授業時間数適正化による働き方改革の推進	○会議のスリム化、年度当初に放課後の時間を確保することで、情報共有しながら、コンパクトな組織運営ができた。 □授業時数適正化により、1学期の在校等時間も昨年に比べ減少した。	A A	・限られた教職員数の中、教職員の働き方改革を進めつつ、児童の学力向上等で実績をあげていることはすばらしい。
	教育課程	○全学年教科担任制継続による質の高い授業実践と授業時数の確保 □年間を見通した各種学校行事の内容の見直し	○教科担任制実施により、教育課程を適切に管理しながら、安定した学級経営が実践できた。 □各種行事の開催方法、準備等を見直すことで、ねらいに沿って円滑に進められた。また音楽会の時期を領家小学校と揃えることにより、交流音楽会を新たに実施できた。	B A	・教科担任制の実施により、どの学年、学級も同じ授業、活動ができることはすばらしい。 ・学級担任と児童との関係をしっかり保ち、低学年児童へ配慮しつつ継続していくことができると良い。
	開かれた学校づくり	○デジタル化を活用した積極的な情報公開 □授業や行事における効果的な連携教育活動の推進	○新メールシステム添付型にすることにより、情報量を精選し、デジタル化を進められた。 □元郷小・中学校と継続、領家小とは新規に交流を実施した。図書館、文化財センター、新たに科学館とも連携できた。	A A	・幼保小中間の連携で、特に交流音楽会はすばらしいので続けられると良い。
	教職員の資質向上	○校内研修・教科担任制による教師の指導力の向上とミドルリーダーの育成 □I C T 機器を活用した教育活動の推進	○面談を通し教職員一人一人の指導力を高めながら、計画通りに指導者を招聘した授業研究会を実施できた。 □教師・児童共にタブレット端末の使用率は向上している。オンライン授業も定着している。	A B	・小規模校で大変だと思うが、心身の健康に留意され子ども達のために励んでいただきたい。
	施設・設備等の管理	○施設・設備事故ゼロの実現と安心・安全な教育環境の維持 □不審者学校侵入防止対策の強化	○教育活動に支障がでることなく教育環境が維持できた。 □来校管理を徹底し、職員玄関の常時施錠、不審者侵入対策を強化した。	A B	・施設、設備の安全点検を引き続き実施して事故のない学校にしてほしい。

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
安行東小	組織運営	○目指す学校像に向けて、教職員が一体となり不登校児童への支援体制を構築する。	○「ほっとルーム」の設置・運営は先進的な取組となった。ランドデザインの策定・人的配慮と組織マネジメント・教室環境の整備等、計画・準備を行い、効果的な運営を実現した。日常の学級経営や生徒指導のあり方を温かく丁寧に行い、不登校新規出現児童の抑制に効果があった。	A	・教育支援として、市内において先進的に取り組み、新たな不登校児童の出現の抑制に効果がみられるなど、一定の成果を得ている。人的配慮や組織マネジメント、教室の環境整備等、丁寧に取り組まれており、順調に進んでいることを高く評価している。「ほっとルーム」利用児童の評価の在り方についてさらに検討を重ねてほしい。相談員や専門家等、地域の教育力の活用を検討してほしい。教育支援に対応する教職員の増員加配を望みたい。
	教育課程	○学習指導要領の趣旨を生かした授業が展開されるように教育課程の管理を行う。	○学力向上が本校の課題であり、I C Tの活用や期末テストの実施に加え、自尊心を高める意図を持った授業実践など、教職員が創意工夫し、学習指導を充実させた。	B	・子どもたちの学習活動が大型テレビに視覚的に表示され、異なる意見の比較や新しい考え方のヒントなど、I C Tの活用が校内で日常的に実践されている。学校独自の習熟テストで、中学校と同様に期末テストを実施するなど、教育効果を高める工夫があり、今後の学力向上に期待できる。さらに、期末テストを行っている中学校との接続が円滑になり、中1ギャップの解消にも効果が見込まれる。スモールステップで達成感を味わわせるなど、自己肯定感を高める工夫を進めてほしい。
	開かれた学校づくり	○学校運営協議会による学校経営・運営の推進と、学区中学校との緊密な連携により、地域の教育力を学校にとり入れていく。	○学校運営協議会については、5月に学校公開、10月に運動会、11月に音楽会を参観していただき、成長・活躍する児童の様子を評価いただいた。夏季休業中には小中合同研究協議会を開催し連携を強化した。12月には、中学生と協働で地域清掃活動を実施し、地域への帰属感や貢献する心情を高めた。	A	・中学校との連携事業として小中合同地域清掃活動の新たな取組により、地域への帰属感や貢献する心情を醸成できたことは、開かれた教育活動として大きな成果である。また、小中合同研究協議会を開催し連携を強化できたことは、学校間における開かれた教育活動として期待する。一小一中という特別な環境を活かし、関係強化を進めてほしい。ホームページの運用では、学校の意図が保護者に適切に届くよう、保護者の視線で発信していくよう望む。
	教職員の資質向上	○教職員の学習指導及び学級経営の指導力を向上させる。 □教職員不祥事防止、事故の絶無を継続する。	○学校課題研究については、これまでの理論研究をもとに国語科指導に焦点をあて、実践研究を中心に研究を進めた。 □倫理確立委員会やショート研修を実施し、教職員の意識付けを図ることで大きな教職員事故を防いだ。業務改善委員会を定期的に開催し、様々な面で教育活動の効率化を図ることができた。	B B	・学校課題研究として、学校生活及び学力向上の基盤である自尊心を高める取組により、子どもたちの自己肯定感を高めることができたことは成果である。教科の特性との関連性について課題があり、今後の研修に期待する。 ・教職員の不祥事根絶に向けた取組として、ショート研修をコンスタントに行い、常に教育公務員としての高い倫理観を保ち、教職員事故ゼロを実現していることは評価できる。また、「働き方改革」として業務改善に取り組み、定期的に見直しをしていくことは今後も継続してほしい。教職員も十分な休養を取ることで児童への豊かな関わりを実現してほしい。
	施設・設備等の管理	○施設設備の事故の皆無を図り、安心・安全な教育環境を維持する。 □経理事故、個人情報の流失等、教職員事故の皆無を図り、保護者・地域から信頼される学校にする。	○避難所開設マニュアルの見直しは完了した。樹木・植栽等の環境整備、換気のための網戸設置等積極的な修繕を図った。 □教材費や校外行事の集金システムは、金融機関を用いたシステムに変更し、現金を扱わない業務を実現した。	B B	・今年度版の避難所開設に係る新たなマニュアルの作成とともに、避難所開設運営委員会を開催し、共通理解を図ることができたことは成果と言える。また、経年劣化の激しい箇所を迅速に修繕し、安心安全な施設管理に努めている。施設設備の老朽化への対応は地域一体となり対処する課題である。 ・金融機関を利用したシステムの導入により、学校で現金を扱わない業務に切り替えられたことは金銭事故を防ぎ負担軽減につながる大きな成果である。支払い遅滞者や未納者の問題については、継続した課題であり、改善策を検討していく必要がある。

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
在家小	組織運営	○組織の一人としての参画意識を高め、共通理解・共通行動を徹底させる。	○教職員に対して、問題意識を常にもって業務改善に当たれるよう、話題を提供できるようにした。	A	・組織運営はよくできていると思います。ベテランの教職員が少なくなるので、若手の育成が必要だと思います。 ・教職員の団結は、やはり心の通った話し合いの中から生まれると思います。 ・学校組織として、目的と目標を共有しながら、共通行動を。児童と向かい合う時間を充実させることは大変重要と思います。是非進めてください。
	教育課程	○一単位時間の授業を充実させられるよう、授業準備を入念に行う。 □家庭学習への取組について、保護者への協力を求める。	○「学びの共同体」の授業改善や I C T 機器の活用により、学習意欲を向上させることができました。 □長期休業期間中の家庭学習への取組について、分量や内容を精査し子供自身のための学習となるよう配慮した。	A B	・児童の学力向上の取組に I C T 機器の活用で学習意欲を向上させたことはとても良かったと思います。 ・学力向上はとても大変な課題ですが、「学びの共同体」などを上手に活用して達成してほしいと思います。 ・家庭での学習習慣ができるように保護者への働きかけを行う。
	開かれた学校づくり	○コロナ後の学校生活の在り方について精査し、教育活動を充実させる。 □学校運営協議会を適切に運営する。	○コロナ前に戻すことありきではなく、教育的効果が十分期待できる内容を実施した。 □時期に応じた内容を提供することができた。	A A	・学校だより、ホームページ、アプリによる配信、学校公開、運動発表会、音楽発表会などいろいろ発信していただき、とても評価できます。 ・地域で学校間交流やさまざまに工夫され、情報発信されていると思います。 ・開かれた学校づくりは、様々な問題があると思いますが、保護者だけでなく、地域の皆様にも参加ができる行事があると良いでしょう。
	教職員の資質向上	○キャリア段階に応じた研修や教職員相互の指導力向上のための研修を充実させる。 □勤務時間を超過して長時間在任しすぎないよう調整しながら、効率的な業務遂行を実行する。	○指導力、実践力を高められるよう、校外の研修会を適宜受講させたり、校内の研修会で学び合う機会を設定したりした。 □教職員個々に働き方改革を意識して業務に臨み、時間外在任時間を減少させた。	A B	・働き方改革により教員のゆとりが生まれ良い方向に進むと良いと思っています。 ・教職員の時間外在任時間の短縮は素晴らしい。教育委員会、他からの通達等多い中、先生方はよく頑張っていると思います。 ・働き方改革など難しい課題もありますが、さらなる資質の向上を期待します。
	施設・設備等の管理	○安全安心のため、修繕・修理を適宜実施し、施設設備の維持・管理を徹底する。	○安全点検を実施して、不具合箇所への対応を早急に行うことができました。（トイレ改修、高架水槽修繕、漏水箇所修繕）	A	・老朽化による不具合は学校から市教委への連携を密にすることしかできないもどかしさがあると思います。 ・定期的な専門家による施設の点検を実施してほしい。 ・経年劣化はますます進んでいきますので、可能な箇所から計画的に進めてください。

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
戸塚東小	組織運営	<input type="checkbox"/> 教職員一人一人の力を集結させた学校力の向上。 <input type="checkbox"/> 不登校児童支援の充実 <input checked="" type="checkbox"/> いじめ根絶と組織的な対応。	<input checked="" type="checkbox"/> 教職員アンケート 「使命感を持ち、仕事をすることができたか」 100%達成 「校務は円滑にこなせたか」 96%達成 <input type="checkbox"/> オンラインによる学習自宅ステップルームから年間継続支援実施。ステップルームから教室での授業に参加できるようになった児童もいる。 <input checked="" type="checkbox"/> 生活アンケート年間3回実施。実施後は、担任による個別の関わりを随時行った。	A B B	・評価妥当である。 ・今後のステップルームの活用法に期待したい。 ・評価妥当である。
	教育課程	<input checked="" type="checkbox"/> 学力の向上。 <input type="checkbox"/> 徳力の充実。 <input checked="" type="checkbox"/> 体力向上と健康の保持増進。	<input checked="" type="checkbox"/> 全国調査は、国語は全国の平均を上回った。算数は全国平均と同等。県調査は全ての県の平均を上回った。市調査は、実施学年全て市平均を上回った。 <input type="checkbox"/> 道徳の授業実施率100%。児童主体の朝のあいさつ運動は全学年の児童が行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 県平均を36項目上回った。市のなわとび大会に向けた取組と関連させた外遊びを実施。学校保健委員会は年間2回実施。他校との連携にも取り組んだ。	A A B	・考えたり、話し合ったりする授業に積極的に取り組んでいることはよい。 ・評価妥当である。 ・体力や視力の低下はスマートフォン等の使用時間に比例する側面もある。 ・外遊びや体育授業の工夫が更に必要である。
	開かれた学校づくり	<input checked="" type="checkbox"/> 学校行事等の工夫・改善。 <input type="checkbox"/> 保護者・地域との連携の更なる強化。	<input checked="" type="checkbox"/> 運動会の得点の取組を新たに実施。全校校内音楽会を新たに実施。 <input type="checkbox"/> 一斉下校時の地域巡回及び各学年行事と関連させた地域訪問を年間を通して実施。授業支援は、第3学年で実施。	B B	・評価妥当である。 ・スクールガードボランティアや学習支援ボランティアを募集するのはよいが、周知の方法に工夫が必要である。
	教職員の資質向上	<input checked="" type="checkbox"/> 学校課題研究による教員の指導力の向上。 <input type="checkbox"/> 教育公務員としての高い意識と誇りをもった教職員の育成。 <input checked="" type="checkbox"/> 教職員一人一人のワークライフバランスの充実。	<input checked="" type="checkbox"/> 示範授業、全教科で実施。研究授業1回実施。公開授業13回実施。指導主事等による要請訪問5回実施。 <input type="checkbox"/> 教職員アンケート「身の回りの整頓」85%達成 教職員事故0件達成 <input checked="" type="checkbox"/> 年間時間外在校時間平均減少。定時退勤ウェークにおける取組100%達成	A B B	・評価妥当である。 ・評価妥当である。 ・時間外労働問題の表面化などによる教員の不足解決のために、大胆な削減を継続的に行っていくことが必要である。
	施設・設備等の管理	<input checked="" type="checkbox"/> 安心・安全な施設設備に向けての管理の徹底。	<input checked="" type="checkbox"/> 施設等による重大事故0件達成	B	・評価妥当である

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
戸塚北小	組織運営	○部会や研修を活性化させることで、全教職員の学校運営参画意識を高めさせ、学校課題解決のための協働体制を確立する。	研修が活発に行われており、指導力も向上してきている。学習課題解決の共同体制も確立しつつある。	A	・若手教員がICTを活用できており、単もしい限りである。 ・若手教員が日々研修に励んでいる様子がよくわかる。 ・学校行事などへの若手教員の参画をどんどん進めていったほうが良い。 ・ネットワークの軽さを感じる。 ・時間外労働が増えないように注視してもらいたい。
	教育課程	○「GIGAスクール端末を活用した主体的に学ぶ児童の育成」や、「書く力を高める言語活動の充実」を軸とした、授業実践と学力の向上 □「やりぬく力」の育成を通じた目指す児童像の実現	○GIGAスクール端末を活用した授業改善が行われている。主体的対話的で深い学びを進めるとともに、授業規律も整っている。 □学校だよりやホームページでの取り上げができ、経営方針に導けた。	A B	・児童が落ち浮いて学習している様子がよくわかる。それが高い学力維持につながっている。 ・少数単位でのグループ学習がもっとできればよい。 ・タブレットだけでなく手で書くことも重視してほしい。
	開かれた学校づくり	○学校運営協議会活用した、保護者・地域のつながり拠点としての学校づくりの実践 □積極的な広報活動と保護者・地域の理解推進	○学校運営協議会の積極的な活用が行えた。ご意見を学校運営に生かすことができた。 □学校だより、ホームページ、保護者メールを活用して積極的な広報活動を行い、保護者地域の学校理解が深まった。	A A	・PTAによる旗振りなどに協力していく ・PTA役員が減っているので学校主体で実施してほしい
	教職員の資質向上	○教職員一人一人の特性を踏まえ、ライフステージに応じた計画的な人材育成による、活力ある学校づくりの推進	○校長、教頭、主幹教諭による教室訪問などにより、教員理解が深まった。	A	・教科担任制の実施により、複数の教師の目で指導に当たれるのは良い。 ・若手教員の増加で管理職は大変だろうが是非良さを引き出してあげてほしい。
	施設・設備等の管理	○安心・安全を最優先にした潤いのある教育環境づくり □新校舎の環境整備	○毎日の通学路点検や校内施設点検をはじめ、安心安全な教育環境づくりが実行できた。 □危険箇所などについての周知が行えた。	A A	・洋式トイレに全面改修したほうが良い。 ・老朽化している中だが、掃除が行き届いている。

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達 成 度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
木曾呂小	組織運営	<p>○教職員の共通理解に基づいた共通行動・共通指導の徹底</p> <p>□教職員個々のライフステージに応じた資質や能力の向上 初任者研修 2名 5年経験者研修 1名 中堅教諭等資質向上研修 5名 20年経験者研修 1名</p>	<p>○「学びの共同体」等に基づく「木曾呂スタンダード」を確立した。神根地区や市全体への公開授業研究会を実施するなど、共通指導に取り組んだ。</p> <p>□法定研修や市の研修など、対象者全員が研修を修了する。それぞれの研究授業を参観し、管理職や指導者等により、全員体制で指導にあたり、指導力向上が図られた。</p>	<p>A</p> <p>B</p>	<p>・特になし</p> <p>・特になし</p> <p>・特になし</p>
	教育課程	<p>○「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業改革</p> <p>□PDCAサイクルに基づいた教育計画の編成や実施</p> <p>◇GIGAスクール端末やICT機器を効果的に活用した授業の展開</p>	<p>○「学び合い」を研究授業の柱とし、授業を公開し合いながら、授業力向上に努めた。基礎的基本的な学力の定着を図ることが今後の課題である。</p> <p>□授業実践は、研修掲示板で公開し、教員同士で授業を見合う体制を整備した。学力向上に向けた意識を高めることにつながった。</p> <p>◇授業において、端末を積極的に活用する教員が多く、朝学習でも活用している。今後、基礎的な学習を端末活用で実施する計画を企画し、実践することが課題である。</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>・「学びの共同体」の良さを生かしつつ、児童が基礎基本を身につけられるような授業を展開してほしい。</p> <p>・特になし</p> <p>・若手の教員と違って、ベテランの教員はタブレットによる指導に慣れていないと思うので、少しずつ慣れるよう努めてほしい。</p>
	開かれた学校づくり	<p>○教育活動の積極的な情報発信</p> <p>□学校運営協議会の円滑な実施</p> <p>◇学校を核とし、保護者・地域・学校が一体となった協働活動の実施</p>	<p>○学校ホームページや各たよりによる定期的な情報発信が図られている。今後、紙ベースとデータをどちらにするか併用するかなど再検討が課題である。</p> <p>□年3回の協議会を実施し、本校の現状と課題を共有するとともに、意見を柔軟に取り入れる体制はできている。今後、協議会に限らず情報を発信する必要性について検討していく。</p> <p>◇P T A組織の解散に伴い、新たな組織を立ち上げることができた。今後は、学校応援団を中心として、学校の教育活動に保護者を巻き込んでいくことが課題である。</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>・お便り関係は、データによる配信では見落としがある。紙は家庭で刑事ができる。すべて紙に戻すのではなく、アンケートは紙にするなど併用してほしい。</p> <p>・特になし</p> <p>・P T A解散後の体制を早めに整えてほしい。</p>
	教職員の資質向上	<p>○授業改善を推進するための、研修の充実</p> <p>□積極的な生徒指導を柱とした、学年・学級経営の実施</p> <p>◇教育公務員として必要な資質・能力の向上や維持に必要な教職員一人ひとりの当事者意識の醸成</p>	<p>○神根地区の他の学校の公開授業には必ず職員を派遣し、研究に参加した。また、地区や市全体に授業を公開し授業改善に取り組んだ。</p> <p>□授業観察は、管理職が積極的に行い、常に学級経営の状況を把握するよう努めた。面談等での指導助言により、安定した学級経営に取り組むよう尽力した。</p> <p>◇倫理確立委員会は、講義型よりも話し合い型を多く取り入れることにより、積極的な姿勢による研修となった。当事者意識を醸成することにつながり、不祥事根絶が図られている。</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>A</p>	<p>・特になし</p> <p>・本校の教員はまじめに取り組んでいる。引き続き、資質向上に努めてほしい。</p> <p>・特になし</p>
施設・設備等の管理		<p>○計画的（日常・定期・臨時）な安全点検の実施による、施設・設備の瑕疵の早期発見・早期改善</p> <p>□個人情報に関わる校内規程等の随時見直し・改善及び遵守の徹底</p> <p>◇会計事故防止規程等の随時見直し、改善及び遵守の徹底</p>	<p>○定期、臨時による安全点検を実施し、早期発見早期改善につなげている。また、市教委からの事故情報を随時職員と共有し、施設設備の点検手段に取り入れている。</p> <p>□倫理確立委員会のテーマにも取り上げ、個人情報の管理についてアンテナを高くするよう取り組んでいる。個人の携帯やスマホの管理についても具体的に指示し、順守するよう取り組んでいる。</p> <p>◇集金方法の変更により、現金を扱う機会が大幅に減少した。現金を取扱いについて、会計規程を見直し、会計事故根絶と未納体制を構築している。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>・本校は教室が足りなくなる心配がある。市教委と連携して取り組んでほしい。</p> <p>・特になし</p> <p>・特になし</p>

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標		年 度 評 価	
		重点目標	重点目標の達成状況		
戸塚綾瀬小	組織運営	<p>○「対話・共有」「報告・連絡・相談・確認見届け」を合言葉にした組織づくりを実行し、児童の豊かな人間性を育むとともに、チームで課題解決にあたり教育活動を進める。そして各教員の対応力につなげる。</p> <p>○各学年・分掌等主任の学校運営への参画意識を高め、主任等として「自ら判断・行動しようとする」姿勢を醸成する。</p> <p>□業務の効率化、可視化を進める。</p>	<p>○定期的に生徒指導・特別支援委員会、研修推進委員会を開き、学校全体で対応できるように「可視化」を意識してデータ共有できる体制を進めた。</p> <p>○各部会の主任を中心に全体での活動に広がる可視化できる取組を実践できた。（安全・道徳・研修など）</p> <p>□校務支援システム（掲示板等）を活用し会議の効率化を進めることができた。</p> <p>□「ふりかえり会議」実施から業務効率化実施への段取りが取れた。</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>A</p>	<p>今後も教職員が働きやすいような組織づくりをお願いしたい。</p> <p>特になし</p> <p>人材不足は心配である。最近の採用倍率はいかかなのか、臨時採用で働いている方もいるので、出来る限り採用につなげてほしい。今後も働き方改革を進めて欲しい。</p>
	教育課程	<p>○確実に教育課程を実施する。</p> <p>○校内研修から、持続可能な指導方法の構築を実現し児童に還元する。</p> <p>□校内研修での研究授業（示範授業含む）を通して全教職員が1単位時間の指導過程の基本を身に付け、確かな指導力を育成する。</p> <p>□朝の時間を適切に活用し学力向上につなげる。</p>	<p>○教育課程管理と時数確認は定期的に言実施できた。</p> <p>○市教委指導者を招聘した授業研究会を年間3回実施できた。指導内容は全体共有し次対応にいかせるようにした。</p> <p>□年1回以上公開授業を行い、授業力向上への機会とした。</p> <p>□学力・規律について実態分析を実施することができた。</p>	<p>A</p> <p>B</p>	<p>特になし</p> <p>GIGAタブレット活用をいかして学力向上にぜひつなげて欲しい。</p>
	開かれた学校づくり	<p>○学校運営協議会制度を活用して、学校・地域課題について目標を共有し実践する。</p> <p>□保護者の教育参加に向けた取組を進めるため、地域学校協働活動に参加しやすい体制を構築する。</p>	<p>○適宜情報発信はできた。</p> <p>○学校運営協議会において教育活動の理解を深めていただいている。</p> <p>□アプリやMicrosoftformsを活用して情報周知及び保護者意見集約を随時実施することができた。</p>	<p>B</p> <p>A</p>	<p>PTA組織は各校において変革時期であるが、学校と協働して児童のためになる活動ができるような組織づくりをして欲しい。</p> <p>特になし</p>
	教職員の資質向上	<p>○学習指導・生徒指導においてそれぞれのキャリアステージに応じた指導力の向上を実現する。児童・保護者から信頼される教師を育成する。</p> <p>□GIGA端末を積極的に活用して指導力向上につなげる。</p>	<p>○校内研修を通して、日々の授業力向上に生かすことができた。</p> <p>○児童対応情報を教職員で共有して出来る限り寄り添った対応につなげることができた。</p> <p>□GIGA端末を積極的に活用することができた。</p>	<p>B</p> <p>B</p>	<p>特になし</p> <p>特になし</p>
	施設・設備等の管理	<p>○施設管理に向けて適正かつ計画的な予算執行を実施する。</p> <p>□児童・教職員にとって安全な教育環境づくりを推進する。</p>	<p>○教頭や事務主幹の働きにより適正かつ計画的な予算執行を実施できた。</p> <p>□学習環境づくりを進めた。</p> <p>□教室の壁紙修繕など、児童にとって安心安全な環境づくりができた。</p>	<p>A</p> <p>B</p>	<p>特になし</p> <p>校庭のスピーカー修繕があり安心した。これからも円滑に教育活動が進められるよう環境づくりを要望する。</p>

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
戸塚南小	組織運営	○目指す学校像の実現に向け、教職員一人一人が自分のよさを発揮するとともに組織の力を活かした学校経営を行う。	○学校運営が円滑に進むように必要に応じて助言を行うことができた。どの教員も協力して業務にあたっていた。 ○学年主任を中心とした企画委員会で検討を重ね、共通理解を図り会議で提案できた。	B	・引き続き、教職員が元気で明るく児童と向き合える組織づくりを行ってほしい。
	教育課程	○研究課題「人と関わりながらよりよく生きる力を身に付けた児童の育成」を目指し、知・徳・体のバランスのとれた児童を育成する。	○昨年度の研究成果を活かし共通理解のもと授業改善に取り組むことができた。 ○様々な体験活動を通して思いやりの気持ちが育ってきている。 ○時間走記録会やなわとびなど時期をとらえ、体力向上に係る取組を実践できた。	B	・様々な活動を通して、子供たちが楽しめる気持ちを持てる取組を実践してほしい。 ・体力向上に向け、少しでも体を動かせる機会を増やしたり、年間を通して行える取組を考えたりしてほしい。
	開かれた学校づくり	○学校と保護者、地域との情報交換及び連携を強化することで、信頼される学校づくりを行う。	○学校運営協議会やあすばるの懇話会等で地域の声を直接伺い、学校運営に生かすことができた。 ○保育園児の訪問を受け入れたり、あすばる主催の○○パーティーなどにも積極的に参加したりして連携を行ってきた。 ○学校よりは定期的に発行できたがHPは不定期となった。	A	・あいさつについて、地域のコミュニティに児童が参加すると地域住民とも顔見知りになり、お互いに声がかげやすくなる。
	教職員の資質向上	○教職員間のチームワークを大切に、互いに高め合える教職員集団をつくる。	○主幹教諭や経験のある教員が中心となって若手研修を実施することができた。 ○日々の教室訪問や1時間の授業観察を行い、個々にフィードバックできた。また、初任者の授業や示範授業の際は、お互いに意見を交換し合い高め合うことができた。	B	・児童の学校評価から、「もっとほめてほしい」という項目がやや低かった。ぜひ児童との関わりを引き続きお願いしたい。
	施設・設備等の管理	○児童の安全を第一に考え、事故のない教育環境及び職場環境を整える。	○不備な箇所は迅速に修繕を行った。築20年を迎え、大幅な修繕が必要どころが増えてきている。 ○オープンスペースの整理・整頓に取り組みしたが、荷物が多く整理しきれない箇所も見受けられる。	B	・校舎の作りから、夏は暑くなりやすい。できるだけ早く対応していただきたい。 ・学校への予算を充てていただきたい。

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標		年 度 評 価	
		重点目標	重点目標の達成状況		
鳩ヶ谷小	組織運営	○いじめ及び不登校に関する家庭に寄り添った支援の実施。	○管理職、特別支援教育コーディネーター、担任、スクールカウンセラー等と保護者の面談を通し、児童及び保護者のニーズをもとに職員間で情報共有をしながら支援を行った。 ○定期的に各種相談日を定まることができた。 ○「ほっと」ルームを効果的に活用することができ、不登校及び傾向児童の出席率や行事参加率が上昇した。	B	・不登校の問題は各家庭の事情もあり大変だと思うが重点項目として引き続き取り組んでほしい。 ・子供たちの様子を見ると、他のs区学校に通っていることがわかる。 ・ほっとルームができたことが有難い。
	教育課程	○鳩ヶ谷小学校授業スタイルの確立を目指す。	○高学年の教科担任制や学年内交換授業を効果的に実施することができた。学年の担任がチームで学年全体の児童を支援していく意識が高まった ○自校だけでなく、中学校区の小中学校の中で教員がお互いの授業を見合い、考えを伝え合うことで授業改善につながった。	B	・ICT機器について（は）テレラーニング教育の充実も願いたい。
	開かれた学校づくり	○「チーム鳩ヶ谷」の組織力向上を実現する。	○運営協議会の4回実施。 ○学校HPの定期的な更新。 ○地域と連携した児童の安全確保の実施。 ○小小中（鳩ヶ谷地区）との密な連携。	B	・「あいさつ」や「ありがとう」などよくできていると感じる。 ・今後も小小中連携を強化して行って欲しい。 ・「あいさつ」や「返事」については学校だけでなく会の教育も必要である。 ・HPの更なる工夫を。
	教職員の資質向上	○教職員不祥事ゼロの学校づくりを実現する。	○大きな教職員事故はゼロであったが、軽微な交通事故が2件発生した。その日のうちに職員間で情報共有を行い、管理職からの指導を行った。	B	・教職員事故ゼロの学校を続けて欲しい。
	施設・設備等の管理	○施設・設備等による児童事故ゼロを実現する。	○老朽化した給食室周りを中心に、児童の安全確保を第一の視点として修繕を行った。 ○複数の眼による安全確認で児童の安全を確保することができた。	A	・児童の安全確保が第一である。速やかな修繕補修をお願いしたい。 ・校庭などとてもきれいになっている。 ・体育館にエアコンの設置をお願いしたい。（川口市への要望）

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
中居小	組織運営	<input type="checkbox"/> 学年主任を中心とした共通理解・共通行動による学年経営を実施し、全教職員が力を集結する学校運営を実現する。 <input type="checkbox"/> 効率的な会議・部会運営を行い、次年度を見据えた校務分掌業務を推進し、時間外在校時間 8 0 時間未満を達成する。	<input type="checkbox"/> 報告・連絡・相談・確認・見届けを行うとともに、学年主任を中心とした共通理解・共通行動による学年経営が達成できた。学年主任を中心とする組織力を高め、機動的な組織「チーム中居」を構築することができた。 <input type="checkbox"/> 各行事等を実施する際、反省を生かした計画立案・実施をすることができた。また、見直しをもち、限られた時間内で効率的な会議・部会運営を行うことができた。	B B	・特になし ・働き方改革のために会議を全くなくすることはよくない。共通理解を図るうえで会議は重要である。会議が多くて長い場合、効率よく会議を進めるようにする。 ・働き方改革に、タイパの向上は欠かすことのできない取組だと思う。
	教育課程	<input type="checkbox"/> 日々「わかる・できる・楽しい」授業を実践し、個に応じた指導を充実させるとともに、基礎学力を向上を達成する。 <input type="checkbox"/> 家庭や関係機関との連携をより一層密にし、登校しづり児童の解消及び不登校児童への支援率 1 0 0 %を達成する。	<input type="checkbox"/> 「ほめる教育」を推進し、「わかる・できる・楽しい」授業を実施に向けて、教室訪問・授業参観を行い、必要に応じて指導助言を行うことができた。 <input type="checkbox"/> 特別支援学級設置校の利点を生かし、弾力的運用により不登校の解消・改善を図ることができた。	B A	・「ほめる教育」「わかる・できる・楽しい」授業をこれからも継続してほしい。 ・不登校の支援を一人に負担がかからないようし、不登校の解消は難しいかもしれないが支援率 1 0 0 %は必達してほしい。 ・教員の負担が懸念されるが、一人一人に向き合って指導し、不登校支援率を 1 0 0 %にしていきたい。 ・学校で弾力的運用が図られていることは子供や保護者にとってとてもよい。
	開かれた学校づくり	<input type="checkbox"/> 学校応援団の活動を充実させ、充実した教育活動を展開するとともに、学習環境を整備する。 <input type="checkbox"/> 1 年間を通し、HPIにて日々の教育活動や子供のよさ、伸び等を積極的に保護者や地域に情報発信する。	<input type="checkbox"/> 図書ボランティアや学校図書館司書との連携により、学校図書館の環境が更に整備された。 <input type="checkbox"/> 各学年において定期的にHPを更新し、教育活動を積極的に情報発信することができた。	A A	・図書室がとても充実している。 ・図書室の充実が読書離れを救っている。 ・図書室が大変充実しているので、読み聞かせ等、他校や地域の方が参加・見学できる学校公開があっても良い。 ・H P の定期的な更新は、保護者や地域との交流にもつながる。 ・H P の給食の写真が見やすくなるとなおよい。
	教職員の資質向上	<input type="checkbox"/> 教職員一人一人の資質・能力・経験や個々の長所を生かしながら授業力や学級経営力を高め、人材を育成する。 <input type="checkbox"/> 当事者意識を高め、教育公務員としての高い倫理観を醸成し、信頼される教職員を育成する。	<input type="checkbox"/> 各学級担任が家庭との連携を図り児童一人一人に寄り添った学級経営を行うとともに、授業力を向上させるために、見直しと振り返りのある授業を実施することができた。 <input type="checkbox"/> 教頭中心に短時間の倫理確立研修や長期休業中に倫理確立全体研修会等を実施し、職員の不祥事防止に対する意識を高め、学校事故 0 を実現できた。	B A	・専科教員の拡大についてニュースでもやっていたが中居小ではどうか。 ・教員に求められることが多く、大変だと思うが、より高みを目指していただきたいと思う。
	施設・設備等の管理	<input type="checkbox"/> 整理整頓と清掃を徹底するとともに、児童の学びにつながる学習環境を整備する。 <input type="checkbox"/> 目に見える変化を生む迅速かつ適切な修繕を行い、安心・安全な生活環境及び豊かな学習環境をつくる。	<input type="checkbox"/> 次年度に行う川口市教育委員会委嘱発表を機会に、国語や校内研究に関わる掲示を充実させ、校舎内の環境が整備されてきた。 <input type="checkbox"/> 教頭・事務・校務員との連携を図り、短期・中期・長期の計画のもと、施設設備を迅速かつ適切に修繕し、安心・安全な生活環境をつくることができた。	B A	・校舎の老朽化が進んでいるが、業者を使わずに直すなど、予算内での整備をこれからもお願いしたい。 ・給食室に早く冷暖房をつけなければいけない。衛生上、健康上大きな影響となる。優先順位がかなり上であると考える。 ・計画的に施設・設備等の管理がなされていることを確認した。

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
辻小	組織運営	○目指す学校像実現のために組織の活性化を行い、児童一人一人のよさを伸ばす学校づくりをする。	○「ポストコロナ」の視点で学校行事や年間計画を見直した。授業でのICT活用も積極的に行った。今年度新たに出た課題を解決するために工夫改善を行っていく。 ○学級力アンケートの実施・活用により、教職員が児童一人一人に寄り添った学年・学級経営を進めることができた。 ○新たな不登校を出さないために家庭との連携を密にし、何かあったらすぐに対応するよう管理職も含め、丁寧な対応を行った。	B	・参観した際、1年生もタブレットを上手に使っていた。引き続き、頑張してほしい。 ・運動会の参観は保護者の視点に立った方法で行って良かった。とてもよかったと思う。
	教育課程	○算数科を中心とした学力向上を進めるとともに「知・徳・体」のバランスのとれた児童の育成を実現する。	○算数科授業を中心として基礎的基本的な学力の向上を授業実践を通し、考えてきた。家庭との連携による「辻小学校家庭学習の手引き」を作成し、学力向上の一助とした。 ○ICTの積極的活用を行うため、教育コンサルタントと連携し、職員研修並びに研究授業を行った。 ○道徳教育推進のために学年間によるローテーション道徳授業を実践した。教師自身も道徳授業の指導力向上を行えた。 ○子供の体づくりを考えながら体育朝会の内容も精選した。	B	・家庭と連携した学力向上を引き続き行ってほしい。
	開かれた学校づくり	□コミュニティスクールを生かした教育活動を工夫・改善しながら学校・保護者・地域との連携協力をより進めていく。 □新たな教育活動を推進するために民間との連携を積極的に行う。	○体験的な活動を積極的にを行うために今年度も学校運営協議会委員副委員長様を活用した体験活動を実施できた。来年度以降も引き続き、活用させていただきたい。 ○学校HPは校長・栄養教諭が中心となり、昨年度より更新頻度を上げることができた。特に修学旅行時の更新では閲覧者数を増加させることができた。 □低学年のガスキンお掃除教室やJAL空育、中学年のグループホーム訪問、ロボットプログラミング、高学年のハーフルサッカー、佐賀県とのオンライン交流など、様々な連携を行い、新しい教育活動を進めることができた。	A A	・地域人材や地域資源を生かして教育活動を進めていくことはよい。民間との連携も進めているような活動もできてよい。 ・子供たちのあいさつは低学年がいつも元気してくれる。高学年にももっと元気なあいさつをしてほしい。
	教職員の資質向上	○教職員の和を大切にし、教職員事故0を目指すとともに教職員が互いに高め合える教職員集団を育成する。	○教務主任を中心とした若手研修「ツジナデス」の実施により若手教員の授業力向上につなげた。次年度以降は自走できるような仕組み作りを行っていく。 ○2年生及び4～6年生では交換授業を含めた教科担任制を進められた。専門性を高めることにより教育のプロとしての意識を高めることができた。 ○管理職の授業参観は定期的に行えた。引き続き、行っていく。 ○教職員との日常的な情報交換を大切にしたい。	B	・若い先生が頑張って子供たちを育てていこうという気持ちを持っていることは大事である。先生同士で情報交換を大切にし、よりよい学校教育を進めてほしい。
	施設・設備等の管理	○児童の視点に立った定期的な施設の安全確認、環境整備を行い、事故のない教育環境、職場環境を整える。 □学校課題に沿った計画的で効率的な予算執行を行う。	○日常的な点検を重視し、不備な箇所の早期発見を行った。迅速な対応ができるものについては行った。慢性的な課題の箇所については予算の範囲内で修繕を行ってきた。設備も修繕に時期に入ってきているものもあるので、計画的に行っていく。 □教材費については銀行引き落としを個人教材物品ではインターネット販売を行えた。このことにより現金徴収を行わず、会計事故防止につながられた。口座登録については保護者の理解を得ながら、登録100%を進めていく。	B B	・安全点検による施設の不具合の早期発見によって子供たちの安全が守られる。早めの対応はお願いしたい。 ・キャッシュレス化は今の時代に合っている。

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
里小	組織運営	○校内分掌組織がP D C A サイクルで積極的かつ組織的に取り組めるようにする。	○教職員による内部評価「学校教育目標の達成に向けて積極的に取り組んでいる」は100%だった。	A	・特になし
	教育課程	○学習規律を定着させ、良好な人間関係の中で落ち着いて授業を進められるようにする。	○保護者による学校評価「徳力の向上」9 5 %、「学力の向上」9 6 %、「体力の向上」9 6 %であった。	A	・特になし
	開かれた学校づくり	○学校・学年の様子や連絡等をホームページやメールで発信していく。	○保護者による学校評価「学校は保護者・地域と連携・協力して教育活動を進めている」は9 5 %であった。	A	・特になし
	教職員の資質向上	○教育公務員として高い意識をもたせる。	○ボトムアップによる倫理確立委員会が計画的に実施できた。	A	・特になし
	施設・設備等の管理	○安全面から優先順位をつけて施設・設備等を管理する。	○今年度内に防球ネットの設置が完了する。	A	・体育館のエアコンを設置してほしい。

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
桜町小学校	組織運営	<input type="checkbox"/> 教職員の積極的な学校運営への参画意識の醸成 <input type="checkbox"/> 会議、研修、事務業務のスリム化	○年度当初に年間を見通して各部内で役割を分担したため、業務のすみ分けが明確になり、部会で議論し、チームで業務を遂行する場面が増えた。このサイクルを循環させることにより、教職員一人一人の学校運営への参画意識は向上した。 <input type="checkbox"/> 会議・研修の考え方、精選、通知表年2回配付、授業時数削減、日課表・週時程の修正等、主幹教諭が昨年度から計画的に立案・周知・実施と進めてきたおかげで、自己裁量の時間が圧倒的に増え、授業づくりや児童理解の議論が職員室で増え、教育活動の質が高まった。	B A	・通知表の運用が年2回になり、先生方の日常業務全般に改善意識が生まれ、会議、研修、日課表、週時程修正等、チームまたは個々の意識が向上し、先生方の時間余裕が生み出され、業務全般に良い変化が生まれたと考えられる。 ・様々な業務の精選等により、先生方の自己裁量の時間が圧倒的に増えたとのこと、とても良いと思う。児童理解をもとにした一斉指導、個に応じた指導と共に、合理的環境調整の積み重ねにも期待している。 ・自己裁量の時間が圧倒的に増え教育活動の質が高まったとのこと。運営全般が向上へとつながつたと捉えている。
	教育課程	○自分なりの考えをもち、仲間と協働して、課題を見つたり、課題を解決したり、新たな考えを生み出したりする力の育成	○専科制やT.T.の充実と放課後生み出した時間により、主体的・対話的で深い学びを視点とした授業改善や課題解決型の学習などにチャレンジする授業が増え、子供たちの3つの資質・能力を伸ばすことができた。	B	・学力等、マニュアル化されたものでは見えにくい力をどう評価するのかに納得のいく答えはないだろうが、日常的にその視点、姿勢をもち続けることこそが、教育のみならず社会の多様な熟成につながるものと思う。その点、本校の多面的な取組を高く評価する。 ・昨年から引き続き、算数専科は保護者として本当にありがたい。高学年で難しくなるときに、実質2人体制で見ていただけたので、一人一人よく見てもらえていると感じている。 ・道徳の授業風景を見学して、桜町小は意見の出しやすい人数のかなと感じた。一年間の成果もあると思う。
	開かれた学校づくり	○鳩ヶ谷中学校区義務教育9か年でのゴールイメージの保護者、地域の方への周知と具体的な取組の検討	○鳩中、鳩小、本校の目指す児童生徒像を紐づけて、これまでの取組を整理し、これからやってみよう取組を話し合った。今年度はまず、「お互いを知る」というところで機会を捉えて授業参観を重ね、相互理解を図った。	B	・「義務教育9年間」という考えがとてもよいと思う。中学の入学説明会でも、鳩中の姉妹校だと思っていると、鳩中の校長がお話しされ、入学を控えて心配な保護者も小中が連携していると知り、安心したと思う。 ・数値では見えにくいものに多面的に取り組んでいる日々の学校活動の相乗効果は子供、教職員だけにとどまらず、それを見守る地域にまで影響を及ぼすであろう。期待している。 ・日々HPにアップされる内容がとても良い。先生方・子供たちの様子などがとても伝わってきて、閲覧後なんだか爽やかな気分になるので、次年度以降もぜひ続けてほしい。鳩ヶ谷中学校区3校の取組の好影響は、子供たちに直結すると思っているので、引き続き期待している。
	教職員の資質向上	○授業づくりについて学び合う教職員集団の構築と、校内の教職員から学ぶ授業力向上 <input type="checkbox"/> 授業づくりについて学び合う教職員集団の構築と、校外の実践から学ぶ授業力向上	○今年度教科書が変わったこともあり、学年内、専科教員となど、授業づくりについて相談したり、議論したりする姿が多くみられた。導入や対話、課題解決の場面、ICTの活用等、工夫の見える授業が増えた。 <input type="checkbox"/> 鳩中、鳩小だけでなく、研究発表会や授業研究会に積極的に参加する姿が見られ、学んできたことを自分の授業でチャレンジし、手応えを感じていた教員が多かった。	A B	・昨年度に引き続き、桜町小のT.T.や専科制の取組に大変満足している。先生方のチームワークの良さ、子供や授業に対する真摯な姿勢などが随所で伝わってきて、一保護者として嬉しく、ありがたい気持ちで一年間過ごせた。 ・先生方、とてもがんばってくれていると感じる。学校であっても皆さん明るい顔で生き生きしているなど感じている。 ・タブレット使用に始まり、デジタル教科書導入も近く決定されることがニュースに取り上げられており、学校環境も大きく変わってくる。
	施設・設備等の管理	○児童の安心・安全な学び舎として、施設・設備事故ゼロに向けた計画的な修繕・整備 <input type="checkbox"/> 会計事故ゼロの達成と保護者負担軽減の視点での教材費徴収、公費負担の調整	○体育館の屋根、外壁の大規模修繕、女子トイレ洋式化は完了。3年がかりの水質改善のための工事も若干工期が遅れているが、2月末完了予定。教頭が調整し、事故ゼロ。 <input type="checkbox"/> ここまで会計事故ゼロできている。次年度に向けて教材費の口座引落への移行を事務主事を中心に進め、順調にきている。5年生からの積み立てについても保護者周知済み。	A A	・体育館の改修、水質改善等、施設環境づくり、改善は児童の心理にも良いと思慮される。 ・二重丸である。目立たない領域だと思うが、子供たち（家庭）のために、確実に確実に、業務を進めている教頭、事務担当に感謝する。 ・限られた予算を最大限に活用し、良好な環境維持に努めている。特に女子トイレの洋式化はよかった。

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
南鳩ヶ谷小	組織運営	<p>○元気な大きな声であいさつのできる児童を育てる。</p> <p>□通知表の改善</p> <p>◇学校応援団の充実を図る。</p>	<p>○相手の目を見て元気に挨拶ができる児童が増えた。</p> <p>□評価項目を精選し、保護者にわかりやすい通知表に訂正した。保護者からの評価は昨年度比－13%となった。</p> <p>◇学習ボランティア（ミシン補助、学級授業補助）をコロナ禍前にもどした。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>A</p>	<p>・以前よりあいさつをする児童が多くなった印象です。</p> <p>・朝から児童が元気がないから、挨拶ができていないと思う。家庭での生活習慣と寝の呼びかけも行ってもらう。</p> <p>・保護者の説明も粘り強く行っていけば理解してくれると思います。わかりにくいという訳ではないと思っています。</p> <p>・簡素化によりわかりやすい通知表は児童・保護者・教員にメリットがあるため、引き続き取り組んでいただきたい。</p> <p>・地域との連携を図るには、学校から声をかけた方が良いと思う。</p> <p>・新しい生活様式が提唱された中、以前より充実した内容とするためには相当大変と思慮しています。教員の負担とならない程度で取り組んでいただきたい。</p>
	教育課程	<p>○体力向上を図る。全学年9割の種目を県平均を上回る。</p> <p>□授業時数の点検を行う。</p> <p>◇不登校児童及び保護者との面談の実施。新たな不登校児童を出現させない。</p>	<p>○新体力テストが県・市の平均を上回る結果となった。</p> <p>□標準授業時数を下回るのはなかったが、余剰時数が少ないので、学活の時間を意識していかなければならない。</p> <p>◇不登校児童支援カルテを作成し、活用・実行することができた。ほっとルームの運用が円滑に進めることができた。</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>・本年度は体力向上が上回って良かったと思います。南鳩小から八幡木中は遠いので、このまま体力向上に努めてほしいと思います。</p> <p>・児童の努力はもちろん、教職員の努力が成果に表れたと感じています。大いに評価し、児童のやる気へのきっかけを今後も継続していきたい。</p> <p>・余剰時間が少ない中で上記成果をあげているため、重点目標は達成されたと評価しています。</p> <p>・人員不足の中、先生方は工夫してはやくやっていただいていると思います。</p> <p>・不登校児童の対応は良くできていると思います。</p> <p>・教職員が不足している中で相当の対応をされたと感じていますが、マンパワー不足では限界があるため、市教委への人員配置を強く要望する。</p>
	開かれた学校づくり	<p>○読みやすい、わかりやすい学校便りの発行。</p> <p>□ホームページで学校行事や児童の様子を公開していく。</p> <p>◇保護者・地域の意見を反映させていく。</p>	<p>○次年度と大きく変更することはなかった。児童のアンケート調査を掲載するなど、学校の実態を知らせることができた。</p> <p>□ホームページ担当を位置付けたが、学年のページの更新が計画通りにはいかなかった。</p> <p>◇運動会では、徒競走をプログラムに取り入れた。こぼと祭では保護者座席を改善した。</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>A</p>	<p>・外部発信媒体の変更は大きな労力を伴います。重点目標ではなく、通常目標として、教職員の負担が増えない範囲内で取り組んでいただきたい。</p> <p>・学校便りは文字の大きさ等読みやすいし、わかりやすいと思います。</p> <p>・ホームページが更新の目標となり、資力が集中してしまう懸念があります。リアルタイムで発信すべき情報を重点で掲載するなど、教職員の過度な負担を避け持続可能な運用を求めます。</p> <p>・普段の子供の様子が少ないと思っています。</p> <p>・学校は保護者・地域の意見を反映していると思います。</p> <p>・保護者ニーズへの迅速な対応が達成できたことは大いに評価できると感じました。</p> <p>・毎年改善点をアップデートしながら実施されており、大変感謝しております。</p>
	教職員の資質向上	<p>○授業観察を効果的に行う。</p> <p>□若手教員を育成する。</p> <p>◇学級経営の充実を図る。</p>	<p>○複数の目で授業観察を行い、個々の教員の良さや課題を見取ることができた。</p> <p>□学校全体で、若手教員を育成してきた。教頭・主幹教諭が個別に若手教員への指導も行ってきた。</p> <p>◇帰りの会の持ち方等で、児童の居場所づくりや友達関係づくりを進める学級が増えた。</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>A</p>	<p>・教員不足の中、可能な範囲で対応できたと感じています。管理職教員の健康管理上市教委へ職員配置を強く希望する。</p> <p>・先生の人数が限られている中で様々な取り組みをさせており、ご苦労されていると思います。</p> <p>・先生方の負担がおおくなりなないようにできればと思います。</p> <p>・人員不足中、校長先生を中心によく回らせていると思います。教頭先生が担任と教頭業務もするのにはさぞかし、大変なご苦労があると思います。人員不足がないことを願います。</p> <p>・取組みの結果、挨拶履行、学力向上等も成果が出ていると感じています。</p> <p>・アンケートで学校に行くのが楽しいという児童が多かったようです。このまま安全安心で楽しく行ける学校であることを望みます。</p>
施設・設備等の管理	<p>○安全点検の仕方の見直し。</p> <p>□老朽化箇所の報告。</p> <p>◇避難所としての機能の確保。</p>	<p>○安全主任及び管理職で安全点検カードを確認。不具合がある場合は、現場へ行き、状況を確認し、速やかに処置を進めた。</p> <p>□昨年度から大きな改修・工事は実施されていないが、引き続き、現状を伝えていく。</p> <p>◇避難所のポンプの修理が完了しなかった。引き続き、進捗状況を聞き取り、自治会へ報告していく。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>・築50年で老朽化、洋式トイレ、体育館エアコン設置が早急に行われることを願います。</p> <p>・施設維持は予算が伴うことから現予算額の範囲内で可能な限り行えたと感じています。</p> <p>・重点目標が現状を伝えていくことなので学校としての評価ができると感じています。</p> <p>・自然災害で避難所で集まっても設備の不十分で安心できないです。</p> <p>・危機管理課は危機を感じていないのでは？ 早急な対応が必要だと思います。</p> <p>・重点目標が現状自治会へ報告することなので学校としての対応は評価ができる。市防災課の対応が待たれます。</p>	

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）	
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度		
		重点目標	重点目標の達成状況			
東中	組織運営	<input type="checkbox"/> 生徒・保護者・地域から信頼され、頼りにされる教育活動を実践していく。 <input type="checkbox"/> 教職員が笑顔で元気に生徒と接することができ、活気ある教育活動を実践していく。	<input type="checkbox"/> 学校評価において、生徒・保護者から概ね達成といえる評価をいただいた。 <input type="checkbox"/> 日課の変更により、保護者・地域の皆様の御理解を得ながら、教職員の働き方改革を進めることができた。	B C	・特になし ・特になし	
	教育課程	<input type="checkbox"/> 全教科共通して「聞く」ことを意識した授業を実践し、学力向上に向けた授業展開を実施していく。 <input type="checkbox"/> 担任・学年職員等による教育相談体制を構築し、授業に参加できていない生徒への学習支援を実現していく。	<input type="checkbox"/> 「聞く」ことを研修テーマし、学校全体で指導・支援を行ってきた。学校評価も概ね達成できたといえる評価であった。 <input type="checkbox"/> 学習支援が必要である生徒に対し、できる限りの支援を実施した。しかし、関係生徒すべてから学習生徒の見届けまで行うことができなかった。	B C	・特になし ・特になし	
	開かれた学校づくり	<input type="checkbox"/> 学校からの通知や緊急性のある情報等について、迅速かつ正確な情報発信を行っていく。 <input type="checkbox"/> 各校の良いところ共有し、新郷地区でまとまりのある指導を行い、子どもたちを育成していく。	<input type="checkbox"/> 学校からの情報発信については、滞りなく行うことができた。 <input type="checkbox"/> 地区研修会や授業参観、模擬授業の実施、定期的な情報交換を行うことができた。	A B	・特になし ・特になし	
	教職員の資質向上	<input type="checkbox"/> 中学校卒業後の進路実現のため、生徒が目標に向けた学びに行うことができる授業体制を確立する。 <input type="checkbox"/> 生徒・保護者・地域から信頼される教職員集団を形成する。	<input type="checkbox"/> 研究テーマを意識した授業展開により、授業参観の視点が絞られ、授業力向上につながる自己研鑽を実施できた。 <input type="checkbox"/> 教育公務員としての自覚をもち、信頼される教職員であることは意識できていた。	B B	・特になし ・特になし	
	施設・設備等の管理			<input type="checkbox"/> 定期的な点検により、修繕箇所の把握し、優先順位を決めて修繕することができた。	A	・特になし
				<input type="checkbox"/> 安全な避難場所となるよう、教育委員会との報告・相談は適宜行うことができた。	B	・地域も協力できることは協力していく。

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園）自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達 成 度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
西中	組織運営	<p>○学校に行くことが楽しいと感じる生徒の割合、学校に行くことを楽しみにしていると感じている保護者の割合を95%以上にする。学校生活に満足している生徒を育成する。</p> <p>○生徒に喜びと感動を味わわせ自己肯定感をさらに向上させる。</p> <p>□生徒一人一人の状況に応じた不登校への未然防止、早期発見・早期対応、長期化防止への支援策を構築する。本校の喫緊の課題である不登校生徒の割合の減少と復帰率を向上させる。</p> <p>□それぞれの生徒に応じた支援率100%を達成する。</p> <p>◇教職員が明るく元気に働ける職場を実現するために、年休の取得や在校時間への関心を高め、心や体の不調による休暇等及び教職員事故を0とする。</p> <p>◇在校時間月45時間、年間360時間超を前年度比50%減、月80時間超を0%とする。</p> <p>◇教職員の年休取得10日以上を実現する。</p>	<p>○学校評価による学校生活に満足している生徒の割合は92%（昨年度90%）、保護者の割合は96%（昨年度95%）であった。</p> <p>○今年度から「楽しい」から「満足している」へと評価のレベルを上げた。</p> <p>○学校経営の一番の目標である学校生活に関する生徒の満足度、保護者の満足度が増えたことは成果であった。</p> <p>□12月末現在、欠席日数30日以上の子は19名、出現率は3.1%となっている。（昨年度同時期4%以上）</p> <p>□不登校生徒の割合については目標値には届かなかったが、不登校生徒数、出現率を前年度より下回ったことは成果であった。新規の不登校生徒を抑えたことによるものと考えられる。</p> <p>◇4月から12月までの月45時間超はR5年度21名、R6年度16名、月80時間超はR5年度34名、R6年度9名、年間360時間超はR5年度21名、R6年度16名と減少している。目標値には大きく届いていない。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>・満足感が得られていることは大変良いことだと思う。引き続き子どもたちが満足感を得られる学校経営をお願いしたい。</p> <p>・ほっとルームの開設について、教員の授業の持ち時間など、人が充てられるのか。人が充てられなければ先生方の負担が増えるのではないか。人は増やせないのか。</p> <p>・教員の働き方改革を進めていかなければならないことは承知している。ぜひ、工夫をして先生方の健康を守って欲しい。</p>
	教育課程	<p>○学力向上の一環としてGIGAスクール端末を効果的に活用した「個別最適な学び」の授業を展開する。</p> <p>○不登校生徒への学習保障として、GIGAスクール端末の有効活用を確立する。</p> <p>□生徒が学び合い、生徒を主体とした「協働的な学び」を実践する教職員を育成する。</p> <p>◇今年度から日課表を見直し週28時間授業を行い、年間授業時数を必要最低限にする。</p>	<p>○GIGA端末は、教科の特性や単元等のねらいに沿って、各教科担当の創意工夫により効果のある活用がされている。</p> <p>○教室で学習したくてもできない生徒へのオンライン授業による学習を保障する要項を作成した。</p> <p>□班編成を工夫して、生徒同士が互いに学び合う「協働的な学び」を意識した授業が増えてきた。</p> <p>□学校評価「わかりやすい授業を行っている」について、生徒は93%（昨年度96%）、保護者は85%（昨年度87%）であった。</p> <p>◇主幹教諭が授業時数をカウントして、授業の入れ替えなどを行い、各教科均等になるように日程を調整している。</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>・オンライン授業の扱いや出席扱いの取り扱いなど、多様化していることはよくわかった。</p> <p>・特になし。</p> <p>・特になし。</p>
	開かれた学校づくり	<p>○学校と保護者、地域との距離を縮め、学校への理解を深め、本校が行う開かれた学校づくりに対する学校評価を95%以上にする。</p> <p>□学校行事や学校公開週間など、保護者や地域に学校を積極的に見ていただき、学校は保護者や地域との連携を図っていると評価を95%以上にする。</p>	<p>○保護者の学校評価「学校は学校の様子を積極的に発信しているか」は97%（昨年度と同率）、「家庭との連携を積極的に図っているか」では89%（昨年度と同率）となった。</p> <p>○学校だよりや学年通信、学校からのお知らせなどを、メールで配信することにより、大幅な紙の節約となった。</p> <p>□2学期末は、インフルエンザに感染する生徒が増え学年閉鎖や学級閉鎖が相次ぎ、2学期の学校運営協議会を中止した。そのため年2回の開催となった。</p> <p>□学校公開は予定通り年3回実施できた。</p>	<p>B</p> <p>B</p>	<p>・生徒、保護者の学校評価を見たがどれも高評価に思う。小学校と比べ、中学校になると家庭と学校の距離が開きがちなると思う。学校からの発信をできる限り続けて欲しい。</p> <p>・特になし。</p>
	教職員の資質向上	<p>○学校評価の生徒、保護者アンケートの「学力が伸びた」の項目について、「はい」と答える割合を80%以上にする。</p> <p>□研修会等への積極的な参加や外部からの指導者を受け入れ、各教職員のライフステージに応じたスキルアップを実践する。</p> <p>□特に領域の主任に対して助言・指導を行い、領域の活性化させる。</p>	<p>○教科によっては交流を密にしている教科もあるが、学校全体において教科部会の活性化までは至っていない状況である。</p> <p>○教員同士の相互授業参観は2学期に行った。</p> <p>□教員一人ひとりの授業力向上のために、全教科について指導課指導主事を要請し授業研究を行った。</p> <p>□他校の研究発表や希望研修に積極的に参加する教員が増えた。</p> <p>□外部の研修に参加した教員が全教職員への情報共有を行った。</p>	<p>B</p> <p>A</p>	<p>・特になし。</p> <p>・出張旅費がなく、先生方が学びたい研修等に行けないのは問題だと思う。</p>
	施設・設備等の管理	<p>○環境づくりは学習の場づくりとして、生徒が毎日生活する場を整え、生徒にとって安全で安心して学校生活を送れるようにする。</p> <p>○施設に関する学校事故ゼロを維持する。</p> <p>□配当された予算により、計画的に修繕・修理を行い、教育環境を整える。</p> <p>□会計に関する事故ゼロを維持する。</p>	<p>○学校施設に関する事故0を継続することができたが、今年度も鍵の紛失や電気につけっぱなし、窓の開けっぱなしなど、活動場所の見届けが不十分な面が見受けられた。</p> <p>□会計に関する事故0を継続することができた。配当予算は必要に応じて適切に執行することができた。</p>	<p>A</p> <p>A</p>	<p>・学校事故や教職員事故につながらなければよいと思う。管理職の確実な監督をお願いしたい。</p> <p>・老朽化の問題を行政はどのように捉えているのか。その施設で学ぶ子どもが最優先のはずだと思うのだが。</p>

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
南中	組織運営	○ミドルリーダーを機能させ、持続可能な組織を作る。 □課題に応じ、臨機応変に対応できる組織を作る。	○各部の主任やミドルリーダーを中心とし、最上位の目的を意識したうえで方策を検討していく組織となっている。 □課題に対し、生徒の学びに視点をあてた方策を検討する組織となっている。	B B	・特になし ・特になし
		教育課程	○生徒の学びの姿から教育課程の効果を検証し、必要に応じて見直しを図る。	○生徒の学びに視点をあて、教育活動に取り組むことができた。	B
	開かれた学校づくり	○地域連携活動が持続可能なものとなるよう、見直しを行う。 □幼小中の連携について、市の研究委嘱を機に、子供の学びの姿に焦点をあてた研究に取り組む。	○前年度踏襲ではなく、見直しと改善に取り組んだ。生徒のボランティアによる地域行事への参加が実現した。 □幼小中の教職員が交流し、互いの園・校種における子供の学びの姿を共有する機会を設けるとともに、連携教育について、指導者を招聘した研修も実施することができた。	B A	・神幸祭に参加していただいた事は、地域にとってもよかったと思います。 ・特になし
	教職員の資質向上	○校内研修を充実させ、教職員の指導力向上を図る。 □倫理確立委員会を更に充実させる。	○市の委嘱を受けていることから、幼小中の連携に視点をあてた研修を充実させることができた。 □倫理確立委員会担当の職員を中心に、自分事と捉えられるボトムアップ型の研修を毎回工夫し、取り組むことができた。	A B	・先生方の資質向上は生徒の向上にも必要なことだと思います。 ・特になし
				施設・設備等の管理	○生徒も巻き込んだ、学校ぐるみの施設管理を行う。 □計画的な修繕を行う。

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標		年 度 評 価	
		重点目標	重点目標の達成状況		
北中	組織運営	<input type="checkbox"/> 校務分掌の相互連携を充実させ 効果的組織機能の向上。 <input type="checkbox"/> 学校改革による教職員の学校運営参画意識の向上。 ◇学校評価の項目の継続的改善。	<input type="checkbox"/> 校務分掌の相互連携を充実が図られ実行力のある学校組織が構築された。 <input type="checkbox"/> 「学びの共同体の構想と実践」の推進により教職員の学校経営への参画意識及び同僚性の醸成が図られた。 ◇評価項目と実施方法の改善を行い、実態に即した学校評価が実施できた。	A B A	・教員がベクトルを合わせ、組織として教育課題の解決に取り組んでいる姿勢が良い。 ・規律と潤いのある学校生活が構築され学校が活性化している。 ・教職員の漸進的な負担軽減策を継続して、より生徒と一緒に活動する時間の確保に努めて欲しい。
	教育課程	<input type="checkbox"/> 「学びの共同体」の実践により探求と協同の学びを深め、生徒一人一人の学びの質を向上させる。 <input type="checkbox"/> 「学びの共同体」の構成と実践を柱とした教育課程を推進し全ての生徒の学びを支援する。 ◇小中連携した教育課程の構築	<input type="checkbox"/> 「学びの共同体」の構成と実践を柱とした学校改革が確実に推進された。 <input type="checkbox"/> 「学びの共同体」の構成と実践を柱とした学校改革が確実に推進された。 ◇中・長期なスパンでの継続可能な教育活動の初期段階が実施できた。	A A B	・引き続き学校からの働きかけにより、家庭学習の必要性を家庭に訴えてほしい。 ・継続して小中連携した探求と共同のある教育活動を推進し確実に学力向上等に繋げてほしい。 ・教育指導計画の柔軟な対応により確実に教育活動が実施されている。
	開かれた学校づくり	<input type="checkbox"/> 「学びの共同体」の構想と実践による学校改革を推進し、保護者や地域が改革に参加する学習参加の実践を推進する。 <input type="checkbox"/> 「学びの共同体」の構想と実践を柱とした学校・家庭・地域の連携を強化する。	<input type="checkbox"/> 「学びの共同体」を柱とした学校改革が推進され、保護者や地域が改革に参加するというビジョンを地域・保護者に周知できた。公開授業も予定通り実施することができた。周知から実践に適宜移行していくことが課題である。 <input type="checkbox"/> 学びの共同体を柱に中学校ブロックを単位とした北中学校区の小学校と公開研究会を計画的に実施できた。さらに推進充実が課題。	B B	・北中が中心となつての学びのイノベーションが神根地区に波及して地域と連携した教育活動が充実され、生徒の顔が見える学校づくりが成果を上げている。 ・ホームページや学校の実態が伺える学校便り等、適宜情報発信がされ、学校の教育活動が適時わかりやすく知ることができた。
	教職員の資質向上	<input type="checkbox"/> 学校研究主題を「学びの共同体の構想と実践」として、生徒がより「学びを深める」ための「創造性」「探求」「協同」を追求。 <input type="checkbox"/> 教育公務員としての使命を自覚し、教育のプロとしての誇りを持って日々の教育活動に取り組み、教職員の資質の向上を実現する。（教職員事故ゼロ）	<input type="checkbox"/> 「学びの共同体の構成と実践」を柱に生徒の学びを深めるための「創造性」「探求」「協同」をキーワードとした授業改善を着実に実践し指導力が向上した。 <input type="checkbox"/> 教職員事故ゼロを目指した課題別研修を適宜適切に実施でき教育公務員としての意識が醸成された。	A A	・実態に応じた生徒に寄り添う教育活動が随所にみられ、教職員相互の支援体制の充実が伺える。是非継続してほしい。 ・自ら学びに向かう、生涯学習の礎となるような授業改善を推進して欲しい。
	施設・設備等の管理	<input type="checkbox"/> ユニバーサルデザインに配慮した人にやさしい教育環境の整備を推進して安全管理を徹底する。 <input type="checkbox"/> 学校施設を有効活用しての幅広い教育活動を実践する。	<input type="checkbox"/> 中・長期的環境整備計画であった渡り廊下の耐震工事・昇降口の大型修繕が無事終了し安全で優しい教育環境づくりが推進し効果的に施設活用した教育活動が実践された。 <input type="checkbox"/> 新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた施設・設備の安全管理を徹底し生徒の安心安全な学校生活が推進された。 <input type="checkbox"/> 施設・設備の安全管理を徹底し生徒の安心安全な学校生活が推進された。	A B	・ユニバーサルデザインを意識した学校内外の改修や特別教室の整備など、生徒に優しい教育環境に発展している。 ・生徒の作品を中心とした校内掲示及び図書館の整備は目を見張る充実ぶりである。 ・学校事故を起こさない施設・設備の安全管理の徹底が伺えた。継続充実を図ってほしい。

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達 成 度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
青木中	組織運営	<p>○属意識を高めた相互協働体制を推進し、ボトムアップとトップダウンのバランスを図り組織力を高める。</p> <p>□中堅教員に責任ある仕事を任せ、ミドルリーダーとしての自覚を持たせる。</p>	<p>○学校評価の教職員アンケートの結果より97パーセントの教職員が組織的に取り組んでいると回答している。</p> <p>□中堅教員に校務分掌の主任や、行事の企画・主担当を任せ経験を積ませることができたが、若手のリーダーとして、意識を持たせるまでには至っていない。</p>	A B	・教職員の組織力が向上すれば、学校が抱える諸問題についてもしっかり対応することができると思うので、引き続き組織力を高め、また教職員のリーダー育成に努めていただきたい。
	教育課程	<p>○授業の質を高める研修・研究をととして、互いに教師力を高めあう。</p> <p>□基礎的・基本的な力を確実に身に付けさせるために、指導法の研究を進める。</p>	<p>○若手教員の授業を中心に研究授業を行い、授業参観の機会を設けた。また、指導者を招聘した研究授業も実施したが、積極的な相互授業参観を行うことはできなかった。</p> <p>□多くの授業でタブレットを活用した授業を展開することができた。生徒学校評価アンケートの結果では85%の生徒たちがタブレット等のICT機器を活用した授業を行っているという回答している。</p>	B B	・今後も学力向上させるために、教職員の指導力を充実させ取り組んで欲しい。
	開かれた学校づくり	<p>○学校が地域社会の核となり、保護者や地域の教育力向上を促進した教育体制をつくる。</p>	<p>○学校評価の保護者アンケートの結果より72パーセントの保護者が学校との連携を積極的に行っていると回答している。</p>	B	・学校公開で保護者の数が少ない。学校の様子が見えにくい状況もあるので、学校公開を休日に設定してみようか。より開かれた学校として、保護者の協力を得ることができるようになると思う。
	教職員の資質向上	<p>○教員としての自覚を持ち誰からも信頼・尊敬される教師の育成を目指す。</p> <p>□個々の教員のワークライフバランスに応じた業務改善を進める</p>	<p>○校内の倫理確立委員会を通して、教育公務員としての自覚を持せ、教職員一人一人が服務規律を守り教職員事故を起こさない啓発活動を行った。</p> <p>□学校評価の教職員アンケートの結果より63パーセントの教職員が自らの働き方改革を進めていると回答している。</p>	B C	・部活動の時間が短くなったことで、教職員の負担軽減にもなり、働き方改革も進んだのではないか。今後はさらなる負担軽減策も必要ではないか。
	施設・設備等の管理	<p>○生徒たちの有意義な教育活動を実現させるためにも、学校生活での安全を確実に保証する。</p>	<p>○毎月1回の定期的な安全点検を確実に実施し、故障箇所については迅速に修繕をした。</p>	B	・校舎の老朽化は深刻である。特に夏場のエアコンが効かない状況については、生徒たちの健康面も心配であるため早急な改善が必要である。なんとかできないものか。

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
芝中	組織運営	○不登校生徒数の割合7%以内	○不登校生徒数の割合6.5%(1月末)。昨年度8.4%。9月に不登校児童生徒の保護者対象進路講演会を実施。	A	・取組が成果として表れている。今後も継続してほしい。 ・不登校生徒の進路は？ ⇒通信制高等学校への入学を希望する生徒が多い。 ・通信制高校の現状は？ ⇒生徒一人一人の背景を理解しきめ細やかな配慮をしている様子が見える。
	教育課程	○GIGA端末に関する教職員研修を実施する	○端末の有効活用に関する研修会を4回実施。8教科の教員が他校の研究授業へ参加。	A	・芝中授業スタイルの確立とともに、無理のない範囲で芝中の特色を生かした教育活動を取り入れてほしい。 ・学習塾に通っている生徒とそうでない生徒との学力の差は？ ⇒一概には言えない。自立した学習者であるかどうかで学力は変わる。本校は学力の二極化が課題である。
	開かれた学校づくり	○地域と学校との連携を深め、さらなる信頼関係を構築する	○地域行事への参加3件増 ○小中合同引渡し訓練実施 ○川口市総合防災訓練に生徒100名以上が参加	A	・小中の連携をさらに深めてほしい。 ・地域一丸となって、様々な教育課題(不登校等)の解決に向けて連携していくことが大切である。 ・ホームページに地域学校保健委員会の取組(アウトメディアチャレンジ)が掲載されていた。生徒への教育はもちろんのこと、親への教育でもある。今後も継続してほしい。
	教職員の資質向上	○働き方改革（時間外在校時間年間360時間以内）を実現する	○時間外在校時間360時間超の割合39%（1月末）。昨年度61.2%。業務改善スタンダード、新教育課程を確実に実施。	B	・教職員が健康でなければ、良い教育はできない。引き続き教職員の心身の健康には十分留意した学校経営を進めてほしい。 ・部活動について、働き方改革は進んでいるか？ ⇒勤務時間内に部活動が終了できるよう日課を組んでいる。休日の部活動指導に負担を感じている教職員は多い。部活動地域移行について、市の方針に則りながら進めていく。
	施設・設備等の管理	○施設管理事故ゼロを実現する	○施設管理事故ゼロを達成。昨年度から懸案の修繕と今年度発見した修繕、桜の植え替え、洋式トイレの増築は実施済み。	A	・徐々に良くなってきている。 ・計画的に修繕されている様子が見える。 ・今後も生徒の安心安全を第一に考えた施設設備の充実に努めてほしい。

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）			
		年 度 目 標	年 度 評 価	達 成 度				
		重点目標	重点目標の達成状況					
元郷中	組織運営	<p>○教職員一人ひとりの能力を発揮・結集させ、組織全体の力を向上させる。</p> <p>□月45時間、年360時間以下の在校時間を旨す。</p> <p>◇教育活動が円滑に流れるための組織の確立</p>	<p>○経験のある職員が若手を支え、翻って学力向上や授業改善につながりつつある。</p> <p>□意識は高まっているが繁忙期等があり、22%の職員が超過している。</p> <p>◇会議の内容を反映できた点と不十分な点があった。</p>	<p>B</p> <p>C</p> <p>B</p>	<p>・産休に対して委員会の方で手当が出ないのは、おかしな話ではないか。募集はかけているのか。</p> <p>・朝日東小では教科担任制を取り入れてうまく回っているようだ。</p> <p>・今年度は、28コマで実施と言っていたが、45分の案はあったか。</p>			
	教育課程	<p>○生徒に身に付けさせたい力を育成する学習活動の工夫と推進</p> <p>□主体的な学びにつながる学習の工夫</p> <p>◇対話的な学びを促す学習形態</p>	<p>○研修主任を中心に授業改善を進め、一定の方向性を見出すことができた。</p> <p>□生徒の実態調査と校内研修により、社会生活につながる学習を意図的に設定することとした。</p> <p>◇各教科で実施できた。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>A</p>		<p>・授業の見直しや力量の格差など、子ども達への目線は前より深くなれていると思う。</p> <p>・タブレット化が進んでいく中で、考えなければいけないこともあると思う。国語などはどうやって行くのか気になる。</p> <p>・教員の教材研究時間確保は絶対必要。</p>		
	開かれた学校づくり	<p>○積極的な情報公開</p> <p>□中学校区における、幼少中の連携活動の推進</p> <p>◇地域との連携、地域の人材を活用した幅広い教育活動の推進</p>	<p>○昨年度に比べHPを定期的に更新できた。</p> <p>□生徒・児童の交流を行った。相談員を小学校に派遣し、児童の観察をした。</p> <p>◇関係機関等から指導者を招き授業を行った。地域の事業所で職業体験を実施した。</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>A</p>			<p>・HPはどれだけの人が見ているのか。メールの登録は、どれくらいの人が見ているのか。</p> <p>・日本語がわからない人への対応。小学校では、保護者の友達が翻訳してくれている場合もある。ペーパーレスの時代で考えていかなければいけない。</p> <p>・部活動や講演等、地域人材のよい活用の選択をしている。</p>	
	教職員の資質向上	<p>○教職員のキャリアに応じた資質・能力の向上</p> <p>□GIGAスクール構想の推進による指導力の向上</p> <p>◇時間感覚を大事に、優先順位をつけて仕事を処理する技術を身に付ける</p>	<p>○キャリアごとに求められる姿や、先々を見通したキャリア形成など、人事評価面談をとおしてアドバイスした。</p> <p>□導入や生徒の考え集約などに端末を効果的に活用できている。</p> <p>◇デジタル採点を導入した。</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>C</p>				<p>・経験の浅い先生や、産休の先生も多い中、ベテランのサポートもあり、チームワークができていのように感じる。</p> <p>・先生も家庭環境が違うのでお互いへの配慮のもと支え合うことを願う。「使い分け」の意識を明確に。</p> <p>・話し合って作り上げていくしかない。皆さんの努力次第。デジタル採点も引き続きやってもらいたい。</p>
	施設・設備等の管理	<p>○学校における施設・設備事故ゼロの実現</p> <p>□教育活動を止めない長期的な修繕計画の作成</p>	<p>○教頭を中心に安全点検を実施し、事故ゼロにできている。</p> <p>□適切に予算を執行し、定期的に管理職がチェックしている。</p>	<p>A</p> <p>A</p>				

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達 成 度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
上青木中	組織運営	<p>○学校教育目標のねらいを浸透させ、教育活動の取り組みに重点をもって取り組む。また、70周年の年を迎え、節目の一年にする。</p> <p>□校務分掌の整理により、自己の職責全うに向けた焦点化をし、今年度の職務を全うして達成感を得る。</p>	<p>○提案文書と一緒に確認することで、目指す方向性が明確になり、目的を持って活動を行うことができた。生徒に対する指導も具体的となり成果を出すことができた。</p> <p>□担当者は一生懸命取り組み、力量もあがった。他己評価をする者の見方が厳しく課題であると感じている。負担感は軽減していると考ええる。</p>	<p>A</p> <p>B</p>	<p>・学校教育目標の改訂により、指導の方向性が具体化され、教職員一人一人が何をすべきなのか理解が進んだと考えられる。今後も学校教育目標達成を目指して、取り組んでほしい。</p> <p>・校務分掌の改善により、教職員への負担軽減になる事は、気持ちに「ゆとり」が生まれるので、大変良いことだと考える。今後も無駄を省き、生徒への指導を中心に行ってほしい。</p>
	教育課程	<p>○「指導と評価の一体化」とし、今日の学びの提示とまとめを行い、今日の学びを明確にする。</p> <p>□「明確な指示」と思考時間の確保をした授業づくりを行う。</p> <p>◇「まとめ」の時間を確保する。終わりのある授業を意識した授業展開にする。</p>	<p>○本時のねらいの提示は、ほとんどの授業で確認できた。また、教員も意識されていた。まとめについては、時間の設定が課題の教員とまとめの内容の質的な課題の教員に分かれた。経験値よりの差も見られる。授業の指導と評価の一体化を理解するためにも全教員で継続して取り組みたい。</p> <p>□「問い」の工夫を今年度の課題にする教員が多かった。実践したことを教員間で共有することも必要と感じた。お互いの成果を交換しながら進めていきたい。学校教育目標に近づくべく「考える力」に繋がると考える。</p> <p>◇授業研究会は、2～5年次の若手中心に学期に一回実施した。3学期には、授業力の向上が見られ、研究会を実施した教員がやりがいを高めているのが見て取れた。校内研修会で教科ごとの授業研究会を行い、全教科指導者を招聘し、日々の疑問点や課題を出し合い、熱心な協議会となった。</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>A</p>	<p>・定量的な評価ができるように目標に数値目標を入れることも検討してほしい。</p> <p>・「指導と評価の一体化」は、「評価と指導の一体化」とも考えられる。問題解決型の授業展開を行い、子供の実態を「評価」し、的確な「指導」を行うことが大切である。</p> <p>・「自ら考える力」を育成することは、実社会で生きていく上で大変重要である。今後も仲間と語り合うことで「考える力」を育成してほしい。</p> <p>・シンキングタイムは大変よい成果だと考える。生徒が教え合うことは、一人一人の学力向上の上で大変重要である。今後は、話している内容の質の向上を目指してほしい。</p> <p>・運営協議会委員にも授業を参観する機会を設けてほしい。教員の授業力向上の評価にもつながる。</p> <p>・若手だけでなく、中間・ベテランのレベルアップも取り組んでほしい。</p>
	開かれた学校づくり	<p>○家庭、地域の教育力の活用</p> <p>□積極的な生徒のボランティア活動の実践</p>	<p>○家庭からの相談や要望に対し、「気づいてもらう」ように話を進めるよう繰り返し声掛けをした。若手教員が多く、家庭からの連絡に苦痛を感じてしまう。二者択一の連絡ではなく、保護者に一緒に考えていただくようにするというのを今後も継続していく。</p> <p>□地域の町会長の方々や連携を取りながら、情報をたくさんいただくことができた。中学生が自主的に奉仕活動に興味を持ったり、参加したりするには工夫が必要であった。</p>	<p>B</p> <p>B</p>	<p>・今後もベテランから若手教員の「傾聴」の技術の向上に取り組んでほしい。</p> <p>・「報告する」「共有する」ということは、大切なことであり、良いことである。</p> <p>・中学生に、町会の活動を知らせ、存在意義を考える機会を与えてはどうか。生徒が地域の方々や接し、色々な体験を行うことで成長できる事もあると考える。</p> <p>・町会の活動は、朝や夜の活動もある。一目では分からない、「裏」の活動まで知ってほしい。</p>
	教職員の資質向上	<p>○学力向上・定着を図る「授業力向上」のための校内研修の充実</p> <p>□真の生徒理解による、生徒指導、教育相談の推進</p> <p>◇教職員不祥事防止</p>	<p>○準備は大変でも、指導を繰り返し行ったことかなりの授業力向上となった。教員はやりがいをもち、はつらつとして授業に向かっている。今後も継続して実施していきたい。</p> <p>□校内巡視の時間が画一的になり工夫が必要となった。巡回することで新たなものも見えてきた。同僚同士が気づき高め合う様子が見えてきたのは良いことだと考える。</p> <p>◇小グループ討論会を実施した。若手とベテランの常識と思われている視点が違うことが明確になった。意見の中から「ゆとり」や「働きすぎ」「忙しさ」などのキーワードが多く出た。コミュニケーションは大事だという実感も湧いてきた。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>・やりがいをもたせることは大変重要である。若手の育成は大切であるが、中間層・ベテランの教員を踏まえた研修をお願いしたい。</p> <p>・教科ごとの授業研修会だけでなく、教員全体での授業研究会を実施してはどうか。他教科の授業を参観して、学べることもある。</p> <p>・教員と一人一人の生徒とのつながりや信頼関係を築くことが大切である。その上で交換日記を行っていることは大変よいことである。</p> <p>・コミュニケーションは大変重要であり、小グループ討論会は大変よい取組である。</p> <p>・今後とも不祥事になる前のヒヤリ・ハットに着眼してほしい。</p>
	施設・設備等の管理	<p>○学校事故防止の徹底</p> <p>□全教職員による確認の実施</p>	<p>○安全点検後の確認がしっかり行っていたので、修繕することも早期対応できた。今年度は施設の整備が重点になり、管理職側の対応が主となった。</p> <p>□点検日として統一されやすくなり、点検実施は定期的に行うことができた。</p>	<p>A</p> <p>A</p>	<p>・今後も日常の安全点検を行い、学校の事故防止に努めてもらいたい。</p> <p>・ヒヤリ・ハットの報告会を実施し、ヒヤリ・ハットの奥にある原因を究明し、再発に努めてほしい。</p> <p>・古い校舎ならではの苦労も多いと思うが、事故のない安全な学校生活が送れるように配慮をお願いしたい。</p> <p>・定期的に安全点検を実施していることは良いことであるが、目的を持った点検をして頂きたい。</p>

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
幸並中	組織運営	<input type="checkbox"/> 「チーム幸並」として組織力の強化。 <input type="checkbox"/> 若手教員やミドルリーダーの更なる指導力向上。 ◇不登校生徒への支援率100%。	<input type="checkbox"/> 自己評価シートや面談を活用し、教職員一同で学校教育目標の具現化に向けて教育活動に取り組んだ。 <input type="checkbox"/> 学年や教科等さまざまな場面において、ベテランや中堅教員が自ら範を示し、OJTを通じた若手教員の育成に繋がられた。 ◇担任一人で抱え込まないよう、学年や学年外、学校外の専門機関とも積極的に連携したが、各家庭の事情等もあり、週1連絡、月1訪問（面談）は徹底できなかった。	A A B	・変わらず教員一丸となって取り組んで欲しい ・制約がある中、しっかりと組織ができています。 ・特になし
	教育課程	<input type="checkbox"/> 教育課程の更なる改善。 <input type="checkbox"/> 日本語指導の充実。 ◇サマースクールの充実。	<input type="checkbox"/> 教職員、生徒、保護者のアンケート分析を進めた。多角的に検討を重ねた。 <input type="checkbox"/> 小学校との連携ができなかった。一人当たりの日本語授業は微増した。 ◇3年生は卒業生講話を実施する等工夫し、1,2年生は円滑な始業に向けて確実に授業を展開した。	B C A	・日本語指導に苦慮しているとのこと、市全体の仕組みを作ってほしい。 ・外国籍生徒の対応は今後も課題になる。 ・特になし。
	開かれた学校づくり	<input type="checkbox"/> 充実したPTA活動の推進。 <input type="checkbox"/> 地域と連携した教育活動の推進。 ◇小中連携の教育活動の推進。	<input type="checkbox"/> 大きく組織編成を変えた新PTAとして、計画案も作成したが課題は多い。 <input type="checkbox"/> 生徒指導部会の主任児童委員の参加が定例化した。諸会議も予定通り進められた。 ◇引き取り訓練、部活動体験等企画しているが、想定外の課題も出てきた。	B A B	・父兄も含めて地元との交流を進めてほしい。 ・とても開かれた中学校と感じています。有難うございます。 ・特になし。
	教職員の資質向上	<input type="checkbox"/> 学力向上・体力向上を目指した授業力向上。 <input type="checkbox"/> 研修の充実。 ◇教職員事故0の達成。	<input type="checkbox"/> 学力向上委員会が主体となって各学調を分析し、学力向上プランを作成した。 <input type="checkbox"/> 実践力の高い講師等を招聘し研修を重ねた。初の試みとして相互授業参観を実施した。 ◇適宜、事故防止の注意喚起を促し、教職員事故0を継続した。	B B B	・若手先生方の指導内容に差が出ないよう取り組んでいただきたい。 ・個性をもった職員が必要か？ ・特になし。
	施設・設備等の管理	<input type="checkbox"/> 施設事故0の達成。 <input type="checkbox"/> 会計事故0の達成。（財務委員会の立上げ） ◇ペーパーレス化の推進。	<input type="checkbox"/> 点検や情報共有、ルールの徹底を意識し、施設事故0を継続した。 <input type="checkbox"/> 事務主査と会計担当等との連携と確実な確認で会計事故0を継続した。 ◇印刷費の削減が難しい現状だが、リーバーやパドレット等での情報伝達は進んでいる。	B A C	・体育館、職員棟の老朽化を気にしています。安全な運営をお願いしたい。 ・特になし。 ・特になし。

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
十二月田 中	組織運営	<input type="radio"/> ミドルリーダーの育成 <input type="checkbox"/> 不登校生徒支援 <input checked="" type="checkbox"/> 働き方改革の推進	<input type="radio"/> 中堅教職員には、主任・分掌を任せることで、育成を図った。適材適所においてのミドルリーダーの人材を増やせなかった。 <input type="checkbox"/> 減少させることはできなかったが、本校にて「不登校を考える保護者の会」を開催するなどして、不登校生徒・保護者との繋がり・かわりほできた。ほっとルームも9月より開設できた。 <input checked="" type="checkbox"/> 今年度、業務改善の策を打ち立てたものの、8月を除いた毎月、月在校時間外80時間超者が4, 5人いた。	B C D	・組織の改変の波と現状バランスの間で大変なことだと思われるが、生徒のための学校生活を第一に、従事されている職員の方々に負担にならない運営を今後も目指してほしい。 ・不登校生徒への対応など学校側の取組をととも評価しています。 ・80時間超は大変だと思います。業務は振り分けられないものが大半かと思ます。教科内や学年内で気軽に相談をできる状況であってほしいです。
	教育課程	<input type="radio"/> ICTを有効活用した教育活動の展開 <input type="checkbox"/> 小中連携を活かした学力向上	<input type="radio"/> 校内研修で教員からの実践に基づきおこなったが、授業や家庭学習の定着までにはいたらなかった。 <input type="checkbox"/> 主幹教諭が、毎学期、校区内小学校3校に算数T2で行き実態を把握することはできたが、小中9カ年を見据えての学力向上までにはいたらなかった。	B B	・特になし ・中学校区内、3つの小学校との連携を今後も継続して学力の底上げができるよう希望する。
	開かれた学校づくり	<input type="radio"/> 70周年記念事業を軸に地域に開かれ信頼される学校づくりに向けた取組の拡充 <input type="checkbox"/> 保護者・地域への積極的な情報発信 <input checked="" type="checkbox"/> 校区内小学校の教員・児童との交流及び連携の充実	<input type="radio"/> 12回の会議をはじめ、PTA・町会長と連携により、成功裏に終わることができた。 <input type="checkbox"/> 学校だよりをはじめ、HPで発信することができた。HPでは、随時、行事を中心に効果的に発信できた。 <input checked="" type="checkbox"/> 夏季休業中に教職員の交流研修を校区内で行うことはできたが、児童生徒間の交流ができなかった。	A A B	・学校・家庭・地域、三位一体での70周年記念行事が素晴らしい形で挙行できてよかったです。 ・HPを活用したり、行事を見学できたりと学校の様子がわかる発信ができています。 ・地区体育祭等の地域行事へ積極的に参加し、町会・自治会及び各種団体との連携を図る。
	教職員の資質向上	<input type="radio"/> 服務規律の確立 <input type="checkbox"/> キャリアに応じた資質向上	<input type="radio"/> 校内研修、職員会議、朝集等で機会あるごとに行うことができた（教職員事故ゼロ）。 <input type="checkbox"/> 特に新任5年目までの教員には、市教委指導主事を招聘して指導していただいた。校内にとどまらず、他校の研究発表会に行かせることが難しかった。	A B	・服務規律のなかに働き方改革の見直しも含まれてくるものだろうか。しっかりと熟考して、職員・生徒の皆が過ごしやすい学び舎となるよう検討してほしい。 ・若いときは、視野も狭く経験不足もあるので、研修等には参加してほしいと思います。
	施設・設備等の管理	<input type="radio"/> 計画的・組織的な安全点検実施（定期・日常・臨時） <input type="checkbox"/> 計画的な施設改善の取組と迅速な修繕対応	<input type="radio"/> 管理職による施設・設備点検と教職員による定期的な安全点検に取り組み、日常の教育活動の安全が保たれた。 <input type="checkbox"/> 施設自体の老朽化が否めないが、スピード感をもって対応し、場合によっては市教委へ要望して対応にあたることできた。（音楽室エアコン・プール）	A A	施設・設備の不具合は事故につながるおそれがあるので、定期的に点検を引き続きおこなってほしい。 市の予算とのバランスだと思われるが陳情をすることは、なんら問題ないと思う。 昨今いろいろな震災があり、学校が避難所としての場になることがありますので、修繕・改修をしていただき、万全の場所としてもらえたらと思います。

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
仲町中	組織運営	<p>○全教職員で目指す学校像を共有し、今年度の3つの重点課題について、分掌主任を活かし、組織力の向上をはかり、課題解決にあたる。</p> <p>□特に不登校生徒及び特別な配慮を要する生徒のニーズに応じた学習、進路支援を実現する。</p> <p>◇日本語指導を中心とした、外国籍生徒支援の更なる充実を図る。</p>	<p>○自己評価シートを効果的に活用し、年度当初はもちろん、年間を通じて、それぞれの自己評価シートに明記した内容をもとに、声をかけ、取組意識の継続を行った。各分掌主任と連絡、相談を密にし、指導・助言や見届け等、各主任が責任をもち積極的な取組となるよう支援した。</p> <p>□管理職も保健室、相談室に毎日足を運び、担任や学年主任とともに支援にあたった。家庭訪問や面談等を通じて、それぞれの取組状況や進捗、保護者や本人の想いを聞き取りながら支援に努めた。今年度はSSWを複数依頼し、専門的な立場から家庭支援にも力を入れた。また、地区の先駆けとして、7月に不登校生徒や保護者を対象とした進路説明会、2月には地区内の小学校も対象に、本校にて保護者座談会を実施し、支援にあたった。</p> <p>◇今年度は8か国の外国籍生徒が在籍。進路説明会では、中国語に特化した説明ブースを設けたり、外国籍生徒のみ対象の説明会を行うなど、保護者支援も含めた対応を行った。</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>B</p>	<p>・来年度は開校70周年を迎えるので、見積等においても複数声をかけたり、リーフレットの印刷等仲町小の式典の資料を参考にすると良い。</p> <p>・緊急の課題については引き続き関係機関と連携して対応して欲しい。</p> <p>・外国籍生徒支援においては特に進路に係わる内容や事務処理の変更（電子申請等）について、教職員にご苦勞をかけていることが理解できた。</p>
		<p>○考える力、学び合う力の育成を踏まえた授業改善を推進する。</p> <p>□実授業時間数を踏まえながら、学校行事の在り方とともに、適切な教育活動と状況に応じた教育課程を精査、検討し具体的に指示・展開する。</p> <p>◇部活動の地域移行化に向けて、校内組織に検討委員会を位置付け、定期的に開催する。</p>	<p>○学力向上について、「学び合い」の学習形態を積極的に取り入れ、指導方法の工夫等を行った。特に県学調では国語で顕著な成果がみられた。特筆すべき取組としては、2月3日に東京大学名誉教授佐藤学先生を招いて学び合いに係わる本校独自スタイルの研究発表を行い、成果と課題をまとめ次年度への取組への指針を示した。</p> <p>□徹底した授業数管理を行ったことで、計画的な授業の進行及び学期末処理期間の有効活用等工夫することができた。</p> <p>◇生徒の加入状況や次年度の計画について部活動検討委員会を開催し、様々な検討を行った。</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>・特に無し。</p> <p>・特に無し。</p> <p>・今後も生徒数減少に応じて、適切に対応、変更していくことが望ましい。</p>
		<p>開かれた学校づくり</p> <p>○年間7回の20日間80時間の日本語初期指導拠点校としての取組を形にする。</p> <p>□学校より、学校HP、一斉メール等、開かれた学校として必要な情報を家庭や地域に積極的に情報の発信を行う。</p> <p>◇小中連携として、定期的な研修、会議を実施し、地域の子供たちのための指導に活かす。</p>	<p>○市内初の中学校日本語サバイバル教室の拠点校としての運営、昨年度に引き続き、小・中連携として日本語指導に係わる連携研究を行い、外国籍生徒及び保護者への支援を継続的に実施した。各種様々な場面で、本校の取組について広報し、地域からの支援もいただいた。</p> <p>□HPにて写真を多用した学校行事等の対象者限定で実施。リアルタイムで生徒の様子を発信し、生徒、保護者から一定の評価をいただいた。 （HPアクセス数 22,919件増 4/22～12/22現在）一斉メール登録については89%。目標の登録100%には満たなかったが、2学期より各種便りの電子データ配信へ移行した。</p> <p>◇今年度より横曽根地区として、生徒指導主任会議を年間3回実施。地区校長会のみではなく、教職員間で細やかな連携と情報共有を行うことができた。また、年間を通じて日本語指導に係わる共同研修や夏季研修も地域として行うことができた。前述の通り、不登校生徒や保護者対象の会も開催した。</p>	<p>B</p> <p>A</p> <p>B</p>	<p>・外国籍生徒への支援は、HPや学校だより等でボランティアを募るとよい。</p> <p>・HPを日々更新してくれるので、学校の教育活動が非常によくわかる。今後も継続してほしい。</p> <p>・小・中連携、特に生徒指導について、共通理解することにより、授業規律や生活のルールの徹底が図れると思う。</p>
<p>教職員の資質向上</p> <p>○初任者、若手、ベテラン等、一人一人の良さを生かす学校運営をすすめる。</p> <p>□教職員不祥事根絶、教職員事故ゼロを実現する。</p>	<p>○教職員一人一人の個性を活かし、出番を保障し、機を捉え、個に応じた指導や声かけ、支援を丁寧に行った。観察を欠かさず、繋がりを大切にし情報収集に努め、誰一人欠けない教職員集団として今年度乗り切ることができた。</p> <p>（学校評価 教職員用Q64：学年職員や仲間に恵まれ教職にやりがいを感じているか よい、大変よい100%）</p> <p>□校長室だよりの発行や、適宜、過去の実例を具体的に示しながら、継続的に行った。機を捉え他校の例やヒヤリット事案をこまめに発信し、常に意識して業務にあたるよう指導した。</p> <p>（学校評価 教職員用Q65：不祥事根絶、教職員事故ゼロ 使命感と誇り、自分ごととして捉えているか よい、大変よい100%）</p>	<p>A</p> <p>B</p>	<p>・特に無し。</p> <p>・特に無し。</p>		

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価		
		重点目標	重点目標の達成状況	達成度	
	施設・設備等の管理	<p>○学校施設、設備管理を重点とし、特別教室においては、「どこに なにが いくつ だれにでも わかる」確実な物品管理を徹底し、安心・安全な教育環境を維持する。</p> <p>□非常災害や不審者対応等、常に念頭に置きながら、学校運営にあたる。生徒の安全を第一とした避難体制を確立する。</p>	<p>○安全訪問、管理訪問、指導課訪問等を活用し、その都度継続的に確認した。特に経験年数に係わらず、他校の事故例を参考に、未然防止のための視点や取組に重点を置いた。</p> <p>□今年度、不審者対応や、地震等による非常災害時を想定し、日頃から生徒が自らの安全を第一に考えて、具体的に何に注意し、どう行動しなければいけないかを段階的に、継続的に実施することができた。</p>	<p>B</p> <p>B</p>	<p>・特に無し。</p> <p>・他地区では避難所開設訓練等が行われているところもある。中学生が参加し、地域と共に開催できると良いのではないかな。</p> <p>・避難訓練等ぜひ参加してみたい。</p>

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
安行中	組織運営	<p>○目指す学校像、目指す生徒像の具現化に向けて教職員一人一人の指導力を育成する。</p> <p>□目指す教師像に向け、教職員一人一人がチームとして意欲的に協働し、責任をもって校務分掌を遂行させ、学校運営の参画意識を高める。</p>	<p>○教頭、主幹教諭、学年主任が中心となり、生徒の良さを引き出す学校運営、学年経営を行った。一人1主任になるように校務分掌を割り当てたことで、責任をもって仕事をする教職員が増えた。</p> <p>□管理職が教職員を大切に、良さをほめることで、率先して目指す教師像の具現化を図った。</p>	<p>B</p> <p>A</p>	<p>・学年ごとにカラーは違うが、生徒のことをよく見ている印象を受ける。主任が頑張っている。</p> <p>・教員の努力が見える。体調管理が心配になるときがある。</p> <p>・周りとの連携が取れてスムーズに動くことも多い。中心の教員に任せきりにするのではなく、協力しながらやってほしい。</p>
	教育課程	<p>○県の学力向上重点支援校として取り組むため、校内研修の充実を図り、指導方法の工夫改善、授業力・指導力の向上を目指す。</p> <p>□県教委・市教委の指導主事を積極的に招聘し、研究授業においての指導助言を今後に活かし、また教員間で授業を見合うことで指導力向上・学力向上に向けた授業改善を図る。</p>	<p>○県の学力向上重点支援校として授業改善に計画的に取り組んだ。県教委の助言を前向きに捉え、取り組む教員が多かった。</p> <p>□国語・数学・英語の授業を中心に、教員同士の授業参観を積極的に行った。3教科以外の教員も他教科の授業から学ぶことも多く、充実した取組になった。</p>	<p>B</p> <p>B</p>	<p>・教員も生徒も授業に取り組む姿勢はよいが、学力に結びつきにくいと感じる。伸び伸び楽しそうに学んでいるので、今後に期待したい。</p> <p>・学力向上について、底上げに力を入れることができれば、全体的に向上するのではないかなと思う。</p> <p>・学力向上の役割を果たすことができなかった教員は、理由があったことだと思う。社会人としての自覚を持ってほしい。</p> <p>・教員同士の授業参観はよい取り組みである。</p> <p>・学力が上がっている教科は、授業内容が楽しいからだと思う。</p> <p>・学力向上については、家庭環境も大きな影響を受ける。子供たちのやる気、向上心を上げる工夫も授業の中で必要と思う。</p>
	開かれた学校づくり	<p>○「地域とともに進める」ことを柱とし、目指す学校像やビジョンを明確にし、地域と一体となって地域学校協働活動を進めていく。</p>	<p>○「学校歯科保健」の取組について、文部科学大臣賞を受賞したことをはじめ、様々な取組や生徒の活躍を広く保護者・地域に周知することで、学校の良さを広めた。それにより、生徒・教職員の意識が向上した。特別支援学級の販売学習など、地域に支えられて実施することができ、生徒の達成感に結びついた。</p>	<p>B</p>	<p>・学校公開や体育祭等が地域も参観できるようにしてもよいと思う。</p> <p>・地域の人々と情報交換や話し合う機会があればよい。地域のボランティア活動は続けてほしい。</p> <p>・地域とのかかわりの前に、保護者の興味・関心を持たせることが必要で、そうすれば自然と地域にも広がると思う。</p>
	教職員の資質向上	<p>○若手教員の学ぶ機会を設定することを心掛け、積極的に研修に参加させ、教職員一人一人に応じた適切な指導を行うことで、指導力の向上を図る。</p> <p>□教育公務員としての意識向上を図り、教職員事故ゼロを目指す。</p>	<p>○学校訪問、管理職による授業観察等とおして、教員の授業改善、指導力の向上を図った。自己研鑽のため、学校外の勉強会に参加する職員もいた。</p> <p>□職員会議、朝の打ち合わせ等とおして教職員事故防止への啓発を行った。教育公務員としての意識向上を図り、小さなことでも報告・連絡・相談をすることを促した。</p>	<p>B</p> <p>A</p>	<p>・学ぶ機会を設定することはとても良いことだと思う。</p> <p>・言葉遣いも大変だと思うが、愛をもって子供たちに接してもらえればと思う。</p> <p>・相談のつたり、情報共有がされていて横のつながりがしっかりできていると認識した。</p> <p>・同じ学年でも情報共有ができていない感じがみられた。教員の関係性が心配な時があるので、何か良い方法を見つけられるとよい。</p>
	施設・設備等の管理	<p>○年間行事計画、指導計画に基づき、実践的な安全指導の徹底を図る。また、生徒の危険回避能力の向上とともに、教職員の危機管理意識の向上を図る。</p> <p>□コスト意識を持ち、適正な予算執行と会計管理を行い、会計事故ゼロを継続する。</p>	<p>○職員会議や日頃の出来事等とおして教職員の学校安全への危機管理意識が高まった。また、避難訓練等の工夫により生徒の安全意識も高まった。</p> <p>□会計処理については、計画的かつ迅速に執行できるように促し、複数の目で確認しながら適切な処理をした。</p>	<p>A</p> <p>A</p>	<p>・引き取り訓練などはないが、しっかりと生徒に指導している。</p> <p>・危機管理の意識を高めているようなので、引き続き頑張ってもらいたい。</p> <p>・常に周りを意識し、危険はないか声掛けをしていけるとよい。</p> <p>・予算があるので、徐々に整えていければよい。</p> <p>・古い物や広さにも制限があるので、有効活用や工夫ができるとよい。</p>

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達 成 度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
芝東中	組織運営	○適材適所の教職員配置(ミドルリーダーの育成) □不登校生徒支援 ◇働き方改革推進	○企画委員会を中心に組織的、計画的な学校運営をすることができた。 □相談室の体制を整えることで、支援率100%につながった。 ◇「働き方改革」の推進から、「働きがい改革」へシフトすることができた。	B A B	・子供たちのために頑張ってくれている。 ・居心地の良い学校としてほしい。 ・特になし。
	教育課程	○よい授業、よい学びの実践による基礎学力の定着 □よいクラス、よい学年から、よい学校の創造 ◇小中連携活かした学力向上	○授業訪問・フィードバックを通じて、少しずつ授業改善につなげることができた。 □「生徒が主役」の学校へ徐々に転換して行っている。 ◇小学校の研究委嘱発表表に参加し、意識を高めることができた。	C B B	・少人数指導や習熟度に応じた指導により、学力の底上げを図ってほしい。 ・生徒会活動を中心に自治活動が活発になっている点は地域としてうれしい。 ・今後も小中学校のつながりを大切にして地域の子を育ててほしい
	開かれた学校づくり	○保護者・地域への積極的な情報発信 □学校運営協議会・学校応援団・後援会、PTAとの連携と改革への基礎作り ◇学校・家庭・地域との連携を図った教育活動の推進	○学校公開の実施、学校だよりでの発信を行った。 □学校運営協議会・学校応援団・後援会、PTAと、次年度以降の地域との連携の在り方を模索した。 ◇スクルレを導入・活用することで、よりスムーズな活動につながった。	B A A	・特になし。 ・PTAの存続について、真剣に考えていく時期となっている。 ・地域の祭り等への生徒のボランティア参加も積極的で、助かっている。
	教職員の資質向上	○服務規律の確立と教職員事故の根絶 □キャリアに応じた資質向上	○定期的及び随時の倫理確立委員会を実施し、教育公務員としての自覚を高めることができた。 □キャリア段階に応じた校務分掌を割り当てることや面談を活用することで、資質向上につながった。	B B	・特になし。 ・やはり教員である以上、授業を大切にほしい。
	施設・設備等の管理	○計画的・組織的な安全点検実施（定期・日常・臨時） □計画的な施設改善の取組と迅速な修繕対応	○管理職による日常的な点検を行うことができた。 □予算配当に応じた施設・設備管理を行うことができた。	B B	・特になし。 ・特になし。

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
芝西中	組織運営	○目指す学校像達成のために、学校力の向上を高揚させ、全教職員が夢中になって働ける経営を行う。（目指す学校像の達成に取り組めたが100%）	○学校評価で目指す学校像を意識し、職務を務められた職員は94%だった。生徒の「夢実現」の達成に向け、夢中になって働けた職員は100%だった。	A	・挨拶することで、生徒の体調や様子もわかると思うので、職員が80%と評価できるよう指導して欲しい。 ・職員の100%達成は素晴らしい。
		□一人一人のキャリアや得意分野、興味関心を生かし、役割を明確にし、学校運営参画意識を高揚させる。（学校運営に積極的に参画できたが100%）	□学校評価で、一人一人の役割が明確であり、学校運営に参画する意識が高まっている職員は97%だった。 ◇生徒の夢実現に向けて、3年間を見通した進路指導が行えた職員は、学校評価では97%だった。	A B	・夢わくに来た中1の生徒が「学校は楽しい」と即答していた。学校運営の充実が伺えた。 ・学校運営に丸となって取り組まれていることが分かります。 ・陽春分校は、外国籍の方が多く、生活習慣が違うので大変かと思います。 ・充実した進路指導が伺えます。
		○【芝西】「生徒が夢中になって活動する」授業の実現。（授業に夢中に取り組めたが80%）	○小学校の校長先生を見習い、出張以外のときは、必ず全授業を訪問した。授業スタイルを意識した授業の実施は97%だった。 □毎学期に一回、全教員の授業を計画的に参観し、指導した結果、学校評価で、「生徒が夢中になって活動する」授業の実現に向け、授業改善を進めた職員が100%だった。 ◇陽春分校の学校評価で、学びのスタイルを意識した授業の実施は100%だった。	A A A	・余剰時数削減、日課表の見直しにより、授業の充実が図られている。 ・授業スタイルの確立と徹底が実現でき、素晴らしいと思います。
	教育課程	□【陽春】様々なニーズを考慮した特別な教育課程に基づいた教育活動の実施。			・概ね評価できる。 ・授業改善についても、教職員の意識の高さを感じます。
	開かれた学校づくり	○保護者・地域との活動や陽春分校との交流を通して、保護者・地域から信頼され、誇りに思われる学校にする。（学校評価において、学校の様子がわかる80%以上）	○学校評価で、HP、川口市保護者緊急情報メールやFormsを効果的に活用し、必要な情報を提供、収集できた職員は100%だった。 □学校評価で、「防災訓練など地域と連携し、地域に貢献する生徒を育成している」は職員100%、生徒86%、保護者61%だった。 ◇体育祭、合唱コンクール、卒業期の交流と3回実施できた。	B B A	・HPを拝見しました。大変見やすく、よいと思いました。 ・時間はかかると思いますが、必ず目標を達成することができると思います。 ・更なる保護者への周知・啓発を。 ・保護者の方にHPをもっと見てもらえることが分かります。 ・参加する生徒の増加に期待しております。 ・本校と分校の交流が素晴らしい。 ・芝地区の小中の地域学校保健委員会、教頭・教務主任会など、横の繋がりを大事にしてくださいでよかった。 ・小中連携を更に図っていきたい。
教職員の資質向上	○生徒、保護者、地域から信頼される教職員を育成し、教職員事故0を達成する。 □「働き方改革」の推進・徹底（負担感が軽減した職員が80%以上）	○計画表を作成し、それにそって指導した。 □授業削減が7%に対して、時間外在校時間は10%減にとどまった。 ◇学校評価で、校務PCやGIGA端末活用によって、校務が効率化された職員が88%だった。	B B A	・計画的な人材育成ができていていると思います。 ・10%であっても、時間外在校時間が減少したことは、働き方改革が推進されている証です。 ・効果的な取り組みだと思います。続けることで、さらに大いなる成果となることを確信しております。	
施設・設備等の管理	○ミラシード活用を中心に、タブレットPCを有効活用する。 □適切な予算執行と会計事故ゼロ及び安全・安心を最優先とした施設・設備事故ゼロ。	○生成AIについても校内研修を行った。芝西中では、授業の振り返りや家庭学習にオンラインクイズやTEAMSを活用して取り組ませていた。学校評価の結果「活用できた」職員が90%だった。 □学校評価で、転出入者の事務処理を適切に行なった職員が97%だった。 ◇学校評価で、責任と危機意識をもって、学校内の安全点検を適切に行なった職員が100%だった。	A A A	・AIの利用で、本来の指導・教育に時間が割けるようになることを望みます。 ・タブレットの授業への活用が推進され、何よりと存じます。 ・デジタルと紙の教科書の比率を知りたい。 ・転出入が多く、事務処理・会計処理が煩雑で大変だと思う。 ・転出入に関する事務処理・会計処理について周知・徹底が図られていると感じます。 ・安全点検では、定期的に担当場所を入れ替えると効果的です。 ・基盤となる安全について、100%達成は素晴らしいと思います。	

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
岸川中	組織運営	<p>○若手と経験豊富な教職員それぞれの良さを生かし、不易流行な教育活動を行う。</p> <p>□不登校出現率を9.0%、不登校支援率100%、不登校生徒への学習支援率40%とする。</p>	<p>○経験豊富な教職員が少なく、教職員の数も少ないことから、知識や技能の伝承を行うことが難しかった。</p> <p>○報連相の意識は上がっているが、細かい情報の共有にまで至っていない。</p> <p>○自己評価シートを活用し、各々の資質能力に合った目標を立てることはできた。</p> <p>□不登校出現率は減少している。教育相談部会・生徒指導委員会は丁寧に行っている、その結果、生徒の情報を共有することはできている。しかし、充実までには至っていない。</p> <p>□教職員の一人一人が生徒に寄り添い、個別最適な指導を行えるよう、生徒理解に関する研修を、外部から指導者を招き行った。</p> <p>□ウェルカムスクール・とまり木ルームの活用率は上がっており、その成果として学校に足を向ける生徒が増えた。</p>	<p>B</p> <p>B</p>	<p>・若手教職員の経験が少ない中でも、協力し合い個々の活動に生かしている。</p> <p>・情報共有の時間を作るべきだと思う。</p> <p>・教職員の連携をとることは大切だと思う。</p> <p>・不登校生徒の進路説明会等の情報発信はできている。</p> <p>・ウェルカムスクールやとまり木ルームの情報をもう少し発信したほうが良い。</p> <p>・小学校との連携を充実させる。</p>
	教育課程	<p>○偏差値50以下の生徒を50%以下、偏差値45以下の生徒を35%以下とする。</p> <p>□効果的なICTの利用方法を研究し、個別最適な学習を行う。</p>	<p>○生徒の「できた」「わかった」を目標に、学ぶ楽しさを与えながら学力の向上を目指したが、学の楽しさを体験させるところには至っていない。</p> <p>○とまり木ルームの小学生の活用や、生徒指導主任等の小学校との連携・地区の校長会によって連携し、学力の向上を目指したが、学力向上の目に見える成果には至っていない。</p> <p>○進路指導主事及び3学年の教職員で生徒の将来や夢につながる指導の充実を行うことができた。</p> <p>□ICTの積極的活用はできているが、「使う」ことに重点が置かれている教員も少なくない。効果的な活用をしている教員もいるが、検証し、その成果を確認するところには至っていない。</p>	<p>B</p> <p>B</p>	<p>・学校が楽しいと感じられる達成感が伴う指導を希望する。</p> <p>・「できた」「わかった」を感じさせるにはどうしたらよいか中連携を充実させてほしい。</p> <p>・スマホ等で育ててきた子供たちは幼いころの直接体験的遊びが決定的に不足しているため、手先の器用さや知恵のようなものが低下していると感じる。</p> <p>・ICTも良いが、紙を使うことも大切だと思う。</p>
	開かれた学校づくり	<p>○学校の様々な教育活動を、保護者や地域の方に周知し、昨年度以上に積極的に参加していただくとともに、生徒の積極的なボランティア活動を行う。</p> <p>□HPを教員全員が1度は更新する。</p>	<p>○生徒の積極的なボランティア活動は目標を達成しているが、学校公開は数的に少なかった。</p> <p>□HPの更新に関しては、もっと積極的に行う必要がある。また、HPの内容においても、入試等の情報を乗せる必要がある。生徒会のHP担当も機能していない場面が多かった。</p>	<p>B</p> <p>C</p>	<p>・学校公開日に保護者にも興味のある内容のセミナーなどを行ってはどうか。例えばネットリテラシーの向上等。学校に行ってもよかったと保護者が思える内容を。</p> <p>・地域ボランティアに子供たちが参加することはとても良いことである。教職員もその生徒の姿を見たほうが良いと思う。</p> <p>・保護者にとってはHPの更新は大切。積極的な運営をしてほしい。</p>
	教職員の資質向上	<p>○学力・教育相談・生徒指導等、生徒を伸ばす力を身に付ける。</p> <p>□働き方改革への意識付けと、ワークライフバランスを考え豊かな人生を送るための視野を広げ、そこで学んだことを生徒に還元する。</p>	<p>○経験豊富な教職員と若手教職員が互いに授業を見せ合うことは難しかったが、市教委より指導主事を招き、授業力向上を図ることはできた。</p> <p>○教育相談的手法を身に付けるため、外部から講師を招聘して生徒理解の知識を深めた。また、本校のみではなく、地区の小中学校にも声をかけ参加してもらうことにより、地区全体で子供を育てる意識につながった。</p> <p>□働き方に関する意識向上のための研修は設けられなかったが、年休や休むことの大切さ、プライベートの大切は、教職員一人一人に昨年以上に感じさせることはできた。</p>	<p>A</p> <p>B</p>	<p>・絶対的な人数不足の中のままでは、教員も理想の実現ができず、そのしわ寄せは生徒に向かう。ゆとりある人員配置が必要。</p> <p>・意識をもって物事を考えることが必要。</p> <p>・意識改革は必要。意識がない方は、どんなに良い話を聞いても身につかない。勉強以外の知識をたくさん身に付けてほしい。</p>
	施設・設備等の管理	<p>○老朽化が激しく危険な個所の改修に見直しをつける。</p>	<p>○プレハブにおいては来年度取り壊しが決まっている。其の他の施設については、改修等に至っていない。</p> <p>○校内巡視を行い、危険個所の早期発見に務め、教頭と連携を図り改修することができた。</p>	<p>B</p>	<p>・危険個所の早期発見をお願いします。</p> <p>・校内や正面玄関等、いつもきれいにしてください公務員さんに感謝します。</p> <p>・環境整備をお願いします。</p> <p>・生徒が安心・安全に生活できるよう、点検をお願いします。</p>

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
榛松中	組織運営	<p>○帰属意識を高めた相互協働体制を推進し、目指す学校像の実現に向け、全教職員が一丸となって教育を推進する組織を形成する。</p> <p>□個別支援と教育相談を充実させ、相談しやすい環境づくりと新規不登校生徒の削減及び不登校生徒の支援率100%とする。</p>	<p>○企画委員会での校長指示事項や協議内容等を確実に学年に周知するよう、学年主任に指示し、実行できた。</p> <p>○「学力向上」「不登校対策」は、分掌部会で対策を検討できた。新郷地区の課題を共有し、解決の具体的手立てを協議できた。</p> <p>○生徒指導、教育相談を軸に、教頭や各主任、いじめ対応教員に働きかけ、組織としての機能を向上させることができた。</p> <p>□主任を中心に分掌部会にてステップルームの組織的対応の共通理解（グランドデザインの作成）と、個に応じた対応の流れについて確認（対応フローの作成）を行い、居場所づくりと個別支援の体制を整備した。</p> <p>□別室登校生徒や長期欠席生徒、怪我・病気で登校できない生徒等を対象にしたオンライン授業の配信を実施した。また、GIGA端末の学習アプリ「ミライシード」の活用も図り、個別支援を充実させた。</p>	<p>A</p> <p>A</p>	<p>・いじめが発生した際に、いじめ対策会議を実施して組織的に対応することができている。</p> <p>・1年生の1学期に人間関係作りのプログラムを活用したことで、1年間を通して新規の不登校者を出さなかったことは素晴らしい。</p> <p>・不登校の生徒に対して、オンライン授業、ステップルームの対応など多様な対応が行われている。</p>
	教育課程	<p>○わかりやすい授業と個に応じた指導を充実させ、基礎的・基本的な力の定着を図る。</p>	<p>○デジタル教科書やドリルパーク、ムーブノートなどGIGA端末の活用を推進することができた。</p> <p>○授業における基礎基本の徹底、小グループによる話し合い活動や教え合い活動を実施した。学び直しを支援するため、授業板書をTeamsにアップした。3年生では放課後の補習学習も実施した。</p> <p>○他校の研究会へ2校程度参加するよう教職員全体に促した。各教員の視野を広げ、指導力向上につなげる足掛かりとすることができた。</p>	<p>B</p>	<p>・地域的傾向で学力が低いのではないかと。部活動時間が短くなり、家庭で過ごす時間が増えた。保護者が子どもと向き合い、その子どもにあった学びを提供する必要があるのではないかと。</p> <p>・将来、しっかりと納税できる子どもを育ててほしい。</p>
	開かれた学校づくり	<p>○教育活動の情報発信を積極的にを行い、家庭・地域との連携を強化するとともに、保護者や地域の教育力向上を促進した教育体制をつくる。</p>	<p>○学校公開日にPTAバザーも開催したことで、175名以上の保護者・小学生・地域の方の参観があった。また、合唱コンクールは300名程の保護者・地域の方の参観があった。学校の取組を家庭や地域に広く公開することができた。</p> <p>○学校だよりやホームページ、メール配信により、教育活動の発信に努めた。アンケート結果より教職員91%、保護者83%のプラス評価を頂いた。</p> <p>○資源回収や町会のお祭り協力など、限られた回数ではあったが、生徒とともに教職員も参加できた。</p>	<p>A</p>	<p>・部活動が学校から切り離されていく中で、地域に帰る生徒が増えていく。クラブ活動を充実させるなど地域の対応が必要になる。</p> <p>・PTAの立ち位置も難しくなっている。地域としてどうかかわるのか、考えていかなければならない。</p> <p>・一方的ではなく相互に助け合える状況が必要。お祭りの手伝いやボランティア活動などを中心に交流を深めていきたい。</p>
	教職員の資質向上	<p>○授業の質を高める研修・研究をととして、互いに教師力を高めあう。</p> <p>□計画的、実践的な若手教員の指導育成を図る。</p>	<p>○初任者を中心に、市教委の指導主事を招聘して授業研究会を開催し、指導力の向上を図ることができた。</p> <p>○全教職員に他校の研究会への参加を促すことで、視野を広げ、指導力向上につなげる足掛かりとすることができた。また、校長としても、学びの共同体等の取組を推進している他校の研究会に参加できた。</p> <p>□先輩教員の授業実践の紹介や、他の研究と兼ねて公開授業の開催等を行うことはできたが、授業参観の定期的な実施はできなかった。</p> <p>□中堅教諭による授業公開、教頭による若手研修会等の開催をし、若手教員の指導育成を図ることができた。</p>	<p>B</p> <p>B</p>	<p>・先生方は大変だが頑張ってもらいたい。</p> <p>・先生不足が叫ばれている。榛松中学校も若手の先生が多いということで大変だと思うしっかりと人材を育成してほしい。</p>
施設・設備等の管理	<p>○生徒たちの充実した教育活動を実現させるためにも、学びやすい安心・安全な学校を実現する。</p>	<p>○校長による校舎内の巡視を毎日実施し、危機管理を実践した。全教職員による安全点検を毎月実施できた。教頭を中心に老朽箇所や破損箇所の修繕を行い、環境整備を進めた</p> <p>○普通教室に大型モニターを設置、安全性・利便性を確保した。</p> <p>○管理等や教室等の掲示物は充実しているが、昇降口・階段などの共有スペースについては、組織的な更新体制の構築を図る必要がある。</p>	<p>B</p>	<p>・施設の老朽化は把握している。学校・地域で声を出し続けていくことが必要。</p>	

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
小谷場中	組織運営	<input type="checkbox"/> 埼玉県学力学習状況調査で、全教科、全クラスで県平均を超える。 <input type="checkbox"/> 不登校生徒の割合の減少を実現する。（8%→5%）	<input type="checkbox"/> 埼玉県学力学習状況調査で、全教科とはいかなかったが、概ね県平均を超えることができた。また、学力の伸びはどの教科も確実に伸びてきている。教科担任の授業改善の効果が出ている。 <input type="checkbox"/> 生徒指導委員会を中心に不登校生徒の支援を組織的に行うことはできた。とくに、相談室登校やステップルーム等の活動が昨年よりも充実してきた。しかし、不登校の要因も多様化しており、不登校生徒の減少には至らなかった。	B B	・できない生徒をまわりの生徒で支える学級経営ができています。授業にも、それが生きている。 ・朝、見守り運動をしているが、最近あいさつや返事がげんきがよくなった。 ・持久走大会で男子が出場しなかった。参加希望がないとのことだが、なんとか出場してほしい。
	教育課程	<input type="checkbox"/> 教育活動のなかで、行事等の精選をさらに進める。また、年間授業時数1015時間を維持しながら、学力向上を目指す。 <input type="checkbox"/> 授業についていけない生徒に対して支援体制を確立する。 ◇	<input type="checkbox"/> 勤務時間内のなかで最終下校時刻を設定したので、勤務時間内に生徒が学校にいることが少なくなった。教員の事務処理の時間も確保できたので、確実に教員の在校等時間の減少が図られた。 <input type="checkbox"/> ステップルームを利用する生徒は、少ないながらも一定の効果は見られた。	B B	・運動する機会は大切。学力も大事だが、体力を育っていくことも大切。持久走大会はできないか。 ・特になし
	開かれた学校づくり	<input type="checkbox"/> 保護者・地域から信頼される「地域とともにある学校」づくりを具現化する。	<input type="checkbox"/> ホームページ等を活用し、適宜情報発信することができた。スクリーンを活用することで、配布文書をデジタル化できた。行事については、今後もよりよいものを目指して検討していきたい。	B	・特になし
	教職員の資質向上	<input type="checkbox"/> 「個別支援が必要な生徒へのチーム学校としての実践」を実現する。（本校研修テーマ） <input type="checkbox"/> 風通しのよい職場をつくり、教職員の負担感を軽減し、働き方改革を進める。	<input type="checkbox"/> 計画的に校内研修を実施し、テーマ実現に取り組みこことができた。小中連携も夏季休業を利用し、芝西小と充実した研修を実施した。小6が中1の授業を参観する小中連携も今年度から再開することができた。 <input type="checkbox"/> 相談しやすい雰囲気づくりに努め、風通しのよい職場になりつつある手ごたえを感じた。また、適切なタイミングで倫理確立委員会を実施できた。	A A	・特になし ・特になし
	施設・設備等の管理	<input type="checkbox"/> 安全・安心な学校を目指し、施設・設備事故0を達成する。 <input type="checkbox"/> 安全・安心な学校を目指し、会計の適正な執行及び会計事故0を達成する。	<input type="checkbox"/> 施設・設備の事故0達成した。しかし、施設の老朽化も含めて、計画的に修繕に取り組む必要がある。 <input type="checkbox"/> 事務職員との連携を大切にしながら、会計事故0を達成した。	A A	・特になし ・特になし

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
神根中	組織運営	○学校課題を明確に示し、教職員を学校運営にできる限り参画させて、教職員一人一人の成長を図るとともに学校全体の組織力を高める。 □校務分掌に責任を持ってやりとげる教職員を育成する。	○学校行事など、必要なことを精選して計画し、教職員一丸となって取り組むことができた。 □校務分掌に責任を持たせ、企画提案や取組の推進にリーダーシップを発揮させていく。	A A	・学校課題（学力向上）に向けて、全校で「学びの共同体」に取り組んでいることがすばらしい。 ・特になし。
	教育課程	○行事の持つ教育効果を認識し、生徒の心の醸成に繋がる行事をしっかりと実践する。	○2大行事である体育祭も合唱コンクールも必要に応じて精選した内容として工夫しながら学校全体で実施でき、生徒の心に残る行事になった。 ○校外学習を各学年1回として実施できた。	A	・体育祭や合唱コンクールを参観させていただいたが、生徒たちが生き生きと活動する姿が見られずばらしかった。合唱コンクールでは、コロナ禍の時はやはりどうしても歌声に陰りが見えたが、今回、完全に回復できていた。 ・1年生の職場体験学習（きり川口夢わーく）の成果発表の授業を見せていただいたが、あのようにプレゼンテーションする機会を設けることは非常に良い。これから社会に巣立っていくと、自分の意見をしっかりと発信できる力が求められていく。 ・参観した社会の授業では、動画資料を生徒に見せていたことがすばらしい。
	開かれた学校づくり	○校則の検討を地域・保護者とともに行う。	○今年度は検討する内容がなく、校則の改善については教職員の話し合いにより決定できた。	B	・「保護者参加」という取組みをされていて、非常にすばらしい。 ・「校則検討委員会」も自分（生徒）が発信する力を養う良い機会である。 ・公民館文化祭での科学技術部のサイエンスショーや吹奏楽部の演奏がすばらしかった。こうした活動が地域とのつながりを深めていく。
	教職員の資質向上	○研修等の内容を実態に合わせて実施し、教員の授業力を時代に合わせたものに向上させる。	○佐藤学東大名誉教授を年2回招聘し、講演と授業観察をしていただき、授業改革を更に前進させることができた。	A	・「学びの共同体」の授業は、今の時代に合っていてすばらしい。ただ、これは手段にすぎず、授業でどれだけ共感できていたのかとか、授業後どれだけ生徒が課題に取り組んでいくのかということが大切ではないか。
	施設・設備等の管理	○計画的な予算執行を行い、安全対策を中心に管理を進めて行く。	○必要の応じての修繕ができた。予算の関係で次年度へ繰り越した修繕もある。	A	・予算のことがあるとは思いますが、修繕が必要なところは繰り返し教育委員会へアピールしていく必要がある。 ・記念樹の植樹は場所の関係で止めてしまったが、今植えてある記念樹や校内の樹木は時々手入れをする必要がある。保護者の手伝いを求めることが年々厳しくなっていることは重々承知しているが、よろしく願いたい。

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
領家中	組織運営	○「やりがい」や「充実感」を抱き学校運営に参画できたと感じる教職員の割合100%。	○【達成状況】 達成できなかった。 学校評価（教職員） 85.2%	B	・目標が100%で設定されているが、個人の取り組み方や自己評価の仕方によっても変わってくるので、厳しすぎるのではないか。評価が85%あった所から考えても概ね良い評価になってよいのではないだろうか。 ・学力の伸びが良く、授業の上手な先生が多いと聞いている。先生同士でも先輩の先生の授業を真似したり、指導していく場が継承していけると良いと思う。 ・体育祭や合唱コンクールでは、生徒の頑張りと共に、先生方の頑張りも見ることができた。管理職の先生方からも外から見た評価を伝えて、褒めてあげてほしい。 ・管理職をはじめ、教師の方々の日々の御苦労に感謝を申し上げます。 ・「やりがい」や「充実感」を数値化するのは難しいですが、達成度が昨年の「A」から「C」へ変化しているのが気になります。
	教育課程	○一人残らず全員が参加する授業構築のために授業改善に取り組んだ教員の割合88%。	○【達成状況】 概ね達成できた。 学校評価（教職員） 92.6% 学校評価（生徒） 91.6% 管理職授業訪問B	B	・組織の法則には、優秀な上位が2割、平均的な中位の人材が6割、下位のグループが2割に分かれるという考え方が。とりこぼしのないように地域も含めた全員で目が配れると良い。 ・不登校になっている生徒の割合はどのようなものになっているか。民生委員として参加もしているが、いろいろな機関と連携を図って、該当生徒を見守って頂きたい。 ・不登校の定義は家庭と学校によっても異なるが、先生方にはその間を縫うように生徒にアプローチしてもらいたい。 ・課題とした「底辺層への取り組み」はどんな組織に於いても改善するのは難しいと思います。 ・各教師の「取り組み方の工夫」は「すばらしい」と思います。
	開かれた学校づくり	○学校運営協議会を核とした地域学校協働活動の実現。（新たな取組一つ以上）	○【達成状況】 概ね達成できた。 生徒にとって意義のある持続可能な取組が複数実現した。	B	・学校運営委員会でこちらから要望を出すことが多いが、むしろ学校側からの意見や要望があれば、できる事ならやってあげたい。 ・学校運営協議会の回数について、回数を増やせば良いというものではないが、3回という回数が適切なものかどうか。また、そこで発案できる取り組みが、持続可能なものを考えてやっていきたい。 ・PTAの役員決めに撤廃したが、特に問題も起きてはいない。生徒を見たい保護者は少なくないので、時間帯を区切ってボランティアを募れば、行事にも支障をきたすことはない。 ・教師の方々、生徒の皆さんから頂く「元気・感動」は大きなものがあります。 ・「やまもも」からは多くを学ばせて頂いております。
	教職員の資質向上	○教職員事故0および体罰等調査「あり」回答0の達成。	○【達成状況】 ほぼ達成できた。 教職員事故0および体罰等調査「あり」回答0。	A	・教職員の資質向上について、教職員事故0が掲げられているが、次年度以降、他にも授業等の資質向上に関して目標や方策を設定してみてもどうか。 ・生徒ひとりひとりの個性を拾い上げてくれる教職員がたくさんいると感じている。 ・中学校の教職員の忙しさが取り上げられているなかで、教材研究をする時間はどこで確保しているのか。少なくとも、先生方が楽ではなくても、楽しく出来ていると感じている。 ・教職員事故「0」の維持継続はまさに緊張感の連続だと思えます。 ・領中の取り組みが一つの「スタンダード」になるといいですね。
施設・設備等の管理	○施設・設備等の事故0の達成。	○【達成状況】 ほぼ達成できた。 施設・設備等の事故0。 転落防止ストッパーの修繕	A	・多目的トイレが設置されたことが良かった。また、和式トイレから洋式トイレに移行しているところも良い。 ・施設等、管理にお金のかかるところはやはり限界がある。管理職から教職員に対して注意喚起を行ったり、生徒に声掛けをするなどしてソフト面で事故防止0に近づけてほしい。 ・ハード面でもプールの改修工事や床の張替えなどを行っている。建築年数も重なっているので、予算と生徒への安全面を考慮しながら、引き続き対応をお願いしたい。 ・「点検に対する見方」が標準化されると素晴らしいです。 ・これまでの改善の事例集がまとめられて次のステップにつながるいいです。	

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
戸塚中	組織運営	<p>○教職員一人一人の職務能力を向上させる</p> <p><input type="checkbox"/>全体の推進力となるリーダーを育成する</p> <p><input type="checkbox"/>組織力を向上させる</p> <p>◇学校における「働き方改革」を推進する</p>	<p>○人事異動もあり、校内体制も変わったことから主体的な研修を積極的に実施するまでには至らなかった。</p> <p>○多くの教職員が主担当に充てるようにし、育成を図った。</p> <p>○事前相談及び複数年同一の分掌に充てることで、一定のレベルまで育成できた。</p> <p><input type="checkbox"/>業務改善シートを計画的に運用するまでには至らなかった。</p> <p><input type="checkbox"/>分担の明確化に意識することができた。</p> <p>◇今年度新たに実施した日課表は、根付いてきて。</p> <p>◇勤務時間を意識した働き方に取り組めるようになってきた。1月の時間外在校時間は約27時間半であり、県目標45時間以内であった。80時間オーバー者はいない。</p> <p>◇効率的・計画的な勤務に向けて、引き続き業務改善シートを活用し、先を見通して仕事に取り組めるようにする。</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>・若手を育てることは大変かもしれないが、しっかりと取り組んで欲しい。</p> <p>・特になし</p> <p>・働き方改革を継続して頑張ってもらいたい。</p> <p>・効果的な日課表を考えていてもらいたい。</p> <p>・生徒の意見も聞いて欲しい。</p>
	教育課程	<p>○指導内容の系統性を確立し、学習内容を着実に定着せる</p> <p><input type="checkbox"/>主体的に対話的な学習活動を実践させる</p> <p>◇学習内容を定着させ、一人一人の学力を向上させる</p>	<p>○シラバスを提示し、計画的に学習指導することができた。</p> <p>○計画的・随時に教科ごとに進み具合を確認しあい、お互いが授業を参観しあうことで、修正できた。</p> <p>○次年度に向けて、現在作成中。</p> <p><input type="checkbox"/>学習形態を工夫し、学習者主体の学びに近づけるよう取り組んでいた。</p> <p><input type="checkbox"/>授業改善週間と併せて、相互授業参観を実施した。</p> <p><input type="checkbox"/>キガPCの個人活用から、全体の意見集約などに活用の幅を広げることができた。</p> <p><input type="checkbox"/>他校の授業研究会に進んで参加するよう「自己評価シート」に位置づけさせた。参加者には、全体の前で他校の実践を伝えさせた。</p> <p>◇板書やノートづくりの工夫や、授業のその時に身に着ける授業改善にも取り組ませた。</p> <p>◇研究が生かされていない部分が気になった。</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>・特になし</p> <p>・生徒が楽しく感じる「わかる授業」、「できる授業」に継続して取り組んで欲しい。</p> <p>・授業力の向上は継続して頑張ってもらいたい。</p>
	開かれた学校づくり	<p>○学校運営協議会を定期的に開催し学校経営に生かす</p> <p><input type="checkbox"/>学校運営協議会の活動内容の充実させる</p> <p>◇学校の情報を保護者・地域への積極的提供する</p>	<p>○曜日の変更はあったが、計画通り実施できた。</p> <p><input type="checkbox"/>トイレ清掃に向けての取組は、実施できなかった。「ほっとルーム」の活動に参加していた。</p> <p>◇遅れる時もあったが、年間の計画に基づいてほぼ実施できた。</p> <p>◇保護者あてメールは、積極的に活用できた。</p> <p>◇実施できた。</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>・特になし</p> <p>・よい取組を継続して行って欲しい。</p> <p>・よい取組を継続して行って欲しい。</p>
	教職員の資質向上	<p>○校内研修と自主研修を充実させる</p> <p><input type="checkbox"/>O J Tを充実させる</p> <p>◇ベテラン教職員の豊かな経験を伝達させる</p>	<p>○人事評価制度に基づく「自己評価シート」に他校研修への参加を位置付けた教員も多かった。</p> <p>○回数的に満足できるものではなかった。</p> <p><input type="checkbox"/>多くの教職員に主となる分掌を充てることができた。</p> <p>◇主に学年主任に対してベテランの教員を補佐役に充て、時に校長からベテラン教員に指示を出して育成した。</p> <p>◇ベテランという捉えよりも、各個人の活躍の場の設定をした。</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>・特になし</p> <p>・特になし</p> <p>・育成は大変かと思うが、継続して教職員の育成をしていてください。</p>
	施設・設備等の管理	<p>○計画的・随時の点検で修繕箇所を常時把握する</p> <p><input type="checkbox"/>G I G Aスクール構想に基づく授業実施に必要な機材適宜を購入する</p>	<p>○定期の安全点検は実施した。</p> <p>○体育館の照明や随時の点検も実施できた。</p> <p><input type="checkbox"/>市教委に対して、継続的にICT関連機器の設置を働き掛けていく。</p>	<p>B</p> <p>B</p>	<p>・計画的な修繕をお願いしたい。</p> <p>・特になし</p>

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
在家中	組織運営	<input type="checkbox"/> 管理職を含め、教員同士のコミュニケーションを充実させ、社会のニーズ・動向を加味し、生徒が将来必要とする力を育成する。 <input type="checkbox"/> 今ある学校の良さを伸ばし更に新しい輝きを生み出せるよう、「チーム在家」としての教育実践を推進する。	<input type="checkbox"/> 体育祭や合唱コンクールなど大きな行事では全教職員が一丸となって生徒の活躍と成長を支援することができた。平素から各教職員の連携を更に密にする必要がある。 <input type="checkbox"/> 生徒が生き生きと活動し、自分の良さを発揮できるような教育活動の設定や環境づくりを行うことができた。	B A	・生徒の数が減ってきているからこそ、教員の生徒一人一人への理解が求められてきていると思う。常に「チーム在家」としての団結、方向性を意識した血の通った人間教育を期待する。 ・学校全体が落ち着いており、「チーム在家」としての意識があり、まとまっていると思う。 ・先生方の連携が以前より密に、熱心になってきていると感じる。
	教育課程	<input type="checkbox"/> 地区内の小中学校と連携して、「学びの共同体」による学びに向かう力の育成と9年間の学びの連続性をもった学習体制を構築する。 <input type="checkbox"/> 現代的諸課題を考慮し、また、地域貢献できる生徒の育成を目指し、社会に開かれた教育課程の実現を推進する。	<input type="checkbox"/> 地区内の小中学校と連携して[学びの共同体]について研修会を開いた。校内の学習指導については「学びの共同体」の定着には至らなかった。 <input type="checkbox"/> 今後の部活動の地域移行などを考慮して教育課程の見直しを行った。学校運営協議会や地域・保護者の声を活かすことができなかった。	B B	・「学びの共同体」についての定着までに至らなかったようであるが、小・中連携として9年間の学びの連続性をもった学習体制づくりには大いに期待したい。 ・小中連携で中学校へのスムーズな進学ができ、さらに学力の向上にもつながり、今後の効果に期待したい。 ・「学びの共同体」について今後の発展に期待したい。
	開かれた学校づくり	<input type="checkbox"/> 保護者・地域の方々に生徒の様子を参観してもらう場を工夫し、学校への意見を積極的に取り入れ、教育活動に反映させる。 <input type="checkbox"/> 本校の各活動の教育的意図や生徒の活躍を積極的に発信することで、保護者・地域の教育活動への理解を図り、ともに生徒を育てるという参画意識を高める。	<input type="checkbox"/> 学校行事等では多くの保護者に学校の様子を見てもらうことができ、生徒の活躍・成長を認めてもらうことができた。学校への意見を教育活動に反映させる取組が足りなかった。 <input type="checkbox"/> 学校ホームページや学校だより等を活用し、学校の現状を知らせたり諸活動に対する学校のねらい等を発信したりして在家中に対する理解を深めた。	B A	・生徒によっては反抗期真っ只中で親子の会話もままならず、学校の様子を聞けない家庭もある。学校だより、ホームページ、参観、行事を通して理解できるので親子の会話のきっかけになる。これからも積極的に発信したり、学校へ足を運ぶ機会を増やして欲しい。 ・「ホームページの活用」「地域への情報発信」学校の様子がわかり良いと思う。行事だけではなく、学校公開等の情報発信があってもいいと思う。 ・進路指導について多くの情報を提供していただきたいという保護者からの意見を聞いた。
	教職員の資質向上	<input type="checkbox"/> 学びに向かう力を育て、生徒一人一人の学びを保障するため、工夫ある授業実践を行うことのできるよう全教職員の指導力向上を図る。 <input type="checkbox"/> 生徒の未来を育てる者としての自覚と責任を常にもって指導にあたり、保護者・地域から信頼される教職員集団を形成する。	<input type="checkbox"/> 「学びの共同体」を積極的に授業に取り入れようとする教員、ICTを巧みに活用する教員など全教員が各教科の特性を生かし授業改善を行った。生徒一人一人が主体的に学ぶ環境を作る。 <input type="checkbox"/> 生徒に寄り添い、生徒とのコミュニケーションを大切にしながら指導にあたり、生徒の自主性や自律心を育成した。	B A	・教員間の授業参観を増やし、自らの授業改善や工夫に活かして欲しい。 ・生徒の笑顔、やる気を引き出す為には第一に教員が健康で生き生きと生徒に寄り添うことが必要だと思う。働き方改革を積極的に取り入れ、リフレッシュしていただき、心身ともに健康でいて欲しい。 ・先生方のプライベート、働き方も大事にしつつ、無理のない形がかつ効果的指導に、今後も取り組んで欲しい。
施設・設備等の管理		<input type="checkbox"/> 防災教育を含め、生徒、教職員ともに日頃から危機管理意識を高くもち、災害時における適切な行動を身に付ける。 <input type="checkbox"/> 施設管理に起因する事故が起きないよう、安心安全な教育環境の維持管理を徹底するとともに、生徒の心を豊かにするための環境整備に向けた指導を行う。	<input type="checkbox"/> 教職員一人一人が生徒の安全安心を第一に考え、施設の不備や危険箇所を早期に発見することで事故のない学校生活にすることができた。また、各学年・各教職員の創意工夫ある掲示等で校内の環境を整えた。 <input type="checkbox"/> 小中合同の災害時引取り訓練や不審者侵入を想定した避難訓練を引き続き実施し、学校全体の危機管理意識を高めた。	A A	・常に危機管理意識を高くもち、安心安全を心がけている姿勢は素晴らしい。小・中合同の引き取り訓練等、これからも続けて欲しい。 ・何が起きるかわからない世の中、防災・防犯教育を通じて最終的には自分自身の身は自分で守ることが大切であると学校でも教えて欲しい。 ・古い建物になってきたが、清潔に保たれている。

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達 成 度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
安行東中	組織運営	<p>○学校教育目標の達成に向けた方向性について共通理解を図り、教職員一人一人の学校運営への参画及び協働意識を高める。</p> <p>□不登校生徒をはじめ、支援が必要な生徒への迅速かつ効果的な支援ができるように環境及び支援体制の整備と充実を進める。（支援が必要な生徒の支援率100%、改善率を50%以上）</p> <p>◇生徒の安全・安心を第一とした教育活動を実施する。</p>	<p>○生徒・保護者・職員の学校評価アンケートへの肯定的な評価は平均85%以上となり、昨年度の課題項目の改善を含め、一定の成果を得ることが出来た。</p> <p>□生徒への支援率100%、改善率約50%。「ほっとルーム」の環境と支援体制を整え、早期対応によって新規不登校生徒発生率を大幅に減少することができた。</p> <p>◇感染症拡大防止の適切な実施、熱中症・食物アレルギー等による事故ゼロを実現できた。全職員で共通理解を図りながら、協働的に教育活動を実施した。</p>	A A A	<p>・学校評価アンケートは一定の成果が得られている結果であり、この点を評価したい。更なる継続・推進をお願いしたい。ほっとルームは対応しつつあると思うが、教員の不足が心配である。教育委員会に強くアピールする必要がある。</p> <p>・中学生になった子供の心理は複雑で、多様性を求められ、先生は大変だと思いますが、子供たちにとって、先生の支えはとても心強いものです。「ほっとルーム」「教室の子供たち」どちらもよろしくお祈りします。</p> <p>不登校生徒の減少は大いに評価できる。</p> <p>・校長先生を中心として個々の生徒に対して、出来る限りの対応をしようとしている姿勢は大変すばらしい。</p>
	教育課程	<p>○単元テスト等を活用し、生徒一人一人に応じた基礎学力の定着と学習意欲の向上をうながす授業改善の研究と実践を進める。</p> <p>□不登校生徒や特別な配慮を要する生徒への学習支援体制を整える。</p> <p>◇学力向上・学習支援を核に、小中連携した生徒指導や教育相談等を含む多面的な連携体制の構築を進める。</p>	<p>○「個に応じた学び方を学ぶ」をテーマに取り組み、学習意欲や粘り強さ等に関わる学校評価アンケート項目で生徒・保護者ともに肯定的な評価が高くなった。</p> <p>□「ほっとルーム」での配慮を要する生徒や不登校生徒の多様な学びへの支援として、GIGAスクール端末PCの活用や学習支援の充実を進めた。</p> <p>◇主に授業観察等による学習支援ならびに生徒指導等の各部会への参加を通して、学校種間の相互理解、短期的な課題解決に向けた企画を実施することが出来た。</p>	B B B	<p>・単元テストが定着してきた。生徒の得手・不得手の部分が明確になり、復習すべき点がはっきりして良い。単元テストはこれまでの期末や中間テストと違う点を強調しておいてほしい。</p> <p>・勉強が苦手な生徒にとっては、少しのつまづきがきっかけとなり、更なる勉強がいへと進んでしまうと思います。スモールステップでも良いと思いますので「できた！」という達成感を持たせ、全体の基礎学力向上をお願いします。</p> <p>・次年度の課題と改善策に沿って一歩向上されるよう職員皆様方をお願いします。</p>
	開かれた学校づくり	<p>○継続的かつ効果的な情報発信ならびに内容の充実を図る。</p> <p>□保護者と連携した効果的な教育活動の検証及び改善ができる体制の確立と指導や支援の改善を進める。</p> <p>◇P T Aや地域と連携した教育活動のより一層の充実を図る。</p>	<p>○保護者の学校評価アンケートで肯定的な評価が88%となり、教育活動の意図や生徒の様子等の情報発信について一定の成果を得ることが出来た。</p> <p>□「目指す生徒像の具現化」に関わる19項目中18項目の肯定的な評価が増加（平均+8%、最大+19%）し、教育活動の検証と改善について一定の効果を得ることができた。</p> <p>◇年間を通したP T Aと朝のあいさつ運動等の実施をはじめ、全学年で系統的に地域と連携した教育活動を実施し、内容の充実を図ることができた。</p>	B B A	<p>・H P やお便り、学校公開、体育祭等を通じて学校の様子を知ることができています。地域力を取り入れた学習機会も良いと思います。</p> <p>・様々なツールを使って情報発信していることは良いと思う。発信者と受信者の感度を合わせるよう更に啓蒙してほしい。</p> <p>・例年行われている地域（町会）と生徒の懇話会などは充実した教育活動になると思う。いざという時、生徒が何をできるか、地域の自主防の方達と平時に話し合い、いろいろなことを学んでほしい。</p>
	教職員の資質向上	<p>○「生徒が自走して学ぶ・学び直せる支援体制づくり、授業改善」を共通テーマとして、授業力向上のための教員間の学びあい・高めあいの充実を図る。</p> <p>□心身ともに健康な教育集団であるために、勤務時間外の在籍時間に対するタイムマネジメントの強化を図る。</p>	<p>○生徒自身が自己決定しながら「学び方を学ぶ」取組を組織的に行うとともに、U D Lの校内研修の実施の他、単元テストの運用等を通じて教職員間で授業力向上に努めた。</p> <p>□本校業務改善スタンダードの8つの改善策の5割は安定した成果が出て、時間外在籍時間も昨年度より減少してきている。心身の健康の研修を年間2回以上実施した。</p>	B B	<p>・教職員一人一人がこれからの生徒の学力向上の為、何が出来るか尚一層研究努力してください。期待しています。</p> <p>・働き方改革に向けた取り組みと実際の日常業務、とても大変だと思います。行政も巻き込んだ根本的で現実的な取組が必要だと思います。子供たちを想うことと同じくらいに、先生方のご健康を祈ります。心からのびやかに各自が向上できる働く場となりますように。</p>
	施設・設備等の管理	<p>○生徒の安全を最優先に、学校の状況に即した安全管理の維持・徹底を図る。</p> <p>□本校の実態やU Dに配慮した教育環境の実現に向けて計画的な整備を進める。</p>	<p>○施設・設備事故ゼロ。施設・設備を組織的に管理する校内安全点検項目を改訂し、教職員の安全・安心な教育環境の維持と、計画的な修繕への意識醸成を図った。</p> <p>□「ほっとルーム」の整備は8割近く進めることが出来た。多目的トイレ等、整備が必要な具体的な施設・設備を市教育委員会に申し入れ、調整中である。</p>	A B	<p>・開校40周年ということである所に修繕が必要な箇所があると思います。まずは安全が第一。優先順位を明確にし、順次修繕を進めて下さい。また、生徒が安らげる環境も必要だと考えます。</p> <p>・ほっとルームの整備に感謝しています。</p> <p>・多目的トイレも含めトイレの整備については最優先の課題だと考えます。</p>

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達 成 度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
戸塚西中	組織運営	<p>○生徒評価「わかりやすい授業をしている」(R5 94%)、「失敗や間違いを恐れず発言することができた」(R5 50%)の項目アップ</p> <p>□不登校生徒支援率を100% 学校とのつながりを意識し、生徒個々の実情に沿った支援の実現</p>	<p>○生徒評価結果 ・先生は分かりやすい授業をしている 93% ・私は授業中に人前で積極的に発言することができる58%</p> <p>話し合い活動やアプリを活用するなど意見の集約方法を工夫し生徒が自分の考えを見える化することができた。</p> <p>○ICTを効果的に活用し、生徒が道具として活用し、学習効果を向上させることができています。授業だけでなく生徒、保護者へのアンケートにも活用し、効率的に意見回収、集計処理を行うことができた。</p> <p>□□学習教育支援センター（本校ではステップアップルーム）を開設し、教室に入ることができない生徒への学習環境の整備を行った。</p> <p>□オンライン授業を昨年度に引き続き実施（条件付きで出席扱い）</p> <p>□不登校生徒保護者向けの懇談会を実施した。</p> <p>□外部講師を招き、不登校児童・生徒の保護者向け懇談会を実施した。</p>	<p>A</p> <p>A</p>	<p>・ICTを上手に活用して先生方の負担を減らせるとよい。</p> <p>・ICT活用による授業の工夫で生徒の意識が向上している様子が分かる。生徒も教員も入れ替わる中で体制を維持していけるよう整えてほしい。</p> <p>・ステップアップルームの取組はとても良いので継続してほしい。</p> <p>・不登校生徒保護者への学校としての対応は十分検討されていると思う。根本的な理由は様々あると思うが調査は続けて情報蓄積をしておいてほしい。</p> <p>・不登校生徒への対応はもちろん重要ですが、登校している生徒にも可能な範囲で不登校生徒の事情や心情を理解・共有させてみる必要がある。登校できている生徒が不登校にならないための予防効果も期待できる。</p>
	教育課程	<p>○教員のICT活用率の向上</p> <p>□タブレット端末を活用した授業スタンダードの構築</p>	<p>○ICTを活用した授業については、教職員の研究テーマとして、研究授業の実施、評価項目の見直しを図った。</p> <p>○夏季休業中に教員研修会でICTを活用した小中連携の研修会を行い、小中の教科ごとで協議をするなど連携を図った。</p> <p>□今年度は教育委員会の授業訪問の年であり、教科及び道徳、特別活動、総合的な学習の時間の授業について指導があった。また各機関研修、川口市教育研究会や、課題研究会の授業公開を行う機会も多く、校内のみならず他校および外部機関からの授業視察も多く、教員の授業力の向上につながった。</p>	<p>A</p> <p>B</p>	<p>・教員のICT能力の向上が必須なので研究研修を更に進めてほしい。</p> <p>・ICT活用について研修等十分に行われている。教員が準備において時間外勤務を要しているのではないかと心配している。</p> <p>・教職員の縦の連携を深めて授業や生徒指導の質を向上してほしい。</p> <p>・ICT活用による、教員、生徒の目や姿勢など身体面にも気を付けるように配慮してほしい。</p>
	開かれた学校づくり	<p>○学校運営協議会を核とした学校と地域が連携した活動の実現。</p> <p>○開校30周年に向け具体的な準備の開始。（3学期）</p>	<p>○学校運営競技委員から様々なご意見を伺うとともに、課題の発見や解決の道筋などについて研修会を実施することができた。</p> <p>□30周年に向け、実施する具体的な内容の検討と、原稿依頼等の準備を行った。今後は準備委員会を立ち上げ更に具体的な計画段階に入る。</p>	<p>B</p> <p>B</p>	<p>・防災をきっかけとして更に地域とのつながりを深めてほしい。</p> <p>・防災という点で、近隣町内会と協力する形は開かれた学校づくりに最適と思う。地域全体に連携する形を定着してほしい。</p> <p>・開校30周年が在校生の記憶に残るものとなるよう協力できればと考える。</p> <p>・ホームページを充実させてほしい。生徒会のページがあってもよい。</p>
	教職員の資質向上	<p>○わかりやすい評価のためのシラバス作成</p> <p>□校内授業研究会の実施</p>	<p>○データによるシラバス作成を行った。</p> <p>○研究推進委員で不登校生徒に対する評価方法について見直し、授業出席、提出物等においておよその目安となる指標を提示しながら保護者に丁寧に説明した。</p> <p>○合理的配慮事項の検討や個々の状況にあった評価体制を検討し実施した。</p> <p>○ICTを活用した授業については、教職員の研究テーマとして、研究授業、研究協議の実施、教員同士の相互授業参観などスキル向上に向けた取組を行った。</p>	<p>B</p> <p>A</p>	<p>・教員同士の授業参観や研究会はとても良い取組である。</p> <p>・難しい位置の評価判断、説明に苦勞されていると感じる。保護者としては高評価へ寄せてほしいが、努力すべき点を認識した上で、評価に左右されない意思を培ってほしいと思う。</p> <p>・相互参観や研究会は積極的に実施、参加してほしい。・小学校授業の見学はいい取組である。</p> <p>・授業評価アンケートを生徒に実施してみてもどうか。何の授業が分かりやすかったか否か、教材の使いやすさなど、継続教科すべき点と改善すべき点を精査しブラッシュアップしてほしい。</p>
	施設・設備等の管理	<p>○安心安全な学校の維持。施設事故ゼロ</p> <p>□会計事故、金銭事故ゼロ</p>	<p>○学校運営協議会委員が校内視察をする機会を年3回設けることができた。委員からの指摘から改善点を見出すことができた。</p> <p>○教職員の定期的な安全点検を実施し、校内施設の状況について把握するとともに、修繕計画等の見直しを行った。</p> <p>□昨年度からの再生紙使用による紙使用削減とともに、今年度は学校連絡ツール（スクリル）の導入により、学校だより等もメール化することにより、大幅な紙使用の減少が見られた。</p> <p>□今年度も学級費を廃止、教材についてもできる限り負担を減らすように工夫した。</p>	<p>B</p> <p>A</p>	<p>・30周年に向け施設の老朽化も目立つので対策をお願いしたい。・生徒からも危険箇所のアンケートを取ってみてどうか。</p> <p>・美化という点ではとてもきれいにしている学校である。</p> <p>・学校運営協議会委員も入れ替わり学校だよりの配布もスクリーン配信での閲覧でよいと思う。紙の節約と配布の手間が省ける。削減できる資源は減らし必要なものを購入するよう検討してほしい。</p>

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
鳩ヶ谷中	組織運営	○教職員の当事者意識の醸成と逆ピラミッド型の組織づくり	○校長の想いを伝え、各担当者はその意を汲みながら各自の責任の下、学校行事やその他、新たな提案を行わせることができた。	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒自身が元々もっている「人間性」「社会性」「生きる力」を引き伸ばしてほしい。 教職員の管理と放任のバランス。 校長のリーダーシップのもと、教職員が一丸となって教育活動を展開しています。 ボトムアップで進めてください。 地域に密着した取り組みは素晴らしい。 地域を知ることは大事である。 体験活動は必要です。 自治会との協力で生徒の体験活動が増えるのはとても良い経験となる。 社会人になっても負けない人づくりに。 保護者の理解度や対応教員人数に課題があります。 保護者にとって安心材料となる場所だと考えます。 是非、続けてもらいたい。
		□体験活動を通して実感の伴った学びを充実	□地域合同防災訓練、夏祭り神輿担ぎ、1年生夢わく体験事業、1,2年生校外学習、家庭科保育実習、3年介助実習など、これまでの体験活動以外に、地域と連携した体験活動を多く取り入れることができた。	A	
		◇不登校生徒の学びへの接続100%の実現	◇ほっとルームを新設したが、恒常的に利用する生徒がいなかったため、ポートフォリオを使用した形成的評価を行うことはできなかった。しかし、今後は小学校と共同でこの形成的評価について研究を進めていく方向である。	B	
	教育課程	○個別最適な学びと協働的な学び	○どの教科においてもタブレットP Cをただ使用するのではなく、効果的に活用する場面を多く見ることができた。また、グループワークを取り入れる教科が多くなり、対話的で協働的な活動が増えた。教え合い、学び合う雰囲気づくりの一助となっている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 「見通しと計画」「振り返り・見直し」を実行していてほしい。 先生方が上手に使いこなせているか心配。 自覚、自信、自主、自立を目指してほしい I C Tとの相性の悪い教科はあるのか 教科書とタブレットの両用が大事。 互いに教え合う場面が多く、全体的な学力向上につながっていると思う。 生徒自身の振り返りが重要。 3年生授業における振り返り時間の確保割合が低いことが気になる。 生徒に自信付け、自主・自律へ。 グループ内で意見が分かれたときの対応は考えているのか。 反復学習も必要と考えます。
		□学習者自身のP D C A	□どの授業も「見通し」と「振り返り」を大切に、子どもたち自身にその授業で身につけた力、変化した自分を感じ取らせることができた。しかし、家庭学習や授業中の学びの姿勢など、子どもたち自身が自分の学習方法を見直し、改善する意識はまだまだ定着に至っていない。	B	
		◇生徒同士の教え合いや対話的な活動 ◇授業開始時のトレーニング的活動	◇グループワークを取り入れる教科が多くなり、対話的で協働的な活動が増えた。教え合い、学び合う雰囲気づくりの一助となっている。タブレットP Cのドリルソフトを活用したが、各授業内ではなくモジュールの時間に使用したため、各授業におけるトレーニングの必要性を強く感じます。	B	
開かれた学校づくり		○機能的な学校運営協議会の開催及び研究委嘱を通じた小中連携の強化	○学校運営協議会、自治会と連携し、今年度も地域合同防災訓練を実施したり、氷川神社の夏祭りに生徒が参加することができた。川口市教育委員会の委嘱を受け、小中9か年の切れ目のない指導体制について研究を行っている。次年度はさらに連携を強め、研究を深める。	A	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や地域住民との交流が深まった。 小学生との繋がりを作れば、小中9か年の指導体制づくりの一助に。 今後も地域連携を進めよう。 災害時に大いに役立つ取組です。 生徒に主体的役割を考えさせたい。 生徒の健全育成に努めてもらいたい。 もっと鳩ヶ谷地域を知って、地域連携を進めよう。 魅力的なH Pを期待しています。 H Pへの肯定的な意見の多さは保護者の嬉しい情報が入っているということ。 生徒による発信は難しいか。 H Pの活用は有効だと思うので、今後も進めてほしい。
		□子どもの力を地域に還元し、地域の活性化につなげる	□地域合同防災訓練を実施したり、氷川神社の夏祭りに生徒が参加することができたが、商工会議所との連携が進んでおらず、地域の活性化につなげる活動は不十分であった。	B	
		◇H Pの最大限の活用	◇学校H Pを活用し、最新の教育情報をはじめ、タイムリーな教育活動の様子などをほぼ毎日発信することができた。保護者向け学校評価においてはH Pに関する肯定的意見が9 5%であった。	A	
教職員の資質向上		○教職員事故、不祥事、ハラスメントゼロ	○埼玉県の不祥事防止プログラムのもとに、短時間の机上研修を繰り返し行った。また、学校だよりにおいて教育公務員としての在り方、不祥事を起こさないためのハワツなど、教職員に対し適切に啓発を行うことができた。	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校を訪問すると親しみやすい様子が伺えます。 不祥事は起きてからより起こらないよう予防することが大事。 先生も自己研鑽を積んでほしい。 進化し続ける姿勢は大切だと思う。 教職員も研修や自分の勉強もできるので良いと思う。 働き方改革を是非進めてほしい。 オンとオフをはっきりさせる。 小学校との交流は是非進めてほしい。 オンラインの活用で移動の負担が少なくなっているのは良いことです。 互いの良い刺激になると思う。
		□自己研鑽の時間を確保することで人材育成に努める	□週29時間授業から週28時間授業にしたり、生徒の完全下校時刻を通年で16時45分にするなど、大きな働き方改革を実施した。同時に、対面式の出張が多くなり、自己研鑽となる出張は快く承認した。	A	
		◇指導力、授業力の向上	◇一部教員ではあるが、小学校の特別活動や道徳などの授業参観を行った。今後は授業参観せずともオンライン配信で授業を見るなど、教員の負担にならないような連携を行い、教員の資質能力の向上に努めたい。	B	

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標		年 度 評 価	
		重点目標	重点目標の達成状況		
	施設・設備等の管理	<p>○豊かな情操の醸成</p> <p>□機能的な防災拠点としての学校づくり</p> <p>◇子どもたちの安全と安心づくり</p>	<p>○学級や学年の掲示物だけでなく、給食や図書、教科の掲示物が充実してきている。しかし、特に学年の掲示物は破損したものの修繕ができておらず、掲示後の管理が今後の課題である。</p> <p>□老朽化の進む施設・設備は教頭を中心に計画的に修繕が行われている。しかし、施設・設備の修繕が優先され、バリアフリー化が進んでいない現状にある。</p> <p>◇大規模修繕以外の小破修繕については、子どもたちの安全・安心のために、定期的に安全点検を行い、危険個所の早期修繕を行うことができています。</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>A</p>	<p>・掲示物の破損をそのまましておくのは気の緩みである。</p> <p>・工夫された掲示物、展示物だと思います。</p> <p>・バリアフリー化を進めてほしい。</p> <p>・修繕がバリアフリー化より優先されるのは仕方ない。</p> <p>・一度、車いすで校内を巡ってみれば不自由さがわかると思います。</p> <p>・予算もあるため、安全面を第一に進めていかざるを得ない。</p> <p>・老朽箇所が見受けられます。順次修繕が必要。</p> <p>・日々の点検活動を続けてほしいと思います</p>

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
八幡木中	組織運営	○若手、ベテランそれぞれの良さを生かし、組織的、機動的な組織を確立する。 □不登校生徒やその保護者とのかわり信頼関係を続け、信頼関係を構築する。	○自己評価シートに対する指導助言を行ったことにより、目標を達成した教職員が増えた。また、日常において声掛けをし、若手教職員を受容し学校運営に参画する意識を高めてきた。 □教育相談的手法を発揮し、生徒や保護者への適切な対応で、不登校生徒支援率100%達成した。 □不登校生徒の保護者相談会を実施し、本校を含めた鳩ヶ谷地区の参加保護者の不安を解消することができた。	A A	・保護者の学校評価で「学校の取組状況がわからない」という意見が複数の項目である。学校の取組状況をHPやメールを活用して随時伝えて欲しい。 ・保護者の教育相談部会は効果ある取組である。参加した家庭の児童が、その後岸川中のほっとルームに通い始めた。以前は大宮にある不登校の支援施設に通っていたので、保護者の負担が軽くなった。親のケアが重要。 ・オンライン授業参加の出席扱いについて、1日6時間の全て視聴で出席とするのではなく、1時間でも視聴すれば出席になることがよい。・現在のオンライン授業は、その時間だけ視聴できるが、オンデマンド配信ができるとうらやよい。生徒の質問はチャット機能を使って対応していることがよい。
		教育課程	○生徒一人一人の力を把握し、その生徒に合った学習を行う。家庭との連携を密にし、個別最適な家庭学習や課題を提示する。 □市委嘱研究で道徳の研究を進め、授業力の向上につなげる。	○授業中は、生徒同士の話し合い学び合い活動等を積極的に取り入れるなど方策を示し、学ぶ意欲を高めた。定期テスト前に補習をしたり、冬休みに3年生対象の学力アップ教室を実施したり、一人一人の学習状況の改善を図った。 □先進校の授業参観や指導者を招聘した授業改善に取り組んだ。市委嘱研究として、道徳の授業で発問を吟味するなど指導方法の工夫改善を進めた。	B B
	開かれた学校づくり	○学校の様々な教育活動について、保護者や地域の方に参加していただく。 □学校HPの積極的な更新を行い、保護者・地域に公開していく。	○日常の活動状況や行事の様子をHP等を使い広く広報できた。HPの更新やメール配信も積極的に行うことができた。多くの保護者や地域の方にご来校いただいた。 □学年の行事は学年担当教員が、生徒会行事は生徒会担当がHPのアップをすることはできた。担当によりアップの頻度に差があることが課題である。	A B	・特別支援学級の現在の状況として、交流学級で授業を受けている生徒がいる。また、子育て相談課の担当やスクールソーシャルワーカーの支援により改善が見られたケースがある。 ・生徒は特別支援学級の理解を深めるため、校長による入学式、始業式での講話や学年集会で6組の仲間と共に学ぶことの意義について話をしている。 ・主任児童委員からトルコ語の保護者向け資料として「つながるKITAP」日本語トルコ語会話集を紹介いただいた。 ・学校の電話対応時間(7:50～17:50)以外で保護者は相談したいことがあったが、繋がらない。学校として、生徒指導など必要があるときは留守電話を解除して対応している。時間内に電話連絡をいただけるよう御理解いただく。 ・本校のHP更新を学年ごとにこまめにしているで生徒の様子がよくわかる。情報の偏りがなく、今後も引き続きお願いしたい。 ・メールの保護者登録状況は非常に高く、登録していない家庭は20件程度で学年により差がある。
	教職員の資質向上	○教師として生徒を伸ばすことのできる力を身につける。また、教員以外の社会を学ばせ、社会人としての素養を身につけさせる。 □様々な経験をし、指導の幅を広げるためにも、ワークライフバランスを考慮し、視野を広げる時間を作る。	○教員がお互いの授業を見合う機会が増えている。授業参観後、参観者が若い教員に指導をする機会が増えた。若い教員のICT活用方法をベテラン教員が学ぶ機会になった。 □先輩から若手への助言をもとに、健康第一に考える勤務、時間を意識した勤務を進めた。学期末に5時間授業、4時間授業を1週間ずつ設け、放課後のゆとりにより働き方の改善を進めた。	B A	・来年度開設予定の八幡木中のほっとルームは、対象を中学生だけでなく小学生に広げる予定。保護者も含め地域の教育相談拠点校にしたいがまだ確定はしていない。教員を含め、不登校の親の話をよく聞き傾聴が大切である。 ・病休者ゼロは素晴らしい。職員室の担任として教頭先生のおかげである。 ・生徒のスマートフォンでのトラブルは増えている。生徒向けの勉強会だけでなく、保護者向けの研修を継続していく必要がある。教員のアンテナを高くし、初期対応を迅速にしていることがよい。
施設・設備等の管理	○老朽化が激しい箇所、特にグラウンド、トイレの改修に見通しを付ける。	○旧金工室・準備室を第3会議室に改修し、夏季休業中に中庭・正門駐車場改修工事が終了。本年度中にステップルームのエアコン設置完了予定。校内巡視をもとに、計画的に素早い修繕を徹底し事故ゼロだった。異常箇所は教頭と相談しながら、早期修繕を行った。	A	・学校開放団体で夕方体育館を使用しているが、上や下の窓やフックが開いていることがある。顧問による最後の見届けをして欲しい。ギャリーのカーテン奥の窓が開いていることがあった。	

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
里中	組織運営	○不登校生徒を減少させるとともに、学びの保障に向けた支援率を100%にする。 (令和5年度不登校生徒数の割合6.0%)	○ステップルームを活用したり、家庭訪問を実施したり、オンライン授業を実施したりしながら、不登校生徒の学びの保障に向けた支援を100%できたが、不登校生徒数の割合は4.6%となった。 また、ステップルーム登校の生徒には、通知表とは別に文書表記による評価を実施した。	B	・ステップルームを利用することで、教室復帰につながっている例がいくつもあり、ステップルームの運用が効果的であると感じる。 ・不登校生徒への学習保障を今後もお願いしたい。
	教育課程	○端末の更なる活用と効果的な活用を推進する。 埼玉県食育指導力向上研究協議会に向けて、教職員の力を結集し、組織的に研究を行う。	○授業の内容等に応じて、各先生方が効果的に一人一台端末を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを実現できた。 栄養教諭を中心として、全教職員で力を合わせて研究発表を実施することができた。	B	・G I G A 端末を授業での活用とともに、先生方の情報共有の道具として使ったら良いのではないか。
	開かれた学校づくり	○学校運営協議会を核とした地域とともにある学校づくりを推進する。	○学期が始まる前の美化活動やステップルームの運営など地域の人材を生かした取組ができた。 ○小学校での挨拶運動や学習支援を生徒が行い、小中連携を実現できた。また、夏季休業中に小中の教員の合同の研修を実施できた。	B	・地域の人材をもっと活用してほしい。 ・地域を巻き込んだ防災訓練を実施してほしい。
	教職員の資質向上	○生徒・保護者が一層相談しやすく、教職員の働き甲斐のある学校づくりを推進する。	○研修したことを踏まえ、組織的に生徒指導、教育相談にあたることができた。学校評価アンケートの保護者からの回答では、肯定的な回答80%を超える項目が少なかった。	B	・学校評価アンケートで課題が見られた項目の改善策をしっかりと立ててほしい。
	施設・設備等の管理	○危機管理意識を高め、安心安全な学校づくりを推進する。	○毎月の安全点検を確実にし、生徒にとって安心・安全な環境を保持することができた。 ○今年度は、大規模な体育館の屋根の工事を実施した。	A	・計画的に修繕を行って良いと思う。

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標		年 度 評 価	
		重点目標	重点目標の達成状況		
附属中	組織運営	<p>「組織的な学校運営体制の構築」</p> <p>○川口市の中高一貫校として、高校や関係機関との連携を更に強化し、安定した学校運営を行う。</p> <p>○様々な声に迅速に対応できる校内体制を構築する。</p> <p>○組織的な教育相談体制を構築し、不登校の改善・未然防止を図る。</p>	<p>○定期的打ち合わせに限らず、日常のコミュニケーションを意識して行うことで情報共有が図られ、学校運営を連携して行うことができた。</p> <p>○「学校創造アンケート」の対象を、全生徒・全保護者に広げたことで、より多くの学校に対する意見を収集し、学校運営に反映することができた。</p> <p>○教育相談室やスクールカウンセラーとの連携を強化したことで、個別最適な支援を行うことができた。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校の問題では、教育相談部会や教育相談室を中心とした取組が効果的に機能している。 ・資料の事前共有などにより、今後の対策に時間を割いているところが良い。
	教育課程	<p>「『よき学習者』と『附属中プライド』の育成」</p> <p>○「学習者起点」の理念に基づき、より良い授業を行うことで全生徒を「よき学習者」へと成長させる。</p> <p>○生徒を主体とした教育活動を通して、生徒一人一人に「附属中プライド」を育成する。</p>	<p>○中学校の教育課程の見直しについては、質・量の両面から行うことができた。また、内進生との交流についても、いくつかの場面で行うことができた。今後も継続した改善が必要である。</p> <p>○生徒会活動は、2回の生徒総会や全員対象のアンケートの実施等により参画意識が高まり、「附属中プライド」の醸成につながった。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の多さからくる、生徒負担の軽減は重要である。 ・課題については、総量を見える化することが大切。 ・授業見学から、発見から感動につながる授業をされていることがわかった。 ・少人数指導から通常の人数での指導に戻る時に配慮が必要。 ・学校評価において、「そう思う」という一番強い肯定の回答が減ってきていることは検証すべき。
	開かれた学校づくり	<p>「『さらなる選ばれる学校』となるための積極的情報発信」</p> <p>○より多くの市民に本校を知ってもらうため、積極的な情報発信を行う。</p> <p>○市立小学校を通じて、より多くの児童に向けて本校の魅力を周知する。</p> <p>○教育関係者に対して更に積極的に情報発信を行う。</p>	<p>○全教職員がホームページでの発信の重要性を理解し、積極的に行うことができた。また、初めて実施した体験授業は大変好評であった。</p> <p>○母校訪問も効果的に実施できた。</p> <p>○今年度から始めた学習塾対象の説明を通じて、より多くの児童や保護者に本校の魅力を発信することができた。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化が進む中で選ばれるが校になるためには、地元に着目した学校となり、地元の企業にも目を向けてほしい。
	教職員の資質向上	<p>「『チーム附属中』としての教師集団の育成」</p> <p>○学校教育目標や目指す学校像をしっかりと理解し、その具現化に向けて教職員一丸となって取り組む。</p> <p>○「学習者起点」という理念に基づき、学力上位層にも効果的な生徒を主体とした学習指導について研修する。</p> <p>○協働や協力を通して、川口市のリーディング校の教師としての自覚やプライドを持った集団をつくる。</p>	<p>○様々な機会において学校教育目標等の擦り合わせに努めた。次年度に向けての改善点の話し合いでは、今までの附属中の流れを共有することができ、とても意義深いものになった。</p> <p>○実力テストを活用した学力向上の研修は充実したが、主体的・対話的で深い学びや高校教員との連携には課題が残った。</p> <p>○何事にもヒヤリットの段階で情報共有することで、教職員事故防止につなげることができた。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし
	施設・設備等の管理	<p>「施設・設備の効果的な活用と安全・安心な学校づくりの推進」</p> <p>○本校の特色ある教育活動を効果的に推進するため、活用状況を把握し改善につなげる。</p> <p>○本校の施設の特徴と傾向を教職員全員が共通理解することで防犯・防災意識を高める。また、本校の実態に合った防災・防犯対策の強化を行う。</p>	<p>○主幹や教頭を中心に高校との調整を行うことで、教育活動を着実に実施することができた。しかしながら、特別教室の活用については課題が残った。</p> <p>○安全点検は確実に行うことができたが、設備を起因とした軽微な怪我があった。また、防犯対策については更なる充実が必要である。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・施設、設備の点検は、年に一度は真っ新たな状態に考えて確認することが大切。 ・ICT機器については、予算の見直しを持ちつつ計画的な改善が必要。 ・大アリーナのエアコン、大雨時の排水問題、第二校地の行き帰りの道路の安全確保等が課題である。

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
川口市立高	組織運営	<input type="checkbox"/> 「進学校・SSH指定校として飛躍する」 <input type="checkbox"/> 各学科・コースの教育活動の発展とより一層の特色化を打ち出す。 <input type="checkbox"/> 管理職と教職員が両輪となり、各部署の目標を連鎖させ、教育活動を飛躍させる。	<input type="checkbox"/> 開校10年を間近に控え、さらに「飛躍」するために、SSH事業を学校づくりの中核とした教育活動を展開した。各年次・各分掌がそれぞれの特色を出し、各部署が連携した学校づくりを行った。 <input type="checkbox"/> 企画委員会を中心に、今後の学校の在り方等を議論し、「飛躍」に向けた検討を進めている。	B B	・各学科、コースの教育活動の充実を。 ・特になし
	教育課程	<input type="checkbox"/> 「国公立大学進学に対応する教育課程の展開とSSH事業を実施する」 <input type="checkbox"/> 国公立大学の現役合格者60名以上を目指す。 <input type="checkbox"/> 生徒の進路実現に向け、授業の質を高め、学力向上につながる教育活動を展開する。	<input type="checkbox"/> 国公立大学を第一志望とする3年次の生徒数は104名（R5：112名）。（12月未現在）共通テストのフル受験率は29.8%（R5：25.8%） <input type="checkbox"/> 各教科で授業研究を進め、学力向上を目指している。夏季休業中の進学補講87講座実施、冬季休業中の進学補講34講座実施。	B B	・進路指導に対する保護者の期待が高い。 ・進路指導、授業と教員の負担のトレードオフが難しい。 ・生徒入学当初の学力向上に向け、教員の意識を高める。
	開かれた学校づくり	<input type="checkbox"/> 「地域に開かれた学校づくりを行うとともに、中学校や関係者に積極的に広報する」 <input type="checkbox"/> 各学科・コースの魅力・特色を発信する学校案内、ホームページの充実を図る。 <input type="checkbox"/> 近隣中学校を中心に、塾関係者などとの情報交換を通じ、連携を図る。	<input type="checkbox"/> 学校案内を12ページに増やし、各学科・コースの魅力・特色を発信した。ホームページは学校の活動や部活動を中心に、587回更新（R5：494回）。 <input type="checkbox"/> 近隣中学校や塾主催説明会に25回参加し、本校を志望する中学生への広報と情報交換を行った。	A A	・子供の数が減っている中、選ばれる学校になることは大変なこと。 ・地域に密着した選ばれる学校になってほしい。 ・地元の企業についても目を向けてほしい。 ・特になし
	教職員の資質向上	<input type="checkbox"/> 「学校全体で授業第一主義を徹底する」 <input type="checkbox"/> 授業時数の確保に向け、学校行事を精査する。 <input type="checkbox"/> 探究的な学習を意識した授業を実践するため、指導方法を研究し、授業力を向上する。 <input checked="" type="checkbox"/> 関係機関の協力を仰ぎ、教職員の資質向上に向けた各種研修会を実施する。	<input type="checkbox"/> 授業時数を確保するため、定期考査後の授業の在り方を見直した。学校行事については、引き続き精査していく。 <input type="checkbox"/> 各学科・コースの探究活動の発表会に向け、充実した内容になるよう指導を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 市教委主催の研修会による資質向上と授業力向上に向けたICT研修会を2回実施。	B A B	・附属中への出前授業において、高校の教諭による発見から感動につながる授業が見れた。 ・特になし ・特になし
	施設・設備等の管理	<input type="checkbox"/> 「施設を有効活用するためとともに、学校生活及び登下校時の安全に配慮する」 <input type="checkbox"/> 登下校時の交通事故防止に向け、立哨指導や注意喚起に取り組む。 <input type="checkbox"/> 附属中と定時制と連絡を密にし、施設の有効活用を行う。 <input checked="" type="checkbox"/> ICT環境を整備し、効率良く、かつ効果的に教育活動を展開する。	<input type="checkbox"/> 定期的な立哨指導のほか、HR担任からの注意喚起を実施。自転車乗車中の交通事故は減少傾向にある。 <input type="checkbox"/> 全定委員会や管理職の調整会議を定期的実施し、施設利用の重複を避けるよう調整している。 <input checked="" type="checkbox"/> 授業だけではなく、会議や諸連絡等においても、ICTを積極的に活用した教育活動を展開している。	B A A	・施設・設備等の点検・充実は事務室と連携し、計画的に実施を。 ・大アリーナのエアコン設置、豪雨時の柔剣道場の浸水対策などをお願いしたい。 ・第二校地への移動時の安全確保を。 ・特になし ・I C T 関連機器の計画的な更新をお願いしたい。

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
定時制	組織運営	<p>「生徒の進路実現を支援する組織を構築する」</p> <p>○多文化、多様性を理解し、個々の生徒に沿った指導体制・教職員組織を構築する。</p> <p>□進路希望の未決定を0にする。</p> <p>◇校務の効率化を図るとともに働き方改革を実施し、教育の質の向上を図る。</p>	<p>○□外部機関(川口市、JICA東京)と連携し「多文化共生」に係る教員研修、生徒校外学習を実施した。</p> <p>□進路希望の未決定者は「0」である。</p> <p>○日本語教室の生徒出席延べ人数は2,841名（同時期昨年度2,391名）、昨年度より増加した。日本語能力検定合格者4名である。</p> <p>○保護者宛文書ネット配信、三者面談、保護者対象公開授業を実施するなど保護者と連携した指導体制を構築した。</p>	B	<p>・定時制生徒の現状を踏まえ、生徒に寄り添いながらの指導、そして4年間を見通したキャリア教育をさらに推し進めてください。</p> <p>・教員数が減少傾向にありますが、効率的かつ効果的な組織運営を行い、教育の質を向上させてください。</p> <p>・近隣中学校、他の高校においても定時制と同様に日本語を母語としない生徒の指導について試行錯誤をしている状況であると思います。そのような学校と情報共有しながら、多文化共生や日本語指導等を推し進めてください。</p>
	教育課程	<p>「教育課程の円滑な実施を進める」</p> <p>○すべての生徒の学力・能力（知る・学ぶ・考える・行う）を伸ばす。</p> <p>□生徒・保護者・地域の要望や学校の現状を踏まえ、カリキュラムマネジメントを行う。</p>	<p>○□「進路の手引き」を活用したキャリア教育（外部講師講演等）を着実に実施した。生徒満足度は84%である。</p> <p>○□「産業社会と人間」における生徒満足度78%、「総合的な探究の時間（NIE）」における生徒満足度40%である。</p> <p>○□授業における生徒満足度は84%である。</p> <p>○□校外行事を例年以上に実施した。情操教育だけでなく公共マナー意識を啓発することができた。生徒満足度は73%である。</p>	B	<p>・生徒が募集停止による在籍生徒数減少に伴う不利益を被らないよう関係各所に働きかけ、教育活動の維持、充実に努めてください。</p> <p>・生徒アンケートの結果から、定時制が魅力ある教育を行っていることがわかった。現在のカリキュラムについて学校や生徒のため、時代の流れということを踏まえて絶えずPDCAを行い、引き続き、生徒にとってワクワク感のある教育、そして生徒が将来への夢や希望を持てる教育を実践してください。</p>
	開かれた学校づくり	<p>「積極的に広報するとともに外部機関や地域社会とWin-Winな関係づくりを構築する」</p> <p>○外部機関等との連携を一層強化し、生徒の将来を見据えた学びを進める。</p> <p>□様々な媒体、機会を活用し定時制の魅力を発信する。</p>	<p>○同窓会（生徒会行事）、全日制(文化祭)、他校（所沢高(定)、陽春分校)など連携事業を実施した。</p> <p>□HP更新回数51回(昨年同時期36回)、SNS活用した情報発信をした。保護者用HPを設置し、保護者と情報共有・連携を図り、教育の質の向上を推し進めた。</p> <p>□個別学校見学26名、学校説明会参加人数75名である。昨年度以上の参加者数である。</p>	A	<p>・昨年度以上に外部連携を実施している。難しい面はあるが、このような取り組みをさらに加速して増やして欲しい。その際、生徒が様々な学びへ主体的にチャレンジできるようお願いしたい。</p> <p>・定時制のHPをいつも拝見しているが、随時更新されており、定時制の教育活動がよくわかった。引き続きお願いしたい。</p>
	教職員の資質向上	<p>「教職員の資質向上を推進させる」</p> <p>○校内研修を計画的に行い、教職員の指導力向上を図る。</p> <p>□校外研修等への教職員の積極的な参加を推奨する。</p>	<p>○□公開授業見学者数21人、今年度より保護者対象公開授業週間を設けた。保護者から直接意見を伺うことができた。</p> <p>○□成績優秀者は1学期61名、2学期56名（昨年度1学期53名、2学期55名）であった。教科指導研究など職員の地道な研鑽による学びなおしの成果があがってきている。</p> <p>○□様々な行事実施により教職員の資質向上ができた。</p>	A	<p>・新たに公開授業や三者面談を行うなど保護者と連携したより良い指導体制を構築している。ICTに係る教職員研修を継続して続け、さらにICTを活用した授業をお願いしたい。</p> <p>・授業が単にわかりやすだけでなく、難しいがわかりやすい授業を行い、生徒の知的好奇心を満たす授業をお願いしたい。</p>
	施設・設備等の管理	<p>「施設設備の効果的な活用と安心安全な学校生活の保障する」</p> <p>○定時制特有の課題に対して安心・安全を確保する。</p> <p>□施設・設備を活かした教育活動を展開する。</p>	<p>○防災訓練を2回実施した。</p> <p>○校内の防犯対策の見直し、自転車点検、登校指導を実施するなど安全指導を行った。</p> <p>□ICTを活用した授業における生徒満足度85%である。</p>	A	<p>・防災訓練、自転車通学の指導など十分に行っており、生徒の安全を第一に考えた指導を行っている。行政の立場からアルバイトなど生徒が様々な犯罪に巻き込まれる事案が非常に懸念されている。このような犯罪に生徒が巻き込まれないように今まで以上に指導をお願いしたい。</p>

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
舟戸幼	組織運営	<input type="checkbox"/> 目指す幼稚園像及び幼児像の共有化 <input type="checkbox"/> P D C Aサイクルの推進	<input type="checkbox"/> 園長の経営方針を周知し、自己評価シートで具体化させた。年間計画、週報等を通して見直しをもち、共通行動をすることができた。 <input type="checkbox"/> 週案や週日案に幼児の実態や課題を記録し、個に応じた丁寧な保育を行うことを援助することができた。 <input type="checkbox"/> 指導計画の反省の機会をもち、今後の運営の工夫や改善に生かすことができた。 <input type="checkbox"/> 教職員の自己評価シートに反映し、工夫や改善をすることができた。	A A	・教育環境や園児の実態に応じて計画的に丁寧な保育を実践している。今後も継続してほしい。 ・教職員やスタッフが目標に向かって一生懸命がんばっているのを、そのことを知ってもらい、園児数が増えるように願っている。
	教育課程	<input type="checkbox"/> 舟戸学園の連携教育と豊かな自然環境の特色を生かす保育の推進 <input type="checkbox"/> 小学校との連携による幼小の滑らかな接続	<input type="checkbox"/> 舟戸学園の2年間の委嘱研究の土台をつくるスタートをした。 <input type="checkbox"/> 舟戸学園の連携教育を精選しながらも充実させることができた。 <input type="checkbox"/> 自然体験活動を計画的に実施することができた。 <input type="checkbox"/> 舟戸小学校と連携を図り、アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムを作成し、幼小の滑らかな接続を図ることができた。	B A	・園庭が広く自然環境の良さに恵まれている。園庭で計画的に栽培活動を行ったり、虫捕りやメダカの飼育などの自然体験活動ができることが素晴らしい。PTAのボランティアにより、保育環境や保育内容が充実していることが素晴らしい。一層推進してほしい。 ・ブログで保育の様子がよく分かる。 ・舟戸学園での連携により子どもたちが互いに育ち合うことができることが素晴らしい。一層推進してほしい。
	開かれた学校づくり	<input type="checkbox"/> 幼稚園の保育内容と幼児の姿の積極的な発信 <input type="checkbox"/> 保護者・地域等からの情報の収集による連携の強化	<input type="checkbox"/> 幼稚園日よりやHPで保育活動を保護者や地域に積極的に発信することができた。 <input type="checkbox"/> 保育参観、保護者会、教育相談、個人面談等を計画通り実施することができた。 <input type="checkbox"/> 保護者との連携とともに保育の質の向上に生かすことができた。	A A	・園日よりやホームページなどで幼稚園の取組や園児の遊びの様子がよく分かる。
	教職員の資質向上	<input type="checkbox"/> 研修の充実による指導力の向上 <input type="checkbox"/> 市立幼稚園教育研究協議会の研究の充実	<input type="checkbox"/> 園内研修では、様々な事例研究や外部講師の講演を通して学び合い、指導力の向上を図ることができた。 <input type="checkbox"/> 2園が実践事例研究等を通して学び合いを推進し、指導力の向上を図ることができた。	A A	・年間を通じて教員が学び合いながら資質を向上させるように計画的に進められている。保育の内容が一層充実するように研究を推進してほしい。
	施設・設備等の管理	<input type="checkbox"/> 安全管理の徹底 <input type="checkbox"/> 安全管理の徹底	<input type="checkbox"/> 日常の安全点検や毎月の定期点検、各行事の事前点検を徹底したことで、事故0を達成することができた。 <input type="checkbox"/> 園児の遊びの広がりに合わせて担任、特別支援教育支援員、ATの配置を柔軟に行い安全の確保に努めた。 <input type="checkbox"/> 様々な事態を想定した避難訓練を計画的に実施することができた。 <input type="checkbox"/> 教職員事故防止は具体的な事例で当事者意識をもてた。	A A	・避難訓練を計画的に行い、園児の安心安全につなげているところがよい。 ・設備の安全が守られている。年数を重ねているので修繕等により園児の安全を一層強化してほしい。 ・遊びの場面で危険箇所の認識や教員の配置に死角や不備がないように確認してほしい。

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園）自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
南平幼	組織運営	○園児がじっくり遊びに取り組みめるよう、環境構成を考える。	○幼稚園生活の中で、幼児の興味関心に基づき、体験を積み重ねられるよう、環境を整え日々の保育をしています。好きな遊びでは、朝庭庭の遊具や用具を工夫し、保育室では、画用紙やモールなどの素材の種類、数量なども考えています。またユニバーサルデザインとして、配置も工夫しています。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動を重視していることに、大きな意味と価値がある。 ・遊びを通して友達との関わり方を学んでいるのが良くわかる。 ・劇遊びを見ると一人一人のつづやきかととても大切にされていることがわかり、充実した保育が行われていることが伝わってくる。 ・幼児一人一人の興味に寄り添って環境を整え、興味を深掘していることは、子供たちにとってとても良い理想的な教育だと思う。 ・園児の言葉、イベント後のつづやきをもらさずに、その興味のあるものを用意し、その子の発想に繋げていく努力を評価したい。 ・子供の意見をできる限り即時に対応しているのが素晴らしい。 ・園児募集ポスターは、幼稚園の楽しい雰囲気や良く伝わり、バツと目を引くものでとても良い。今後の声に期待したい。とても素敵なポスターなので多くの人に見てほしい。ポップな感じで楽しさやのびのびした雰囲気も伝わり素敵である。 ・少人数だからこそできる関わり、何でもやってみようという姿勢を持たせている。またそれぞれの園児に合わせた声かけや関わりがされている。先生方全員が子供たちに全力で向き合うことで、子供たちは安心して自分の気持ちや意見を言う中で学ぶことができていると思う。
		□園児募集ポスターを新しくする。	□園児募集を一新しました。コンセプトとして、まず第一に、「楽しさ」が伝わること。そのため、子供の落書きのような雰囲気を出すため、ポップアートのキース・ヘリングをオマージュしたそうです。また「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に関連させ、「あそび・まなび・えがお」にしました。	A	
		◇少人数の良さを生かした保育をする。	◇年少、年中、年長で好きな遊びの時間を楽しみ、全教職員、アシスタントティーチャー、特別支援教育支援員が全園児に関わって保育することができました。	B	
	教育課程	○年間指導計画や週案に基づいた保育を進め、日々環境構成を整え、遊びを継続させる。	○事例研修では、川口市教育委員会委嘱研究に基づき、「協同性」をねらいとして研修を深めた。市教委幼稚園訪問や異校種研修会では、どの学年も「協同性」を公開保育とした。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・無理のない小学校スタートカリキュラムを導入している。幼小の学びの連携を見通している。 ・幼小中の連携があることにより、教員だけでなく、児童生徒の育成にもつながり、よいと思う。 ・先生方の丁寧な保育により、遊びを通しての学びが得られると思う。 ・遊びを通して、できる子が教えてあげたり、できない子はできる子に聞いたり、お互いのアイデアを出し合うなど、協同性・協調性も培うことができる環境教育がされていると思う。 ・年齢に合わせて段階をふんで変えていくことで、スムーズにできるようになり、小学校へ進学した際もスムーズに取り組める。 ・普段はあまり意識していないが、園から聞くことにより家庭でも意識されていくと思う。 ・日々の園の様子など、HPやお迎えの時の申し送りや保護者にも明確に伝わり安心して保育をお願いできる。 ・スタートカリキュラムがどの程度習得できているのか、生活面だけでなく、どのくらい椅子にすわっていただけるのか、少しずつ慣らしてほしい。 ・小学校へ体験に行き、園児も小学校が楽しみになるので、とても良い取組である。 ・小学生になる楽しみ、自覚を少しずつ芽生えさせているのはとてもありがたい。
		□「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について、保護者にもわかりやすく伝える。	□幼稚園だよりでは、委嘱研修に関すること（4月号）、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（6月号）、幼保小の架け橋プログラム（9月号）などを掲載。また保護者会でも話をすることができた。	A	
		◇幼稚園のアプローチカリキュラムの見直し。	◇今年度も南平地区小学校のスタートカリキュラムを参考に、年長すみれ組の保育に生かしています。自分で時計を見て、長い針を目安に行動したり、年少、年中ではタオルを使用していたが、年長はポケットのハンカチを使用するなど、学校生活を意識して取り組んでいます。	B	
開かれた学校づくり		○焼き芋パーティー、カレーパーティー、餅つきなど火を使用する行事には、安全面に最大の配慮要する。	○幼稚園行事では、焼き芋パーティーやカレーパーティーには保護者、お餅つきでは地域の方にも協力していただき、思い出に残る楽しい園行事となった。さらに今年度中学校夢わーく3校、家庭科保育体験を全4クラス実施することができた。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・夢わーくや保育の体験授業、不審者対応などに関しても先生方だけでなく保護者や地域、中学校と一緒に体験することは共通意識をもてる。この安心を発信したい。 ・各家庭で体験することが減った焼き芋パーティーや餅つきなどの体験はとても良い。 ・地域や保護者の行事は公立ならでばだと思ふ。安全に配慮し、これからも続けて、子供たちの経験を大事に育ててほしい。
		□保護者が行事参加する際、交流が図れるように工夫をする。	□弁当参観では保護者と一緒にお弁当を食べたり、誕生会では保護者と一緒ケーキを食べたり、友達のお父さんやお母さんと話をしたりすることができた。	B	
		◇幼稚園国公立幼稚園・こども園長会で、埼玉県や川口市の幼児教育を情報発信する。	◇今年度埼玉県国公立幼稚園長会会長として、全国大会などに参加する機会が多くあり、幼児教育についてや特別支援教育についても学ぶ機会が増えた。	A	
教職員の資質向上		○令和6・7年度川口市教育委員会の委嘱により「幼稚園教育」の研修を行う。	○研修の成果として、友達と意見を伝え合う場をクラスの集まりで設けたり、好きな遊びの時間に幼児同士をつなぐような声掛けをしたりしていくことで、受け止めてもらう経験を積み重ね、思いを伝え合い、友達との関わりを楽しむ姿が増えた。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の熱心な研究や研修は南平幼稚園の大きな強みです。その強みをもっと発信してほしい。
		□川口市立幼稚園教育研究協議会では、舟戸幼稚園と南平幼稚園の2園で、研修主題「感じて 考えて 友達との関わりを楽しむ幼児の育成」とした研修を深める。	□夏季研修会では「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を読み解く～友達との視点から～」を演題としてご講演をしていただきました。「気づく力、考え工夫する力、意欲・意思をもって取り組む力を大切に、遊びを中心とした園の生活が幼児の様々な学びにつながっていく。（協同性も培われていく）ことを学びました。	A	
		◇幼小中の連携を充実させる。	◇幼保小の連携について、市立校長会、川口市生活科研修で、幼児教育について直接校長先生方や小学校の先生方と話をすることができた。	A	

令和6年度 学校評価のまとめ（学校別）

学校名	領 域	学 校（幼 稚 園） 自 己 評 価			学校（幼稚園）関係者評価（抜粋）
		年 度 目 標	年 度 評 価	達成度	
		重点目標	重点目標の達成状況		
	施設・設備等の管理	<p>○開園49年目となり、老朽化の箇所を含め、日々の安全点検を徹底する。</p> <p>□時代や現在の園児に合った修繕を行う。</p> <p>◇避難訓練等の見直しをする。</p>	<p>○遊具のペンキ塗りなど、計画的に修繕を行うことができました。また中学校との緊急通報システムを新たに増設した。地域や保護者のご協力もあり、埼玉県安全努力学校（園）、川口市安全優良学校（園）を受賞することができました。</p> <p>□毎月の安全点検や日々の園内巡視を確実に、委員会とも相談し、浄水器の設置やトイレの手すり等、迅速に修繕することができた。</p> <p>◇今年度警察の方に来ていただき、不審者研修を行い、危険箇所を見ていただいたり、不審者対応を教えていただくことができた。</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>・49年とは思えないくらい、きちんと整備がされている。</p> <p>・設備は昭和的でも、その心の育ちや手厚い保育、対応能力が日々更新される。研修で養っていることを伝えてほしい。</p> <p>・子供たちの安全を守る訓練、施設設備など、日々細かく見ていることで安心できる。</p> <p>・避難訓練がしっかり園児に身につけてきていると聞き、繰り返し行うことの大切さが伝わった。</p> <p>・非常に細かいところまで安全に配慮されていると思う。</p> <p>・毎月の避難訓練で子供たちが防災・防犯を頭と体で学べ、いざという時に役立つ大事な保育だと思う。</p> <p>・保護者の安心につながるとも良い取組だと思う。</p>

教育長報告（8）

令和6年度川口市立高等学校卒業者の進路状況について

（令和7年3月31日現在）

川口市立高校(全日制)	令和6年度		
	進路決定者数		
項目	男子	女子	計
国公立大学	36	19	55
私立大学	152	130	282
文部科学省所管外大学校			0
短期大学（公立・私立）	0	2	2
専門学校等	3	6	9
就職	0	2	2
進学・就職の準備等	25	8	33
留学、海外の大学日本校			0
その他			0
計（卒業者数）	216	167	383
在籍者数	216	167	383

※未定者は「進学・就職の準備等」

川口市立高校(定時制)	令和6年度		
	進路決定者数		
項目	男子	女子	計
国公立大学			0
私立大学	2	3	5
文部科学省所管外大学校			0
短期大学（公立・私立）			0
専門学校等	4	3	7
就職	8	4	12
進学・就職の準備等	8	11	19
留学、海外の大学日本校			0
その他			0
計（卒業者数）	22	21	43
在籍者数	22	21	43

※未定者は「進学・就職の準備等」

令和6年度 川口市立高校合計

項 目	進路決定者数			割合 (%)	前年比
	男子	女子	計		
国公立大学	36	19	55	12.9%	3.0
私立大学	154	133	287	67.4%	-5.4
文部科学省所管外大学校			0	0.0%	-0.5
短期大学（公立・私立）		2	2	0.5%	-0.2
専門学校等	7	9	16	3.7%	-1.6
就 職	8	6	14	3.3%	-1.8
進学・就職の準備等	33	19	52	12.2%	6.4
留学、海外の大学日本校			0	0.0%	0
その他			0	0.0%	0
計（卒業者数）	238	188	426		
計（在籍数）	238	188	426		

※未定者は「進学・就職の準備等」

<参考>

令和5年度 川口市立高校

項 目	進路決定者数			割合 (%)
	男子	女子	計	
国公立大学	32	11	43	9.9
私立大学	156	160	316	72.8
文部科学省所管外大学校	0	2	2	0.5
短期大学（公立・私立）	1	2	3	0.7
専門学校等	10	13	23	5.3
就 職	12	10	22	5.1
進学・就職の準備等	18	7	25	5.7
留学、海外の大学日本校	0	0	0	0.0
その他	0	0	0	0.0
計（卒業者数）	229	205	434	
計（在籍数）	229	205	434	

※未定者は「進学・就職の準備等」

教育長報告（9）

令和7年度川口市立高等学校入学者選抜結果について

令和7年度 合格発表 令和7年3月6日
 令和6年度 合格発表 令和6年3月1日

全日・定時	学科等	募集人員	性別	令和7年度					令和6年度						
				一般募集			市内中学校出身者		一般募集			市内中学校出身者			
				受検者	合格者	倍率	計	比率	受検者	合格者	倍率	計	比率		
				606	406			%		%	588	441			%
全日制	普通	募集人員 R7 240 R6 284	男	196	124		43	34.7%	171	141		72	51.1		
			女	205	120		53	44.2%	187	144		53	36.8		
			計	401	244	1.64	96	39.3%	358	285	1.26	125	43.9		
	スポーツ科学コース	募集人員 R7 80 R6 80	男	75	55		15	27.3%	94	56		21	37.5		
			女	38	25		7	28.0%	37	24		5	20.8		
			計	113	80	1.41	22	27.5%	131	80	1.64	26	32.5		
理数	募集人員 R7 40 R6 40	男	34	27		15	55.6%	51	36		15	41.7			
		女	17	14		5	35.7%	13	5		3	60.0			
		計	51	41	1.24	20	48.8%	64	41	1.56	18	43.9			
定時制	総合	募集人員 R7 60 R6 60	男	19	19		16	84.2%	8	8		7	87.5		
			女	22	22		18	81.8%	27	27		22	81.5		
			計	41	41	1.00	34	82.9%	35	35	1.00	29	82.9		

定時制欠員補充①

令和7年度 検査・面接 令和7年3月18日、合格発表 令和7年3月21日
 令和6年度 検査・面接 令和6年3月18日、合格発表 令和6年3月21日

(選抜結果)

全日・定時	学科等	募集人員	性別	令和7年度					令和6年度				
				受検者	合格者	倍率	市内合格	受検者	合格者	倍率	市内合格		
				市内	市内	市内	市内	市内	市内	市内	市内		
定時制	総合	募集人員 60	男	5	4	5		4	8	7	7		6
		一般合格 [41]	女	5	3	5		3	10	9	10		9
		欠員募集 19	計	10	7	10	1.00	7	18	16	17	1.06	15

定時制欠員補充②

令和7年度 志願者なしのため未実施
 令和6年度 検査・面接 令和6年4月4日、合格発表 令和6年4月5日

(選抜結果)

全日・定時	学科等	募集人員	性別	令和7年度					令和6年度				
				受検者	合格者	倍率	市内合格	受検者	合格者	倍率	市内合格		
				市内	市内	市内	市内	市内	市内	市内	市内		
定時制	総合	募集人員 60	男	0	0	0	0	0	0	0	0		0
		合格者数 [0]	女	0	0	0	0	0	1	0	1		0
		欠員募集 9	計	0	0	0	0	0	1	0	1	1.00	0

定時制最終合格者数及び比率

性別	令和7年度			令和6年度		
	最終合格者			最終合格者		
	総数	市内	比率	総数	市内	比率
男	24	20	83.3%	15	13	86.7
女	27	21	77.8%	38	31	81.6
計	51	41	80.4%	53	44	83.0

教育長報告（10）

令和7年度川口市学校図書館司書について

1 趣旨

児童生徒の思考力・判断力・表現力の育成や豊かな人間性の醸成に鑑み、司書教諭と連携を図りながら学校図書館に関する活動を通して学校図書館教育の充実を図るため、学校図書館司書を配置する。

2 採用人数 44名

3 配置	1人2校兼務	68校
	<u>1人単独配置校</u>	<u>10校</u>
	合計	78校

4 勤務条件

原則火曜日から金曜日の週4日 1日あたり4時間 年間160日以内

※令和7年度より勤務条件を変更

令和6年度 原則週5日 1日あたり4時間 年間175日以内

5 業務内容

- (1) 学校図書館の環境整備
- (2) 図書館資料の整理
- (3) 読み聞かせ等、読書活動に関する行事や児童の活動に関する支援 等

6 採用者

別紙のとおり

7 任期

令和7年4月1日から令和8年3月31日まで

令和7年度 川口市学校図書館司書 配置一覧

令和7年4月1日現在

	氏 名	配 置 校 (○本務校)	
		水 ・ 金	火 ・ 木
1	浅香 裕子	差間小	○ 芝南小
2	阿部 雅之	○ 東領家小	領家中
3	飯田 貴子	慈林小	
4	五十嵐 瑠美	幸町小	
5	一世 和代	○ 芝樋ノ爪小	小谷場中
6	稲留 麻子	辻小	○ 鳩ヶ谷中
7	岩上 由貴	中居小	○ 幸並中
8	上原 麻記子	前川小	○ 芝東中
9	宇田川 美奈	鳩ヶ谷小	○ 榛松中
10	海野 祐子	芝小	
11	大内 芳江	十二月田小	
12	大橋 桃子	○ 根岸小	岸川中
13	岡部 さかえ	○ 桜町小	神根中
14	春日 由紀子	安行小	○ 戸塚小
15	熊井 朋美	安行東小	○ 戸塚東小
16	熊田 真智子	青木北小	
17	倉持 貴子	柳崎小	
18	小沼 和美	○ 前川東小	青木中
19	小山 未来	原町小	○ 仲町中
20	今 宏美	上青木南小	
21	斉藤 智子	○ 本町小	舟戸小
22	佐藤 久美子	○ 木曾呂小	北中
23	佐藤 伸子	○ 領家小	里中
24	篠 里花	芝富士小	○ 芝西中
25	園部 さおり	○ 並木小	上青木中
26	高田 信一郎	戸塚北小	○ 戸塚中
27	高橋 香澄	○ 戸塚南小	戸塚西中
28	土屋 賢治	○ 新郷南小	八幡木中
29	中宇瀬 弘子	神根小	○ 神根東小
30	中川 真由美	戸塚綾瀬小	○ 在家中
31	中山 優子	新郷小	○ 東中
32	夏目 章絵	南鳩ヶ谷小	○ 安行中
33	南戸 綾	○ 元郷小	朝日東小
34	西岡 裕子	安行東中	
35	馬場 千尋	飯塚小	○ 南中
36	平野 玲子	○ 在家小	芝中
37	堀田 伊里子	○ 元郷南小	十二月田中
38	前川 恭子	青木中央小	○ 上青木小
39	増田 知佳	○ 飯仲小	元郷中
40	松澤 美月	芝中央小	
41	松山 三華	仲町小	○ 西中
42	水野 綾	○ 里小	朝日西小
43	南 歩美	○ 新郷東小	東本郷小
44	山下 良恵	芝西小	

合計配置校数 小5 2校 中2 6校 合計78校 ※内) 単独配置10校
 根拠：川口市学校図書館司書配置事業実施要綱 第2及び第3により任用をする。

教育長報告（11）

令和7年度川口市教育相談支援員について

1 趣旨

いじめ・不登校等児童生徒の心の問題の重要性に鑑み、児童生徒・保護者との相談等に応じるとともに、学校・家庭・地域社会との連携を図るため、川口市教育相談支援員（以下教育相談支援員という）を設置し、もって健全な児童生徒の育成を図る。

2 採用人数

すこやか相談員 27名

サポート相談員 27名

3 配置

全中学校にすこやか相談員1名、サポート相談員1名を配置

4 勤務条件

すこやか相談員：原則週5日 1日5時間 年間196日以内

サポート相談員：原則週4日 1日3時間 年間147日以内

5 業務内容

（1）相談室運営及びいじめや不登校の解消等のための相談・援助

（2）学校区の小学校において、いじめや不登校のための相談・援助

（3）児童生徒とのふれあいを通して、日常の悩みの相談

（4）民生委員、児童委員など地域の青少年育成関係者等との連携 等

6 採用者

別紙のとおり

7 任期

令和7年4月1日から令和8年3月31日まで

令和7年度教育相談支援員配置

番号	学校名	すこやか相談員	サポート相談員
1	東中	小杉 千絵	芦田 芳枝
2	西中	金子 厚子	鈴木 則子
3	南中	石黒 智子	後藤 小夜子
4	北中	松苗 郁子	下田 和子
5	青木中	佐々木 隆美	小堀 美緒
6	芝中	大谷津 和子	浅田 民子
7	元郷中	小田長 幹夫	海宝 一恵
8	上青木中	新村 誠	内野 未穂
9	幸並中	田北 眞美子	石井 美栄
10	十二月田中	戸簾 暢宏	大竹 敦子
11	仲町中	大野 幸子	井上 多恵
12	安行中	問田 真未子	明島 真由
13	芝東中	森元 秀樹	三ツ橋 由香
14	芝西中	近藤 玲子	坂井 恵実
15	岸川中	若林 協子	児成 寿実江
16	榛松中	根岸 仁美	浅田 京子
17	小谷場中	村上 明子	田邊 真佐子
18	神根中	田邊 美香	森田 あけみ
19	領家中	川瀬 明子	山田 美奈子
20	戸塚中	弓削田 美幸	駒崎 昌枝
21	在家中	石井 理恵	後藤 真穂子
22	安行東中	川田 博史	栃木 明子
23	戸塚西中	齋藤 綾子	中村 真由美
24	鳩ヶ谷中	宮城 里奈	北畑 玲奈
25	八幡木中	松本 倫子	東宮 有希
26	里中	成田 弥寿子	ブレイクスリー直子
27	附属中	丁野 薫	吉川 佳菜子

教育長報告（12）

令和7年度川口市特別支援教育こども支援員について

1 趣旨

幼稚園、小・中学校において特別な支援を要する幼児児童生徒に対する学校生活や学習活動などの支援・幼児児童生徒の健康面の把握及び安全面の確保など、特別な支援を要する幼児児童生徒に対して適切な教育の充実を図るため、特別支援教育こども支援員を配置する。

2 採用人数 156名（長時間勤務：128名 短時間勤務：28名）

3 配置

1名配置校 : 小学校9校 中学校26校
2名配置校（園）: 幼稚園2園 小学校21校
3名配置校 : 小学校13校
4名配置校 : 小学校9校

4 勤務条件

長時間勤務 原則週5日 1日あたり5時間 年間200日以内
短時間勤務 原則週4日 1日あたり4時間 年間140日以内

5 業務内容

- （1）特別な支援を要する幼児児童生徒に対する学習活動などの支援
- （2）特別な支援を要する幼児児童生徒の健康面の把握及び安全面の確保 等

6 採用者

別紙のとおり

7 任期

令和7年4月1日から令和8年3月31日まで

令和7年度 特別支援教育こども支援員の配置校

番号	配置校	長・短	氏名	番号	配置校	長・短	氏名
1	本町小	長	高橋 彩加	41	原町小	長	星野 綾子
2	本町小	長	加藤 桂子	42	原町小	短	古賀 正恵
3	本町小	短	齋藤 健	43	前川小	長	渡邊 智佳子
4	幸町小	長	長野 真理	44	前川小	短	根岸 由幸
5	幸町小	長	武居 利江	45	戸塚小	長	亀山 晴代
6	幸町小	長	松本 康裕	46	戸塚小	長	上林 玲実子
7	幸町小	短	森野 志津江	47	戸塚小	短	塩見 裕史
8	仲町小	長	長谷川 泰久	48	青木中央小	長	表 久美子
9	上青木小	長	堀井 健二	49	青木中央小	短	樋口 史子
10	上青木小	長	嵯峨 博美	50	青木中央小	短	原 ゆう子
11	上青木小	長	浜田 清市	51	元郷南小	長	高木 俊宏
12	上青木小	短	倉林 洋子	52	元郷南小	長	齋藤 まゆみ
13	元郷小	長	工藤 千春	53	元郷南小	長	黛 淳子
14	元郷小	長	植山 悦行	54	元郷南小	短	前川 梢枝
15	飯塚小	長	米沢 暁子	55	芝西小	長	中保 千恵
16	芝小	長	金子 夕子	56	芝南小	長	山本 珠美
17	芝小	長	佐藤 玲子	57	芝南小	長	若山 みどり
18	新郷小	長	トルオン 直子	58	神根東小	長	菊地 さと美
19	新郷小	長	高森 利津子	59	神根東小	長	伊賀 朋子
20	神根小	長	小池 久美子	60	朝日東小	長	出羽 奈保子
21	神根小	長	齋藤 博之	61	朝日東小	長	片岡 由美子
22	神根小	短	高際 みどり	62	芝富士小	長	中島 康裕
23	青木北小	長	石井 洋子	63	芝富士小	長	平出 美香
24	青木北小	長	水野 陽子	64	前川東小	長	八藤後 友子
25	青木北小	長	中島 緑	65	前川東小	長	高橋 直香
26	青木北小	長	富士原 正子	66	柳崎小	長	前野 雄吉
27	領家小	長	植松 節子	67	柳崎小	長	臼倉 緒美
28	領家小	長	平野 英恵	68	芝樋ノ爪小	長	高木 梨衣
29	舟戸小	長	越智 美穂	69	芝樋ノ爪小	長	福島 和美
30	十二月田小	長	杉原 温子	70	芝樋ノ爪小	短	堀江 由紀
31	十二月田小	短	綱川 明正	71	新郷南小	長	真庭 泰子
32	飯仲小	長	神山 春美	72	新郷南小	長	石澤 雅子
33	飯仲小	長	本多 久男	73	上青木南小	長	岡野 和世
34	飯仲小	短	坂本 仁美	74	根岸小	長	日根野 真
35	並木小	長	増田 紀子	75	根岸小	長	前野 昌美
36	並木小	長	山際 由美子	76	芝中央小	長	加藤 由美子
37	安行小	長	鈴木 亜希子	77	新郷東小	長	小宮 順子
38	安行小	長	谷平 美穂	78	新郷東小	長	宮田 美奈子
39	安行小	短	林 千和子	79	朝日西小	長	長門 成美
40	原町小	長	塩入 良江	80	朝日西小	長	伊藤 みさえ

令和7年度 特別支援教育こども支援員の配置校

番号	配置校	長・短	氏名	番号	配置校	長・短	氏名
81	慈林小	長	樋口 玲子	121	桜町小	長	清水 明枝
82	慈林小	長	田井 祐美	122	桜町小	長	小林 恭子
83	差間小	長	赤尾 尚	123	桜町小	短	近江 里奈
84	差間小	長	佐藤 律子	124	桜町小	短	馬場 真由美
85	差間小	短	浅子 薫	125	南鳩ヶ谷小	長	渡邊 美佐枝
86	東本郷小	長	吉岡 せい子	126	南鳩ヶ谷小	長	鈴木 直美
87	東本郷小	長	前田 由紀子	127	舟戸幼稚園	長	國分 紫津子
88	東領家小	長	松村 栄	128	舟戸幼稚園	短	山下 いづみ
89	安行東小	長	信國 優子	129	南平幼稚園	長	脇山 美穂
90	安行東小	長	今井 由美子	130	南平幼稚園	短	松村 順子
91	安行東小	短	小谷 明美	131	東中	長	佐川 富士夫
92	在家小	長	川畑 むつ子	132	西中	長	伊藤 美穂
93	戸塚東小	長	伊東 真由美	133	南中	長	大山 孝一
94	戸塚東小	長	本間 光紀	134	北中	長	手嶋 良子
95	戸塚東小	短	橋本 千絵	135	青木中	長	今成 三千代
96	戸塚北小	長	佐藤 摩耶	136	芝中	長	松尾 和朋
97	戸塚北小	長	田中 留美	137	元郷中	長	今泉 沙弥香
98	戸塚北小	長	豊嶋 浩伸	138	上青木中	長	齋藤 園枝
99	戸塚北小	短	星川 恵	139	幸並中	長	早川 裕子
100	木曽呂小	長	有馬 智子	140	十二月田中	長	昆野 亮子
101	木曽呂小	長	菅野 絵美	141	仲町中	長	岩井 素子
102	木曽呂小	長	柴崎 由紀江	142	安行中	長	佐藤 智子
103	木曽呂小	短	宮園 綾子	143	芝東中	長	林 優太
104	戸塚綾瀬小	長	櫻井 昌子	144	芝西中	長	佐々木 一二
105	戸塚綾瀬小	長	三浦 由貴	145	岸川中	長	成田 聖子
106	戸塚綾瀬小	短	飯坂 透	146	榛松中	長	池上 礼子
107	戸塚南小	長	渡邊 聡子	147	小谷場中	長	野邊田 淳子
108	戸塚南小	長	鈴木 瑠美	148	神根中	長	長谷川 はるみ
109	戸塚南小	短	原田 由紀子	149	領家中	長	荒木 ひとみ
110	鳩ヶ谷小	長	梅田 要子	150	戸塚中	長	星川 希
111	中居小	長	片岡 由香	151	在家中	長	大山 幸子
112	中居小	長	伊藤 智章	152	安行東中	長	上野 麻理
113	中居小	長	高島 いづみ	153	戸塚西中	長	秋田 幸代
114	中居小	短	三上 秀樹	154	鳩ヶ谷中	長	二渡 麻喜
115	辻小	長	永田 真菜美	155	八幡木中	長	佐藤 和子
116	辻小	短	石渡 悟	156	里中	長	河野 邦夫
117	里小	長	藤倉 恵子				
118	里小	長	服部 香里				
119	里小	長	石井 修				
120	里小	短	酒井 妙子				

教育長報告（13）

令和7年度ほっとルーム支援員について

1 目的

不登校や不登校傾向の児童生徒への支援の充実を図るため、校内教育支援センターを拠点として補助を行う「ほっとルーム支援員」を配置する。

2 対象者

- (1) 学校教育に理解があり、事業の趣旨を十分理解し、積極的に取り組む意欲のある者
- (2) 心身ともに健康で、児童・生徒の学習指導等に関する知識又は経験のある者

3 配置校及び採用者

配置校（7校）	支援員名（7名）
芝西小学校	本間 望
神根東小学校	武井 慶子
領家小学校	鈴木 典子
戸塚綾瀬小学校	平澤 多恵子
東本郷小学校	木島 孝雄
南中学校	宮里 智子
八幡木中学校	大越 章子

4 活動内容

- (1) 校内教育支援センター「ほっとルーム」を拠点とした不登校児童生徒支援
- (2) 「ほっとルーム」を利用する児童生徒の学習活動の支援、安全確保
- (3) 「ほっとルーム」の運営について管理職・教職員等との連携、その他

5 条件等

- (1) 勤務時間：1日4時間
- (2) 勤務日数：年間140日 月曜日～金曜日のうち、原則4日
- (3) 勤務期間：令和7年4月1日～令和8年3月31日

6 その他

- (1) 令和8年度、ほっとルームの全校設置を目指している。
- (2) 令和6年度はモデル校へほっとルーム支援員を配置したが、令和7年度からは、校内教育支援センターの活用状況等、実態を把握しながら、市内全体での不登校支援体制を検討し支援員を配置する。

教育長報告（14）

令和7年度川口市外国人児童生徒支援員について

1 趣旨

外国人児童生徒や帰国児童生徒のうち、日本語が理解できないことで学校生活に支障をきたしている児童生徒を対象に、学校生活への適応を図るため、日本語指導の補助等の支援を行う。

2 採用人数 6名

3 配置

日本語指導が必要な外国人児童生徒の占める割合が高い市内小中学校

4 勤務条件

原則週4日 1日あたり4時間 年間140日以内

5 業務内容

- (1) 日本語指導の必要な児童生徒に対する学習活動などの支援
- (2) 日本語指導の必要な児童生徒の健康面の把握及び安全面の確保に関する支援

6 採用者

No.	氏名	配置校
1	黄 学清	並木小学校
2	庄 琳穎	仲町小学校
3	鐘 麗	芝富士小学校
4	岡村 初枝	中居小学校
5	岡崎 三帆	柳崎小学校
6	叶 林琴	仲町中学校

7 任期

令和7年4月1日から令和8年3月31日まで

教育長報告（15）

令和7年度川口市課題研究について

1 目的

各教科等の課題研究員（以下「研究員」という）を任命し、研究員は、本市の実態に応じ、授業改善を主とした教育課題の追究、解明及び深化を図ることで、研究員自身の研鑽に努めるとともに、本市学校教育の一層の充実振興を推進することを目的とする。

2 研究教科等

1	国語	2	社会	3	算数・数学
4	理科	5	生活	6	音楽
7	図画工作・美術	8	家庭・技術家庭	9	体育・保健体育
10	外国語活動・外国語	11	特別の教科 道徳	12	総合的な学習の時間
13	特別活動	14	特別支援教育		

3 任期

各教科等の第1回課題研究員会議の日から令和8年3月31日まで

4 任命

任命する教員は、各教科等の実態に応じて4名を目安とし、2～6名以内とする。
※任命者は別紙のとおり

5 事業内容

- (1) 課題研究の目的を達成するため、本市の実態、各教科等の特性に応じ、授業改善を主とした教育課題における研究テーマを設定する。
- (2) 課題研究員会議は、各教科等の研究状況に応じて年5～10回程度とする。
- (3) 各教科等は、任期末までに研究の成果や授業改善の具体について、以下の方法等によって還元し本市学校教育の一層の充実振興を図る。

（想定される還元方法）

- ア 授業研究会の開催
- イ 教職員研修にて研究授業、研究協議の開催
- ウ 研究員を講師とする年次研修の講義・示範授業等の実施
- エ 冊子、ワークシート、指導案、授業動画等の配付や提供
- オ その他

令和7年度 課題研究員一覧

番号	教科等	氏名	学校名
1	国語科	山田 将司	里小
2	国語科	鹿 一樹	戸塚西中
3	国語科	中村 祐基	附属中
4	国語科	西川 美也子	木曾呂小
5	国語科	石原 琢充	安行小
1	社会科	金井 信吾	並木小
2	社会科	川上 暁久	朝日西小
3	社会科	安藝 拓人	青木中
4	社会科	市尾 光正	岸川中
1	算数・数学科	根本 潤	幸町小
2	算数・数学科	杉谷 美佳	新郷東小
3	算数・数学科	新井 詩織	戸塚中
1	理科	富永 真幸	青木北小
2	理科	山本 道隆	新郷南小
3	理科	坂下 幸治郎	東中
4	理科	花本 洸	安行中
1	生活科	松井 碩海	東領家小
2	生活科	山下 剛輝	元郷小
3	生活科	磯野 仁美	南平幼
1	音楽科	澤田 由佳里	戸塚北小
2	音楽科	山田 凌	十二月田中
3	音楽科	大島 侑美	神根中
4	音楽科	西山 早紀	前川小

番号	教科等	氏名	学校名
1	図画工作・美術科	野澤 央実	安行小
2	図画工作・美術科	諏訪 正太郎	芝樋ノ爪小
3	図画工作・美術科	平出 真紀	戸塚北小
4	図画工作・美術科	黒川 かおり	元郷南小
1	家庭・技術、家庭科	池田 絢子	戸塚北小
2	家庭・技術、家庭科	池田 仁美	辻小
3	家庭・技術、家庭科	原田 昌恵	里中
4	家庭・技術、家庭科	成井 健佑	八幡木中
1	体育・保健体育科	下出 幸一	芝南小
2	体育・保健体育科	古川 二郎	上青木南小
3	体育・保健体育科	新垣 樹	南中
4	体育・保健体育科	両谷 隆宏	青木中
1	外国語活動・外国語科	新井 冴香	原町小
2	外国語活動・外国語科	佐藤 舞	差間小
1	特別の教科 道徳	神保 はいじ	慈林小
2	特別の教科 道徳	小川 翔太郎	桜町小
3	特別の教科 道徳	平田 真穂	青木中
4	特別の教科 道徳	伊藤 健紀	西中
5	特別の教科 道徳	渡會 真佐美	新郷小
6	特別の教科 道徳	須藤 一帆	鳩ヶ谷小

番号	教科等	氏名	学校名
1	総合的な学習の時間	落合 由之紀	前川小
2	総合的な学習の時間	佐野 文美	並木小
3	総合的な学習の時間	大井川 結女	戸塚北小
4	総合的な学習の時間	梅内 明日香	青木中
5	総合的な学習の時間	牧野 恭平	在家中
6	総合的な学習の時間	京 凜太郎	芝中
1	特別活動	森下 周亮	戸塚南小
2	特別活動	長澤 由佳子	芝小
3	特別活動	西島 晴信	西中
4	特別活動	肥田 彩有里	戸塚北小
1	特別支援教育	秋山 恵果	戸塚綾瀬小
2	特別支援教育	鈴木 春香	安行中
3	特別支援教育	岩根 遼也	在家中

教育長報告（16）

学校医・学校歯科医・学校薬剤師の解嘱及び委嘱について

1 解嘱した者

氏名	委嘱校	委嘱年月日	解嘱年月日	備考
服部 俊弘	新郷東小学校	昭和59年4月1日	令和7年3月31日	内科
小林 轍也	戸塚綾瀬小学校	平成9年4月1日	令和7年3月31日	内科
小林 轍也	戸塚南小学校	平成17年4月1日	令和7年3月31日	内科
小林 轍也	北中学校	平成7年4月1日	令和7年3月31日	内科
吉川 英志	芝中学校	令和6年4月1日	令和7年3月31日	内科
益子 博	上青木中学校	昭和58年4月1日	令和7年3月31日	内科
香川 景政	鳩ヶ谷中学校	令和6年4月1日	令和7年3月31日	内科
竹内 智一	舟戸小学校	平成28年4月1日	令和7年3月31日	眼科
原田 卓	十二月田小学校	平成13年4月1日	令和7年3月31日	眼科
原田 卓	朝日東小学校	平成13年4月1日	令和7年3月31日	眼科
遠藤 哲治	神根東小学校	平成21年4月1日	令和7年3月31日	眼科
藤田 恒明	芝樋ノ爪小学校	平成12年4月1日	令和7年3月31日	眼科
雨宮 哲士	根岸小学校	令和2年4月1日	令和7年3月31日	眼科
太田 有夕美	朝日西小学校	平成29年7月1日	令和7年3月31日	眼科
原田 卓	青木中学校	平成13年4月1日	令和7年3月31日	眼科
明石 愛美	青木中央小学校	令和5年4月1日	令和7年3月31日	耳鼻科
明石 愛美	里小学校	令和5年4月1日	令和7年3月31日	耳鼻科
伊藤 賢	元郷小学校	昭和57年4月1日	令和7年3月31日	歯科
小林 盛生	舟戸小学校	平成12年4月1日	令和7年3月31日	歯科
宮間 正泰	青木中央小学校	平成10年4月1日	令和7年3月31日	歯科

氏名	委嘱校	委嘱年月日	解嘱年月日	備考
臼田 篤伸	神根東小学校	昭和60年4月1日	令和7年3月31日	歯科
安部 隆則	前川東小学校	平成8年4月1日	令和7年3月31日	歯科
廣瀬 健	差間小学校	平成19年4月1日	令和7年3月31日	歯科
山本 昭造	東領家小学校	昭和55年4月1日	令和7年3月31日	歯科
山本 正和	中居小学校	平成16年4月1日	令和7年3月31日	歯科
杉山 俊一	辻小学校	平成12年9月1日	令和7年3月31日	歯科
中村 勝文	東中学校	平成8年4月1日	令和7年3月31日	歯科
山本 昭造	南中学校	昭和62年4月1日	令和7年3月31日	歯科
福島 瑞枝	南中学校	平成27年4月1日	令和7年3月31日	歯科
深野 浩	芝東中学校	昭和53年4月1日	令和7年3月31日	歯科
高橋 清隆	神根中学校	昭和58年4月1日	令和7年3月31日	歯科
伊藤 賢	戸塚西中学校	平成22年4月1日	令和7年3月31日	歯科
小林 盛生	舟戸幼稚園	平成18年4月1日	令和7年3月31日	歯科
郡司 勝之	仲町小学校	平成18年4月1日	令和7年3月31日	薬剤師
堀口 三夫	上青木小学校	平成20年4月1日	令和7年3月31日	薬剤師
郡司 勝之	飯塚小学校	平成8年4月1日	令和7年3月31日	薬剤師
長谷川 直生	芝小学校	令和6年4月1日	令和7年3月31日	薬剤師
能宗 猛	十二月田小学校	平成18年4月1日	令和7年3月31日	薬剤師
江川 肇	元郷南小学校	昭和56年4月1日	令和7年3月31日	薬剤師
堀口 三夫	根岸小学校	平成9年4月1日	令和7年3月31日	薬剤師
堀口 三夫	上青木中学校	昭和57年4月1日	令和7年3月31日	薬剤師
能宗 猛	十二月田中学校	平成18年4月1日	令和7年3月31日	薬剤師

2 委嘱した者

氏名	委嘱校	委嘱年月日	備考
服部 晃典	新郷東小学校	令和7年4月1日	新任・内科
中山 明子	戸塚綾瀬小学校	令和7年4月1日	新任・内科
福島 正大	戸塚南小学校	令和7年4月1日	新任・内科
岡本 和久	北中学校	令和7年4月1日	兼任・内科
沼崎 啓	芝中学校	令和7年4月1日	新任・内科
橋本 佐知子	上青木中学校	令和7年4月1日	新任・内科
常盤 彩	鳩ヶ谷中学校	令和7年4月1日	新任・内科
吉津 和真	舟戸小学校	令和7年4月1日	新任・眼科
吉津 和真	十二月田小学校	令和7年4月1日	新任・眼科
吉津 和真	朝日東小学校	令和7年4月1日	新任・眼科
本田 理峰	神根東小学校	令和7年4月1日	新任・眼科
吉津 和真	芝樋ノ爪小学校	令和7年4月1日	新任・眼科
本田 理峰	根岸小学校	令和7年4月1日	新任・眼科
本田 理峰	朝日西小学校	令和7年4月1日	新任・眼科
本田 理峰	青木中学校	令和7年4月1日	新任・眼科
神川 文彰	青木中央小学校	令和7年4月1日	新任・耳鼻科
神川 文彰	里小学校	令和7年4月1日	新任・耳鼻科
長谷川 肇	元郷小学校	令和7年4月1日	兼任・歯科
谷野 文宣	舟戸小学校	令和7年4月1日	兼任・歯科
玉野 博	青木中央小学校	令和7年4月1日	新任・歯科

氏 名	委 嘱 校	委 嘱 年 月 日	備 考
伊藤 昌史	神根東小学校	令和7年4月1日	新 任・歯 科
長弘 茂樹	前川東小学校	令和7年4月1日	新 任・歯 科
福榮 和也	差間小学校	令和7年4月1日	新 任・歯 科
大島 大	東領家小学校	令和7年4月1日	兼 任・歯 科
渡部 敏尚	中居小学校	令和7年4月1日	兼 任・歯 科
今野 健	辻小学校	令和7年4月1日	兼 任・歯 科
小谷 隆博	東中学校	令和7年4月1日	兼 任・歯 科
中村 高文	南中学校	令和7年4月1日	兼 任・歯 科
鹿島 弘嗣	南中学校	令和7年4月1日	新 任・歯 科
大泉 康輔	芝東中学校	令和7年4月1日	新 任・歯 科
新津 圭	神根中学校	令和7年4月1日	兼 任・歯 科
大木 峻佑	戸塚西中学校	令和7年4月1日	兼 任・歯 科
佐合 亜矢	舟戸幼稚園	令和7年4月1日	兼 任・歯 科
大橋 功次	仲町小学校	令和7年4月1日	兼 任・薬剤師
江川 肇	十二月田小学校	令和7年4月1日	兼 任・薬剤師
坂本 法恵	上青木小学校	令和7年4月1日	新 任・薬剤師
渡部 聖	飯塚小学校	令和7年4月1日	兼 任・薬剤師
佐藤 美仁	芝小学校	令和7年4月1日	兼 任・薬剤師
酒井 久瑠美	根岸小学校	令和7年4月1日	新 任・薬剤師
鱧屋 壽美	元郷南小学校	令和7年4月1日	兼 任・薬剤師
武田 有紀子	上青木中学校	令和7年4月1日	兼 任・薬剤師
江川 肇	十二月田中学校	令和7年4月1日	兼 任・薬剤師

議案第54号

川口市学校運営協議会委員を委嘱することについて

川口市学校運営協議会委員に次の者を委嘱するため、川口市学校運営協議会規則(平成21年教育委員会規則第1号)第6条の規定により議決を求める。

記

1 委嘱をする者

(1) 川口市立青木中央小学校

No.	氏名	規則第6条関係
1	荒井 武士郎	P T A相談役

(2) 川口市立西中学校

No.	氏名	規則第6条関係
1	大川 晃司	飯塚一丁目町会長 西地区連合町会長

2 任期

令和7年4月24日から令和9年3月31日まで

令和7年4月24日提出

川口市教育委員会教育長 井上 清之

部活動地域移行の推進状況について

（1）部活動地域移行について

部活動地域移行とは、少子化が進む中でも、将来にわたって子供たちが地域で、多様なスポーツや文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保・充実することを目的として、全国的に進められている取り組みであり、文部科学省の設置する「地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議（以下、「実行会議」という。）」の中間とりまとめ（令和6年12月）においては、「これまで学校単位で部活動として行われてきたスポーツ・文化芸術活動を、地域全体で関係者が連携して支え、子供の豊かで幅広い活動機会を保障」することが重要とされている。

また、今後活動の主体となる、地域クラブ活動においては、学校部活動が担ってきた教育的意義を継承・発展させつつ、「新たな価値を創出」することが重要とも示されている。

（2）国・県の動向

文部科学省は、令和4年12月に「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」（以下「国のガイドライン」という。）を示し、生徒にとって望ましいスポーツ・文化芸術環境を構築するという観点に立ち、**令和5年度から令和7年度までを「改革推進期間」とし**、部活動改革を進めている。

また、前述の実行会議においては、「①学校内で運営されてきた活動を広く地域に開き、地域全体で支えていく。」「②新たな価値を創出し、より豊かで幅広い活動を可能とする。」ことをコンセプトに、「地域移行」の名称を「地域展開」に変更するとともに、**令和8年度から令和13年度を「改革実行期間」とし、休日については、原則全ての部活動において地域展開の実現を目指すこと**。また、平日についても、各種課題を解決しつつ更なる改革を推進していくことが示された。

埼玉県は、国のガイドラインを踏まえ、令和6年3月に「埼玉県地域クラブ活動推進計画」を策定し、国のスケジュールに準じて移行を進める方向性を示すとともに、県内公立中学校の休日の部活動の地域クラブ活動への移行推進へ向け、「関係団体等との連携」や「県民への情報発信」「指導者の確保」「市町村の取組の支援」等の取組を開始している。

また、地域クラブ活動の段階的な整備・充実に向け、県としてモデル事業を行い、令和6年度は、12自治体、13団体による事業を実施した。

（3）本市生徒数・教員数・部活動数

項目	令和2年度	令和6年度	令和17年度(推計)	備考
生徒数	13,568人	13,198人	10,334人	学務課作成実績値 (附属中、陽春分校、特別支援学級除く)
教員数	722人	711人	556人 ※生徒数割合で算出	学務課作成実績値
部活動数	353部(運動部) 文化部調査なし	343部(運動部) 119部(文化部)	268部(運動部) 93部(文化部) ※生徒数割合で算出	学校体育調査

国は、少子化が進む中でも、将来にわたって子供たちが地域で、多様なスポーツや文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保・充実することとしているが、本市においても、今後、更なる生徒数の減少が見込まれ、それに伴い教員数の減少も見込まれる。

したがって、今後、部活動数の減少は避けられない状況であり、学校単独では、日頃の活動が成り立たなくなることや、大会・コンクール等に参加可能な人数の維持が困難となることが予想され、部活動という枠組みでは、多様化する子供たちのニーズに答えることや、専門的な指導を継続していくことが困難となることが予想される。

(4) 教員の勤務実態

部活動は、これまで学校教育活動の一環として、休日の活動を含めて、部活動顧問である教員による献身的な勤務によって支えられてきた経緯があり、中学校における教員の長時間勤務の一因ともなっている。

県教育委員会の調査によると、県内市町村立中学校においては、時間外在校等時間が、過労死ラインとされる「月 80 時間」を超える教員の割合は徐々に減少傾向ではあるが、労働基準法における残業時間の上限である「月 45 時間、年間 360 時間」を超える教員は約半数おり、依然として高い割合となっている。

【令和 4 年度 6 月】 ①月 45 時間超：65.0% ②月 80 時間超：17.0% 【令和 4 年度】 ③年間 360 時間超：71.3%	【令和 5 年度 6 月】 ①月 45 時間超：56.7% ②月 80 時間超：9.0% 【令和 5 年度】 ③年間 360 時間超：66.4%	【令和 6 年度 6 月】 ①月 45 時間超：46.5% ②月 80 時間超：4.5% 【令和 6 年度】 ③年間 360 時間超：未確定
---	--	--

また、学校の状況によっては、教員の希望や専門性の有無などに関わらず、部活動顧問を担う必要が生じるなど、特に指導経験がない教員にとっては大きな負担となっているケースがある。

さらに、平日の放課後や休日の活動においては、活動時間の多くが、教員の勤務時間外に行われている状況にあり、その在り方の見直しが求められている。

(5) 本市における「部活動の適正化」に係る取り組み

本市では、「部活動の適正化」に向けて、以前より先進的に取り組んできている中学校の事例を参考とし、令和 5 年度より市内全中学校の部活動を「任意加入制」とした。

さらに、部活動を「平日の勤務時間内に実施すべきもの」と捉え、令和 6 年度より段階的に「平日部活動の勤務時間内実施」に取り組み、今後は、平日の勤務時間外や休日において、教員が部活動の指導等に携わることがないように是正していく。

(6) 部活動地域移行推進協議会での協議に基づく取り組み

本市では、部活動の地域移行を推進するため、令和 4 年度に、「部活動の在り方に関する検討委員会」を設置し、令和 5 年度より「部活動地域移行推進協議会」へと名称変更し、協議を重ねてきた。令和 6 年度には、これまでの会議を通して、推進協議会として、「休日の部活動を地域へ移行する時期」や「本市の基本方針」「基本構想イメージ」などを最終報告に取りまとめ、令和 9 年 9 月を目途に、休日の部活動を地域へ移行することとした。

今後は、今回示した令和9年9月の移行へ向け、大会・コンクールへの参加の在り方等、課題に挙げられた事項の具体的な解決について、さらに協議を進めていく。

休日部活動の移行時期イメージ図(令和9年9月に完全移行を進めた場合)



(7) モデル事業の実施

令和9年9月の休日部活動の地域移行へ向け、本市独自で地域クラブ等団体によるモデル事業を実施している。

ア 令和6年度川口市モデル事業の概要

実施団体	種目等	主な会場	参加生徒数
川口ガールズ	女子軟式野球	前田西野球場	3名
F C アルコイリス	サッカー	新郷スポーツセンター	25名
川口アスリートクラブ	陸上競技	青木町公園	31名
スポーツ・サンクチュアリ・川口	ニュースポーツ	北中・在家中・神根中	7名
新郷コミュニティオーケストラ	オーケストラ(弦楽器)	新郷公民館	6名

月 日	1月					2月							3月							活動場所						
	11 土	12 日	18 土	19 日	25 土	26 日	1 土	2 日	8 土	9 日	15 土	16 日	22 土	23 日	1 土	2 日	8 土	9 日	15 土		16 日	22 土	23 日	29 土	30 日	
女子軟式野球 4回 12:00~15:00						●					●									●						前田西野球場
サッカー 9回 9:00~11:00	●		● 10:30		● 10:00				●		●						●		●					●		新郷スポーツセンター
陸上競技 11回 13:00~15:30	●		●		●		●		●		●		●		●		●		●		●					青木町公園 陸上競技場 他
ニュースポーツ (ハンボール他) 5回 8:00~11:00			● 北中 中学校						● 在家中 中学校				● 北中 中学校		● 神根 中学校				● 北中 中学校							北中学校 神根中学校 在家中中学校
オーケストラ(弦楽器) 3回 13:30~16:30			●					●				●														新郷公民館

※「ニュースポーツ」の3月15日(土)は、活動ではなく意見交換会を実施

イ 成果と課題

(ア) 成果

- a 指導資格を持つ、専門性の高い指導者による指導を実現することができた。
- b 学校の所属部活動とは異なる種目に参加した生徒もおり、生徒のニーズに答える活動を実施することができた。
- c 学校の枠を超えた交流が生まれた。
- d 団体と学校との連携がより深まった。

(イ) 課題

- a 団体自身で安定して活動場所を確保することが難しかった。
- b 部活動に加入している生徒は、参加できない日もあった。
- c 実施地域に偏りがあった。
- d 学校施設利用時の鍵の管理と開錠に学校職員の負担が生じた。

ウ 令和7年度川口市モデル事業の概要

(ア) 実施時期	<ul style="list-style-type: none"> a 長期モデル事業：令和7年4月～令和8年2月 (4月生徒募集、5月～活動実施) b 短期モデル事業：令和7年9月～令和8年2月 (8月生徒募集、9月～活動実施)
(イ) 実施モデル数	<ul style="list-style-type: none"> a 長期モデル事業：6団体 <ul style="list-style-type: none"> ①一般社団法人プロアスリートエニシヤス川口（サッカー） ②T I D A音楽企画（合唱） ③特定非営利活動法人SCORE（バスケットボール） ④株式会社ルネサンス（フィジカルトレーニング） ⑤川口アスリートクラブ（陸上競技） ⑥芝スポー一般剣道クラブ（剣道） b 短期モデル事業：7団体 <ul style="list-style-type: none"> ①特定非営利活動法人SCORE（サッカー） ②かたぎりさやかバイオリン教室（バイオリン） ③特定非営利活動法人スポーツサンクチュアリ川口（ゴルフ） ④特定非営利活動法人エンジョイランニング（陸上競技） ⑤こどものための一般社団法人（サッカー） ⑥株式会社MUSIC GRACE（吹奏楽） ⑦青木排球会（バレーボール）
(ウ) モデル事業実施に係る補助	<ul style="list-style-type: none"> a 長期モデル事業：1団体あたり13万円/年 b 短期モデル事業：1団体あたり7万円/年
(エ) 実施報告	令和8年1～3月にかけて、教職員や団体関係者、市民等を対象とした報告会（地域ミーティング）を実施し、市教委からの報告や団体による活動の成果報告等を行う。
(オ) 令和6年度からの変更点	<ul style="list-style-type: none"> a 実施期間の拡大（3ヵ月間→最大10ヵ月間） b 受益者負担の実施（金額については、各団体が設定） c 実施地区の拡大

(8) 令和6年度埼玉県モデル事業の概要

ア 自治体単位のモデル事業

実施自治体	a 戸田市	b 蕨市	c 上尾市	d 鴻巣市
	e 伊奈町	f 久喜市	g 白岡市	h 三郷市
	i 鶴ヶ島市	j ふじみ野市	k 熊谷市	l 深谷市

イ 地域クラブ等団体単位のモデル事業



（仮称）神根総合運動公園整備事業の進捗状況について

（１）事業概要

埼玉県内の屋内 50m 水泳場整備計画に併せ、川口市立北スポーツセンター及び神根西公民館（以下「市施設」という。）の建て替えを含む周辺施設を、多様な世代が集う新たなスポーツ拠点として一体的に整備するもの。

令和 9 年 7 月供用開始を目指し、令和 7 年度から市施設改築工事、（仮称）神根総合運動公園（以下「公園」という。）整備工事に着手するもの。

（２）市施設実施設計内容

ア 施設概要

- （ア）構 造 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造
- （イ）規 模 地上 2 階
- （ウ）建築面積 4,206.11 m²
- （エ）延床面積 5,531.20 m²

イ 実施設計概要（2～5 ページ）

- （ア）北スポーツセンター
 - 1 階 体育館、トレーニングルーム、会議室、事務室 ほか
 - 2 階 多目的室、体育館観覧席 ほか
- （イ）神根西公民館
 - 2 階 ホール、講座室、日本間、料理実習室、ミーティング室 ほか
- （ウ）その他
 - エレベーター、多目的トイレ、授乳室、キッズルーム、駐車場 ほか

ウ 今後のスケジュール（予定）

- （ア）工 期 令和 7 年 6 月～令和 9 年 6 月（開業準備含む）
- （イ）供用開始 令和 9 年 7 月

（３）公園実施設計内容

ア 公園概要

- （ア）種 別 運動公園
- （イ）面 積 16.3ha

イ 実施設計概要（6～8 ページ）

- （ア）屋外運動施設 1～4
- （イ）遊びの広場、芝生広場、イベント広場
- （ウ）東西貫通園路、南北貫通園路
- （エ）駐車場、ロッカー棟、倉庫 ほか
- （オ）雨水貯留施設

ウ 今後のスケジュール（予定）

- （ア）工 期
 - 雨水貯留施設整備工事 令和 7 年 3 月～令和 8 年 3 月
 - 公園整備工事 令和 7 年 5 月～令和 9 年 6 月
- （イ）供用開始 令和 9 年 7 月

(仮称) 神根総合運動公園整備事業実施設計概要

1 北スポーツセンター及び神根西公民館実施設計概要

(1) 施設概要

- ・埼玉県屋内50m水泳場と意匠・機能等を統一した一体の建築物として建設。
- ・県水泳場と1階部分で接続することで、相互利用による利便性の向上を図る。



(2) 方針

関連する本市上位計画を踏まえ、神根周辺の特徴や個性を活かした施設整備計画の位置づけを行う。

ア 運動・健康

市民の健康を支えるスポーツ・レクリエーション活動の拠点とし、スポーツを「する」だけでなく「みる」機会の創出。

イ 文化・コミュニティ

多様な世代の憩いと交流の場を形成。地域にまつわる文化財の展示スペースを設けるなど、文化の発信や多様な学習機会の場を提供。

ウ 景観

公園に調和した外観、植栽計画により一体的なランドスケープを形成。

2階の屋上緑化による立体的な緑地形成やアーチ状の屋根によるやわらかなスカイラインを形成することで、地域の景観との調和や近隣への圧迫感を軽減。

エ 環境・エネルギー

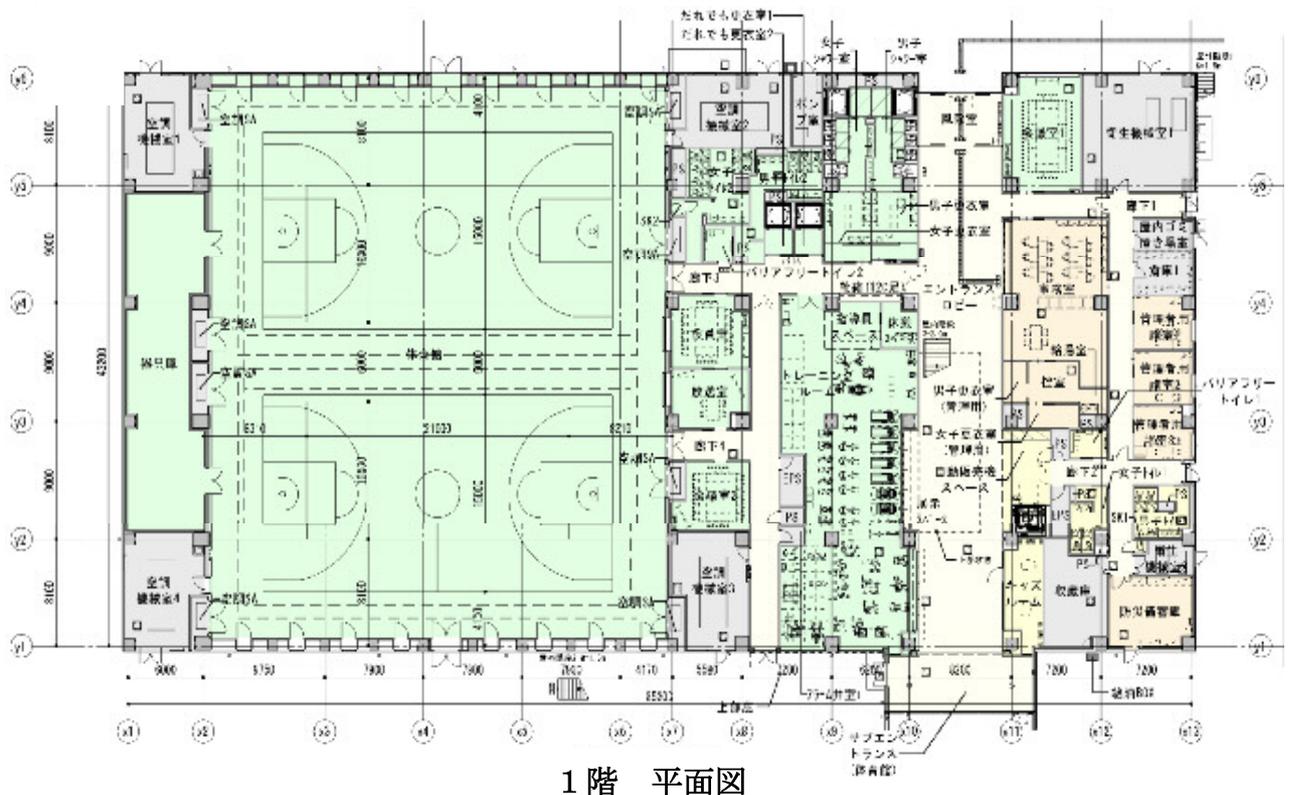
太陽光パネルなど自然エネルギーの活用や建物の断熱化と気密化による省エネルギーに配慮。建物ピットに雨水を貯留し、灌水や空調熱源に利用。

オ 安全・安心

地域防災計画における避難所等の位置づけを踏まえた耐震性能や非常時対応としての必要な設備を設置。

(3) 平面計画

- ・メインエントランスを公園の主要園路の正面に配置し、公園から市施設、県水泳場を繋ぐ動線を確認。
- ・公園の広場スペースに施設の顔を向けることで、公園の賑わいを取り込む。
- ・スポーツセンターと公民館のゾーニングを行い、各ゾーンを効率的に繋ぐ施設とすることで、把握しやすくわかりやすい施設とする。



ア 1階部分の主な諸室

(ア) 体育館 (1, 636㎡)

各種大会を実施できる規模として、バスケットボール2面、バドミントン8面などが可能な面積と屋内有効高さ12.5mを確保。

大会運営室(会議室・役員室・放送室)を隣接させ、大会のレベルや利用形態に合わせた運営が可能。

空調を設置し、利用者が安全・快適に競技を行える環境の整備。



(イ) トレーニングルーム (268㎡)

健康維持・体力向上のため、従前の北スポーツセンターにはないトレーニングルームを設置。

ゆとりある動線の確保や目的に合わせた器具のレイアウトとすることで、幅広い需要に対応した計画。

更衣室等との動線をわかりやすくすることで、利便性の向上を図る。

(ウ) エントランスロビー

エントランスロビーは、憩い・交流の場となるよう広いスペースを設けることで、各諸室へのアクセス性の確保と県水泳場への動線を確保。また、展示スペースを設け、地域の特色ある文化財などの展示が可能。

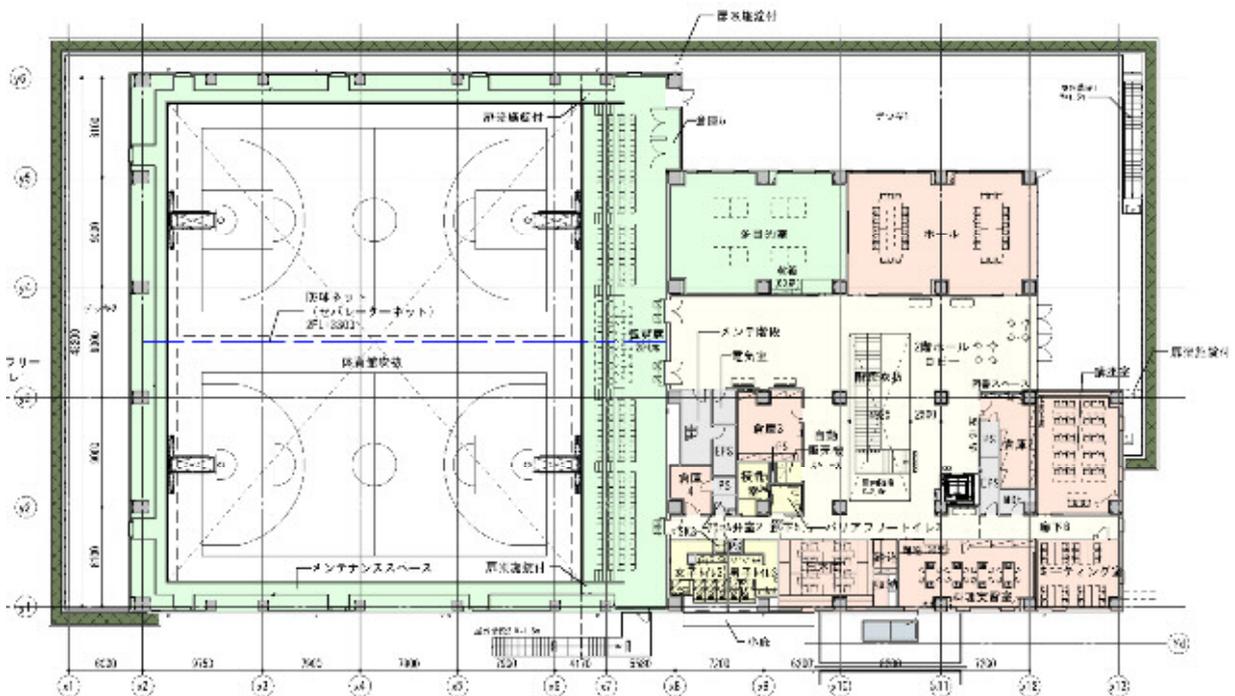
(エ) 管理エリア

事務室は、主出入口や体育館への廊下、2階への階段、受付など、主要動線を目視できるエントランスロビーに面した位置とする。

管理・運営に係る諸室は事務室付近に集約し、管理区分と利用区分を明確化。

(オ) その他

地域防災計画の避難所の位置づけを踏まえ、災害時に機能するよう防災備蓄倉庫や災害用トイレなどを設置。



2階 平面図

イ 2階部分の主な諸室

(ア) 体育館 観覧席 (294席)

車椅子席や介助者席も含め、視認性を確保しつつ、円滑な避難動線を確保。

(イ) 多目的室 (147㎡)

様々な競技や利用目的に対応できる多目的室を2階に配置することで、施設利用の促進を図る。

(ウ) 公民館諸室

従前の諸室を基本とし、利用状況に合わせて設置。
風水害時の避難場所として機能するよう2階に集約。
ホールロビーからアクセスしやすい動線の確保。



ウ 駐車場

駐車場は大型車や障害者用を含む合計393台を施設にアクセスしやすい東側に整備し、大会開催時でも屋外運動施設の利用に対応できる台数を確保。



2 (仮称) 神根総合運動公園実施設計概要

(1) 公園概要

神根運動場を含む区域を、全体面積16.3haの運動公園として整備。

神根の自然と調和し、災害時には広域避難場所として機能を発揮する防災公園。



(2) 方針

東西・南北貫通園路を軸とした特色ある3つのエリアを形成し、より利便性の高い公園となるよう施設配置。

ア スポーツ・健康エリア

大会利用を見据え、多面的に利用できる空間の整備。

気軽に健康づくりができ、運動機能の維持かつ更なる運動機会の創出。

イ 自然・憩いエリア

周辺景観に調和し、まとまった緑地空間を形成することで、公園利用者の静かな憩いの空間を創出。

ウ 賑わい・交流エリア

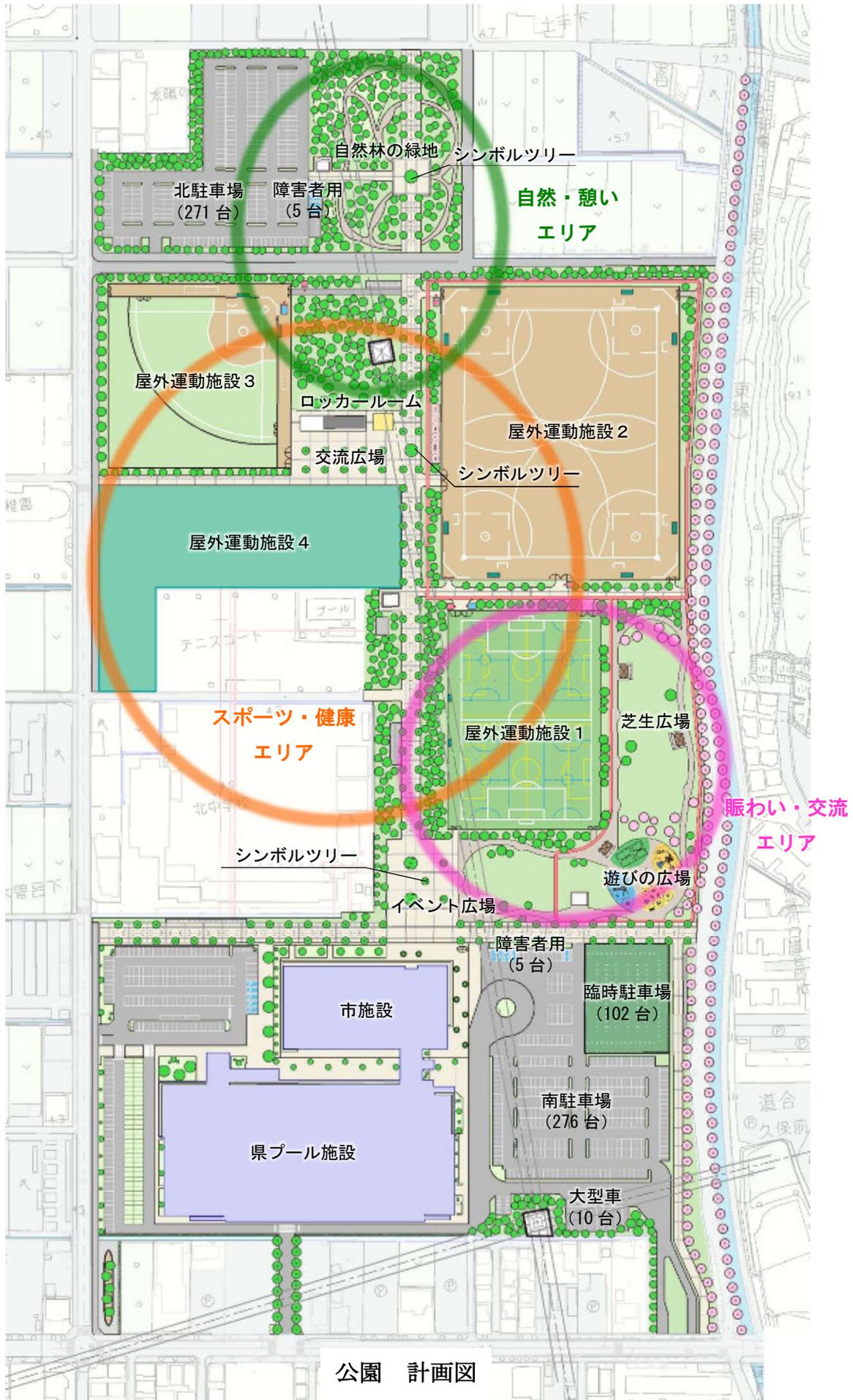
遊びの広場・芝生広場・イベント広場を隣接して配置し、世代を問わず、多様な繋がりや快適で安全に公園を利用できるインクルーシブな空間を創出。

エ 駐車場

駐車場を公園区域の北側と南側に分散して配置することで、周辺道路からのアクセスのしやすさと歩行者の安全性を確保。

オ 防災

公園全体を広域避難場所として指定するとともに、物資の集積や航空輸送拠点など、地域の防災拠点となる災害時に機能を発揮する防災公園を整備。



(3) 主な公園施設計画

ア 屋外運動施設 1

大人用サッカー場のコート面積を確保し、半面で少年サッカーや4面のフットサルの利用が可能。人工芝・照明を設けることで、サッカーだけでなく幅広い競技での活用を可能とする。

イ 屋外運動施設 2

従前の神根運動場野球場と同等面積で再整備。少年野球や大人も利用できるサイズを確保。安全性に配慮し、防球ネットを設置する。約19,000㎡の面積のため、野球以外にも地域町会の利用など多くの活用方法を見込む。

ウ 屋外運動施設 3

ソフトボール場の規格を確保。安全性に配慮し、防球ネットを設置する。
大人用、子ども用としての使用が可能。

エ 屋外運動施設 4

従前、高い稼働率を誇るターゲットバードゴルフを供用開始後も利用できるようコースを改変。ターゲットバードゴルフだけでなく、他の競技活用も見込み、シニアスポーツの拠点となるよう整備。

オ 遊びの広場・芝生広場・イベント広場

スポーツ利用者の滞留空間と交錯しない位置とし、乳児・幼児、児童、障害を持つ子まで使いやすく安全に遊べるエリアを分け多様な遊具を設置。

多くの市民が訪れ賑わいの場となるよう芝生広場やイベント広場を隣接させることで、賑わいのスペースとして機能。

カ 東西・南北貫通園路

東西南北に幅10～11mの園路を配置し、各施設へのわかりやすい動線を確保。公園北側には、交流広場や自然林の緑地と繋がることで、シンボル性を高める並木とともに、散策路として季節を感じられる憩いの空間を創出。

キ 駐車場、ロッカー棟、倉庫 ほか

北側にも駐車場を276台整備し、駐車利用の分散とアクセス性を高める。

運動施設の中央付近にロッカー棟や倉庫を設け、各運動施設の利便性を高める。

ク 雨水貯留施設

近年増加する集中豪雨等による浸水被害を防止するため、県条例に基づき、グラウンドや駐車場の地下に約15,300㎡のプラスチック製雨水貯留槽を整備。



令和7年度川口市地域クラブ活動推進協議会委員を委嘱・任命することについて

1 委嘱・任命をする者

職名等	氏名	所属	備考
委員長（学校教育部長）	丸山 陽一	学校教育部	再
副委員長（教育総務部長）	秋葉 知佳子	教育総務部	新
副委員長（教育政策室長）	須江 明香	教育政策室	新
委員（中学校長代表）	三浦 伸之	岸川中学校	再
委員（中学校体育連盟代表）	小野 毅	里中学校	再
委員（中学校文化部活動代表）	小出 喜代子	西中学校	新
委員（中学校体育連盟競技部代表）	柳田 勇	東中学校	新
委員（中学校体育連盟理事長）	大野 堯之	十二月田中学校	再
委員（小学校長代表）	駒崎 弘匡	舟戸小学校	新
委員（小学校体育連盟代表）	川端 浩司	柳崎小学校	再
委員（小学校体育連盟理事長）	山内 裕貴	芝西小学校	新
委員（学校PTA代表）	小野 智幸	川口市PTA連合会	再
委員（スポーツ協会代表）	安達 善一	川口市スポーツ協会	再
委員（スポーツ協会代表）	長谷川 久雄	川口市スポーツ協会	再
委員（スポーツ協会代表）	伊藤 雅章	川口市スポーツ協会	再
委員（スポーツ少年団代表）	田中 一光	川口市スポーツ少年団	再
委員（スポーツ少年団代表）	中野 亨	川口市スポーツ少年団	再
委員（スポーツ少年団代表）	大澤 静香	川口市スポーツ少年団	再
委員（市モデル事業実施団体代表）	山野井 善直	一般社団法人 プロアスリートエニシア ス川口	新
委員（市モデル事業実施団体代表）	大橋 宏之	川口アスリートクラブ	新
委員（市モデル事業実施団体代表）	相澤 和江	特定非営利活動法人 スポーツ・サンクチュア リ・川口	新
委員（県モデル事業実施団体代表）	武田 尚大	一般社団法人 STAND FOR BASEBALL 川口	新

職名等	氏名	所属	備考
委員（有識者（スポーツ関係））	須田 邦明	埼玉県スポーツ協会	再
委員（有識者（スポーツ関係））	渡邊 謙	川口市レクリエーション協会	再
委員（有識者（スポーツ関係））	岡澤 義昭	川口市スポーツ推進委員協議会	新
委員（有識者（文化芸術関係））	山本 哲雄	川口市民音楽協会	再

2 任期

令和7年5月22日から令和8年3月31日まで